―― 目　　次 ――

（３月７日）

告　　示 …… 1
応 招 議 員 …… 1
議 事 日 程 …… 3
本日の会議に付した事件 …… 3
出 席 議 員 …… 4
欠 席 議 員 …… 5
議会事務局職員出席者 …… 5
説明のために出席した者 …… 5
開会、開議宣告 …… 6
　会議録署名議員の指名 …… 6
　会期の決定 …… 6
　議長の諸般報告 …… 6
　市長の行政報告 …… 6
　市長の施政方針説明 …… １１
　総務文教常任委員会の閉会中の所管事務調査報告 …… １８
　国県道路整備促進特別委員会の閉会中の調査報告 …… ２１
　長崎県病院企業団議会議員の報告 …… ２５
　長崎県後期高齢者医療広域連合議会議員の報告 …… ３３
　対馬市教育委員会の事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の報告 …… ３４
　発議第８号 …… ３５
　議案第２号 …… ３７
　議案第３号 …… ４８
　議案第４号 …… ４８
　議案第５号 …… ４８
　議案第６号 …… ４８
　議案第７号 …… ４８
　議案第８号 …… ４８
　議案第９号 …… ５４
散　会 …… ６３

（３月８日）

議　事　日　程 …… ６５
本日の会議に付した事件 …… ６６
出　席　議　員 …… ６８
欠　席　議　員 …… ６８
議会事務局職員出席者 …… ６８
説明のために出席した者 …… ６８
開議宣告 …… ６９
　議案第１０号 …… ６９
　議案第１１号 …… ６９
　議案第１２号 …… ６９
　議案第１３号 …… ６９
　議案第１４号 …… ７０
　議案第１５号 …… ７０
　議案第１６号 …… ７５
　議案第１７号 …… ７７
　議案第１８号 …… ７７
　議案第１９号 …… ７７
　議案第２０号 …… ８０
　議案第２１号 …… ８０
　議案第２２号 …… ８０
　議案第２３号 …… ８０
　議案第２４号 …… ８０
　議案第２５号 …… ８０
　議案第２６号 …… ８０
　議案第２７号 …… ８０
　議案第２８号 …… ８０
　議案第４１号 …… ８０
　議案第２９号 …… ８９
　議案第３０号 …… ８９
　議案第３１号 …… ８９

議案第３２号 …… ８９
議案第３３号 …… ８９
議案第３４号 …… ８９
議案第３５号 …… ８９
議案第３６号 …… ８９
議案第３７号 …… ８９
議案第３８号 …… ９５
議案第３９号 …… ９５
議案第４０号 …… ９５
議案第４２号 …… ９５
発議第１号 …… １００
請願第１号 …… １０２
散　会 …… １０２

（３月１１日）

議　事　日　程 …… １０３
本日の会議に付した事件 …… １０３
出　席　議　員 …… １０３
欠　席　議　員 …… １０３
議会事務局職員出席者 …… １０３
説明のために出席した者 …… １０４
開議宣告 …… １０４
市政一般質問 …… １０４
１８番　小川　廣康君 …… １０５
１３番　三山　幸男君 …… １１６
１番　渕上　　清君 …… １２７
２番　脇本　啓喜君 …… １３６
散　会 …… １４８

（３月１２日）

議　事　日　程 …… １４９
本日の会議に付した事件 …… １４９

出　席　議　員 …… １４９
欠　席　議　員 …… １４９
議会事務局職員出席者 …… １５０
説明のために出席した者 …… １５０
開議宣告 …… １５０
　市政一般質問 …… １５１
　　４番　小田　昭人君 …… １５１
　　１６番　糸瀬　一彦君 …… １５８
　　１１番　小宮　教義君 …… １６６
　　１７番　大浦　孝司君 …… １７７
　議案第４３号 …… １８８
　議案第４４号 …… １８８
　議案第４５号 …… １８８
散　会 …… １９７

（３月２６日）

議　事　日　程 …… １９９
本日の会議に付した事件 …… ２００
出　席　議　員 …… ２０２
欠　席　議　員 …… ２０３
議会事務局職員出席者 …… ２０３
説明のために出席した者 …… ２０３
開議宣告 …… ２０４
　議案第９号 …… ２０４
　議案第２号 …… ２０５
　議案第１６号 …… ２０５
　議案第２９号 …… ２０５
　議案第４３号 …… ２０５
　議案第２号 …… ２０６
　議案第１０号 …… ２０６
　議案第１１号 …… ２０６
　議案第１２号 …… ２０６

議案第１３号 …… ２０６
議案第１４号 …… ２０６
議案第１５号 …… ２０６
議案第３０号 …… ２０６
議案第３１号 …… ２０６
議案第２号 …… ２０６
議案第１７号 …… ２０６
議案第１８号 …… ２０６
議案第１９号 …… ２０６
議案第３２号 …… ２０６
議案第３３号 …… ２０６
議案第３４号 …… ２０６
議案第３５号 …… ２０６
議案第３６号 …… ２０６
議案第３７号 …… ２０６
議案第４３号 …… ２０６
議案第４４号 …… ２０６
議案第４５号 …… ２０６
請願第１号 …… ２２０
発委第１号 …… ２２１
発議第２号 …… ２２３
閉　会 …… ２２７
署　名 …… ２２８

対馬市告示第11号

平成25年第１回対馬市議会定例会を次のとおり招集する

平成25年２月25日

対馬市長　財部　能成

１　期　日　　平成25年３月７日（木）

２　場　所　　対馬市議会議場（豊玉）

○開会日に応招した議員

渕上　　清君	脇本　啓喜君
黒田　昭雄君	小田　昭人君
長　　信義君	山本　輝昭君
松本　暦幸君	阿比留梅仁君
齋藤　久光君	堀江　政武君
小宮　教義君	阿比留光雄君
三山　幸男君	初村　久藏君
糸瀬　一彦君	大浦　孝司君
小川　廣康君	大部　初幸君
兵頭　　栄君	島居　邦嗣君
作元　義文君	

○３月８日に応招した議員

○３月11日に応招した議員

○３月12日に応招した議員

○３月26日に応招した議員

○３月８日に応招しなかった議員

阿比留梅仁君

○３月11日に応招しなかった議員

阿比留梅仁君　　堀江　政武君

○３月12日に応招しなかった議員

渕上　　清君　　阿比留梅仁君

○３月26日に応招しなかった議員

阿比留梅仁君

平成25年　第１回　対　馬　市　議　会　定　例　会　会　議　録（第１日）

平成25年３月７日（木曜日）

議事日程（第１号）

平成25年３月７日　午前10時00分開会

日程第１　会議録署名議員の指名

日程第２　会期の決定

日程第３　議長の諸般報告

日程第４　市長の行政報告

日程第５　市長の施政方針説明

日程第６　総務文教常任委員会の閉会中の所管事務調査報告

日程第７　国県道路整備促進特別委員会の閉会中の調査報告

日程第８　長崎県病院企業団議会議員の報告

日程第９　長崎県後期高齢者医療広域連合議会議員の報告

日程第10　対馬市教育委員会の事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の報告

日程第11　発議第８号　対馬市アユ保護条例について（継続審査）

日程第12　議案第２号　平成２４年度対馬市一般会計補正予算（第６号）

日程第13　議案第３号　平成２４年度対馬市診療所特別会計補正予算（第３号）

日程第14　議案第４号　平成２４年度対馬市国民健康保険特別会計補正予算（第３号）

日程第15　議案第５号　平成２４年度対馬市後期高齢者医療特別会計補正予算（第３号）

日程第16　議案第６号　平成２４年度対馬市介護保険特別会計補正予算（第２号）

日程第17　議案第７号　平成２４年度対馬市簡易水道事業特別会計補正予算（第２号）

日程第18　議案第８号　平成２４年度対馬市水道事業会計資本剰余金の処分について

日程第19　議案第９号　平成２５年度対馬市一般会計予算

本日の会議に付した事件

日程第１　会議録署名議員の指名

日程第２　会期の決定

日程第３　議長の諸般報告

日程第４　市長の行政報告

日程第５　市長の施政方針説明

日程第６　総務文教常任委員会の閉会中の所管事務調査報告

日程第７　国県道路整備促進特別委員会の閉会中の調査報告

日程第８　長崎県病院企業団議会議員の報告

日程第９　長崎県後期高齢者医療広域連合議会議員の報告

日程第10　対馬市教育委員会の事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の報告

日程第11　発議第８号　対馬市アユ保護条例について（継続審査）

日程第12　議案第２号　平成２４年度対馬市一般会計補正予算（第６号）

日程第13　議案第３号　平成２４年度対馬市診療所特別会計補正予算（第３号）

日程第14　議案第４号　平成２４年度対馬市国民健康保険特別会計補正予算（第３号）

日程第15　議案第５号　平成２４年度対馬市後期高齢者医療特別会計補正予算（第３号）

日程第16　議案第６号　平成２４年度対馬市介護保険特別会計補正予算（第２号）

日程第17　議案第７号　平成２４年度対馬市簡易水道事業特別会計補正予算（第２号）

日程第18　議案第８号　平成２４年度対馬市水道事業会計資本剰余金の処分について

日程第19　議案第９号　平成２５年度対馬市一般会計予算

出席議員（21名）

１番　渕上　　清君	２番　脇本　啓喜君
３番　黒田　昭雄君	４番　小田　昭人君
５番　長　　信義君	６番　山本　輝昭君
７番　松本　暦幸君	８番　阿比留梅仁君
９番　齋藤　久光君	10番　堀江　政武君
11番　小宮　教義君	12番　阿比留光雄君
13番　三山　幸男君	14番　初村　久藏君
16番　糸瀬　一彦君	17番　大浦　孝司君

18番　小川　廣康君	19番　大部　初幸君
20番　兵頭　　栄君	21番　島居　邦嗣君
22番　作元　義文君	

欠席議員（なし）

欠　　員（１名）

事務局出席職員職氏名

局長	神宮　満也君	課長補佐	國分　幸和君
主任	金丸　隆博君		

説明のため出席した者の職氏名

市長	財部　能成君
副市長	髙屋　雅生君
教育長	梅野　正博君
地域再生推進本部長	平間　壽郎君
観光物産推進本部長	本石健一郎君
総務部長	桐谷　雅宣君
政策監	平山　秀樹君
総務課長	根〆　英夫君
市民生活部長	長郷　泰二君
福祉保健部長	多田　満國君
農林水産部長	比田勝尚喜君
建設部長	堀　　義喜君
水道局長	阿比留　誠君
教育部長	豊田　　充君
美津島地域活性化センター部長	八坂　一義君
豊玉地域活性化センター部長	梅野　　泉君
峰地域活性化センター部長	志田　博俊君
上県地域活性化センター部長	川本　治源君
上対馬地域活性化センター部長	島居　清晴君

消防長 …… 竹中　英文君

会計管理者 …… 長久　敏一君

監査委員事務局長 …… 橘　　英次君

農業委員会事務局長 …… 春日亀剛一君

午前10時00分開会

○議長（作元　義文君）　おはようございます。報告をいたします。

今回の本会議から音声中継が、本庁及び各活性化センター事務室に流れるようになっております。

ただいまから平成２５年第１回対馬市議会定例会を開会いたします。

定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

―――――――――・―――・―――――――――

日程第１．会議録署名議員の指名

○議長（作元　義文君）　日程第１、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第８８条の規定によって、兵頭栄君及び渕上清君を指名します。

―――――――――・―――・―――――――――

日程第２．会期の決定

○議長（作元　義文君）　日程第２、会期の決定を議題とします。

お諮りします。本定例会の会期は、お手元に配付いたしております会期日程案のとおり、本日から３月２６日までの２０日間とすることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。会期は、本日から３月２６日までの２０日間に決定しました。

―――――――――・―――・―――――――――

日程第３．議長の諸般報告

○議長（作元　義文君）　日程第３、議長の諸般の報告を行います。

議長の庶務報告は、お手元に配付のとおりであります。

以上で、報告を終わります。

―――――――――・―――・―――――――――

日程第４．市長の行政報告

○議長（作元　義文君）　日程第４、市長の行政報告を行います。

市長から行政報告の申し出があっておりますので、これを許します。市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　おはようございます。本日、ここに、平成２５年第１回対馬市議会定例会を招集いたしましたところ、議員の皆様には、御健勝にて御出席賜り、厚く御礼を申し上げます。

本定例会において御審議願います案件は、平成２４年度一般会計補正予算案件等７件、平成２５年度一般会計予算等１１件、条例の制定及び一部改正１９件、辺地に係る整備計画１件、あらたに生じた土地の確認及び区域変更１件、漁港区域内公有水面の埋立て１件、長崎県市町村総合事務組合規約の変更１件、合わせて４１件の議案について、御審議をお願いするものでございます。

内容につきましては、後ほど担当部長に説明させたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

次に、１２月定例会以降、今日までの主な事項につきまして、御報告申し上げます。

まず、地域再生推進本部関係でございますが、株式会社対馬国際ラインの解散についてであります。

市が出資しております株式会社対馬国際ラインの解散につきまして報告をいたします。

本会社は、平成元年７月、上対馬の活性化のため、韓国との交流人口拡大策として国際航路を開設することを目的に設立され、出入国事務の代行業務などを請け負いながら会社を存続してまいりました。

このような中、平成１７年８月に対馬市行財政改革推進委員会より、行財政の健全化や事務事業の見直し等の答申がなされ、第三セクターなど外郭団体の見直しも実施することになりました。

そのことを受け、株式会社対馬国際ラインは解散の方針が出され、平成１８年から解散に向けた協議を重ね、昨年末に大筋の合意がなされたため、本年２月２３日の臨時株主総会において解散決議がなされ、清算人による解散手続がされることとなりました。

その後、決算報告が株主総会で承認されて清算終了することになります。

今後、比田勝港における出入国事務等は、民間資本よる新しい会社を立ち上げ続行していくこととなっております。

今まで、北部対馬の活性化のため、国際航路の開設に御尽力されました株主の方々に対しまして、衷心より御礼申し上げます。

次に、ジェットフォイルの比田勝港運航中止についてでございます。

ジェットフォイルの比田勝寄港につきまして、現在、九州郵船株式会社の高速船ヴィーナスが、繁忙期である盆、正月、ゴールデンウィーク、国境マラソンの期間中は、昼間だけ比田勝港に寄港しておりますが、運航費用に見合う利用がなく、不採算状態にあり、対馬島内の寄港地を厳原港に集約し、運送効率を上げるため、九州郵船株式会社代表取締役、竹永健二郎様より、比田勝

港までの運航を中止する旨の通知がなされました。

この中止の通知については、昨年４月から実施しております基本運賃の２割低廉化の影響により、収入が落ち込み、営業損益がマイナスに転じていることも一つの要因として上げられております。

また、運航を中止することによって、お客が多いときには、ジェットフォイルの博多・厳原間の直行便を含めた３便体制の運航が可能となることや、フェリーのより利用しやすい時間設定の提案があっております。

いずれにしましても、航路事業者としてジェットフォイルを含む航路を安定的に存続させるため、営業損益をプラスにする努力の一環としての運休であることが述べられております。

しかしながら、対馬市としましては、北部対馬在住の方々の利便を確保することは、最重要課題と捉えております。現在、高速船の赤字補填につきましては、国や県の支援制度はありませんが、事あるごとに、国や県に対し新たな制度の創設をお願いしているところです。

また、対馬市では、島のおかれている現状に鑑み、国境離島の明確化を唱え、国境離島特別措置法の制定に向け努力しております。この中でも、博多・釜山国際航路への混乗が可能となる緩和措置や、ジェットフォイルを含む離島航路への新たな助成制度の創設に対する項目も盛り込んでおり、今後とも辛抱強く要望活動を展開してまいりたいと考えております。

次に、市道（仮称）尾浦浅藻線、さらにまた、市道（仮称）堂坂線の新設改良事業についてであります。

本市では、国際観光都市「対馬」プロジェクトを掲げ、項目ごとに施策を取りまとめ推進するため、国会議員や関係機関に対し積極的に働きかけております。

このような取り組みの中、特に懸案事項でありました、南部地域の久田から豆酘を結ぶ（仮称）尾浦浅藻線、並びに、北部地域の琴から舟志間を結ぶ（仮称）堂坂線の新設改良事業につきましては、関係部局の御理解により一定のめどがつきました。

この財源につきましては、社会資本整備総合交付金及び起債の枠を確保することができ、事業を推進できる運びとなったことを報告させていただきます。

次に、観光物産推進本部関係でございます。

食材研究会についてですが、対馬の食材のブランド化等を目的に、去る１月２９日から３０日、フジテレビ系番組「アイアンシェフ」をはじめ、テレビ出演も多くこなし、中国料理の先駆者として知名度の高い料理人である脇屋友詞シェフに、対馬のアナゴ、アカムツ、シイタケなどを使っていただき、対馬の食材研究会を福岡市で開催いたしました。

会場では、延べ２２０人の参加を賜り、テーブルに出された一つ一つのメニュー、食材に大満足していただきました。

また、会場では、対馬の食材のすばらしさを脇屋シェフみずからお客様に紹介していただき、絶大なＰＲ効果を確信することができ、今回の食材研究会を機に、脇屋グループ各店舗のおせち料理に、対馬食材を使用するとのありがたいお言葉をいただきました。

次に、しまとく地域通貨販売所及び加盟店についてであります。

県内の島で共通に使用できるプレミアムつき商品券であるしまとく通貨は、島外からの来島者に、しまとく通貨を購入していただき、島で消費してもらうことで、島の活性化を図ることを目的にしておりますが、本事業の委託先として、長崎県離島振興協議会の内部組織として設立されました、しま共通地域通貨発行委員会が取りまとめた１月３１日現在の対馬関係販売窓口、加盟店の報告をいたします。

まず、販売所でございますが、対馬観光物産協会、対馬空港、厳原港ターミナル、比田勝港ターミナルをはじめ１０カ所で販売いたします。島外販売所については、福岡空港第１ターミナル売店、九州郵船発券窓口をはじめ６カ所で販売いたします。

次に、加盟店でございますが、島内１４８店舗の加盟店で使用でき、今後も随時、販売所、加盟店の追加申請は受け付けてまいりますが、本事業は、本年４月１日から３カ年実施してまいります。

次に、三宇田地区ホテル用地宿泊施設事業者募集参加意思表明についてでございます。

対馬の新たな観光拠点を創出していただける事業者を選定するため、平成２４年１２月１日付で、三宇田地区ホテル用地宿泊施設事業者の募集をし、２月１５日が締め切りとなっておりました参加表明に対し、島内、韓国それぞれ１事業者から参加意思表明書の提出があっております。

今後は、３月中旬をめどにプレゼンテーションを実施し、計画書の審査を行ってまいります。

次に、市民生活部関連でございます。

微小粒子状物質ＰＭ２．５に対する対応についてであります。

中国からの越境汚染が問題となっております、微小粒子状物質ＰＭ２．５につきましては、独立行政法人国立環境研究所及び長崎県との協議を進めてまいりました結果、国立環境研究所が上見坂公園に設置しております測定機器により測定されたデータを、県環境政策課のホームページに掲載することが可能となり、その公開が３月５日より開始されました。

市といたしましては、今後、このデータを活用し、市民の皆様に十分な情報提供を行い、対策を講じてまいりたいと考えております。

次に、福祉保健部関連でございます。

対馬いづはら病院、中対馬病院の利活用についてでございます。

平成２４年１２月１９日、豊玉地域活性化センター３階大会議室において、平成２４年度第１回対馬いづはら病院・中対馬病院跡利用計画検討委員会を開催しております。

委員１７名の出席をいただき、老人保健施設等の入所待機状況、対馬市内の病床数のあり方について御意見等をいただき、今後の方向性について協議していただいたところであります。次回開催につきましては３月末を予定しております。

次に、農林水産部関連でございます。

宮中献穀対馬市事業の実施について御報告いたします。

宮中献穀事業につきましては、明治２５年全国３府４３県知事連署をもって、宮中行事の新嘗祭における献穀の請願がされたのが始まりで、以降毎年、全都道府県において新嘗祭で使用するための新穀を生産し、毎年１０月下旬、宮中において天皇皇后両陛下に謁見し、献穀米を献上することになっております。

平成２４年６月６日に、長崎県対馬振興局より事業の実施について協議があり、豆酘地区の赤米で実施することで決定いたしました。

対馬市では、昭和１２年に旧佐須村が白米、雞知村がアワを献穀して以来、実に７６年ぶりの献穀であり、このことは郷土あるいは対馬市にとっても大変名誉なことでありますので、地元の皆さんはもちろんのこと、全市民の御協力を得ながら取り組みたいと考えております。

この献穀事業を進めるため、平成２５年３月１０日、宮中献穀対馬市奉賛会の設立総会を行い、御田植え祭、抜穂祭等、各種事業を行うことといたしております。

次に、教育委員会事務局関連でございます。

渡来仏・大蔵経盗難事件の経過についてですが、昨年１０月に発生いたしました指定文化財の盗難事件の経過について御報告いたします。

盗難にあっておりました渡来仏２体が、本年１月２９日に韓国で発見され、窃盗団一味が検挙されたとの情報が入ったことから、文科省、県が現物確認のため、韓国へ赴き、帰国後に本物との連絡を受けました。

現在、外務省を通じ、日韓の国レベル交渉に入っているところでございます。

ただ、窃盗団一味が全員捕まっていないこと、窃盗の全貌解明を待たないと仏像を返せないと韓国マスコミが報じており、返還に係る情勢は、予断を許さない状況でございます。

次に、対馬市峰総合運動公園陸上競技場の整備についてでございますが、この対馬市峰総合運動公園陸上競技場につきましては、平成２３年度に日本陸上競技連盟の４種公認陸上競技場の認定検定を受け、平成２８年３月までの次期５年間の公認を取得しております。

この陸上競技場改修の対応につきましては、以前より全天候型トラックへの改修要望等もありますので、次の公認期限までに関係団体の意向をお伺いした上で、市民の皆様の健康増進、競技力の向上等が図れる施設整備の方向性を峰陸上競技場整備検討委員会を設置し、現在、協議を行っているところでございます。

最終的には、今後、さらに検討委員会で協議を重ねた上で、市としての方針を決定していきたいと考えております。

最後に、追加議案提出予定について御説明いたします。

緊急経済対策による平成２４年度一般会計補正予算案件等３件を提出予定でございます。

内容につきましては、提出の際に担当部長に説明させたいと思いますので、何とぞ慎重に御審議の上、適正なる御決定を賜りますようお願い申し上げます。

以上、開会にあたっての挨拶とさせていただきます。

○議長（作元　義文君）　以上で、行政報告を終わります。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第５．市長の施政方針説明

○議長（作元　義文君）　日程第５、市長の施政方針説明を行います。

市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　平成２５年第１回の定例会でございますので、今後の市政の方向性を議員の皆様、並びに市民の方々に申し述べさせていただきます。

昨年の１２月議会終了日から今日までの間に、日本の政治情勢は一変しました。大胆なまでの揺り戻しが働いたのは、「決められる政治」への漠とした思いと「経済再生」への国民の強い意思が働いたものとマスコミは報じました。

ところで、総選挙後の総理の年頭所感で、国境離島というフレーズが最終章に盛り込まれたことは、５年前から国境離島特別措置法制定に向けて皆様と取り組んできた我が対馬市にとっては大変心強いものでありました。

新法制定の道のりは険しいであろうと予想しておりました私には、このコメントは、遠いながらも頂上がぼんやりと見えてきたのかなとの心境に至りました。

総理が言及されたことの重要性を認識し、ことし１年が正念場と感じていますので、制定を喜べる日まで気を引き締めて慎重に取り組みたいと考えています。

特別措置法を求めるようになった、５年前の私どもの島のおかれていた状況というものを思い起こしていただきたいのです。人口は自治体にとって、とても重要で基本的なものです。

当時、隔絶された島にとって致命的な負の最大要因である「人口減少」が、坂道を転がるような勢いで襲いかかっていました。また、転がり始めた勢いを一朝一夕にとめることは難しい状況でした。

そこで、特別措置法を求める傍ら総合計画の後期計画を策定し、「底力」、「市民力」、「外の力」の３つの力を束ねて、対馬を再興の方向に向けるように市民の皆様に訴えてきたところです。そして、それらの力を発揮するための環境整備において、新たな法律が必要であるとの論理

構成で訴えてまいりました。

今回の総理のコメントを受け、私は単に喜んでいるのではなく、冷静になって、対馬再生への足がかりになるだろうと報告しているのにすぎません。

これは「再生への始まり」であり、また自立自尊に向け、私たちの心に潜む「行政依存からの脱却であり旧弊の終えん」を告げるものでもあります。しがらみからの脱皮を伴う現状打破の好機であり、変化を伴う再生を目指さねばならないことを意味するものであります。

先達が何度となく挑戦してははね返され、くじけそうになる思いに押し潰されそうになりながらも、闘ってきたふるさと対馬への「信念」だけが、現代に生きる私たちに受け継がれてきたことが証明されただけです。

私たちは、自分たちが、その最初の「信念」の継承者になるだけであるとわきまえなければいけません。そしてそのときこそ、この場所で新しい世代に引き継がれたと。

日本は戦後長らく続いた、ノンポリな時代を送りました。そして埋没し忘れられていた島ゆえの辛酸をなめてきた時代に、古い遺産を誇りとし、この島全体の市民と集落が常にその誇りを守るために尽力してきたのが、明治時代以降の対馬人世代であります。

我々は幸福をつかむ機会に手が届くところまで近づいています。

我々は先達の苦悩と辛酸に思いをめぐらすとき、眼前まで近づいてきた「自立自尊の道」を確保するためなら、いかなる代償をも払い、いかなる重荷も負い、いかなる苦難にも立ち向かう意思を明確にしなくてはいけません。

積年の思いが成就する前に、私たちは次のことを、そして、それ以上のことを誓う必要があります。我々の島と文化と精神の起源を共有する民族に対し、私たちは今まで同様に忠誠を誓う。

また、島内が一致団結すれば、多くの共同事業において、できないことはほとんどありません。

しかし、心を一つにしなければ、我々ができることはほとんどありません。今までのように反目し合い、ばらばらに分裂すれば、到底、新たな挑戦に立ち向かうことはできないからです。

これからの対馬の市政は、窮乏から逃れようと苦闘している人々に対し、どんなに時間が必要とされようと、彼らの自助努力を支援するための最大の努力を誓います。それは、公平平等の論理からではなく、はい上がろうと努力することが、正しく美しい人間本来の姿だからです。

長い時間の間に我々の心をむしばんだ「経済至上主義」に敢然と立ち向かうためには、過去から対馬に巣くう「しがらみ」の衣を脱ぎ、立ち位置そのものをみずから変える勇気が必要です。そして新たに島づくりを始めることなのです。

私たちは地方自治の原点に立ち戻り、決して自治という協働の場が猜疑やねたみから始まるものではなく、誠実さで成り立っていることを行政も市民も双方が思い起こしましょう。

我々行政や市民を対立させている諸問題を双方がくどくど論ずるのではなく、何がわれわれを

団結させる問題なのかを論ずることが窮乏に瀕している時代には求められています。

このふるさと対馬の地域振興のために、真剣かつ厳密な提案を口角泡を飛ばしながら行っていこうではありませんか。そして、過去において垣間見られたねたみの負のスパイラルから脱却しようではありませんか。

誰の視線も気にとめることなく、胸を張って新しい対馬人に変貌する好機が訪れようとしています。１人で立ち向かえないときは、複数の力の協力のもと、新たな試みの創造、新たな島の創造に乗り出そうではありませんか。

身の回りにある困難を極める全てが、新たな法律が制定されれば解決するものではありません。本来、法律は国民生活を緩やかにガードするものであり、全能の神ではありません。まさに法律の趣旨に基づき、そこに住む私たちが、法律という実体のないものに魂を注入していく作業が必要なのです。

市民の皆さん、この島を再生させるためには、各世代で協働に対する忠誠を証明することが求められています。

今、我々を１つに束ねていくための好機を、対馬に数多く存在する神々が与えてくださっています。今、我々は対馬再生の緒につこうとしています。決してそれは希望に胸躍らせるようなものではなく、「長いたそがれの闘い」という重荷を引き受け、苦難に耐えましょうとの呼びかけであります。

対馬の長い歴史の中で最大の危機にさらされ、そして再生へ役割を与えられた世代はごくまれだと思います。このことを私たちは喜びに転化する大らかさで受けとめましょう。私はその責任を全うする覚悟です。そして私はそれを歓迎します。

我々の誰一人として、ほかの世代と立場を交換したいと願っていないと私は信じます。我々がこの努力にかけるエネルギー、信念、そして献身は、奉仕する者全てを照らし、そのたいまつの炎の輝きは未来永劫輝き続けるでしょう。

この苦難から脱するため、対馬市が何をしてくれるのかを問うのではなく、この対馬を過去を通じて最も輝かせるために、同時代に生きる私たちが一緒に何ができるかをじっくりと考えるときなのです。

市民の皆さん、最後に、あなたが今ここにいる我々に対し、我々があなたに求めるのと同じ力と犠牲的精神で乗り越えていただきたいのです。私は、皆様の善良な良心のみを唯一無二の褒美と考えています。我々の愛するこの土地に、皆様とともにより良い光を照らしていこうではありませんか。

さて、平成２５年度の一般会計予算及び特別会計予算の御審議をお願いするに当たり、その概要を説明申し上げます。

平成２５年度の国の予算は、「日本経済再生に向けた緊急経済対策」をもとに、公共事業を中心とした総額約９２兆６，０００億円で編成され、過去最大規模となっております。

また、いわゆる「１５カ月予算」の考え方に即して、平成２４年度補正予算に伴う地方負担については、地域の元気臨時交付金を設けることとし、日本経済を再生するため、大胆な金融政策、機動的な財政政策、民間投資を喚起する成長戦略の「３本の矢」で長引く円高・デフレ不況から脱却し、雇用や所得の拡大を目指すものとなっております。

そうした中、地方財政においては、一般財源総額を平成２４年度地方財政計画と同水準となるよう確保することを基本として、所要の対応を行うこととしております。

具体的施策といたしましては、復興防災対策、成長による富の創出、暮らしの安心・地域の活性化の３分野を重点とし、財政措置とともに政策金融などあらゆる政策を総動員したものとしております。

本市は、平成２６年３月に市制施行１０周年を迎えます。その間、行財政改革に取り組んだ結果、地方債が約１５０億円減少し、実質公債費比率も、平成１９年度の１８．３％から、平成２３年度決算では１２．０％と改善されました。しかし、本市歳入の約５０％を占める地方交付税の合併優遇措置が、平成２６年度から段階的に縮減されることから、依然として厳しい財政状況に変わりはありません。

このような状況を踏まえ、平成２５年度予算編成に当たりましては、政府予算の基本的な考え方や地方財政収支見通しの概要等も考慮しつつ、可能な限り計上したところであります。

その結果、平成２５年度の予算規模は、一般会計と９つの特別会計予算を合わせた総額は、４４４億５，０４７万４，０００円であります。

また、地方公営企業法の適用を受けます水道事業会計は、収益的収入２億７，９８０万１，０００円、収益的支出２億７，４１１万３，０００円、資本的収入１億３，５１５万４，０００円、資本的支出１億８，２６３万９，０００円としております。

次に予算の概要について御説明申し上げます。

一般会計予算でありますが、平成２４年度当初予算を骨格予算といたしましたので、市長選挙後の補正予算と比較いたしますと、６．３％増の３２７億９，０００万としております。

歳入予算の主な内容としましては、市税につきましては、年少扶養控除の廃止等により１．３％の増を見込んでおります。

また、地方譲与税、地方消費税交付金、自動車取得税交付金等につきましては、平成２４年度の交付見込額を参考に見込んでおります。

次に、地方特例交付金は、子ども手当等の廃止により８４％の減としております。

次に、地方交付税につきましては、平成２４年度実績見込み額の約９０％を見込んでおります。

平成２５年度は国の財政対策では、前年度比マイナス２．２％、約４，０００億円の減となっており、配分方法等が不透明な状況であることを考慮して計上しております。

繰入金につきましては、財源不足を補填するため、財政調整基金４億６，０００万円、減債基金２億２，３００万円などを取り崩し、約６億８，６００万円を計上しております。

市債につきましては、財源補填のある辺地対策事業債、過疎対策事業債、合併特例事業債等、並びに一般財源不足に対応するため、地方財政法第５条の特例として発行する臨時財政対策債等を計上しております。

次に、歳出予算について御説明申し上げます。

本市を取り巻く財政状況が依然として厳しいことを認識し、経費の抑制と事務事業の見直しを行うことにより、引き続き財政の健全化を推進することとしております。

まず、性質別にその概要を御説明いたします。

人件費につきましては、定員適正化計画に基づき人件費の抑制に努めておりますが、平成２５年度は、４つの選挙が予定されていることから、１％増の約５４億円を計上しております。

扶助費につきましては、生活困窮者の増等により２．６％増となる約３６億５，０００万円を計上しております。

公債費につきましては、元利償還金約６１億円を計上しております。

また、建設事業につきましては、国の補正予算との絡みにより、継続事業を主として約５０億円を計上しております。

建設事業につきましては、公債費の増加に連動するため、毎年、抑制しているところではありますが、対馬市振興計画の中で産業基盤対策、生活基盤対策事業等を進めているところであります。

物件費につきましては、全体として約４３億円を計上しております。

積立金につきましては、合併振興基金約８億円、過疎地域自立促進事業基金に約１億５，０００万円等を積み立てることとしております。

次に、対馬市総合計画の６つの施策の大綱ごとに歳出予算の内容を御説明いたします。

まず、施策の大綱第１の「創造的な産業と次世代の担い手を育む人とまち」では、地場産業の振興と観光との連携、商業集積の高度化・魅力向上、Ｕ・Ｉターン等の定住化対策の推進を重点施策としております。

産業基盤整備のため、道路交通網の整備をはじめ林道開設、漁港・漁場整備事業等を実施するとともに、次世代の担い手育成を図ります。

平成２４年度は対馬とんちゃん部隊をはじめとして多くの若者が、各分野で郷土対馬を全国に発信していただきました。若者の活動に刺激され地域の気運も高まっているこの好機に、元気あ

る活動を支援していきたいと考えます。

対馬の基幹産業である水産業の復活を目指し、資源管理、環境保全対策として藻場造成事業のほか、平成２５年度から順次、漁礁設置に取り組んでいきます。私たちの暮らしを守るため、有害鳥獣対策として有資格者の増員や農地の保護を行ってまいりましたが、助成対象を集落単位などにも広げ、事業の充実を図ります。

このほか、地場産品の地産地消を推進するほか、島外への輸送コストの軽減を図るため、各種の助成を行うとともに、肉用牛対策事業、対馬しいたけ再生プラン事業を推進します。

人口の減少が続く本市におきましては、経済の活性化と交流人口の増加を図るため、島への玄関口となる国内・国際ターミナル施設の整備を行うほか、観光交流センター建設や観光案内板の充実など、引き続き観光対策事業を実施いたします。また、新たな雇用の創出を促進するため、企業誘致を引き続き進めていくとともに、起業しようとする市民の皆様を応援する新規ビジネス応援事業も、継続して実施してまいります。

施策の大綱第２の「豊かな自然との調和を図り、地球環境にやさしい人とまち」では、かけがえのない自然環境の保全、資源循環型社会の構築、自然を生かした生活環境の魅力化、環境王国の樹立に向けた低炭素型社会の構築を重点施策としております。

対馬には、国の天然記念物であるツシマヤマネコや対州馬をはじめ、貴重な野生動植物が数多く生存しています。これらと共存・共生を図るとともに、森・里・川・海の連環を図りながら、低炭素型エコアイランドを目指して、市民の皆様とともに各種事業を展開したいと考えます。

ＥＭ菌による環境浄化活動や地域のクリーンアップ作戦に取り組むほか、資源循環型社会の構築を図るため、家庭での住宅用太陽光発電設備や合併処理浄化槽設備導入に対する助成を引き続き行うとともに、新たに事業者が行うエコ活動にも助成制度を設けたいと考えます。

また、環境実践モデル都市として、平成２４年度から生ごみ・廃食油資源再利用システム実証実験事業に取り組んでおりますが、その事業規模の拡大を図りながら、生ごみの本格的な分別収集に取り組みたいと考えます。

施策の大綱第３の「固有の歴史文化を発信し、交流の活発な人とまち」では、韓国をはじめとする東アジア都市との国際交流の促進、独自の地域資源を生かした交流人口の拡大、広域交流を支える交通アクセスの強化を重点施策としております。

平成２４年度の観光客数は約１５万人に達する見込みであり、対馬の三大イベントである対馬アリラン祭、国境マラソン大会、対馬ちんぐ音楽祭を引き続き開催します。このほか、国際交流の底流となるホームステイによる、韓国との中・高校生を中心とした教育・文化交流事業を支援しながら、相互理解を深めていきたいと考えます。

また、国内的にも以前から交流のある地域との海山交流事業をはじめ、対馬アートファンタジ

ア事業、対州馬の活用プロジェクト事業などを展開し、交流人口の拡大に努めてまいります。

施策の大綱第４の「地域が連携して支える教育・文化の充実した人とまち」では、安心して学べる学校教育環境の構築、地域資源を生かした生涯学習の充実、芸術・文化活動の振興を重点施策としております。

豊かな心や確かな学力を育てるため、安心して学べる教育環境の充実を図るとともに、少子化に伴う学校の適正規模・適正配置について、地域の皆様と協議を行いながら積極的に取り組んでまいります。

また、子供たちのスポーツや音楽などを通した交流・体験学習活動を積極的に応援するほか、地域の青少年健全育成活動や放課後子供教室推進事業などを展開し、子育て・親育てを通じて地域連帯感の醸成を積極的に図ります。

さらに、生涯学習を推進するため、公民館活動など各世代に応じた学習機会を提供するとともに、青少年劇場や文化・公演事業を開催するなどその充実に努めます。

施策の大綱第５の「思いやりと健やかさを育む健康・福祉の人とまち」では、医療・救急態勢の充実、保健・福祉サービスの充実、スポーツ・健康増進施設の充実、住民の社会参加支援システムの構築を重点施策としております。

複雑で、多様な社会、過大な情報量など現代社会は大きく変貌し続けています。流行と不易の見きわめ、取捨選択が大変難しい現代社会において、身体的・精神的ストレスは大きなものがあります。

子供の出産や育児、高齢からくる健康不安など健康への高い関心が見られる今日、医師、そして看護師の確保はもちろんのこと、安心・安定した医療環境の充実を図るため、長崎県病院企業団病院と診療所の機能分担や強化・連携に努めます。新病院の建設におきましては、国や県との協議を深めながら、市民の皆様が安心して暮らせるまちづくりのために引き続き取り組んでまいります。

市民の健康づくりを支援するため、生涯スポーツ活動や健康つしま２１事業、食育活動を積極的に推進するほか、予防医療活動として健康増進事業を実施します。また、地域における子育て支援事業、高齢者支援事業、生活困窮者支援事業等を引き続き実施していくほか、心と暮らしの相談事業を展開します。

施策の大綱第６の「快適な暮らしを支える生活基盤の整った人とまち」では、身近な道路交通ネットワークの整備事業、安全で質の高い住環境の整備、地域情報通信ネットワークの構築、公共資産の有効活用、市民協働によるまちづくりの構築を重点施策としております。

道路交通ネットワークの構築は、安全・安心なまちづくりの第１歩であり、生活の安定、経済の活性化のためにも重要な課題であります。国県道の整備をはじめ、島内の道路交通網の整備を

促進いたします。また、市民の足となる公共バスや市営有償バスなどの推進を図りながら、公共交通機関のあり方について引き続き検討をしていきます。

安全・安心な住環境の整備を図るほか、情報の共有化のためのＣＡＴＶ事業の充実、また、（仮称）消防署豆酘分遣所の建設のほか、市民協働による地域づくり計画の推進を引き続き実施いたします。

以上が、対馬市第１次総合計画の６つの施策大綱に基づく各種事業であります。

対馬は国境に位置する特異な島です。大陸に一番近い島でもあります。自然や文化にも大陸の影響を大きく残す宝の島でもあります。昨年、若者の活躍が大きな刺激となりました。行政と市民が一丸となって、閉塞感漂う現在の状況を打破していきたいと思います。

最後に、「島は、島なりに治めよ」という先人の尊い教えを肝に銘じながら、対馬市総合計画によるまちづくりの推進とあわせ、新しい時代に対応した簡素で効率的な組織運営、現実を直視し、将来を見据えた、安定した財政運営の確立に全力で取り組んでまいります。

以上でございます。

○議長（作元　義文君）　以上で、市長の施政方針説明を終わります。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第６．総務文教常任委員会の閉会中の所管事務調査報告

○議長（作元　義文君）　日程第６、総務文教常任委員会の閉会中の所管事務調査報告を行います。

総務文教常任委員長、長信義君。

○議員（５番　長　　信義君）　総務文教常任委員会の所管事務調査報告を行います。

平成２４年第１回対馬市議会定例会において、会議規則第１０５条の規定により、閉会中の所管事務調査の承認を得ておりました、当委員会の調査の内容とその概要を同規則第１１０条の規定により報告いたします。

当委員会は、平成２５年２月１２日から１３日の２日間、小中学校統廃合計画に基づく学校統廃合態勢の調査を実施いたしました。

当日は、全委員出席のもと、説明員として教育委員会から豊田教育部長、大石理事ほか担当課長の出席を求め、１２日は午後１時より、佐須奈小中学校、東小学校、１３日は午前１０時から大船越中学校、雞知中学校、金田小学校、久田小学校、久田中学校の７校について実態調査をいたしましたので、その概要を報告いたします。

今回の調査は、平成２３年２月４日に出された対馬市立学校適正規模、適正配置等検討委員会の答申において、平成２８年度見込みの中期計画をもとに、小中学校統廃合計画に基づく学校統廃合に当たり、各学校において適正な教育環境の維持が図られる体制にあるのかを調査すること

により、健全な行政運営による安心・安全なまちづくりを目指すことを目的として実施いたしましたので、大きな問題点が提起された学校について報告いたします。

調査初日は、まず、佐須奈小中学校に出向き、校長先生の説明を受けました。本校においては、スクールバス乗降の場の問題で、佐護地区からの児童生徒は、登校時はやまねこ広場で下車し、そこから学校までは徒歩で通学、下校時は学校までバスを乗り入れることで、保護者との間で了承されているとのことでありましたが、十分な通学環境の整備を指摘いたします。

次に、南陽小学校と統合する東小学校については、統合に向けての受け入れ態勢づくりとして特別支援教室の問題があります。その実態を見ますと、図書室が仕切られて授業がされておりますが、全ての子供は同等の環境のもとで教育を受ける権利があることを考えますと、早急な改善を強く指摘いたします。

２点目は、複式が解消されると空き教室がないとの話がありました。現在の空き教室は算数などの指導で活用しており、空き教室の検討をお願いしたいとのことであります。

３点目は、児童の安全確保のため、校門前の木の伐採、除去の要望がありましたが、この問題は、佐賀区との過去の経緯もあり、地元とよく協議され、対応していただきたいと思います。

次に、調査２日目の大船越中学校については、グラウンド整備の問題があります。その実態は、岩盤、排水溝の露出のため、体育の授業や部活動に大変支障を来しているとのことであります。今後の統廃合計画等も十分考慮し、危険度が高いことを認識され、事故を未然に防止するためにも、速やかに実態調査されることを指摘いたします。

次に、トイレの改修についてでありますが、男子用トイレが和式から洋式に変えてありますが、便器と前の壁の間が狭く、使用に不便とのことでありますので、早急に改善していただくよう指摘いたします。

雞知中学校につきましては、普通教室の増設、統廃合により生じる給食費、修学旅行費などの学校級地区分による、補助単価の差異による保護者の経済的負担の解消、水道管の改修などの要望がありましたので、検討されるよう求めます。

金田小学校につきましては、校舎内は特に大きな問題点の指摘はありませんが、職員駐車場の落石防止のため、防護柵設置の要望がありました。イノシシ、鹿による落石により、駐車中の車両に被害が及ぶことも考えられますので、実態調査をされることを求めます。

久田小学校につきましては、施設面は特に問題はないと思われますが、外壁改修工事については、多額の経費を要すると思いますので、年次計画を立て、検討されるよう強く求めます。

久田中学校は、校舎については特に問題はありませんが、イノシシが運動場に侵入し、荒らしている状況でありますので、防護柵の設置を早急に検討されるよう求めます。

今回の所管事務調査につきましては、各学校の大きな問題点についてのみ申し上げました。

学校の統廃合は、保護者、地域住民、関係機関等の御理解により成立するものです。また、何より児童生徒の安全対策、環境整備が最優先されることは言うまでもありません。

市長は、将来を担う子供たちには、聖域なく対処されると思いますので、予算面においても十分な配慮をされるよう重ねて指摘いたします。

最後に、本委員会の所管事務調査に御協力いただきました各学校の校長先生をはじめ関係者の皆様に、心からお礼を申し上げます。

以上で、総務文教常任委員会の所管事務調査報告といたします。

○議長（作元　義文君）　これから、委員長報告に対する質疑を行います。質疑はありませんか。

８番、阿比留梅仁君。

○議員（８番　阿比留梅仁君）　総務文教常任委員長にお尋ねします。

ここの報告の中で、佐須奈小学校ですか、小中学校、この問題で、登校はやまねこ広場で、下校は学校までバスを乗せるということになっているみたいですが、ちょっと意味がわからないんですが、ちょっと教えていただけますか。

○議長（作元　義文君）　総務文教常任委員長、長信義君。

○議員（５番　長　　信義君）　８番議員にお答えいたします。

登校時と下校時が違う問題につきましては、登校時は、佐護のほうから子供たちがスクールバスで参ります。今現在の佐須奈の学校に通っている子供たちとの関係もございまして、佐須奈の子供たちは、学校までずっと歩いている現状です。

バスで通ってくる佐護の子供たちを学校まで、校舎まで運びますと、やはり子供たちのバランス感覚がとれないという問題があるそうです。それで、登校時は、一応、下の広場で子供たちをおろして、佐須奈の子供たちと同じように、一緒に歩いて学校まで登校してもらうと。帰りは、それぞれ部活動、いろんな問題がありますので、校舎の前までスクールバスを乗り入れするということで、佐護の子供たちをスクールバスで送るというふうなことで、保護者との間でその了解ができているという説明でございました。

以上です。

○議長（作元　義文君）　８番、阿比留梅仁君。

○議員（８番　阿比留梅仁君）　立派な協議であると思いますよね。で、その例えば、西小学校もそういう格好をして、途中からおろして学校まで通わしてるんですかね。これ、佐須奈の学校だけが、こういう体制をとっているんですかね。

それともう一つ、この学校は山の上にある学校で、ここまで行く学校の道路幅は幾らありますか。

○議長（作元　義文君）　総務文教常任委員長、長信義君。

○議員（５番　長　　信義君）　まず、道路幅の問題ですけども、幅員は確認は、はかっておりませんが、私どもの９人乗りですか、あのバスが入りましたので、恐らく３メーターぐらいの幅員はあるんじゃないかというふうに思います。

それから、ほかの学校との兼ね合いでございますけども、今回は、一応、その実態の調査で、先ほど報告いたしましたように、校長先生からの聞き取りがほとんどでございましたので、校長先生の話を中心に報告をいたしておりますので、御理解いただきたいと思います。

○議長（作元　義文君）　８番、阿比留梅仁君。

○議員（８番　阿比留梅仁君）　私は、これ、総務文教常任委員長に言うのは酷だと思いますが、現地に行かれたらわかると思います。

これ、上県町時代から指摘事項で、朝、通学バスが、どのぐらいのバスが入るかわかりませんが、将来、恐らく大型バスは入らないと思います。そして、通学する通学路が、時間が大体みんな一緒になると思います。そのときに車がここを離合すれば、危険が伴う区域だと思います。

そういうことを教育委員会、現地調査されたとき、上県町時代からの懸案なんですが、総務文教常任委員会として何か聞かれて、その予算措置とか今後の課題は、教育委員会のほうから何も話はあっていませんですか。

○議長（作元　義文君）　総務文教常任委員長、長信義君。

○議員（５番　長　　信義君）　担当部局からの話はあっていないかということでございますが、特別、これといった担当部局から話はございませんが、先ほどから申し上げますように、非常に道路が狭いということは事実でございます。

スクールバスも大きなスクールバスは、まず入らないだろうと思いますので、この報告の中で申し上げておりますように、通学環境の整備を十分図っていただきたいということを、市長のほうには申し上げておきたいというふうに思います。

○議長（作元　義文君）　いいですか。ほかに。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

暫時休憩します。開会を１１時１５分から行います。

午前11時06分休憩

午前11時15分再開

○議長（作元　義文君）　再開します。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第７．国県道路整備促進特別委員会の閉会中の調査報告

○議長（作元　義文君）　日程第７、国県道路整備促進特別委員会の閉会中の調査報告を行います。

国県道路整備促進特別委員会委員長、齋藤久光君。

○議員（９番　齋藤　久光君）　それでは、ただいまより国県道路整備促進特別委員会の調査報告を行います。

国県道路整備促進特別委員会の調査内容について、会議規則第１１０条の規定により報告をいたします。

本委員会は、平成２１年９月定例会において立ち上げてから３年半が経過する中で、１２回にわたり、対馬振興局管内における国道、主要地方道、一般県道について、未改良箇所の調査、研究に取り組んでまいりました。

しかし、本特別委員会として、長崎県知事への陳情も一度もなく現在に至り、積極的な要望活動が必要との委員の総意のもと、平成２５年２月１３日午後１時３０分より、委員全員と作元議長も出席され、市長部局より建設部の西村建設課長、井田課長補佐の同行を求め、対馬振興局応接室において、松尾振興局長、米田建設部長、本田道路課長に対応していただき、対馬振興局管内における国県道路事業及び未整備箇所の順次整備について要望をいたしました。

対馬市の道路は、地域の産業、経済、文化の活性化や地域間交流など社会活動を促進し、住民生活の向上や均衡ある地域の発展のためには不可欠な施設であり、特に国県道路は、本市の道路交通網の根幹を形成し、本市の発展のためには重要な社会基盤であることは言うまでもありません。

地域の念願であった国道３８２号の大地工区や、主要地方道桟原小茂田線の上見坂工区の事業実施、さらに平成２５年度から国道３８２号の上県町弓張、樫滝工区並びに上対馬町河内区間の新規事業実施など鋭意御尽力を賜り、厚く感謝申し上げる次第であります。

本市における国県道路の整備状況は、県当局の御尽力により年々向上していますが、市全体面積の８９％は山林であり、しかも急峻な対馬の地形的要因からくる事業費の高騰などの影響で、県下平均、他の離島の状況と比べると大変立ちおくれており、今なお、早急に整備を要する箇所が数多く存在しております。

このような状況を鑑み、市議会において、国県道路整備促進特別委員会を立ち上げ、市と協調しながら、未整備箇所の調査研究から今後の対応について、積極的に取り組んでまいりました。今回、早期整備を要する箇所の状況把握と一定の方向性が確認できましたので、これに基づき、順次整備をしていただきますよう要望をいたしました。

要望箇所は、一般国道３８２号では、美津島町小船越から畠浦口区間であります。美津島町緒方口から大船越区間、上県町美止々から佐護区間の３カ所。

主要地方道においては、厳原豆酘美津島線で、美津島町加志から箕形区間、厳原町尾浦から安

神区間、厳原町内山坂トンネルから浅藻区間、厳原町豆酘から瀬区間、厳原町上槻から椎根区間、厳原町小茂田から阿連区間。

上対馬豊玉線では、上対馬町大増から舟志区間、上対馬町舟志から琴区間、豊玉町曽から峰町櫛区間。

木坂佐賀線では、峰町大久保から佐賀区間、峰町木坂から狩尾区間の１１カ所。

一般県道では、大浦比田勝線の上対馬町豊地区、比田勝港線の上対馬町西泊地区、唐崎岬線の豊玉町水崎から廻区間の３カ所。

以上１７カ所について要望をいたしました。

振興局長より、近年の対馬の人口減少と公共事業の減少について相関関係があるのではないか。対馬市は、他の離島と比べ道路整備がおくれていると思う。まだまだ整備が必要と考えていると積極的な言葉をいただきました。

各委員からも、それぞれの地区、工区の現況、課題、進捗状況等について発言があり、活発な意見交換ができました。特に、主要地方道厳原豆酘美津島線の加志箕形区間については、雞知工区が完了せずとも入会林整備等の環境整備ができ次第、吹崎工区の事業開始はあり得るとの回答をいただき、市の対応が急がれるものと思います。

なお、厳原南部の主要地方道のトンネル等の老朽化の整備改良についてと、並行した新規路線として計画されている市道尾浦から浅藻間の事業計画等については、正式には聞いていないが、財源等も考慮し、市と検討、調査研究していくとのことで、本委員会としても御支援をお願いいたしました。

以上、対馬振興局管内の国県道路整備事業等について、早期採択に向け、県当局の御支援をお願いし、振興局長への要望を終え、次に、市役所別館会議室において、第１３回の委員会を開催いたしました。

本特別委員会も３年半にわたり調査、研究を行ってきましたが、本特別委員会の総括として、出県陳情に対する市の対応のあり方について意見が多く出されました。

今後の対馬市の道路行政について、新政権の経済対策による公共事業等の拡大が予測される中で、対馬市においては早急に整備を要する箇所が数多く存在していることは、本委員会の報告のとおりであります。

この状況を鑑み、来る５月の市議会議員の改選に伴い、新しい議会においても、国県道路の整備促進に対する積極的な活動及び要望に対する予算確保をよろしくお願いする次第であります。

以上、国県道路整備促進特別委員会は、３月定例会をもって終結することとし、本委員会の調査報告といたします。

３年半にわたり、議員各位はもとより市長部局の皆様には御支援、御協力を賜り、ここに無事

終結できましたことに対し感謝を申し上げ、お礼といたします。

○議長（作元　義文君）　これから委員長報告に対する質疑を行います。質疑はありませんか。

１６番、糸瀬一彦君。

○議員（１６番　糸瀬　一彦君）　委員長にお尋ねしたいと思います。

２ページの上対馬町河内区間の新規事業実施と説明があっておりますけど、個人的に聞けば、それでもう結構なんですけど、せっかくですから、私、地元でよく承知をしておりませんので、改めて御説明をお願いしたいと思います。

○議長（作元　義文君）　国県道路整備促進特別委員会委員長、齋藤久光君。

○議員（９番　齋藤　久光君）　ただいまの質問についてお答えいたします。

これは、河内工区ですね、上対馬町河内区間の新規事業実施のということですね、（「はい」と呼ぶ者あり）これについて、委員会としては現地まで一昨年でしたか、全ての区間については調査したわけでございますけれども、今回、この工区について新規事業が、２５年度の事業として採択をされたということの報告でございましたので、ここに上げさせていただきました。

以上です。

○議長（作元　義文君）　１６番、糸瀬一彦君。

○議員（１６番　糸瀬　一彦君）　委員長、まことに申しわけありませんけど、具体的な工事区間とか工事の内容とかがわかれば、せっかくですから茶の間の方も見てありますので、御承知であれば説明をお願いしたいと思いますけど、そうでなければ後ほどでも結構です。

○議長（作元　義文君）　国県道路整備促進特別委員会委員長、齋藤久光君。

○議員（９番　齋藤　久光君）　今の質問に対してでございますけれども、事業内容についての詳しい内容については、部局のほうとも我々委員会では、申しわけございませんが、内容等についてまでは調査しておりませんので、御勘弁いただきたいと思います。

後で、事業部局のほうからいただいて報告をしたいと思います。

○議長（作元　義文君）　いいですか。（「休憩」と呼ぶ者あり）

暫時休憩します。

午前11時30分休憩

午前11時32分再開

○議長（作元　義文君）　再開します。

１０番、堀江政武君。

○議員（１０番　堀江　政武君）　特別委員会には４年近く、この対馬の道路の改良がおくれているということで、相当、調査研究、努力をしていただきまして、相当進んだと思います。御苦労

さまでした。

この中で、１ページにもありますが、本特別委員会として長崎県知事への陳情も一度もなく、現在に至ったと。最後のほうで、委員会の総括として、出県陳情に対する市の対応のあり方について意見が多く出されたということでございますが、具体的にどういう御意見が多かったんでしょうか、ちょっとお尋ねします。

○議長（作元　義文君）　国県道路整備促進特別委員会委員長、齋藤久光君。

○議員（９番　齋藤　久光君）　ただいまの堀江議員の質問に対しお答えいたします。

本委員会は、先ほども申し上げましたとおり、３年半にわたり、我々委員会も１３回の特別委員会を行ったわけでございますけども、その間にあって、報告のとおり、一度も知事への出県陳情は行っておりません。

その間において、委員会からは、いつも出てくる言葉が、積極的なこれだけ道路状況の中で、出県陳情は必要じゃないかということも出てくるわけでございますけれども、予算との兼ね合いもありまして、それがそのかなえなかったと、非常に残念であるという意見が非常に多く出されました。

そのために、今回の最終総括として、新しく上げられる新議会でも特別委員会をぜひ立ち上げていただき、その出県陳情による積極的な活動も必要であるので、予算措置をお願いしたいということを必ず盛り込んでいただきたいという委員の総意でございましたので、そのように報告させていただきました。

以上でございます。

○議長（作元　義文君）　１０番、堀江政武君。

○議員（１０番　堀江　政武君）　委員長の話はよくわかります。４年近く調査研究して、最初にそういう委員会での要望があっておれば、４年間の間には、理事者もやはり委員会は、特別委員会は、いつでも出県陳情したいと、知事にしたいという要望であれば、私はやはり４年の間には、そういう予算措置もしてほしかったかなと思います。

そのことについては、委員長が要望されていると思いますので、今後、理事者にはそういう配慮もお願いしたいと思います。

以上。（「ありがとうございます」と呼ぶ者あり）

○議長（作元　義文君）　ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　それでは、質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第８．長崎県病院企業団議会議員の報告

○議長（作元　義文君）　日程第８、長崎県病院企業団議会議員の報告を行います。１７番、大浦孝司君。

○議員（１７番　大浦　孝司君）　長崎県病院企業団議会の報告を行います。

平成２４年１２月２７日、長崎県病院企業団議会平成２４年第２回定例会が、長崎市出島町、県農協会館において招集されましたので、議案審議の内容を次のとおり報告いたします。

企業団議会の構成は、県職員３名、県議会議員２名、五島市２名、新上五島町２名、南島原市、島原市、雲仙市それぞれ１名、対馬市２名の合計１４名で構成されており、今回の会議は、うち１３名の出席のもとに開催されましたが、対馬市は、糸瀬一彦議員と２名の出席であります。

今回の議案審議は、条例議案１件、予算議案１件、認定議案１件の３件であります。

第３号議案、長崎県病院企業団病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例でありますが、対馬いづはら病院の診療科目は、従来まで１８診療科目に消化器内科を新たに追加することとし、条例の改正を行うものであります。

次に、第４号議案、平成２４年度長崎県病院企業団病院事業会計補正予算でありますが、委託業務５件について、平成２４年から平成２７年までの債務負担行為６億９，３３４万９，０００円を追加するものであります。

認定第１号でありますが、平成２３年度長崎県病院企業団病院事業会計決算内容について報告をいたします。

企業団の経営対象は、県立精神医療センター、島原病院、五島市、新上五島町、対馬市の９病院、２診療所であります。

全体の決算でありますが、収益合計２４０億９，５８７万３，０００円、費用合計２３６億６，６８２万９，０００円、差し引き４億２，９０４万４，０００円の黒字となっております。

対馬３病院でありますが、対馬いづはら病院の収益合計３７億４，１０８万６，０００円、費用合計３６億２，０４７万４，０００円、差し引き１億２，０６１万２，０００円の黒字。

中対馬病院の収益合計１６億９，３６９万５，０００円、費用合計１７億５，５６６万４，０００円、差し引き６，１９６万９，０００円の赤字。

上対馬病院の収益合計１１億９，７１１万３，０００円、費用合計１１億９，４５７万８，０００円、差し引き２５３万５，０００円の黒字となっております。

対馬３病院中、中対馬病院の経営状態でございますが、対前年比、入院収益１億４，９００万円の減収が赤字の要因と思われます。

そのうち、一般病棟の病床利用率７８．３％、療養病棟の病床利用率は４８％と低く、経営の改善が求められるところであります。

以上３議案について慎重に審議した結果、いずれも原案のとおり賛成多数により可決されまし

た。

次に、報告事項でありますが、対馬地域新病院の建設事業について、平成２４年１２月１７日に、建設工事の入札が実施されました。

入札の方式は、建築本体、電気設備、衛生設備、空調設備の分離発注方式により行う。

参加要件は、県内業者を含む共同企業体による一般競争入札とする。入札参加の資格は、県の基準等を参考に、競争参加資格委員会において決定。本体工事の代表構成員は、病院建設等に一定の実績があるもの。この要件を満たす者の範囲で行われたものでありますが、その結果、電気設備工事、空調設備工事、衛生設備工事については落札されましたが、建築本体工事については、不調に終わったとの報告がなされております。

今後の対応としては、早急に入札不調の原因の精査と並行し、上級機関への財源確保、完成工期延長についてのお願いを含め、県・市・企業団一体となって、１月上旬に行動に転じ、見通しがついた時点で臨時議会の招集をする旨の報告を受けたところであります。

次に、平成２５年２月１５日、長崎市賑町、長崎県町村会館において臨時議会が招集されましたので、その審議内容について報告いたします。

第１号議案は、平成２４年度長崎県病院企業団病院事業会計補正予算であります。

まず、企業長より昨年１２月に実施した建築本体工事の入札が不調になったことから、その原因分析結果による設計額等の見直しを受けて速やかに再入札を実施し、年度を越えた契約締結のため、債務負担行為の限度額６０億２，６６９万７，０００円から７２億７，６９４万５，０００円に、１２億５，０２４万８，０００円を増額する。

また、不調に至った精査については、東日本大震災の復旧に伴う影響が最大の原因である。分析の結果、工賃の高騰、建設資材・輸送コストの高騰は激化しており、九州管内でも入札の不調の事例が発生しているところもあり、今回の緊急的な財源対応はやむを得ないものと思うが、特に県・市に負担をなるだけかけない方向で、取り組んでいきたい旨の発言がございました。

財源対応の執行案は、次のとおりであります。

不足する財源１２億５，０００万円は、企業団により１０億円の病院企業債を充てる。残り２億５，０００万円は、企業団が自己財源を確保し、緊急対応を図る。

新病院建設に関し、新たな国庫補助金等の確保が今後、見込まれる。（医療施設耐震化臨時特例交付金、地域医療再生基金等）

新たなコスト縮減も含め、実質、県・市の負担額は、１億円以内にとどまるとの説明であります。

また、見込まれる今後のスケジュールでありますが、県議会の承認を得た場合、２月２０日付で再入札公告、入札の実施は3月２９日、着工は平成２５年４月より、完成は２６年9月、開院

は平成２７年１月から４月ごろと見込んでおります。

委員から、県の文教厚生委員会でもこの問題を重視しており、当委員会は、２月１８日、病院企業団の参考人招致を予定していることを含め、実施に向けての配慮は慎重にしてほしいとの意見もございました。

長時間にわたり慎重に審議した結果、賛成多数により原案のとおり可決されました。

以上、長崎県病院企業団議会の議会報告といたします。

○議長（作元　義文君）　これから報告に対する質疑を行います。質疑はありませんか。１９番、大部初幸君。

○議員（１９番　大部　初幸君）　企業団の大浦議員に説明を求めますけど、３病院の中の中対馬病院が赤字やないですか。この中で、今、報告の中で経営の改善が求められているところでございますということなんですが、経営の改善とは、どういう形を経営の改善というんですか。お医者さんを変えるのが経営の改善か、その病院内容を経営改善というのかを聞きたいと思います。

○議長（作元　義文君）　１７番、大浦孝司君。

○議員（１７番　大浦　孝司君）　まず、病床の利用率が、一般病棟で７８％、それから療養病棟で４０数％ということでありますが、基準からいえば、８０以上、９０％ぐらいの病床利用率をこなすことが、通常の経営の中で黒字を生み出すということになっております。

その中で、過去のを対比しますと、入院の収益が１億４，０００万ほど下がったと、減収であると。これは従来、この入院の中で、特に整形外科の手術が当年なされておらないというふうなことが、その原因というふうに聞いております。

それともう一つは、１名の医者が退職によって、まあ退職されたと。その中で、非常に患者が、その医者に対する信頼度があったせいか、その外来及びそういうふうな手術等が他にまわったというふうなことを聞いております。

この２つの主な原因が、２３年度に響いたというようなことでございますので、そういうふうな科目の医者を有しないという言い方は失礼ですが、そういうふうなことを確保されれば、従来のように改善ができるというふうなことを聞いております。

私の把握していることはそれの範囲でございます。

以上です。

○議長（作元　義文君）　１９番、大部初幸君。

○議員（１９番　大部　初幸君）　率直に意見を言いまして、今、委員長からも御報告があっていますけど、中対馬病院のあの評判が悪過ぎるんですよ、実際に。

実際に、私は、こういう公の場で言っていいものか私も考えたんですが、せんだっても、まだ２週間ぐらいですか、中対馬に行って心筋梗塞を起こしているんです。心筋梗塞を起こして、医

者の名前は言いませんけども、MRから一切、受けとめて、どうもないという診断が出たわけです。本人は私よりも２つ下です。

　で、その本人は、どうもないという、心筋梗塞を起こしているわけですから、苦しくてたまらんわけですね。どうもないことはないということで、その患者さんが言ったから、看護婦さんが別のお医者さんを何か呼んできたらしいんですよ。聴診器を当てたら、ここじゃできんからということで、すぐ救急車でいづはら病院に運ばれているんです。そういうのが現実的に起きているんです。

　こういう話が、やっぱ患者さんから患者さんにいくんですよ。だから、○○

　○○○○○今後、よく精査してもらって、こういうことのないように、こういう風評が、対馬市民から、島民から出ないように。どうしても、地元の中央にある大きな病院ですから、大事にして、やっぱり市民の命を預かる病院ですから、そういうことを十分注意してほしいと思います。要望です。

○議長（作元　義文君）　１７番、大浦孝司君。

○議員（１７番　大浦　孝司君）　厳しい御意見でございますが、名指しで言うことは私のほうは避けますが、新病院の建設の目的は、医療技術の高度化でございます。３５名の医師を確保する中で、レベルを上げるというふうなことでありますから、今、申し上げたことのないような方向で、今後の体制をつくっていくというふうな方向を企業団側も、そういうふうな発言をしておりますので、そこに焦点を当てて、この２年内に医師の確保、医者の確保を公に全国レベルで考えたいというふうなことでございますから、今の大部議員の話もございますが、そういうふうなことで改めていってもらいたいというふうに思います。よろしいでしょうか、以上です。

○議長（作元　義文君）　１９番、大部初幸君。

○議員（１９番　大部　初幸君）　最後、ぜひそういうのを実現してもらいたいわけなんですよ。

　○○

　○○○

○○

○○これは強く要望します。

○議長（作元　義文君）　７番、松本暦幸君。

○議員（７番　松本　暦幸君）　１点だけお尋ねをいたしたいと思います。

委員長のほうに聞いていいのかどうか、ちょっとよくわかりませんけども、実は、開院時期について、以前は平成２６年の１１月ごろだったということで、現在まで推移をしておると思いますけれども、今、この中で入札が不調になったというようなことで、開院時期が２７年の１月から４月ごろというようなことを見込んでおるというような報告がされておりますが、このことについて、今後、市民の方へどのような形でお知らせをしていかれようとしているのか、そのあたりについてお尋ねをいたしたいと思います。

○議長（作元　義文君）　１７番、大浦孝司君。

○議員（１７番　大浦　孝司君）　市民への周知は、行政側のほうで行うと思いますが、工期が延びた場合に、当初は、２６年の１２月末に精算を終わらないと、２０億の基金は返さないかんというような説明があったと思います。

それを国内の緊急的な全体的な東北大震災、東日本大震災の復興・復旧に莫大な建築といいますか、コンクリート工事のビルをつくるような工事が、資材が高騰、人件費の高騰、人件費は４０%から６０%くらいの高騰だそうです。

それで、この社会現象を国内の、抑え込んで、それをできないというふうなことをならないように、県の部長、企業団の企業長を含めて陳情に行かれたそうです。

だから、厚生労働省というのが先でしょうが、その中でやむを得ないだろうというふうなことで、何とかそれを１８カ月の工期が４月から始まって、おおむね２６年の９月ぐらいに終わらせようというようなことに承認を得て、開院はそれから精算を含めて３月までの年度の中で何とか開院をするというふうなことを承認を得ておるそうでございます。

ですから、その周知については、市の担当部署のほうから、そういうふうなことについては行うと思いますので、一応、了承されたということだけは間違いない、報告があっております。

やむを得ない事情というのは、東北大震災の復興・復旧に対する全ての要因が変わったということで承認されております。

○議長（作元　義文君）　７番、松本暦幸君。

○議員（７番　松本　暦幸君）　私どもは、このことに関しては、幾分かその議会のほうでも報告がありますし、報道等でも幾分か存じてはおりますけれども、やはり市民の方においては、この

報道に乏しいところがかなりあろうと思われます。

対馬のやっぱり重大関心事ですから、このことにおいては、企業団ももちろんですけれども、市側においても、情報の提供などは徹底されますように要望をいたしておきます。どうぞよろしくお願いをしたいと思います。

○議長（作元　義文君）　１１番、小宮教義君。

○議員（１１番　小宮　教義君）　１点お尋ねいたします。

先ほど松本議員のほうからも、入札が不落に終わったというお話がございましたが、その点について１点、お尋ねをいたします。

この報告書では、先ほど大浦議員も言っていましたが、大きい原因としては、東日本大震災の影響だというお話をされました。

そして、今回の建物入札というのは説明がありましたように、電気とか空調、衛生、それと建築本体の４部門に分けての入札でございます。そして、建築本体を省く３つの工事、これは俗に言う予定価格内での落札でございますが、真に、この東日本大震災の影響があれば、先ほど４０から５０のその人件費等の値上げがあったということでございますが、このほかの、ほかと申しますか、その申しました３つの工事も、不調に終わるのが一般的な考えでございますけれども、なぜ、この建築工事だけが不調に終わったのか。ほかにも原因があるんじゃないかと思いますが、いかがでありましょうか。

そして、この金額の差が、新聞等でもございますように、８億円以上という大きい金額の差がございます。このような公共事業においては、こういうことは絶対あり得ない。これだけの大きい金額の差があるわけですから、ほかに要因があろうかと思いますが、いかがでございましょうか。

○議長（作元　義文君）　１７番、大浦孝司君。

○議員（１７番　大浦　孝司君）　私は聞いた範囲のことしか言えませんので、そこの中身の精査については、私自身がそれを、それ以外のことで、こうであるということは言いかねます。

で、ちょっと聞いてください。分析結果なんですが、その工賃の高騰の根拠は、この工事の中で型枠工、それから鉄筋工、内装工、とび工、塗装工、左官工、この分野において、６０％から前後の賃金の高騰が九州管内含めて発生しておると。これは基本的に２４年度公共工事労務単価、これを基準とした場合のことでありまして、同年の８月でやや高騰しかけて、１２月について４０から６０になったというふうな説明です。

これを延べ作業人員に換算して、約３億程度の金額が発生するだろうというふうな説明を受けております。

次に、建設資材、輸送費の高騰というふうなことでの金額が、約２億３，０００万相当ぐらい

の金額で見込まれるというふうなことなんですが、これはＰＣ工、ＰＣ工事の分野、基礎工事、型枠、輸送費、それぞれ金額を算出しております。その総額が２億を超えるぐらいの金額を見込まれると。

最後に、離島の職人の確保、対馬でこの工事を行った場合には、２０％の職人さんしかおらないと。残りの８割は、九州管内、その他の方向で専門職を呼ばないと成り立たないと、ここが非常にまた逼迫といいますか、人手が足らない、新たな賃金の高騰を招いておるというふうなことで、これ、８億５，０００万相当の金額が、ただいまの建設事業に伴う高騰額でございます。

これは、今、小宮議員の話も私もよくわかるんですが、言いよることが、あくまでも財源の確保でございますから、このとおりに設計を組むというようなことではございませんので、一応、その辺は最終的な設計金額は、どう組むかというのは、私らの範囲ではわかりません。

ただ、財源の確保を一応、やるというふうな根拠をそういうふうにつくるというふうに私は理解をしております。

それと、よろしいでしょうかね。いいですか。それ以上のことはわかりません。私、企業団に聞いてもらえんでしょうか。説明の範囲はそれぐらいのことしかなかったです。

いいですか、終わります。

○議長（作元　義文君）　いいですか、暫時休憩します。

午後０時03分休憩

午後０時05分再開

○議長（作元　義文君）　再開します。

病院の開院時期とかそういったことにつきましては、今、委員長報告がありましたように、入札終了後に市長のほうから報告があると思いますので、これで御了承いただきたいというふうに思います。

ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。

暫時休憩します。開会を１時１５分から。

午後０時06分休憩

午後１時14分再開

○議長（作元　義文君）　再開します。

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

○議員（１９番　大部　初幸君）　○○

○議長（作元　義文君）　○○

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第９．長崎県後期高齢者医療広域連合議会議員の報告

○議長（作元　義文君）　日程第９、長崎県後期高齢者医療広域連合議会議員の報告を行います。

２０番、兵頭栄君。

○議員（２０番　兵頭　　栄君）　長崎県後期高齢者医療広域連合議会の議案審議の内容について、次のとおり報告します。

平成２５年1月１８日１３時より、ホテルセントヒル長崎において、平成２５年第１回定例会が招集されました。

議員提出議案２件と平成２４年度補正予算案２件、条例等の一部改正案３件、平成２５年度予算案２件、長崎県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少についての議案など１０件が上程され、慎重審議の結果、いずれも原案のとおり賛成多数で可決されました。

その議案の内容について報告いたします。

議員提出議案第１号、長崎県後期高齢者医療広域連合議会委員会条例の一部を改正する条例は、地方自治法の一部改正に伴い、委員会に関する規定が簡素化され、条例への委任事項が拡大されたことから、必要な事項を整備するため改正を行うものであります。

議員提出議案第２号、長崎県後期高齢者医療広域連合議会会議規則の一部を改正する規則は、地方自治法の一部改正に伴い、議会制度の見直しが行われたことから、必要な整備をするため改正を行うものであります。

議案第１号、平成２４年度長崎県後期高齢者医療広域連合一般会計補正予算（第１号）は、歳入歳出それぞれ1，２７６万2，０００円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ2億7，５３４万2，０００円とするものであります。

議案第２号、平成２４年度長崎県後期高齢者医療広域連合後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）は、歳入歳出予算総額に歳入歳出それぞれ３１億9，４００万6，０００円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ2，１１０億7，６９９万8，０００円とするものであります。

議案第３号、長崎県後期高齢者医療広域連合後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例は、平成２５年度の保険料軽減について必要な事項を定めるためのものであります。

議案第４号、長崎県後期高齢者医療広域連合後期高齢者医療制度臨時特例基金条例の一部を改正する条例は、平成２５年度の保険料軽減措置の継続に伴い、基金により財源を補填することについて必要な事項を定めるものであります。

議案第５号、長崎県後期高齢者医療広域連合実費弁償に関する条例の一部を改正する条例は、地方自治法の一部改正に伴い、公聴会参加者等に対する実費弁償について定めた規定が改正されたことから、条例改正を行うものであります。

議案第６号、平成２５年度長崎県後期高齢者医療広域連合一般会計予算は、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ２億５，５７７万９，０００円と定めるものであります。

議案第７号、平成２５年度長崎県後期高齢者医療広域連合後期高齢者医療特別会計予算は、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ２，１０６億８，１１７万５，０００円と定めるものであります。

議案第８号、長崎県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少については、長崎県市町村総合事務組合から、松浦地区火葬場組合が解散することに伴い、協同する団体に変更が生じたものであります。

次に、議会運営委員会委員選任について上程され、平成２５年２月２１日をもって、２年の任期が満了となる委員８名の後任が選出されました。

これにより、委員長に長崎市の深堀議員、副委員長に川棚町の初手議員、委員に、佐世保市の小野原議員、大村市の中瀬議員、松浦市の金内議員、南島原市の林田議員、長与町の響庭議員、小値賀町の立石議員が選任されました。

最後に、諫早市の中野議員、長崎市の麻生議員の２人の一般質問があり、閉会いたしました。

以上で、長崎県後期高齢者医療広域連合議会議員の報告といたします。

○議長（作元　義文君）　これから報告に対する質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第１０．対馬市教育委員会の事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の報告

○議長（作元　義文君）　日程第１０、対馬市教育委員会の事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の報告を行います。教育部長、豊田充君。

○教育部長（豊田　　充君）　ただいま議題となりました、対馬市教育委員会の事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の報告を行います。

対馬市教育委員会の点検評価報告書、平成２３年度事業分について御説明いたします。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第２７条において、教育委員会は毎年、その権限に

属する事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行うこととなっております。学識経験を有する者の知見の活用を図るため、今回、３人の委員さんからの御所見をいただき、その結果に関する報告書を作成いたしました。

なお、この報告書は、議会に提出するとともに、公表しなければならないということになっております。

点検評価報告書の１ページに、自己点検評価について、２ページから６ページに、学識経験者の所見として評価できる点、改善を要する点を、７ページ以降に、教育委員会の活動及び管理執行事務、教育委員会事務局の執行事務、教育委員会から教育長に委任されている事務の項目別の活動内容等及び点検評価コメントを記載しております。

教育委員会といたしましては、今回の委員の所見を尊重し、対馬市教育方針を柱とし、対馬市総合計画後期基本計画に沿った組織目標を立て、今後の教育行政の推進に取り組んでいく所存でございます。

以上で、教育委員会の点検評価報告書の説明とさせていただきます。

○議長（作元　義文君）　報告が終わりました。

質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

以上で、日程第８から日程第１０までを終わります。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第１１．発議第８号

○議長（作元　義文君）　日程第１１、発議第８号、対馬市アユ保護条例についてを議題といたします。

本件は、産業建設常任委員会に付託、継続審査としておりましたので、委員長の審査報告を求めます。産業建設常任委員会委員長、大部初幸君。

○議員（１９番　大部　初幸君）　産業建設常任委員会の審査報告をいたします。

平成２４年第４回対馬市議会定例会において、会議規則第３７条の規定により、本委員会に付託され、閉会中の継続審査としておりました案件、発議第８号、対馬市アユ保護条例について、その審査の経過と結果を、同規則第１１０条の規定により、次のとおり報告をいたします。

当委員会は、平成２５年２月２０日に全委員出席のもと、阿連川、佐須川において現地調査を実施し、また、美津島地域活性化センター別館大会議室において委員会を開催し、慎重に審査をいたしました。

まず、現地調査についてですが、地元住民の方に案内をしていただき、意見を伺ったところ、

絶滅回避のため、網などによる大量捕獲は困るが、そのことについては地元でも十分管理をしており、それ以上の特別な保護は必要ないと感じる。アユを捕獲し、生計を立てている住民はおらず、食する風習もない。

河川改修後、アユは一時期減少したが、海に出ていたものが再び戻ってきている。自然との触れ合いという意味から、子供たちに捕まえる遊びをさせている、などの意見を聞くことができました。

その後、美津島地域活性化センター別館大会議室において委員会を開催しました。

委員会では、それぞれの地区の住民が関心を持って川を管理しており、アユだけではなく、希少な野生動植物が数多く生息する対馬において、今すぐアユに限定して条例を制定する理由、緊急性が感じられない。

河川工事については、自然環境問題への関心が高まった現在では、魚道の設置が原則義務づけられるなど生物の生息環境の維持・保全に配慮し、地域の実情に応じた河川整備が図られているため、改めて条例で規制する必要はない。

まずは、市民が参加をする委員会、審議会などにおいて、アユの保護についての議論をしていただいてもよいのではないか、などの意見がありました。

以上のような意見をもとに、慎重に審査をし、本委員会に付託されました発議第８号、対馬市アユ保護条例については、採決の結果、賛成少数により否決すべきものと決定をしました。

以上で、産業建設常任委員会の審査報告といたします。

○議長（作元　義文君）　説明が終わりました。

報告に対する質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認め、終わります。

次に、採決を行います。本件に対する委員長の報告は否決であります。したがって、原案について採決をします。本件は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。（発言する者あり）原案よ。（「原案に賛成ですか」と呼ぶ者あり）そうです。委員長じゃない。原案に対して賛成の方。（発言する者あり）

採決を行います。本件に対する委員長の報告は否決であります。したがって、原案について採決します。本件は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（作元　義文君）　起立少数です。本件は否決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第１２．議案第２号

○議長（作元　義文君）　日程第１２、議案第２号、平成２４年度対馬市一般会計補正予算（第６号）を議題とします。

提案理由の説明を求めます。総務部長、桐谷雅宣君。

○総務部長（桐谷　雅宣君）　ただいま議題となりました議案第２号、平成２４年度対馬市一般会計補正予算（第６号）について、提案理由とその内容を御説明申し上げます。

今回の補正は、減債基金積み立ての追加及び縁故債の借りかえのほか、事業費の確定などによる調整が主なものでございます。

それでは、予算書の１ページをお願いいたします。平成２４年度対馬市一般会計補正予算（第６号）は、次に定めるところによることを規定し、第１条第１項、歳入歳出予算の補正は、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ４億３，５９０万円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ３３１億５６０万円とするものでございます。

第２項、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、２ページからの「第１表　歳入歳出予算補正」によるとするものでございます。

第２条、繰越明許費は、地方自治法第２１３条第１項の規定により、翌年度に繰り越して使用することができる経費を６ページからの「第２表　繰越明許費」によるとするものでございます。５７事業の２２億６１４万８，０００円でございます。

第３条、債務負担行為の補正は、債務負担行為の変更を１０ページからの「第３表　債務負担行為補正」によることを定め、対馬中部汚泥再生処理センター整備事業にかかる債務負担行為の限度額を１１億３，９９５万３，０００円に変更するものでございます。

第４条、地方債の補正は、地方債の追加及び変更を１０ページからの「第４表　地方債補正」によることを定め、借換債１４億９，８９０万円を追加し、地方債の限度額を変更分と合わせまして６０億９４０万円に変更するものでございます。

次に、歳入歳出補正予算の内容について主なものを御説明をいたします。

まず、歳入についてでございますが、予算書１６ページをお願いいたします。１款市税についてでございますけれども、市民税及び固定資産税につきまして、その収入見込みにより、今回補正をいたしております。

１２款分担金及び負担金は、事業の確定によるものでござます。

１３款使用料及び手数料は、国際ターミナル使用料の減により、土木使用料９６６万９，０００円の減が主なものでございます。

１８ページをお願いいたします。１４款国庫支出金１項国庫負担金９１５万2,０００円の減は、保育所運営費負担金１,０４２万４,０００円の追加、生活保護費負担金２,６７３万５,０００円の減額などが主なものでございます。２項国庫補助金は、事業費の確定により、５目商工費国庫補助金４９５万円の減、６目土木費国庫補助金３５４万7,０００円の減など、８０５万7,０００円の減額でございます。

２０ページをお願いいたします。１５款県支出金１項県負担金は、保育所運営費負担金５２１万2,０００円の追加が主なものであり、７５３万8,０００円を増額といたしております。２項県補助金は、事業費確定などにより、１目総務費県補助金１億2,２３１万8,０００円、２目民生費県補助金1,２６３万6,０００円、３目衛生費県補助金９３９万円の減額。４目農林水産業費県補助金2,８２６万7,０００円の減額など、1億7,３０８万2,０００円を減額しております。

２２ページをお願いいたします。３項委託金は、海区調整委員選挙費委託金９０９万5,０００円の減額など、９７７万2,０００円を減額いたしております。

２４ページをお願いいたします。１７款寄附金は、ふるさと応援寄附金１８４万2,０００円を増額いたしております。

１８款繰入金は家畜導入事業資金供給事業基金繰入金３９１万3,０００円を減額いたしております。

２０款諸収入は、雑入２８６万5,０００円の追加など、１２８万3,０００円増額いたしております。

２６ページをお願いいたします。２１款市債は、それぞれの事業費の確定による市債発行額の変更でございます。

２８ページをお願いいたします。１３目借換債１４億9,８９０万円を追加いたしております。これは西日本シティ銀行対馬支店の閉店に伴いまして、市内金融機関への借りかえを行おうとするものでございます。

続きまして、歳出について御説明いたします。

３０ページをお願いいたします。１款議会費についてでございますが、欠員による議員報酬等の不用額４８４万9,０００円を減額いたしております。

２款総務費１項総務管理費は、３目財政管理費で減債基金積立金１億2,１８０万円、過疎地域自立促進特別事業基金積立金６２０万円の追加。３２ページをお願いいたします。７目企画費で対馬市地域公共交通活性化協議会負担金1,７７５万3,０００円、バス購入事業補助金2,７９２万7,０００円の減額などが主であり、7,２３７万1,０００円の増額といたしております。

４項選挙費は、海区調整委員選挙費を無投票となったことによりまして、９０９万４，０００円減額いたしております。

３４ページをお願いいたします。５項統計調査費は事業費決定によりまして、３目地籍調査費１億２，５５６万円を減額いたしております。

３６ページをお願いいたします。３款民生費１項社会福祉費は、１目社会福祉総務費、通所サービス利用促進事業補助金１，４９０万円の減、障害者医療費１，５２７万円の追加、４目国民健康保険費の特別会計への繰出金８，３９１万６，０００円の追加、５目老人福祉費、後期高齢者医療広域連合負担金２，３２４万４，０００円の減などが主であり、合わせまして８，４６２万４，０００円の増額でございます。

２項児童福祉費は、２目児童福祉総務費の保育運営費負担金１，３８４万４，０００円の追加が主なものでございまして、１，４８９万８，０００円増額いたしております。

３８ページをお願いいたします。４款衛生費１項保健衛生費は、１目保健衛生総務費５億８，７７８万１，０００円の減は、１９節負担金補助及び交付金の県病院企業団負担金５億９，３３８万８，０００円の減額、２８節繰出金の診療所特別会計繰出金６１２万６，０００円の追加、２目予防費は、予防接種委託料の減など３，６６０万５，０００円の減額、４目環境衛生費は、３１２万５，０００円の増は、合併処理浄化槽設置事業補助金４０１万９，０００円の追加が主なものでございます。

４０ページをお願いいたします。２項清掃費６，８８８万２，０００円の減は、２目塵芥処理費の事業費確定による６，３９０万円の減額が主なところでございます。

６款農林水産業費１項農業費は、事業の確定による減額、並びに３目農業振興費、イノシシ捕獲補助金１，０００万円の追加が主なものでございまして、１，５４７万１，０００円を減額いたしております。

４２ページをお願いいたします。２項林業費は、事業の確定による減額、並びに２目林業振興費、しいたけ生産推進補助金１，２７５万円、有害鳥獣駆除事業補助金１，０００万円の追加が主なもので、９５４万円を増額いたしております。

３項水産業費は、事業の確定による減額のほか、２目水産業振興費、活魚・鮮魚輸送コスト助成事業補助金１，０００万円の追加。４４ページをお願いいたします。４目漁港建設費は、事業費の確定による工事費の減額など、４，１３４万３，０００円減額いたしております。

４６ページをお願いいたします。８款土木費２項道路橋りょう費は、事業の確定などにより、３目道路新設改良費、国県道整備工事費負担金３５４万円の減額が主なものでございます。

４項港湾費は、２目港湾建設費で、厳原港湾、比田勝港湾関連施設整備工事の工事費８２０万１，０００円の減額、４８ページをお願いいたします。港湾県工事負担金２３７万５，０００円の

減など、１，３２８万３，０００円の減額でございます。

５項都市計画費についてでございますが、まちづくり交付金事業の事業箇所の変更により、１７節公有財産購入費１億４００万円の減、２２節補償補塡及び賠償金３億２，３５０万円の減、１５節工事請負費２億６３０万８，０００円の増など、合わせまして２億２，５３４万４，０００円の減額でございます。

６項住宅費は、市営住宅の維持補修工事１，２００万円の追加が主なものでございまして、１，２６３万７，０００円の増額でございます。

５０ページをお願いいたします。９款消防費１項消防費は、事業の確定により、３目消防施設費２，１９０万円の減など、２，１８１万円の減額でございます。

５２ページをお願いいたします。１０款教育費３項中学校費は、学校管理経費の追加及び教育振興費の英語指導助手車借り上げ料の減など、８０万円の減額でございます。

５項社会教育費３５０万６，０００円の減は、事業確定などによる減額でございます。

５４ページをお願いいたします。１２款公債費１４億２９２万９，０００円の増は、１目元金１４億９，８９０万円の追加、２目利子９，５９７万１，０００円を減額いたしております。これは歳入のところでも申し上げましたように、西日本シティ銀行対馬支店の閉店に伴いまして、同行より平成２２年度発行分といたしまして借り入れておりました合併特例債２億５００万円、及び臨時財政対策債１２億９，３９０万円を、市内金融機関に借りかえを行おうとするものでございます。また、利子につきましては、借り入れ予定額の縮小などにより不要となったものでございます。

５６ページからは、補正予算給与費明細書を添付いたしておりますので、御参照方よろしくお願いいたします。

以上、簡単ではございますが、提案理由の説明を終わります。よろしく御審議の上、御決定賜りますようお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。１８番、小川廣康君。

○議員（１８番　小川　廣康君）　１点だけ、所管外ですのでお尋ねと確認をしておきたいと思いますが、中学校費について１点、お尋ねをしておきたいと思います。今回のこの予算には、直接関係ございませんけど関連がございます。

私は、昨年の１２月定例会の折に、この中学校費につきまして、雞知中学校の工事請負費について質問をいたしておりまして、この内容につきましては、今里中学校が雞知中学校に統廃合されるということで、新学年が３学級になるというようなことで、空き教室がない。

したがって、保健室を一般教室として使う、そして保健室を増築するという予算が組まれてお

りましたので、質問をいたしました。

この点につきまして、本日いただきました入札結果一覧表によりますと、コンサルが１月の８日に入札されまして、本体工事の改修工事が２月の２６日に入札が執行され、契約が結ばれていると思いますが、現在の進捗状況につきまして、教育委員会のほうにお尋ねをしておきたいと思います。

○議長（作元　義文君）　教育部長、豊田充君。

○教育部長（豊田　　充君）　小川議員さんの御質疑にお答えいたしたいと思います。

この雛知中学校の改修工事につきましては、平成２４年の１２月議会で議決をいただき、その後、設計、工事入札に向けて取り組んできたところでございます。

で、１２月の答弁でも、年度内に完成するということで、教育委員会、事業課等とも詰めておりましたけども、先ほど議員さんがおっしゃるように、コンサルの委託が１月８日で、入札が２月の２６日に行ったところでございます。

そのような中、入札後、２月２６日以後、落札された業者等とも打ち合わせをしまして、今里中学校が、今度、雛知中に入ってきますけども、新しい学級、保健室を普通教室にする工事につきましては、年度内といいますか、新学期が始まるまでに完成をするということで、一応、日程を詰めております。

保健室につきましては、別棟を建てるということで、その業者等とも詰めをいたしましたけども、１カ月ほど工期が延びるということで今の状況でございます。

１２月のときにも、教育委員会、そして担当建設部のほうとも、事業の年度内完成に向けて進めておりましたけども、校舎の改修は、年度内といいますか、新学期までには完了を予定するだろうと。保健室につきましては、ちょっと４月いっぱいまでかかるだろうという見込みでしております。

その間、１カ月程度、学校関係者や生徒、そしてＰＴＡの方々、地域の皆様にはちょっと御不便をかけるかと思いますけども、業者のほうとも、こう手を詰めながら、１日でも早く、この改修の工事完成に向け努力をしていきたいというふうに思っております。

今後におきましては、学校の統廃合というのが、教育委員会の今、重要な課題でございます。特に受け入れの学校に対しての環境整備につきましては、早目早目の取り組みを行い、学校に来る生徒たちに御迷惑をかけないような形で、いろんな関係部局とも協議をしながら、進めていきたいなというふうに思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

以上です。

○議長（作元　義文君）　１８番、小川廣康君。

○議員（１８番　小川　廣康君）　じゃあ、その保健室の完成はいつごろの予定、４月いっぱいの

完成っていうことでよろしいですか、確認しておきます。

○議長（作元　義文君）　教育部長、豊田充君。

○教育部長（豊田　　充君）　今のところ、業者のほうとも工程を確認しまして、４月いっぱいの完成ということで進めております。

○議長（作元　義文君）　１８番、小川廣康君。

○議員（１８番　小川　廣康君）　３回目ですが最後ですが、今の豊田部長を責めてもいけないと思うんですが、午前中に長総務文教常任委員長からの報告も、所管事務調査の報告がありましたように、やっぱり統廃合を今、対馬市が進めている中で、統廃合の決まった学校については、その教育環境整備については、優先的に私はやっていただきたいなと思っております。

私も１２月に、しつこく申しましたけど、今里中学校が雞知中学校に統廃合されるということは、もう既に以前から決定をされておりましたし、それまでは、やはり教育委員会としても、この実現のためには現地に足を運び、相当の時間と労力を費やしてきたことに対しましては、私は評価をしたいと思います。

しかし、やはりそのいざ、この新学期になりまして、その学校の教育環境の整備が整っていないということは、私は１２月も厳しく指摘したつもりです。そのときの教育部長は、間に合わせますと言いましたけど、私は内心、物理的にも無理なんじゃなかろうかなと思っておりましたが、案の定、こういう結果でございます。

やはり、今後につきましては、教育長のリーダーのもとに、特に教育部長、やはりせっかく今里中学校の生徒、そして保護者、地域の方々がゴーサインを出して、新しい雞知中学校の学びやで学ばせたいという結論を出したわけですから、本来ならば、学校のその大改修、これ改修というのは、今度は夏休み中の４０日間といいますか、その間で、本当は私はやるべき事業だろうと思います。

私は、１２月に言いましたように、９月でも十分間に合ったはずです。本来の姿ならば、やはり私は６月の議会にでも出して、夏休み中に完成をさせて、新しくその迎える新学期、新入学生、私は気持ちよく迎えていただきたかったなと思っております。

もうこれは、豊田部長を責めてもしようがないんですが、全てやはりこういう後手後手になるこの教育行政について、長委員長からも報告がありましたように、もう一度、特に統廃合を進めていく中で、この校舎の問題、特に教室の問題、一番大事な場所ですので、それについては十分今後、注意していただきたいと思います。

私も、今まで教育予算については厳しいことを言っておりましたけど、なかなかその予算がないということで、まだまだ整備されておりませんけど、今回、その非常に新学期に間に合わないことは非常に残念です、私としては。

今里中学校から来られる生徒諸君、新入生の諸君、そして保護者には、やはりこの場をかりておわびを私はしていただきたいなと思います。今後とも十分気をつけてやっていただきたいと思います。

以上です。

○議長（作元　義文君）　１３番、三山幸男君。

○議員（１３番　三山　幸男君）　今の質問に関連ですけども、２月の１２、１３に、総務委員会で受け入れ先の学校訪問を行いました。そのときに、現在はぎりぎりですけども、理事の説明では、私はもうとっくに工事が、保健室の工事があっているもんだと思って、雞知中学校の校長先生に、現在、どこに建設はされていますかと聞きましたけども、まだあってませんと。で、理事は、年度内には完成させると、そのときも私は、総務委員会全員聞いたと思います。

で、やはり私は今里中学校のＯＢの１人として、自分の後輩たちが、学校を統合せざるを得ない、それで雞知中学校へ通学をするということで、やはり後輩たちには、環境の整ったところといいますか、今の今里中学校の父兄の保護者の皆さん方が、今里中学校で複式授業を受けるよりは、雞知中学校で教育環境の充実したところで教育を受けさせたいというような、そういう気持ちで統合に賛成をされたと思うんです。

でも、今、現状としては、さっき小川議員が言ったように、１年前から今里地区には、梅野教育長をはじめ数回お見えになって、地元を説得されて統合に結びつけたはずですので、やはりそういうことは、教育委員会を私も責めるつもりはありませんけれども、今里中学校を閉校して、雞知に通学をさせる今里の住民の立場からしても、やはり教育委員会の今回の対応というのは、私はちょっと納得がいかない。

ただ、そうは言いましても、もう期間も限られていますので、これ以上、教育長や部長を責めてもいたし方ないんですけども、１日も早く学校が、子供たちが授業に取り組めるように、そういうようなことをぜひこれから先もしていただきたいと思います。

○議長（作元　義文君）　教育長、梅野正博君。

○教育長（梅野　正博君）　今、お二人のおっしゃられたことについては、全くそのとおりであります。

何とか新年度に間に合わせるように努力はしてまいりましたが、今、説明、先ほどしましたように、一月ほどずれ込むことになります。新入生、特に今里から統合で通ってくる生徒の皆さん、それから保護者の皆さん、関係の皆さんには、もう大変ご迷惑かけます。これはもう私たちどもの責任であります。この場を借りておわびを申し上げたいと思いますが、新年度からの教育活動については、学校とも相談をしながら、できるだけ授業、その他の教育活動に支障が出ないように配慮していきたいと思います。まことに申しわけありませんでした。

○議長（作元　義文君）　ほかに。１７番、大浦孝司君。

○議員（１７番　大浦　孝司君）　３３ページ、企画費のバス購入事業補助金の減ですかね、２，７００万相当、これに関連して、ちょっと私は市長にお尋ねしたいんですが、空港の循環といいますか、そのことの予算であろうと思うんですが、既にやまねこ空港というふうな名称のもとにネーミングを、２台のバスにつけて運行が始まっておるんですが、住民の声として、非常にそのバスの利用率が低過ぎると。ほとんど乗っておらんことが多いが、どうせならば、これ、いっときの間、その運行はせななら んという県との約束事もあるでしょうが、もしも利用率が極端に今のように低ければ、その他の活用、特に病院のその不便な地域からの運行が検討されないかというふうな意見がございました。

このことについて、当面は、県との申し合わせで、空港・厳原間の３００円ですか、これが基本として予算の説明が議会で受けております。理解しています。

ただ、利用状態は、私も時々見ますが、３人とか４人とかそういうふうなことを随分見まして、ああ、住民の思うとることと一緒だなと思いましたが、今から後の今後のことが、いい面で活用ができないか、それはあり得るのかというようなことを市長にお尋ねしたいと思いますが、いかがでしょうか。お願いします。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　現在、１２月の２１日でしたか、から運行を始めております空港・厳原間、また、厳原の中の循環線、右回り、左回りということで表記されておりますけども、この３路線に走っているこのバスの利用が大変よろしくないという声は、私自身のほうにも入ってきております。

まず、私どもは職員のほうに、このバスというものを県の指導のもと、大きな補助率で国の国庫も入り、実現したバスでございますので、きちんとした利用率を上げないといけないということを、職員にもたびたび私自身も言ってきておりますし、職員間のデスクネットというインターネット上のつながりがございますけども、そちらにも載せ込んでおります。

また、職員の出張旅費につきましても、本庁を基点として動く場合に関しましては、まず、この３００円という旅費を当てはめております。さらに、県の振興局長のほうにもお願いをし、県職員の利用というものもお願いをしたいということで、早速、１２月２１日から、そのように変更も、旅費規定等も変更もされ、職員さんもお使いになっている風景も見ましたが、今、おっしゃられるように、１名とか４名とか、もうそのような状況です。

私自身も、出張の、特に帰りの便で、大変遅い最終便で帰る場合は、この便を利用することが４回ほどあります。私自身も使ってみないといけないという思いで使っておりますけども、そのときも１名、私だけというのが１回ございました。２名というのもありました。

このままではいかんのではないかと、職員にも言いながら、この啓発の仕方というものを、もっと対馬交通、事業主体である対馬交通さんに、しっかりと伝えていかなくてはいけないという話も、たびたびさせてもらっておるところでございます。

で、空港のシャトルバス以外の空き時間におきまして、厳原の中を循環する右回り、左回りがあります。これについても、大変利用が少ないような状況だというふうに私は見ております。

で、この循環線につきましては、対馬いづはら病院というものを当然、経由するというふうな条件で回っておりますので、極力、市民の皆様の通院のバスとして使っていただけるように、この場からも市民の皆様にお願いをしたいと思いますし、今の状態で物事をやりながら、実証実験として社会実験としてやっておりますので、これらがきちんと定着するように、まず頑張っていきたいというふうな思いでございます。

○議長（作元　義文君）　ほかに。２番、脇本啓喜君。

○議員（２番　脇本　啓喜君）　３６ページ、３７ページです。３款民生費１項社会福祉費の４目国民健康保険費なんですけれども、これ、１２月の補正のときにも、約４億追加があっていまして、そのとき、委員長報告のときにお尋ねはしたんですが、委員長報告では、少し答えにくいようなところもありましたので、理事者のほうにお尋ねします。

これ、結局、全部合わせると、今年度９億の繰出金、約９億の繰出金になっていると思います。２４年度のこの国民健康保険特別会計自体、総額が６０億、約６１億ですかね、のうち９億、これ、繰出金という形になります。それほど、やはりこの国民健康保険、この対馬市だけで保険をやっていくというのは大変だということが、よくわかることだと思います。

そこで、これについて、私、まだちょっと勉強不足なんですが、その後、後期高齢者のように、後期高齢者保険のように、国民健康保険についても、広域の扱いになるというような動きもあるようですが、その点について市民の皆様にもわかりやすいような形で説明していただければと思うんですが、お願いします。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　今回、８，３９１万６，０００円という一般会計からの繰出金を補正に組ませていただいております。

１２月、たしか３億６，５００万だったと思いますが、（発言する者あり）済みません、ちょっと細かい数字はお許しいただければと思いますが、そのような形で、一般会計からの繰出しというものを今年度になってから、たびたびしないといけないような状況に至っております。

また、改めて当初予算のときにも、この国民健康保険に関する一般会計からの繰り出し等々についての御説明をしないといけないと思っておりますけども、このままいきますと、国民健康保険のほうの財政調整基金も、今、空っぽになっている状況であります。

で、私ども対馬市として、このままではいかんのではないかという思いがあります。で、税を伸ばすといいましても、今の経済状況の中で、単純に税を伸ばしても、収納額がふえるかというと、なかなかそうもいかない状況にあろうかと思っております。

で、この国民皆保険の問題というのは、やはり日本中で捉えていただけねばならないという思いがありますので、実は、この４月、５月にかけまして、市長会のほうの正式な議題に上げていただくための今、準備をしておるところであります。

そして、早期に、今度は県のほうに対しまして、できれば、この市町村国保ではなくて、もっと広域の県国保、県管理国保みたいな形のものを模索研究に入るもう時期が来たというふうに捉えておりまして、そういう動きを今、私どものほうとしては準備をしているような、状況に至っているということを御理解いただければと思います。

○議長（作元　義文君）　２番、脇本啓喜君。

○議員（２番　脇本　啓喜君）　やはり保険というものは、たくさんの保険者がいて、安定的な運営ができるものだということは、皆さん御理解できるとこだと思います。

今、市長が言われたような、より広域な保険制度という形を早急に取り入れるように、各関係機関と協力しながら進めていただきたいと思います。

以上です。

○議長（作元　義文君）　ほかに。１番、渕上清君。

○議員（１番　渕上　　清君）　私も、所管外でございますので、２点というか。

３１ページ、４１ページ、お願いします。総務管理費の財産管理費、事業系一般廃棄物の処理委託費用の減がございます。これ、大きな減額でございますが、これによって、この事業系一般廃棄物と申しますか、これは市役所のごみの収集業務だろうと思いますが、これで執行残はゼロなのかどうか。

それから、４１ページ、これも清掃費の塵芥処理費でございます。委託料には、この塵芥処理費の運搬業務等の委託料は、減も増もございませんが、一般廃棄物の収集業務委託料の現在の執行残について、どのぐらい現在、残っておるかについて、まずはお尋ねいたします。

○議長（作元　義文君）　総務部長、桐谷雅宣君。

○総務部長（桐谷　雅宣君）　失礼いたします。財産管理費の委託料の事業系一般廃棄物処理委託料の減９８万３，０００円でございますけども、その減をした後の現計予算は幾らであろうかというようなお尋ねでございまして、この予算につきましては、当初予算が１０２万１，０００円でございます。当初計上費は１０２万１，０００円。

今回、執行残ということで９８万３，０００円を減額はいたしておりまして、現計は３万８，０００円ということでございます。

以上でございます。

○議長（作元　義文君）　市民生活部長、長郷泰二君。

○市民生活部長（長郷　泰二君）　ちょっとお尋ねの塵芥処理費の委託料の計上ということですけども、現在、一般廃棄物からの委託は、２３年から２５年の３カ年の契約の中で、負担行為として契約を結ばさせていただいております。その関係上、執行残というのは、今のとこ発生はいたしておりません。

なお、２５年度以降については、新たな予算ということで組み立てをさせていただいております。

以上です。

○議長（作元　義文君）　１番、渕上清君。

○議員（１番　渕上　　清君）　私は、９月議会、１２月議会、一般質問において、ごみの収集業務の委託料業務の形態について、いろいろ違法的な状況があるので、これを改善すべきだということを２回、一般質問に立って質問させていただきました。

さきの１２月議会の折、市長答弁で、およそ御理解がいただけたようなお返事を、御回答いただいたというふうに私は理解いたしました。一般質問の途中から、さきの質問を取りやめまして、市長もようやく御理解いただいたとうれしく思いながら、この改善策をお持ちしておりました。

何もこれに見えてまいりませんが、あの答弁は何だったんでしょうか。改善される意思は、この予算書には全く見えてまいりません。それをお尋ねします。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　９月、１２月の議会におきまして、１番議員さんのほうから御指摘を受けました件について、私どもも十分に内部で検討を重ねてまいりました。

そういう中、２５年度以降においては、明確にその部分について反映をさせていきたいというふうに結論に至ったところでございます。

また、２３、２４の取り扱いについてでございますけども、２月の末に、その２３年度以降に契約を今、していただいております収集受託事業者の方たちと話し合いをさせていただきました。説明会をさせていただきました。

そこで、２５以降における反映ということに対しまして、一定の御理解をいただいたというふうに、私どもは考えておるとこであります。

○議長（作元　義文君）　１番、渕上清君。

○議員（１番　渕上　　清君）　行政が理解をしようがしまいが、違法なことは違法なんです。それを行政から正さなくてどうするんですか。

実は、一般質問の中で、この件については、しっかりまた討論させていただきますんで、質問、

今回はここで打ち切りますが、ぜひこの収集業務、大きな問題をはらんでいることを、どうも理事者側は理解を本当にしてないようでありますから、ぜひ、各委員会、総務委員会、総務常任（発言する者あり）、ええ、いや総務費は総務でしょう。で、厚生のほうで、ひとつしっかり御審査をしていただきたいというふうに思います。

後段については、一般質問のほうに、しっかりその理事者側に違法性について認識を深めてほしいということで、一般質問でやります。ぜひ勉強を深めとってください。

終わります。

○議長（作元　義文君）　ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。以上で質疑を終わります。

議案第２号は、配付しております議案付託表のとおり、各常任委員会に付託します。

暫時休憩します。開会を２時３０分から行います。

午後２時19分休憩

午後２時29分再開

○議長（作元　義文君）　再開します。

―――――――――――・―――・―――――――――――

日程第１３．議案第３号

日程第１４．議案第４号

日程第１５．議案第５号

日程第１６．議案第６号

日程第１７．議案第７号

日程第１８．議案第８号

○議長（作元　義文君）　日程第１３、議案第３号、平成２４年度対馬市診療所特別会計補正予算（第３号）から、日程第１８、議案第８号、平成２４年度対馬市水道事業会計資本剰余金の処分についてまでの６件を一括議題とします。

提案理由の説明を求めます。福祉保健部長、多田満國君。

○福祉保健部長（多田　満國君）　ただいま一括議題となりました議案のうち、議案第３号から議案第６号までの議案について御説明申し上げます。

まず、議案第３号、平成２４年度対馬市診療所特別会計補正予算（第３号）について御説明申し上げます。

今回の補正は、へき地診療所運営補助金返納金の増額、医薬材料費の減額が主なものでござい

ます。

１ページをお開き願います。平成２４年度対馬市の診療所特別会計補正予算（第３号）は、次に定めるところによることを規定し、歳入歳出予算の補正は、第１条第１項で歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ５７３万８，０００円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ４億２，６８６万７，０００円とするものであります。

第２項で、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、２ページ及び３ページの「第１表　歳入歳出予算補正」によるとするものであります。

第２条で、地方自治法第２１３条第１項の規定により、翌年度に繰り越して使用することができる経費は、４ページ及び５ページの「第２表　繰越明許費」とするものであります。

１０ページをお開き願います。歳入でございますが、１款診療収入１項外来収入は、国民健康保険診療報酬収入等５０７万円の減額。

３款県支出金１項県補助金は、へき地医療対策費補助金を７万６，０００円、４款繰入金１項他会計繰入金は、一般会計からの繰入金を６１２万６，０００円、６款諸収入１項雑入で４６０万６，０００円、それぞれ増額しております。

歳出でございますが、１４ページをお願いします。１款総務費１項施設管理費は、平成２３年度分のへき地診療所運営費補助金の精算返納金等を一般管理費で８８８万４，０００円増額。

２款１項医業費は、医業用衛生材料費で３１４万６，０００円減額しております。

１６ページ及び１７ページに、補正予算給与費明細書を添付いたしております。

続きまして、議案第４号、平成２４年度対馬市国民健康保険特別会計補正予算（第３号）について御説明申し上げます。

今回の補正の主な内容は、一般被保険者療養給付費及び高額療養費等の保険給付費、共同事業拠出金の増額とそれらに伴います国庫負担金の増、療養給付費交付金の減額及び額の決定による共同事業交付金の増額等が主なものでございます。

１ページをお開き願います。平成２４年度対馬市の国民健康保険特別会計補正予算（第３号）は、次に定めるところによることを規定し、歳入歳出予算の補正は、第１条第１項で、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ１億４，９６４万円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ６０億８，１５２万９，０００円とするものであります。

第２項で、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、２ページ及び３ページの「第１表　歳入歳出予算補正」によるとするものであります。

１０ページをお開き願います。まず、歳入でございますが、１款１項国民健康保険税は、一般

被保険者国民健康保険税を６，５１５万１，０００円減額し、退職被保険者等国民健康保険税を３８３万円増額しております。

１２ページをお願いします。３款国庫支出金１項国庫負担金は、高額医療費共同事業負担金等を８９９万７，０００円増額。

４款１項療養給付費交付金は、２，６３０万１，０００円の減額。

６款県支出金１項県負担金は、高額医療費共同事業負担金等８９９万７，０００円の増額。

８款１項共同事業交付金は、保険財政共同安定化事業交付金等１億２，８０１万９，０００円の増額。

１４ページをお願いします。９款財産収入１項財産運用収入は、財政調整基金利子を７，０００円減額。

１０款繰入金１項他会計繰入金は、一般会計からの繰入金を８，３９１万６，０００円増額。

１６ページをお願いします。１２款諸収入４項雑入は、一般被保険者第３者納付金等５７０万６，０００円増額しております。

歳出でございますが、１８ページをお願いします。１款総務費１項総務管理費は、医療費適正化特別対策事業等７８万２，０００円を減額。

２款保険給付費１項療養諸費は、一般被保険者療養給付費８，７７１万３，０００円の増額、退職被保険者等療養給付費を２，０００万円減額、２項高額療養費は、一般被保険者高額療養費を４，０５９万９，０００円増額しております。

２０ページをお願いします。７款１項共同事業拠出金は、高額医療費共同事業医療費拠出金等を５，３５２万２，０００円増額。

８款１項特定健康診査事業費は、健診委託料等１，１４０万３，０００円減額しております。

続きまして、議案第５号、平成２４年度対馬市後期高齢者医療特別会計補正予算（第３号）について御説明申し上げます。

今回の補正は、後期高齢者広域連合納付金の増額でございます。

１ページをお開き願います。平成２４年度対馬市の後期高齢者医療特別会計補正予算（第３号）は、次に定めるところによることを規定し、歳入歳出予算の補正は、第１条第１項で、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ９６万５，０００円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ３億４，４７４万５，０００円とするものであります。

第２項で、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、２ページ及び３ページの「第１表　歳入歳出予算補正」によるとするものであります。

歳入でございますが、８ページをお開き願います。５款繰入金１項一般会計繰入金は、保険基

盤安定繰入金を９６万５，０００円増額しております。

歳出でございますが、１０ページをお願いします。２款１項後期高齢者医療広域連合納付金を保険基盤安定負担金９６万５，０００円増額いたしております。

続きまして、議案第６号、平成２４年度対馬市介護保険特別会計補正予算（第２号）について御説明申し上げます。

今回の補正は、介護給付費準備基金積立金の増額でございます。

１ページをお開き願います。平成２４年度対馬市の介護保険特別会計補正予算（第２号）は、次に定めるところによることを規定し、歳入歳出予算の補正は、第１条第１項で、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ７万７，０００円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ３５億６５５万８，０００円とするものであります。

第２項で、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、２ページ及び３ページの「第１表　歳入歳出予算補正」によるとするものであります。

歳入でございますが、８ページをお開き願います。６款財産収入１項財産運用収入は、介護給付費準備基金利子を７万７，０００円増額しております。

歳出でございますが、１０ページをお願いします。４款１項基金積立金は、介護給付費準備基金積立金７万７，０００円を増額しております。

以上で、議案第３号から議案第６号までの内容の説明でございます。御審議の上、御決定賜りますようよろしくお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　水道局長、阿比留誠君。

○水道局長（阿比留　誠君）　一括して議題となりました議題のうち、議案第７号、議案第８号の２件は、水道局の所管でございますので続けて御説明いたします。

まず、議案第７号、平成２４年度対馬市簡易水道事業特別会計補正予算（第２号）について御説明いたします。

１ページをお願いいたします。平成２４年度対馬市簡易水道事業特別会計補正予算（第２号）は、次に定めるところによることを規定し、歳入歳出予算の補正は、第１条、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ９５０万６，０００円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ９億７１４万８，０００円と定めるものであります。

第２項で、歳入歳出予算補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の金額は、２ページ及び３ページの「第１表　歳入歳出予算補正」によるとするものでございます。

第２条、地方自治法第２１３条第１項の規定により、翌年度に繰り越して使用することができる経費は、４ページの「第２表　繰越明許費」によるとするものでございます。

それでは、補正の内容について歳入から御説明いたします。

８ページ、９ページをお願いいたします。１款分担金及び負担金１項負担金２目一般会計負担金３００万円の減額補正は、仁田地区統合簡易水道整備事業の見直しに伴い、減額とするものであります。

次に、６款繰入金２項簡易水道繰入金１目簡易水道基金繰入金２８０万円の増額は、施設管理費及び水道建設費の歳出増額に伴う簡易水道基金繰入金の追加であります。

次に、７款１項１目繰越金９７０万６，０００円の増額は、繰入金同様、施設管理費、水道建設費の歳出増額に伴う前年度繰越金の追加でございます。

続きまして、歳出でございますが、１０ページをお願いいたします。１款簡易水道費１項水道管理費２目施設管理費３７９万６，０００円の増額は、光熱水費及び修繕料等の精算による増額が主なものであります。

２項１目水道建設費５７１万円の増額は、測量設計委託料の追加及び消火栓設置工事の実施地区変更に伴う減によるものであります。

以上が、議案第７号、平成２４年度対馬市簡易水道事業特別会計補正予算（第２号）の概要であります。

続きまして、議案第８号、平成２４年度対馬市水道事業会計資本剰余金の処分につきまして、提案理由とその内容について御説明いたします。

議案書の１ページをお願いいたします。資本剰余金の処分につきましては、従前は決算書の中で認定をいただいておりましたが、平成２４年４月１日より施行されました地方公営企業法の一部改正により、剰余金の処分につきましては、条例で定めるか、または新たな議案として議会の議決を経て処分できることとなり、資本剰余金補助金１２億９，７３３万２，０３３円のうち２０５万２，２０９円を、工事負担金８億１，６９０万８，２５２円のうち１３５万５，７９１円を、従前の尾浦簡易水道整備廃止に伴い処分するため、地方公営企業法第３２条第３項の規定に基づき、議会の議決をお願いするものであります。

参考資料として次ページに、平成２４年度対馬市水道事業剰余金計算書を添付しております。

以上、簡単でございますが、議案第７号、平成２４年度対馬市簡易水道事業特別会計補正予算（第２号）、議案第８号、平成２４年度対馬市水道事業会計資本剰余金の処分についての説明を終わります。よろしく御審議の上、御決定いただきますようお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。

まず、福祉保健部関係、議案第３号から第６号までの４件について質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。

次に、水道局関係、議案第７号から議案第８号の２件について質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

お諮りします。ただいま一括議題としております６件については、委員会への付託を省略したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。６件につきましては、委員会への付託を省略することに決定しました。

これから各案ごとに討論、採決を行います。

まず、議案第３号、平成２４年度対馬市診療所特別会計補正予算（第３号）について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認め、採決します。本件は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。本件は原案のとおり可決されました。

次に、議案第４号、平成２４年度対馬市国民健康保険特別会計補正予算（第３号）について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認め、採決します。本件は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。本件は原案のとおり可決されました。

次に、議案第５号、平成２４年度対馬市後期高齢者医療特別会計補正予算（第３号）について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認め、採決します。本件は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。本件は原案のとおり可決されました。

次に、議案第６号、平成２４年度対馬市介護保険特別会計補正予算（第２号）について討論は

ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認め、採決します。本件は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。本件は原案のとおり可決されました。

次に、議案第７号、平成２４年度対馬市簡易水道事業特別会計補正予算（第２号）について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認め、採決します。本件は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。本件は原案のとおり可決されました。

次に、議案第８号、平成２４年度対馬市水道事業会計資本剰余金の処分について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認め、採決します。本件は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。本件は原案のとおり可決されました。

―――――――――――・―――・―――――――――――

日程第１９．議案第９号

○議長（作元　義文君）　日程第１９、議案第９号、平成２５年度対馬市一般会計予算を議題とします。

提案理由の説明を求めます。総務部長、桐谷雅宣君。

○総務部長（桐谷　雅宣君）　ただいま議題となりました議案第９号、平成２５年度対馬市一般会計予算について、その提案理由と内容を御説明申し上げます。

予算の説明に先立ちまして、予算書とあわせて別途配付をいたしております当初予算資料をごらんください。一般会計をはじめ対馬市の各会計当初予算の概要を説明をいたしております。

それでは、資料の１ページをごらんください。当初予算比較表に、対馬市各会計予算の平成２５年度当初予算額、前年度当初予算額及び前年度の当初予算が骨格だったために、肉づけ後の６月補正後の予算額の比較及び増減率を記載いたしております。

２ページをお願いいたします。２ページには、特別会計への繰出金の状況、３ページには、一般会計の歳入内訳比較表、４ページには、目的別内訳比較表、５ページに、歳出の性質別内訳比較表をそれぞれ説明いたしております。御参照くださいますようよろしくお願いいたします。

それでは、予算書の説明をいたします。予算書のほうをごらんください。

予算書の１ページをお願いいたします。平成２５年度対馬市の一般会計の予算は、次に定めるところによることを規定し、第１条第１項で歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ３２７億９，０００万円と定め、第２項で、歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、２ページからの「第１表　歳入歳出予算」とするものでございます。

第２条で、地方自治法第２３０条第１項に規定により、起こすことのできる地方債の起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は、１０ページからの「第２表　地方債」によることを定めております。

第３条で、地方自治法第２３５条の３第２項の規定による一時借入金の借り入れの最高額を８０億円と定め、第４条で、地方自治法第２２０条第２項ただし書きの規定により、歳出予算の各項の経費の金額を流用できる場合を定めるものでございます。

予算書２ページをお願いいたします。第１表歳入歳出予算、歳入及び歳出の款項の区分の金額につきましては、８ページにかけて記載する「第１表　歳入歳出予算」のとおりでございます。

１０ページをお願いいたします。第２表地方債についてでございますが、一般廃棄物処理事業債から臨時財政対策債までそれぞれ限度額を定め、限度額の合計を６７億７，７００万円とするものでございます。

それでは、１２ページから記載をいたします事項別明細書によりまして、主なものについてのみ御説明をいたします。

歳入についてでございますが、本年度の予算の状況は、１４ページの合計欄に記載をいたします３２７億９，０００万円で、対前年度比４１億５，１００万円、率にしまして１４．５％の増でございます。

これは平成２４年度当初予算におきまして、骨格予算での編成としたことによること及び２５年度予算において新病院建設事業にかかる経費の大幅な増によるところでございます。

１２ページをお願いいたします。１款市税についてでございますが、２７億８，８５９万円で、前年度比較３，６３０万４，０００円の増でございまして、主な要因といたしましては、個人市民税の年少扶養控除廃止にかかるものでございます。

２款地方譲与税から９款地方特例交付金までは、平成２４年度の交付実績をもとに計上をさせていただいております。

１０款地方交付税でございますけれども、国の地方財政計画における前年度比較２．２％の減

を考慮しながらも、配分方法等が不透明であることから、２４年度の交付実績をもとに、前年度比較１億2，６５２万5，０００円の減となる１５０億2，８０５万6，０００円を計上いたしております。

内訳につきましては、普通交付税を前年度比較１億2，６５２万5，０００円の減をいたしまして、１４０億9，８０５万6，０００円を計上いたしております。

特別交付税につきましては、前年度同額の９億3，０００万円を計上いたしております。

１２款分担金及び負担金は、養護老人ホーム入所負担金、保育所入所負担金など1億8，２１２万3，０００円を計上いたしております。

１３款使用料及び手数料は、各種公共施設の使用料、戸籍及び塵芥収集手数料など３億3，２６４万7，０００円を計上いたしております。

１４款国庫支出金についてでございますが、３８億1，００７万5，０００円の計上でございまして、生活保護費負担金、漁港整備事業補助金や社会資本整備総合交付金事業などを計上いたしております。

１５款県支出金は、２４億7，７８２万3，０００円の計上でございまして、保険基盤安定負担金、緊急雇用創出事業臨時特例基金事業交付金、漁場・漁港整備事業補助金、離島漁業再生支援交付金事業などを計上いたしております。

１６款財産収入は、7，１２２万2，０００円の計上でございまして、土地建物の貸し付け収入などでございます。

１８款繰入金６億8，６６１万3，０００円の計上は、財政調整基金より４億6，０００万円、減債基金より２億2，３００万円を繰り入れております。

２１款市債でございますけれども、合併振興基金積立金、新病院建設、汚泥再生処理センター整備などの事業に充当するために、過疎対策事業債、臨時財政対策債など６７億7，７００万円を計上いたしております。

続きまして、歳出についてでございますが、予算書の１６ページをお願いいたします。１款議会費についてでございますけれども、議会活動費など1億9，６３７万1，０００円の計上でございまして、議員定数の減により、前年度と比較しますと２９１万円の減となっております。

２款総務費は、総額４４億2，０９０万3，０００円の計上でございまして、前年度と比較しますと、３億6，１８１万7，０００円の増となってございます。増の主なものは、合併振興基金積立金、過疎地域自立促進事業特別事業基金積立金、参議院議員選挙費、長崎県知事選挙費、市議会議員選挙費などでございます。

３款民生費は、総額６６億8，２４５万4，０００円の計上でございまして、前年度と比較しますと、４億3，３６７万8，０００円の増となってございます。主なものといたしましては、国民

健康保険特別会計への繰出金、生活保護費の扶助費などでございます。

４款衛生費についてでございますが、総額６３億８８８万６，０００円の計上でございまして、前年度と比較をいたしますと、２８億９６９万６，０００円の増となってございます。これは、新病院建設にかかる病院企業団負担金、中部汚泥再生処理センター建設にかかる経費などが増の主なものでございます。

６款農林水産業費は、総額２９億１，１９１万４，０００円の計上でございます。前年度と比較いたしますと、１億２，３９１万１，０００円の増となっております。主なものといたしましては、イノシシ捕獲補助金、鳥獣被害防止施設整備等事業補助金、離島漁業再生支援交付金、活魚・鮮魚輸送コスト助成事業補助金などでございます。

７款商工費は７億５，７３０万９，０００円の計上でございまして、前年度と比較しますと、２億５，３３２万２，０００円の増となってございます。しま共通地域通貨発行事業、韓国展望所豊砲台跡観光ルート整備などの事業費が増の主なものでございます。

８款土木費は、総額で２３億７，３４４万５，０００円の計上でございまして、前年度と比較しますと、９，９８４万２，０００円の増となっております。主なものは、市道の改良工事の事業費、国県道整備工事負担金、まちづくり交付金事業などでございます。

９款消防費についてでございますが、１０億６，６９５万１，０００円の計上でございまして、前年度と比較しますと、１億５，４３３万５，０００円の増となっております。主なものといたしましては、消防署豆酘分遣所の建設設置によるものでございます。

１０款教育費は、総額１９億１，５３９万８，０００円の計上でございまして、前年度と比較しますと、３１４万８，０００円の増となっております。心の教育相談員や学校図書支援員の雇用のほか、スクールバスの運行や生涯学習事業、文化財保存活用事業などでございます。

１２款公債費は６１億２，９０９万４，０００円の計上で、前年度と比較しまして、８，１２２万２，０００円の減となっております。

１３款諸支出金は、旅客定期航路事業繰出金といたしまして７２７万５，０００円を計上し、１４款予備費は２，０００万円を計上いたしております。

なお、予算書１９２ページから特別職及び一般職の給与費明細書を、また、２００ページからは債務負担行為に関する調書を、並びに２０６ページからは地方債に関する調書を、それぞれ説明をいたしております。御参照方よろしくお願いいたします。

以上、簡単ではございますが、平成２５年度対馬市一般会計予算の説明を終わります。何とぞ御慎重に御審議の上、御決定賜りますようよろしくお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。１０番、堀江政武君。

○議員（１０番　堀江　政武君）　ちょっと市債と公債費についてお尋ねしたいと思いますが、今年度の２５年度の市債の当初予算は６７億７，０００万でございまして、２４年度の当初は３０億、６月補正で４７億ということで、４３％の増になっているわけでありますが、２４年度のその先ほどの補正で、約６０億ということのようでございます、市債ですね。

それを７億上回る６７億７，０００万でございますが、既にここで７億、当初と比べればあると。２４年度末の市債と当初で比べれば７億多くなっているわけですが、公債費を見ますと、２４年度の末で、約８０億ですね。で、２５年度の当初が６１億でございますが、返すほうから借りたほうを引いた残りが、引いたのが、結局、地方債残高減すという、借金が減るということに単純計算すればなると思うわけですが、この６７億、当初に比べて２５年度、今後、前年度と比べれば、１０億ぐらいふえるんじゃないかと、これは私が勝手に予想するわけですけど、仮に６７億が７７億、８０億になりますと、公債費が１００億ぐらいにならないと２０億ぐらい減らないと、地方債残高は、ということになるわけでありますが、そういう想定はどのくらいにしてあるのか、してないのか。してあれば、２５年度は１０億ぐらい、だいたい公債費、地方債残高を減すとかいう想定はしてあるのかどうか。

そういうことは、交付税のあれで違いはいたしましょうが、ある程度、想定はしてあるとは思いますので、してあれば、大体どのくらい２５年度は返すつもりなのか、ちょっとお尋ねをいたします。（発言する者あり）いやいや、それは総括じゃけ。総括はせないかん。（発言する者あり）小さいことは特別委員会。

○議長（作元　義文君）　総務部長、桐谷雅宣君。

○総務部長（桐谷　雅宣君）　１０番議員のお尋ねでございますけども、公債費、起債の償還についていかがかというような内容かと存じますけれども、その平成２５年度の今後の公債費の償還の状況と。

そのいずれにいたしましても、今年度、来年度、特に病院建設事業等が始まってまいりますと、かなりの起債等を発行するのは、もう余儀なくありますけども、既に御承知のことかと存じますけども、そのただ、発行も、やみくもに発行するということは全く想定はされません。

当然のことながら私どもは、まず交付税の算入率等の有利な起債を常に念頭に置いてございます。

例えば、過疎対策事業債でございましたらば、元利償還金の７０％が交付税のほうで算入されます。辺地対策事業債ですと、同じように８０％。それから今現在、特に利用をさせていただいております合併特例債等につきましても、７０％の元利償還等がございます。

で、あわせまして、それらの有利な起債等を常に利用しながら、交付税等の算入も常に念頭に置きながら、起債のほうの発行は考えてまいりたいというふうに考えております。

今現在、この予算書のほうの巻末のほうにも掲げてございますけれども、巻末の２０６ページ、２０７ページですか、現在高の状況を掲げてございますけども、この中に参考ではございますけれども、交付税等でどの程度の見返りと申しますか、算入があるのかというようなことを参考といたしまして、御紹介をさせていただきますけれども、この巻末のまず平成２３年度の現在高をごらんをいただきたいかと存じます。

２３年度の決算の時点におきましては、４９２億の現在高がございました。当然、この４９２億の現在高に対しまして、まず元利償還等におきまして、どの程度の交付税等で算入があるのかということでございまして、４９２億に対しまして、あくまでも理論的な計算でございますけども、３３２億円程度、交付税のほうで算入をされるというふうなことでございますので、ですから、現在高だけをごらんいただければ、かなりの借金をしとるなというふうなことが、伺えるのかわかりませんけれども、実は、この現在高のおおむね７割、８割程度は、交付税のほうで算入されるというふうなところでございます。

以上でございます。

○議長（作元　義文君）　１０番、堀江政武君。

○議員（１０番　堀江　政武君）　交付税措置のある過疎債等を使って、なるべくそういうあれは出ないようにしているというのはよくわかりますが、私が言っているのは、２５年度にどのくらいの大体、簡単に言えば、返済する額ができるんでしょうか。公債費がどのくらい、６１億でとる、２５年度の、どれだけ積み上げられるぐらいに想定されているのかということを聞いているんですよ。

ですから、市債ですよね、市債、市債が今、２５年度当初は６７億でしょう。そしてこれで終わると、もう減ればいいですけど、大体これが１０億ふえれば、仮に、８７億、９０億になりますんで、こちらの６１億が公債費の９０億から１００億にならんと、その差が地方債に返っていかんじゃないですか、借金が、早う言えば。

ですから、その当初の６７億７，０００万、今ありますが、公債費のほうはどれだけその、さっき言いました交付税措置のあれも、交付税もありましょうけど、どのくらい返せるのかを想定してありますかということを聞いているんですけど。

想定してなかったらいいですよ、それはもう何もそういうのは考えていませんって言われれば。

○議長（作元　義文君）　総務部長、桐谷雅宣君。

○総務部長（桐谷　雅宣君）　今後の財政運営の中で、どの程度、公債額、元利償還等について変動があるのかというような中身だとは思うんですけれども、当然のことながら、まだ今、現実におきましては、交付税等の決定が、まだ不透明がかなりあるということでございまして、やはり交付税の決定が、７月ぐらいには大まかなところが判明いたします。

今後、歳出のほうの事業の計上の如何にもよるところも、多少ございますけれども、そういう中におきまして、交付税等の伸び等々も見込まれますと、当然のことながら繰り上げ償還等も検討をしていかねばならないということでございまして、その今、現実において六十数億の公債費の予算がございますけれども、今後において、この六十数億がどの程度になるのかという部分につきましては、今後の交付税等の財源の状況、それから歳出予算の事業費の増減等々によりまして、可能な限りは繰り上げ償還等々について、検討をしてまいりたいというふうに考えております。

○議長（作元　義文君）　１０番、堀江政武君。

○議員（１０番　堀江　政武君）　お話はよくわかりますが、大体、それは交付税もですけど、市債も、どのくらいの事業をして、どのくらいの金が要るか想定して、大体何億、年に返していくか、１０億、２０億返していくか。

で、実質公債費比率はその場合どのくらいになるか、そういうことを計算しないと、次年度の予算というのは立っていかんでしょう、大体、大体ですよ。大まか、このぐらいの事業をして、このぐらい金を借れば、このぐらい、交付税も想定しながら計算すれば、大体、２５年度は実質公債費比率も１４％なら１４％で落ち着くんじゃないかというようなことは、私は想定してあるかなという思いでお尋ねしたんですが、それはしてなけりゃ、してないんでいいんですが、先日も話しましたように、６町が持ち寄った地方債残高六百数十億を今、努力をされて４８０億になったと。

それから、なら２５年は幾ら返せるんだろうというような思いも私たちも、私もありまして、公債費比率も１８．５が現在１２％にしてあるでしょう。だから、私は市長を評価しているんですよ。

よく頑張って事業もそれなりにしながら１２％に下げられたということは、すごく理解もするし、評価もしておりますが、１８％近くになるまで借り入れをして、事業はたくさんして、その辺になったら、またこう下げていくということでいいんじゃないかと思うんですが、やっぱ我々も、大体何年度、どのくらいの借り入れをして、どのくらいの事業をして、どのくらい実質公債費比率がなるんだということを、懸命な職員の方とその市長は計算してあるんじゃないかなと思い、質問をお尋ねしたわけですが、大体のところはわかりましたんで、はい、それでいいと思いますが、補助事業をたくさんしながら、借り入れを少なくしながら事業を推進していってほしいかなと思います。

以上。

○議長（作元　義文君）　いいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認め、これで質疑を終わります。（「ちょっと待って」と呼

ぶ者あり）おっと、はい、１番、渕上清君、どうぞ。

○議員（１番　渕上　　清君）　済みません。ちょっと議員１期目、１年ぐらいして恥ずかしい質問かもしれませんが、私、議員になりまして、あれっ、こんなことでいいのかなと思うことに出会いました。

それは、５５ページ、予算書の５５ページの議会費の旅費でございます。私の所管は、産業建設常任委員会でございますが、所管の業務調査を所管の調査をするときに、対馬島内、広うございまして、１日で、その調査地区を点々とあるもんですから回れない。そうすると、できるだけ少ない日数で終わろうとするとすれば、宿泊が必要になった場面がございました。宿泊を伴わなければ３日、４日かかるわけですね。

そのときに、実は委員長が大変困っておられまして、というのは、どういうことか私、わかりません。旅費が出ないそうでございまして、それで各委員、所管の委員に旅費が出ないが、自己負担でお願いできんかと、委員長が頼んで回っているんですよ。

委員会が所管の調査をするのに、委員長が委員に旅費、個人負担を頼んで回る姿を見て、これでいいんだろうかなと思いました。何か事情があるそうなんですけども、ちょっとどうでしょうかということ。

もう１点は、議会はやはりその年度内の重要な案件について特別委員会をつくりまして、しっかりと対馬市の行く方向に向けて、議会でバックアップと申しますか、議会なりの活動をしているんです。

ところが、その活動の中でも調査に行きたい。その状況は、どのようになっているか把握を、例えば国のほうに行って調査をしてみたいという場合も、市長のほうに旅費を出してもらえんじゃろうかと頼んでいる姿に出くわしました。

議会は、議長の裁量によって、議長がこうしなさい、こういうふうにやっていくんだという我々のボスは議長のはずですが、市長にいろいろお願いをしなければ議会が動けない、この姿、何だろうかなと私は疑問に感じております。

したがって、ここの旅費、どなたに尋ねるかも何ですが、この普通旅費１５３万３，０００円、１年間ございますね。これは議長の旅費でもありましょうし、あるいは職員の旅費でもありましょう。これだけの旅費で議会、この２１名の議員と職員の旅費が、この範囲で活動は１年間なされるわけですが、どうもこう議会活動の成果が行動範囲に足かせがあって、伸び伸びとした議会活動、できてないというふうに私は感じました。

この辺についてどうでしょうか。市長にお尋ねするのもおかしいですが、何か御意見ないでしょうか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　過去の行政側と議会との不文律といいますか、というのが、どうも私もそこで議員にもなったことありませんから、よくわかりませんでしたけども、今の予算の中で物事を組み立てられてもいいんではないですかという話をすることがありました。

しかし、それはこちらの裁量なんだというお話を聞いたこともあります。そうなんだ。それが不文律なのかなと、今までのというふうに思っておりまして、そのあたりの物事のことにつきましては、再度、どれが、どのような形が最も議会活動と予算との関連でいいのかということの中でも、よく論議をしていただければというふうに、逆にこちらは思っている部分もあります。

○議長（作元　義文君）　１番、渕上清君。

○議員（１番　渕上　　清君）　大変御理解いただいたような御回答をいただきまして安心しましたが、やはりこれ、議長に物申していいんでしょうかね。議長は、我々のボスは議長なんですから、議長がしっかりとこう把握できて、議会の活動ができる体制を予算の中でも確保していただいて、その範囲の中で各委員会の協議の中で活動が必要なときには、「よしわかったと、この範囲でやってくれよ」と言われるぐらいの予算を私は必要だと思うんです。

この１５３万幾らですよ。１５３万３，０００円で、議長、大丈夫ですか。何かあるんですか、別に。何か別に予算があれば、また話は別ですよ。

○議長（作元　義文君）　旅費の分類、普通旅費は職員の分で、上の６３９万が議員の分だそうですが、この使い道については、議長がそんなら行ってこいとかなんとかいうことは、今のところはなっておりません。

その今、市長が言われましたように、その辺も議会と市長部局ともう少しよく話をして、どれだけの予算をどれだけ議会がいるのか、この辺の執行権の問題がありますから、私が行ってこいというわけには今はいきませんので、今からの話し合いの中でされたらどうかなと思いますね。

（「最後」と呼ぶ者あり）

１番、渕上清君、どうぞ。

○議員（１番　渕上　　清君）　どうも議長に質問したのははじめてかもしれませんが、やはり議会がしっかり活動して、対馬市に貢献できる体制をしっかりとらんにゃいかんと思います。

市長も先ほど回答の中で、その辺も大いに理解をいただいているようですから、私たちも、この予算に向けて、その辺もしっかり、ただ自分たちが使う予算だから云々じゃなくて、全体の予算の中の枠組みの中もしっかりわきまえながら、特に来年度は、国境離島の新法がまさにどうなるかという重要な時期ですよ。それはもう市長も施政方針で、しっかり頑張るとおっしゃいました。議会も頑張らんにゃいかんのですよ。

ところが、動きが全くとれない。旅費がございませんから議会は何もできませんじゃいけませんので、やはり調査は、議会人としてしっかりすべきと思うんですよ。その辺の旅費をどのよう

にやったらいいか、これは総務になるんでしょうか、総務、ひとつよく調査研究してくださいませんか。（「はい」と呼ぶ者あり）

ただし、我々議員でございますから、議員に向けただけのお手盛りであるというふうに捉え方されんように、議会としてしっかり成果を上げる旅費としての組み立てをすることを前提に、その辺の御審査をよろしくお願いします。済みません、ありがとうございました。

○議長（作元　義文君）　ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　これで質疑を終わります。

お諮りします。本件は、議長を除く全議員を委員とする予算審査特別委員会を設置し、これに付託して審査することにしたいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。本件は、議長を除く全議員を委員とする予算審査特別委員会を設置して、これに付託して審査することに決定しました。

委員長互選のため、予算審査特別委員会を議員控室に招集します。

しばらく休憩します。

午後３時26分休憩

午後３時26分再開

○議長（作元　義文君）　再開します。

報告します。予算審査特別委員会の委員長に小田昭人君、副委員長に小川廣康君と決定しました。審査報告は３月２６日に行います。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

○議長（作元　義文君）　以上で、本日の議事日程は全て終了しました。明日は、定刻より本会議を開き、議案説明を行います。

本日はこれで散会いたします。なお、事務連絡等がございますので、各議員はそのまま残っていただきますようにお願いします。

午後３時27分散会

平成２５年　第1回　対　馬　市　議　会　定　例　会　会　議　録（第２日）

平成２５年３月８日（金曜日）

議事日程（第２号）

平成２５年３月８日　午前１0時00分開議

日程第１　議案第10号　平成２５年度対馬市診療所特別会計予算

日程第２　議案第11号　平成２５年度対馬市国民健康保険特別会計予算

日程第３　議案第12号　平成２５年度対馬市後期高齢者医療特別会計予算

日程第４　議案第13号　平成２５年度対馬市介護保険特別会計予算

日程第５　議案第14号　平成２５年度対馬市介護保険地域支援事業特別会計予算

日程第６　議案第15号　平成２５年度対馬市特別養護老人ホーム特別会計予算

日程第７　議案第16号　平成２５年度対馬市旅客定期航路事業特別会計予算

日程第８　議案第17号　平成２５年度対馬市簡易水道事業特別会計予算

日程第９　議案第18号　平成２５年度対馬市集落排水処理施設特別会計予算

日程第10　議案第19号　平成２５年度対馬市水道事業会計予算

日程第11　議案第20号　対馬市移動通信用鉄塔施設条例の一部を改正する条例

日程第12　議案第21号　対馬市職員の旅費に関する条例の一部を改正する条例

日程第13　議案第22号　対馬市体育施設条例の一部を改正する条例

日程第14　議案第23号　対馬市へき地保育所条例の一部を改正する条例

日程第15　議案第24号　対馬林業開発促進資金融資損失補償条例の一部を改正する条例

日程第16　議案第25号　対馬市公園等設置条例の一部を改正する条例

日程第17　議案第26号　対馬市都市下水路条例の一部を改正する条例

日程第18　議案第27号　対馬市都市公園条例の一部を改正する条例

日程第19　議案第28号　対馬市消防団員の定員、任命、給与、服務等に関する条例の一部を改正する条例

日程第20　議案第29号　対馬市子ども夢づくり基金条例

日程第21　議案第30号　対馬市指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例

日程第22　議案第31号　対馬市指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係

る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準等を定める条例

日程第23　議案第32号　対馬市市道の構造の技術的基準等を定める条例

日程第24　議案第33号　対馬市移動等円滑化のために必要な道路の構造に関する基準を定める条例

日程第25　議案第34号　対馬市準用河川に係る河川管理施設等の構造の技術的基準を定める条例

日程第26　議案第35号　対馬市営住宅条例

日程第27　議案第36号　対馬市都市公園に係る移動等円滑化のために必要な特定公園施設の設置に関する条例

日程第28　議案第37号　対馬市布設工事監督者及び水道技術管理者の資格基準等に関する条例

日程第29　議案第38号　辺地に係る公共的施設の総合的な整備計画について

日程第30　議案第39号　あらたに生じた土地の確認及び字の区域の変更について（佐保地区）

日程第31　議案第40号　長崎県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少について

日程第32　議案第41号　対馬林業開発促進資金貸付条例の一部を改正する条例

日程第33　議案第42号　漁港区域内公有水面の埋立てについて（伊奈漁港）

日程第34　発議第１号　盗難仏像の早期返還を求める決議

日程第35　請願第１号　アジアと日本の平和と繁栄を目指す「日韓海底トンネル」の早期建設を求める請願

本日の会議に付した事件

日程第１　議案第10号　平成２５年度対馬市診療所特別会計予算

日程第２　議案第11号　平成２５年度対馬市国民健康保険特別会計予算

日程第３　議案第12号　平成２５年度対馬市後期高齢者医療特別会計予算

日程第４　議案第13号　平成２５年度対馬市介護保険特別会計予算

日程第５　議案第14号　平成２５年度対馬市介護保険地域支援事業特別会計予算

日程第６　議案第15号　平成２５年度対馬市特別養護老人ホーム特別会計予算

日程第７　議案第16号　平成２５年度対馬市旅客定期航路事業特別会計予算

日程第８　議案第17号　平成２５年度対馬市簡易水道事業特別会計予算

日程第９　議案第18号　平成２５年度対馬市集落排水処理施設特別会計予算
日程第10　議案第19号　平成２５年度対馬市水道事業会計予算
日程第11　議案第20号　対馬市移動通信用鉄塔施設条例の一部を改正する条例
日程第12　議案第21号　対馬市職員の旅費に関する条例の一部を改正する条例
日程第13　議案第22号　対馬市体育施設条例の一部を改正する条例
日程第14　議案第23号　対馬市へき地保育所条例の一部を改正する条例
日程第15　議案第24号　対馬林業開発促進資金融資損失補償条例の一部を改正する条例
日程第16　議案第25号　対馬市公園等設置条例の一部を改正する条例
日程第17　議案第26号　対馬市都市下水路条例の一部を改正する条例
日程第18　議案第27号　対馬市都市公園条例の一部を改正する条例
日程第19　議案第28号　対馬市消防団員の定員、任命、給与、服務等に関する条例の一部を改正する条例
日程第20　議案第29号　対馬市子ども夢づくり基金条例
日程第21　議案第30号　対馬市指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例
日程第22　議案第31号　対馬市指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準等を定める条例
日程第23　議案第32号　対馬市市道の構造の技術的基準等を定める条例
日程第24　議案第33号　対馬市移動等円滑化のために必要な道路の構造に関する基準を定める条例
日程第25　議案第34号　対馬市準用河川に係る河川管理施設等の構造の技術的基準を定める条例
日程第26　議案第35号　対馬市営住宅条例
日程第27　議案第36号　対馬市都市公園に係る移動等円滑化のために必要な特定公園施設の設置に関する条例
日程第28　議案第37号　対馬市布設工事監督者及び水道技術管理者の資格基準等に関する条例
日程第29　議案第38号　辺地に係る公共的施設の総合的な整備計画について
日程第30　議案第39号　あらたに生じた土地の確認及び字の区域の変更について

（佐保地区）

日程第31　議案第40号　長崎県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少について

日程第32　議案第41号　対馬林業開発促進資金貸付条例の一部を改正する条例

日程第33　議案第42号　漁港区域内公有水面の埋立てについて（伊奈漁港）

日程第34　発議第１号　盗難仏像の早期返還を求める決議

日程第35　請願第１号　アジアと日本の平和と繁栄を目指す「日韓海底トンネル」の早期建設を求める請願

出席議員（20名）

１番　渕上　　清君	２番　脇本　啓喜君
３番　黒田　昭雄君	４番　小田　昭人君
５番　長　　信義君	６番　山本　輝昭君
７番　松本　暦幸君	９番　齋藤　久光君
10番　堀江　政武君	11番　小宮　教義君
12番　阿比留光雄君	13番　三山　幸男君
14番　初村　久藏君	16番　糸瀬　一彦君
17番　大浦　孝司君	18番　小川　廣康君
19番　大部　初幸君	20番　兵頭　　栄君
21番　島居　邦嗣君	22番　作元　義文君

欠席議員（１名）

８番　阿比留梅仁君

欠　　員（１名）

事務局出席職員職氏名

局長	神宮　満也君	課長補佐	國分　幸和君
主任	金丸　隆博君		

説明のため出席した者の職氏名

市長 …… 財部　能成君

副市長 …… 髙屋　雅生君
教育長 …… 梅野　正博君
地域再生推進本部長 …… 平間　壽郎君
観光物産推進本部長 …… 本石健一郎君
総務部長 …… 桐谷　雅宣君
政策監 …… 平山　秀樹君
総務課長 …… 根〆　英夫君
市民生活部長 …… 長郷　泰二君
福祉保健部長 …… 多田　満國君
農林水産部長 …… 比田勝尚喜君
建設部長 …… 堀　　義喜君
水道局長 …… 阿比留　誠君
教育部長 …… 豊田　　充君
美津島地域活性化センター部長 …… 八坂　一義君
豊玉地域活性化センター部長 …… 梅野　　泉君
峰地域活性化センター部長 …… 志田　博俊君
上県地域活性化センター部長 …… 川本　治源君
上対馬地域活性化センター部長 …… 島居　清晴君
消防長 …… 竹中　英文君
会計管理者 …… 長久　敏一君
監査委員事務局長 …… 橘　　英次君
農業委員会事務局長 …… 春日亀剛一君

午前10時00分開議

○議長（作元　義文君）　おはようございます。報告します。阿比留梅仁君より欠席の届け出があっております。

配付しております議事日程第２号により、本日の会議を開きます。

日程第１．議案第１０号

日程第２．議案第１１号

日程第３．議案第１２号

日程第４．議案第１３号

日程第５．議案第１４号

日程第６．議案第１５号

○議長（作元　義文君）　日程第１、議案第１０号、平成２５年度対馬市診療所特別会計予算から、日程第６、議案第１５号、平成２５年度対馬市特別養護老人ホーム特別会計予算までの６件を一括して議題とします。

提案理由の説明を求めます。福祉保健部長、多田満國君。

○福祉保健部長（多田　満國君）　おはようございます。ただいま一括して議題となりました議案第１０号から議案第１５号までの６件につきまして、続けて説明をさせていただきます。

まず、議案第１０号、平成２５年度対馬市診療所特別会計予算について御説明申し上げます。

１ページをお願いいたします。平成２５年度対馬市の診療所特別会計予算は、次に定めるところによることを規定し、第１条第１項で歳入歳出予算の総額は歳入歳出それぞれ４億２８９万５，０００円と定め、第２項で歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、２ページ及び３ページの「第１表　歳入歳出予算」によるとするものであります。

歳入について御説明いたします。

８ページをお願いいたします。１款診療収入１項外来収入は、直営診療所の国民健康保険診療報酬収入等２億４，８３６万３，０００円、２款使用料及び手数料１項手数料は、診断書等の証明手数料を２５０万円、３款県支出金１項県補助金は、へき地医療対策費補助金を１，３１４万４，０００円、４款繰入金１項他会計繰入金は、一般会計からの繰入金を１億２，１４０万６，０００円。

１０ページをお願いいたします。５款１項繰越金は、前年度繰越金を５０万円、６款諸収入１項雑入は、予防接種委託料、事業所健診委託料収入等１，６９８万２，０００円をそれぞれ計上しております。

歳出でございますが、１２ページをお願いいたします。

１款総務費１項施設管理費は、２億９，３１８万６，０００円を計上しております。一般職員９名、嘱託職員１０名分の人件費、嘱託医師謝礼、医師派遣委託料、１４ページをお願いいたします。各診療所運営費補助金及び施設の維持管理経費等でございます。

２款１項医業費は、医業用器具のリース料、注射器等の医業用消耗器材費及び医薬品等の医業用衛生材料費等、１６ページをお願いいたします。１億９７０万９，０００円を計上いたしております。

１８ページから２２ページにかけまして、給与費明細書を添付いたしております。

続きまして、議案第１１号、平成２５年度対馬市国民健康保険特別会計予算について説明申し上げます。

１ページをお願いいたします。平成２５年度対馬市の国民健康保険特別会計予算は、次に定めるところによることを規定し、第１条第１項で歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ５９億９，５１４万９，０００円と定め、第２項で歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、２ページから５ページにかけまして、「第１表　歳入歳出予算」とするものであります。

第２条で地方自治法第２３５条の３第２項の規定による一時借入金につきましては、借り入れの最高額を５億３，０００万円と定めるものであります。

歳入について御説明いたします。

１０ページをお願いいたします。１款１項国民健康保険税は、一般被保険者国民健康保険税及び退職被保険者等国民健康保険税を１１億９，１８２万１，０００円計上しております。

１２ページをお願いします。２款使用料及び手数料１項手数料は、督促手数料を５０万円、３款国庫支出金１項国庫負担金は、療養給付費、後期高齢者支援金、介護納付金等に係る国費分の負担金を１１億８，９０２万４，０００円、２項国庫補助金は、普通調整交付金を４億７，１２７万３，０００円、４款１項療養給付費交付金は、退職被保険者の給付に伴う社会保険診療報酬支払基金からの交付金を２億３，３０４万５，０００円、それぞれ計上しております。

１４ページをお願いします。５款１項前期高齢者交付金は、保険者間において前期高齢者に係る医療費の不均衡を調整するために交付されるもので、９億６，４１４万８，０００円、６款県支出金１項県負担金は、高額医療費共同事業負担金等４，５８６万９，０００円、２項県補助金は、普通調整交付金及び特別調整交付金を３億６２７万２，０００円。８款１項共同事業交付金は、高額医療費共同事業交付金及び保険財政共同安定化事業交付金を９億３，８１１万８，０００円、９款財産収入１項財産運用収入は、財政調整基金等の利子を２，０００円それぞれ計上しております。

１６ページをお願いいたします。１０款繰入金１項他会計繰入金は、保険基盤安定繰入金等一般会計からの繰入金を６億５，２０６万６，０００円、１１款１項繰越金は、療養給付費交付金繰越金等２，０００円、１２款諸収入１項延滞金、加算金及び過料は、一般被保険者延滞金等を３００万２，０００円、それぞれ計上しております。

歳出でございますが、２０ページをお願いいたします。

１款総務費１項総務管理費は、一般の管理事務費、連合会の負担金、医療費適正化特別対策事業等、２２ページをお願いいたします。合わせて２，４６２万３，０００円、２項徴税費は、嘱託職員報酬、納税組合交付金、過誤納還付金等の賦課徴収費を２，１６８万９，０００円、３項運営協議会費は、国保運営協議会委員報酬等１１万７，０００円をそれぞれ計上しております。

２４ページをお願いします。２款保険給付費１項療養諸費は、一般被保険者療養給付費、退職被保険者等療養給付費、一般被保険者療養費等３３億６，３１５万円、２項高額療養費は、一般

被保険者高額療養費、退職被保険者等高額療養費等を５億２２９万９，０００円それぞれ計上しております。

２６ページをお願いします。４項出産育児諸費は、出産育児一時金等３，３６１万７，０００円、５項葬祭諸費は、葬祭費を２００万円、それぞれ計上しております。

３款１項後期高齢者支援金等は、後期高齢者医療制度に対する支援金及び事務費拠出金等を６億８，７６２万２，０００円計上しております。

２８ページをお願いします。４款１項前期高齢者納付金は、支払基金から交付される前期高齢者交付金に対する納付金として、事務費拠出金で３６万４，０００円計上いたしております。

５款１項老人保健拠出金は、事務費拠出金を５万円、６款１項介護納付金は、介護保険事業への納付金を３億６，１３５万７，０００円、７款１項共同事業拠出金は、高額医療費共同事業拠出金及び保険財政共同安定化事業拠出金として８億３，３５２万８，０００円をそれぞれ計上いたしております。

３０ページをお願いいたします。８款保健事業費１項特定健康診査等事業費は、特定健康診査、特定保健指導に関する事業費を４，７７６万４，０００円計上しています。

３２ページをお願いします。１０款１項公債費は、一時借入金利子を１００万円、１２款１項予備費は、１億１，５９６万３，０００円それぞれ計上しております。

３４ページから３７ページにかけまして、給与費明細書を添付いたしております。

続きまして、議案第１２号、平成２５年度対馬市後期高齢者医療特別会計予算について、御説明申し上げます。

では、１ページをお願いします。平成２５年度対馬市の後期高齢者医療特別会計予算は、次に定めるところによることを規定し、第１条第１項で歳入歳出予算の総額は歳入歳出それぞれ３億４，１０２万４，０００円と定め、第２項で歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、２ページ及び３ページの「第１表　歳入歳出予算」によるとするものであります。

歳入について御説明申し上げます。

８ページをお願いします。１款１項後期高齢者医療保険料は、特別徴収保険料及び普通徴収保険料を１億８，４４８万９，０００円、５款繰入金１項一般会計繰入金は、事務費繰入金及び保険基盤安定繰入金を１億５，４７４万３，０００円。

１０ページをお願いします。７款諸収入２項償還金及び還付加算金は、後期高齢者医療広域連合により受け入れる保険料還付金等を１２１万１，０００円、５項の雑入は、保険料の還付未処理分の受け入れ等を５７万５，０００円それぞれ計上しております。

歳出でございますが、１２ページをお願いいたします。

１款総務費１項総務管理費は、職員２名分の人件費、広域連合事務費負担金及び一般事務費等

を３，２９４万９，０００円、２款１項後期高齢者医療広域連合納付金は、保険基盤安定負担金及び保険料納付金を３億６７６万１，０００円。

１４ページをお願いします。３款諸支出金１項償還金及び還付加算金は、保険料の還付金等を１２１万２，０００円、４款１項予備費は１０万２，０００円をそれぞれ計上いたしております。

１６ページから２０ページにかけまして、給与費明細書を添付いたしております。

続きまして、議案第１３号、平成２５年度対馬市介護保険特別会計予算について御説明いたします。

１ページをお願いします。平成２５年度対馬市の介護保険特別会計予算は、次に定めるところによることを規定し、第１条第１項で歳入歳出予算の総額は歳入歳出それぞれ３５億９，１２３万９，０００円と定め、第２項で歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、２ページから４ページにかけての「第１表　歳入歳出予算」によるとするものであります。

歳入について御説明申し上げます。

１０ページをお願いします。１款保険料１項介護保険料は、第１号被保険者に係る特別徴収保険料、普通徴収保険料等を５億３，３７３万９，０００円。

３款国庫支出金１項国庫負担金は、介護給付費に係る国庫負担金を５億９，４０８万９，０００円、２項国庫補助金は、調整交付金、地域支援事業交付金等を３億７，６１７万６，０００円。

１２ページをお願いします。４款１項支払基金交付金は、第２号被保険者に係る保険料で、支払基金からの介護給付費交付金及び地域支援事業交付金９億９，０７６万６，０００円。

５款県支出金１項県負担金は、介護給付費と県負担金等を５億７６６万４，０００円、２項県補助金は、介護予防事業、包括的支援事業に係る地域支援事業交付金を１，６７５万８，０００円、６款財産収入１項財産運用収入は、介護給付費準備基金利子を１２万３，０００円。

１４ページをお願いします。７款繰入金１項他会計繰入金は、一般会計からの繰入金を５億４，６５５万９，０００円、２項基金繰入金は、介護給付費準備基金繰入金を２，５３６万それぞれ計上いたしております。

歳出でございますが、１８ページをお願いします。

１款総務費１項総務管理費は、職員給与費等の人件費、一般事務費等６，７０８万９，０００円、３項介護認定審査会費は、介護認定審査委員の報酬、２０ページをお願いします。意見書作成手数料、認定調査委託料等３，９０３万１，０００円、５項計画策定委員会費は、委員報酬等２２万８，０００円それぞれ計上しております。

２款保険給付費１項介護サービス等諸費は、介護サービス給付費及び特例介護サービス給付費を２７億８，８９１万円、２２ページをお願いします。２項介護予防サービス諸費は、介護予防サービス給付費及び特例介護予防サービス給付費を３億４，５８３万６，０００円、３項その他の

諸費は、審査支払手数料を３６３万６，０００円、４項高額介護サービス等は、高額介護サービス費負担金等を７，８４３万５，０００円、５項高額医療合算介護サービス費は、高額医療合算介護サービス費負担金を９１４万６，０００円、６項特定入所者介護サービス費等は、特定入所者介護サービス費負担金等を、続きまして２４ページをお願いします。１億６，３４０万２，０００円計上いたしております。

４款１項基金積立金は、介護給付費準備基金積立金を１２万４，０００円、６款諸支出金１項償還金及び還付加算金は、過年度分保険料払戻金等６０万２，０００円を計上いたしております。

８款地域支援事業費１項介護予防事業費の２，７０８万６，０００円、２項包括的支援事業・任意事業費の６，７７１万４，０００円は、介護保険地域支援事業特別会計への繰出金を計上しております。

２６ページから３２ページにかけまして、給与費明細書を添付いたしております。

続きまして、議案第１４号、平成２５年度対馬市介護保険地域支援事業特別会計予算について御説明申し上げます。

１ページをお願いします。平成２５年度対馬市の介護保険地域支援事業特別会計予算は、次に定めるところによることを規定し、第１条第１項で歳入歳出予算の総額は歳入歳出それぞれ１億３，６７０万７，０００円と定め、第２項で歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、２ページ及び３ページの「第１表　歳入歳出予算」によるとするものであります。

歳入について御説明申し上げます。

８ページをお願いします。１款繰入金１項他会計繰入金は、介護保険特別会計からの繰入金９，４８０万円、２款１項繰越金は、前年度剰余金を６２６万円、３款諸収入１項サービス事業収入は、介護予防支援事業収入を３，５６４万７，０００円それぞれ計上いたしております。

歳出でございますが、１０ページをお願いします。

１款地域支援事業費１項地域支援事業運営費は、地域包括支援センター３カ所の運営費に要する経費として、嘱託職員、一般職員の人件費、事務費、社会福祉協議会より専門職として派遣をいただいております職員４名分の給与費の負担金等９，６１８万円を計上いたしております。

１２ページをお願いします。２項介護予防事業費は、介護予防２次予防事業、介護予防１次予防事業費等８６７万７，０００円、３項包括的支援事業費・任意事業費は、在宅歯科診療補助金、介護用品支給等の扶助費等で５５８万４，０００円。

１４ページをお願いします。２款介護予防支援費１項介護予防支援サービス事業費は、介護予防支援事業に対する委託料２，６２６万６，０００円を計上しております。

１６ページから２２ページにかけまして、給与費明細書を添付いたしております。

最後に、議案第１５号、平成２５年度対馬市特別養護老人ホーム特別会計予算について御説明

申し上げます。

１ページをお願いします。平成２５年度対馬市の特別養護老人ホーム特別会計予算は、次に定めるところによることを規定し、第１条第１項で歳入歳出予算の総額は歳入歳出それぞれ２億６，６１０万円と定め、第２項で歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、２ページ及び３ページの「第１表　歳入歳出予算」によるとするものであります。

歳入について御説明申し上げます。

８ページをお願いします。３款繰入金１項他会計繰入金は、一般会計からの繰入金を８，４５１万８，０００円、４款１項繰越金は、前年度繰越金を１００万円、５款諸収入１項介護給付費収入は、日吉の里における短期入所生活介護収入、施設介護サービス費収入等を１億５，４２６万４，０００円、２項自己負担金収入は、日吉の里の施設介護サービス費、食事サービス費、居住費等を、１０ページをお願いします。合わせまして２，６３１万７，０００円計上いたしております。

歳出でございますが、１２ページをお願いします。

１款民生費１項社会福祉費は、特養日吉の里に係る嘱託職員、一般職員等の人件費、事務費、施設管理費に関する経費等を２億１，５７９万２，０００円。

１４ページをお願いします。２款１項公債費は、地方債の償還金元金と利子を５，０３０万８，０００円それぞれ計上しております。

１６ページから２２ページにかけまして給与費明細書を、また２４ページ及び２５ページに地方債の前々年度末における現在高、並びに前年度末及び当該年度末における現在高の見込みに関する調書を添付いたしております。

以上、議案第１０号から議案第１５号まで、６件の特別会計予算の内容について説明をさせていただきました。御審議の上、御決定賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（作元　義文君）　説明が終わりましたので、これから質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認め、質疑を終わります。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第７．議案第１６号

○議長（作元　義文君）　日程第７、議案第１６号、平成２５年度対馬市旅客定期航路事業特別会計予算を議題とします。

提案理由の説明を求めます。豊玉地域活性化センター部長、梅野泉君。

○豊玉地域活性化センター部長（梅野　　泉君）　ただいま議題となりました議案第１６号、平成２５年度対馬市旅客定期航路事業特別会計について、御説明申し上げます。

１ページをお願いします。平成２５年度対馬市旅客定期航路事業特別会計は、次に定めるところによることを規定し、第１条で歳入歳出予算の総額は歳入歳出それぞれ３，８２３万３，０００円と定めるものであります。第２項で歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、２ページ、３ページの「第１表　歳入歳出予算」によるとするものであります。

歳入について御説明いたします。８ページ、９ページをお願いします。

１款事業収入１項事業収入の２４４万１，０００円は、旅客運賃及び貨物運賃を計上いたしております。

２款国庫支出金１項国庫補助金の２，１８３万円は、赤字航路事業補助金１，６８４万円及び離島航路構造改革補助金４９９万円でございます。

３款県支出金１項県補助金の６５８万６，０００円は、赤字航路事業に対する県補助金であります。

４款繰入金１項他会計繰入金の７２７万５，０００円は、一般会計からの繰り入れでございます。

１０ページ、１１ページをお願いいたします。５款財産収入１項財産運用収入は、基金利子１，０００円、６款の繰越金は、前年度繰越金１０万円を計上いたしております。

次に、歳出について御説明いたします。

１２ページ、１３ページをお願いします。１款総務費１項総務管理費の２，７６８万４，０００円は、職員及び船員の人件費並びに旅費、旅客船協会等の負担金を計上いたしております。また、建造から２６年を経過し、老朽化している渡海船の今後の運航に関する改善計画書の策定に係る離島航路構造改革調査委託料及び同協議会開催に係る委員報酬、費用弁償も計上いたしております。

１４ページ、１５ページをお願いします。２款施設費１項施設費の１，０４４万９，０００円は、旅客船の運航に必要な燃料費、老朽化に伴う船舶の修繕料が主なものでございます。また４款予備費として１０万円を計上いたしております。

１６ページ以降には給与費明細書を添付しておりますので、御参照方お願いいたします。

以上で説明を終わります。よろしく御審議の上、御決定賜りますようお願い申し上げます。

○議長（作元　義文君）　説明が終わりましたので、これから質疑を行います。質疑はありませんか。１６番、糸瀬一彦君。

○議員（１６番　糸瀬　一彦君）　今の説明ですけど、１３ページですね。１３節、もうちょっと詳しく説明をお願いしたいと思います。

○議長（作元　義文君）　豊玉地域活性化センター部長、梅野泉君。

○豊玉地域活性化センター部長（梅野　　泉君）　ただいま糸瀬議員さんのほうから質問を受けま

したので、お答えいたします。

委託料の構造改革調査委託料の件でございますけれども、実は、老朽化によりまして、船舶建造、リプレイスの方向で計画を立てておるということで、２５年度に構造改革調査事業により航路改善計画書の策定を行いまして、２６年度に船舶の建造等を行うという予定で進めておる状況でございます。

なお、この調査費の４９９万につきましては、５００万限度として全額国庫補助ということで受け入れることになっております。

以上でございます。

○議長（作元　義文君）　いいですか。１６番。はい。ほかに。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　ほかに質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第８．議案第１７号

日程第９．議案第１８号

日程第１０．議案第１９号

○議長（作元　義文君）　次に、日程第８、議案第１７号、平成２５年度対馬市簡易水道事業特別会計予算から、日程第１０、議案第１９号、平成２５年度対馬市水道事業会計予算までの３件を一括議題とします。

提案理由の説明を求めます。水道局長、阿比留誠君。

○水道局長（阿比留　誠君）　一括して議題となりました議案第１７号から議案第１９号の３件は、水道局所管の議案でございますので、続けて御説明いたします。

まず、議案第１７号、平成２５年度対馬市簡易水道事業特別会計予算について御説明いたします。

１ページをお願いします。平成２５年度対馬市簡易水道事業特別会計予算は、次に定めるところによることを規定し、第１条で歳入歳出予算の総額は歳入歳出それぞれ８億６，５８９万３，０００円とするものであります。第２項で歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、２ページ及び３ページの「第１表　歳入歳出予算」によるとするものであります。

第２条地方債の起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は、４ページの「第２表　地方債」によるとするものでございます。

次に、予算の概要を御説明いたします。

８ページをお願いいたします。歳入でございますが、１款分担金及び負担金１項負担金１，０９１万３，０００円は、水道利用加入金及び消火栓設置事業負担金でございます。

２款使用料及び手数料１項使用料４億２，９３３万円は、水道使用料でございます。２項手数料５万５，０００円は、工事竣工検査手数料でございます。

３款国庫支出金１項国庫補助金６，４８０万円は簡易水道事業補助金、５款財産収入１項財産運用収入３万４，０００円は財政調整基金利子でございます。

１０ページをお願いします。６款繰入金１項他会計繰入金２億７，１７６万１，０００円は、公債費償還金などに対する一般会計からの繰入金、２項簡易水道繰入金４，４１０万円は、簡易水道基金繰入金でございます。

７款１項繰越金１００万円は、前年度からの繰越金、８款諸収入１項雑入１，１５０万円は、整備事業に伴う水道移設補償金、９款１項市債３，２４０万円は、簡易水道改良事業債であります。

次に、歳出について御説明いたします。

１４ページをお願いします。１款簡易水道費１項水道管理費１目一般管理費１億５，１４８万円は、職員の人件費、水質検査料、検針及び料金徴収業務委託料、消費税納付金などが主なものであります。

１６ページをお願いします。２目施設管理費１億１，７４０万３，０００円は、水道施設の維持管理経費が主なものであります。

１６ページ及び１８ページの２項１目水道建設費は、２億１，５９１万円で、簡易水道整備事業に係る経費を計上し、施設整備を計画的に実施するものであります。

２款１項公債費３億８，０６０万円は、長期債の償還元金及び償還利子を計上しております。

３款１項予備費として５０万円を計上しております。

２０ページからは給与費明細書などを添付しております。

以上が、議案第１７号の概要であります。

続きまして、議案第１８号、平成２５年度対馬市集落排水処理施設特別会計予算について御説明いたします。

１ページをお願いします。平成２５年度対馬市集落排水処理施設特別会計予算は、次に定めるところによることを規定し、第１条で歳入歳出予算の総額は歳入歳出それぞれ２，３２３万４，０００円とするものであります。第２項で歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、２ページ及び３ページの「第１表　歳入歳出予算」によるとするものでございます。

次に、予算の概要を御説明いたします。

６ページをお願いします。歳入でございますが、１款使用料及び手数料１項使用料２５０万４，０００円は下水道使用料、３款繰入金１項他会計繰入金２，０６５万９，０００円は一般会計からの繰入金、４款１項繰越金１，０００円は前年度繰越金、５款諸収入１項雑入７万円は下水

道加入金であります。

次に、歳出を御説明いたします。

８ページをお願いします。１款下水道事業費１項下水道管理費１目一般管理費１４万９，０００円は、下水道使用水量の検針及び集金委託料など、２目施設管理費７５１万４，０００円は、処理施設の維持管理経費が主なものであります。

２款１項公債費１，５５７万１，０００円は、長期債償還元金利子を計上しております。

１０ページは地方債の調書を添付いたしております。

以上が、議案第１８号の概要であります。

最後に、議案第１９号、平成２５年度対馬市水道事業会計予算について御説明いたします。

１ページをお願いします。第１条、平成２５年度対馬市水道事業会計予算は、次に定めるところによります。第２条、業務の予定量は、給水戸数６，２８４戸、年間総配水量１９４万２，８７４立方メートル、１日平均給水量５，３５５立方メートルであります。

主要な建設改良事業は１億５，０６０万円で、その概要は、施設整備事業が２，４６０万円、久和簡易水道基幹改良事業が１億２，６００万円と予定しております。

次に、第３条で水道事業収益２億７，９８０万１，０００円、水道事業費用２億７，４１１万３，０００円と予定額を定めております。

第４条で資本的収入を１億３，５１５万４，０００円、資本的支出を１億８，２６３万９，０００円と予定額を定めております。

資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額４，７４８万５，０００円は、当年度分消費税資本的収支調整額４５５万円、過年度分損益勘定留保資金４，２９３万５，０００円で補填するものであります。

２ページをお願いします。第５条で企業債、起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法について定め、第６条で一時借入金の限度額を１億円と定め、第７条は予定支出の各項の経費の流用について定め、第８条は議会の議決を経なければ流用できない経費の指定を、第９条は、たな卸資産の購入限度額を１，０００万円と定めるものであります。

以上、地方公営企業法第２４条第２項の規定により提案するものであります。

４ページから予算に関する説明書を、また１９ページから参考資料として予算補足資料を添付いたしております。

以上で、議案第１７号、議案第１８号、議案第１９号の特別会計予算の概要について説明をさせていただきました。よろしく御審議の上、御決定いただきますようお願い申し上げます。

○議長（作元　義文君）　説明が終わりましたので、これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。質疑を終わります。

議案第１０号から１９号までの１０件は、配付しております議案付託表のとおり、所管の常任委員会に付託します。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第１１．議案第２０号

日程第１２．議案第２１号

日程第１３．議案第２２号

日程第１４．議案第２３号

日程第１５．議案第２４号

日程第１６．議案第２５号

日程第１７．議案第２６号

日程第１８．議案第２７号

日程第１９．議案第２８号

日程第３２．議案第４１号

○議長（作元　義文君）　次に、日程第１１、議案第２０号、対馬市移動通信用鉄塔施設条例の一部を改正する条例から、日程第１９、議案第２８号、対馬市消防団員の定員、任命、給与、服務等に関する条例の一部を改正する条例までの９件、及び日程第３２、議案第４１号、対馬林業開発促進資金貸付条例の一部を改正する条例の１０件を一括議題とします。

提案理由の説明を求めます。総務部長、桐谷雅宣君。

○総務部長（桐谷　雅宣君）　ただいま一括して議題となりました議案中、議案第２０号、並びに議案第２１号につきましては、総務部に関係するものでございます。あわせまして説明を申し上げます。

まず、議案第２０号でございます。議案集３ページに掲載をしておりますので、よろしくお願いいたします。

議案第２０号、対馬市移動通信用鉄塔施設条例の一部を改正する条例について、提案理由とその内容を御説明いたします。

このたびの改正は、平成２４年度におきまして上対馬町管内並びに上県町管内に整備をしておりました移動通信用鉄塔施設が、このたび完成をする運びとなりました。したがいまして、当該施設であります対馬市移動通信用鉄塔施設の無線基地局４カ所について、議案のとおり第２条の表に追加いたしたく、当該条例の一部を改正するものでございます。

なお、今回追加をいたします基地局は、対馬茂木無線基地局、田ノ浜無線基地局、対馬中山無

線基地局、対馬中山西無線基地局の４カ所でございます。

続きまして、議案第２１号について御説明いたします。

議案集５ページをお願いいたします。議案第２１号、対馬市職員の旅費に関する条例の一部を改正する条例について、その提案理由と内容について御説明を申し上げます。

近年、九州新幹線、鹿児島ルートでございますけれども、の全線開通などによりまして、交通機関の発達、手段の多様化は、大変目まぐるしいものがございます。このような社会一般の情勢に適応するため、また他の地方公共団体の職員との間に均衡を失しないよう、適切な措置を講ずるように定められました地公法の情勢適応の原則、均衡の原則等に基づきまして、職員の旅費について所要の改正を行おうとするものでございます。

改正の内容について御説明を申し上げます。

第１５条についてでございますが、新幹線料金適応についての改正でございます。

現条例では、新幹線料金の適応は、片道２００キロメートル以上の場合と定めてございます。２００キロメートル未満の区間でも、新幹線を利用することによりまして、日程の短縮等が見込める場合がございます。このため、公務上必要と見られる場合につきましては、片道２００キロメートル未満でも新幹線を使用できるというようにするものでございます。

第１８条は、車賃の改正でございます。

現在、車賃は、１キロメートルにつき、６０円と規定をしてございますが、これを国、県、並びに県内各市の状況を踏まえ、４０円に直すというものでございます。

続きまして、別表第１、日当の改正でございます。

日当、宿泊料は、物価等の差を調整する目的で、甲地・乙地の区分が設けられておりますが、日当につきましては、主に昼食費及び目的地内を循環する場合の交通費等を賄うという性質のことから判断いたしますと、宿泊費ほどの大きな差はなく、あえて区分する必要はないものと考えられます。

また、長崎県内の各市におきましても、区分を設けているのは、現在は対馬市のみであるということも鑑み、日当の甲地・乙地の区分を廃止をしようとするものでございます。

なお、附則におきまして、施行日を平成２５年４月１日と定めております。

以上、簡単ではございますが、説明を終わります。よろしく御審議の上、御決定賜りますようお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　教育部長、豊田充君。

○教育部長（豊田　　充君）　議案第２２号、対馬市体育施設条例の一部を改正する条例について、御説明いたします。

平成２４年９月の定例会において、対馬市立佐護小学校・中学校が、佐須奈小学校・中学校へ、

平成２５年４月１日に統合することに伴う対馬市立学校教育施設条例の一部改正を議決いただいたところであります。

議案集の７ページをお開きください。平成２５年３月３１日をもって閉校する佐護小・中学校の現学校体育館を地域住民の健康づくりの社会教育の体育施設として活用するため、対馬市体育施設条例の一部を改正する条例を提案するものでございます。

別表第１、「対馬市上県体育館」の項の次に、「対馬市佐護体育館、上県町佐護北里９９３番地」を加えるものでございます。

以上で、提案理由の説明とさせていただきます。

○議長（作元　義文君）　福祉保健部長、多田満國君。

○福祉保健部長（多田　満國君）　一括して議題となりました議案中、議案第２３号、対馬市へき地保育所条例の一部を改正する条例について、御説明申し上げます。

議案集の９ページをお願いいたします。今回、改正をお願いいたしますへき地保育所条例につきましては、設置規定の改正を行うものでございます。

近年、交付金・交付要綱等の名称が変わる中で、条例の本則の改正が必要がなくても、名称変更のたびに条例の一部改正がたびたび生じております。

新旧対照表の５ページを御参照願います。

対照表に記載のとおり、第１条の全部を改正するもので、今後において、交付金等の名称のみの改正が生じないように改めるものでございます。

なお、附則で施行日を２５年の４月１日としております。

以上、簡単でございますが、説明を終わります。御審議の上、御決定賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（作元　義文君）　農林水産部長、比田勝尚喜君。

○農林水産部長（比田勝尚喜君）　ただいま一括して議題となりました議案のうち、議案第２４号、対馬林業開発促進資金融資損失補償条例の一部を改正する条例について、その提案理由を御説明いたします。

議案集の１１ページをお願いいたします。本議案は、第２条中、農林漁業金融公庫が合併されて、株式会社日本政策金融公庫と名称変更になっていることを受けての改正、及び同条中、農林漁業資金（造林資金をいう）を現状の資金メニューの中での造林資金や森林整備活性化資金等、広く対応するために農林漁業資金に改めるものでございます。

続きまして、議案第４１号でございます。

別冊で配付されております１ページをお願いいたします。対馬林業開発促進資金貸付条例の一部を改正する条例について、御説明いたします。

本議案につきましても、議案第２４号と同じく、第３条中、「農林漁業金融公庫」を「株式会社日本政策金融公庫」と改めるものでございます。よろしく御審議の上、御決定いただきますようよろしくお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　暫時休憩します。開会を１１時１０分から。

午前10時57分休憩

午前11時09分再開

○議長（作元　義文君）　再開します。

次に、観光物産推進本部長、本石健一郎君。

○観光物産推進本部長（本石健一郎君）　ただいま一括議題となりました議案第２５号、対馬市公園等設置条例の一部を改正する条例につきまして、提案理由とその内容について御説明申し上げます。

議案集は１３ページとなっています。今回の改正は、豊玉町神話の里自然公園内の烏帽子岳展望台、上県町棹崎公園及び異国の見える丘展望台、並びに上対馬町鰐浦園地の韓国展望所の４カ所に設置されております双眼鏡、望遠鏡の項目を削除するものでございます。参考資料は、８ページから９ページでございます。

それぞれの展望所におきまして、開設時より直後から観光客への便宜を図るため、使用料１００円で1回3分間程度の遠望を楽しむことができるように設置されましたが、増加する観光客へのサービスの一環として無料開放へと移行するものでございます。

また、そのほかの理由といたしまして、維持管理におきます有料がゆえの故障もたびたび発生しており、これに対応します各センター職員に大変な手間がかかっている現状もございます。さらに、職員や市内業者では、修理が不可能な場合もございます。収支におきましても、対費用効果等を考慮すると、無料にすることが妥当と考えまして、今回の条例改正をお願いするものでございます。

以上、簡単ですが、提案理由の説明を終わります。よろしく御審議くださいますようお願い申し上げます。

○議長（作元　義文君）　建設部長、堀義喜君。

○建設部長（堀　　義喜君）　ただいま一括議題となりました議案のうち、議案第２６号、並びに議案第２７号の２議案につきまして、提案理由とその内容について説明申し上げます。

この一部改正の２議案につきましては、地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律、略称地域主権一括法により、関係法律が改正され、従来国が一律に定めていた設置基準、維持管理基準につきまして、関連法令を参酌し、地方公共団

体の条例により定めることになっております。このことによりまして、条例の一部を改正をするものでございます。

議案集の１５ページをお願いいたします。

はじめに、議案第２６号、対馬市都市下水路条例の一部を改正する条例でございますが、地域主権一括法による下水道法の一部改正により、都市下水路の構造の技術上の基準及び維持管理に関する基準につきまして、市の条例に委任されたことに伴い、現行条例の第２条の次に都市下水路の構造基準、適用除外、都市下水路の維持管理の基準に関する３条を追加するものでございます。

附則といたしまして、平成２５年の４月１日から施行するといたしております。

次に、議案第２７号、対馬市都市公園条例の一部を改正する条例について説明いたします。

議案集の１７ページをお願いいたします。同じく地域主権一括法による都市公園法の一部改正により、都市公園の設置基準等が市の条例に委任されたことに伴い、現行条例の第１条の次に、都市公園の設置基準、公園施設の設置基準の２条を追加するものでございます。

附則といたしまして、公布の日から施行するといたしております。

以上、簡単でございますが、議案第２６号並びに議案第２７号の２議案についての説明を終わります。よろしく御審議の上、御決定賜りますよう願い申し上げます。

○議長（作元　義文君）　消防長、竹中英文君。

○消防長（竹中　英文君）　続きまして、議案第２８号、対馬市消防団員の定員、任命、給与、服務等に関する条例の一部を改正する条例につきまして、提案理由と内容を御説明申し上げます。

議案集２１ページをお願いいたします。このたびの改正は、現在消防団員の出動手当の支給対象が火災出動のみとなっておりますので、大雨のときの水害等の対処であります災害防御出動、行方不明者を探す人命検索出動、事前予測が可能であります台風等の襲来に備えた警戒や災害待機活動に対する出動手当を加えるものであります。また、活動内容や拘束される時間に応じまして手当を増減するものでございます。

附則に施行期日を定め、参考資料として新旧対照表を添えております。

大変簡単でございますが、説明を終わります。御審議の上、御決定賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（作元　義文君）　説明が終わりましたので、これから質疑を行います。

まず、議案第２０号から２４号までの５件について質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。

次に、議案第２５号から２８号までの４件、及び議案第４１号について質疑はありませんか。

２番、脇本啓喜君。

○議員（２番　脇本　啓喜君）　議案第２５号なんですが、今、有料になっているその双眼鏡を無料化するということについてですが、これは一応一括という、委員会付託になっていませんので、質問させていただきます。

これは、大体どのぐらいの利用があっているのか、それからどのぐらいの頻度でその故障が起こって、それにどのぐらいの修繕費用がかかってきているのか、その点を一応議会のほうにも説明をしていただいて、そして審議という形が妥当かと思いますが、その点について質問をいたします。

それからもう一点、こちらは、議案第２８号、消防団員の定員、任命等々のところですが、これは、以前からお願いをしていた件だと思うんですけど、やはり消防だけではなくて、台風とかそういうことについての出動手当がないがゆえに、なかなかその分団長、団長のほうから出動をしたほうがいいところを頼みにくいという話があっていましたので、これは、本当にいい改正をしていただいていると思いますので、賛成を皆様方にもお願いしたいということで、言わせていただきます。

以上です。

○議長（作元　義文君）　観光物産推進本部長、本石健一郎君。

○観光物産推進本部長（本石健一郎君）　今、ただいま脇本議員さんから御質問のありました件について、お答えいたします。

利用状況というか、この４年間、４カ所については、ばらつきがございますけれども、２１年度から２４年度、途中なんですけれども、４カ所で大体三十五、六万円の収入があっております。

それで、故障の頻度ということですけれども、軽微なものでは、コインが詰まったりとか、ガムをなすりつけておるとか、いろんな職員だけでできるような部分がございますけれども、特に見えないというような苦情が各センターに来ているようでございまして、職員がいるときはいいんですけれども、なかなか即スピードのある対応ができていないということも再々あっております。頻度については、かなりあるというようなことに聞いております。

大きな故障というのは、上対馬の鰐浦園地の分で、２３年度には、レンズの取りかえとかもろもろで４６万ばかりの支出があっております。費用については、ほかはそういうふうな大きなところはそこなんですけれども、故障の頻度等については、職員で対応できる分はしているんですけれども、大きな部分については、また島内ではできないという非常に苦しい問題がございますので、サービスの一環ということで御理解をお願い申し上げたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（作元　義文君）　２番、脇本啓喜君。

○議員（２番　脇本　啓喜君）　今お聞きしたところによると、収入よりも修繕費のほうがかかっているようなところも伺えます。ただ、その故障が多いのでなかなか収入もあっていないということもあるかとは思うんですが、それは、もういたし方がないかとは思うんですが、こういうときに、今口頭でされましたが、ある程度議会に理解していただこうというのであれば、今口頭で答えたようなものについても、その説明のときに言っていただければ、質問もせずに済むと思いますので、今この４年間こういうふうな状況だったということ、特にこれは、１審議ですので、その辺はスムーズにいくようにお願いしたいと思います。

それから、先ほどの豊玉の活性化センターも一緒だと思います。後から質問があって、新造船の計画があるということを自席に戻って説明するのではなくて、説明のときにこういうことも考えているというのは、予算の説明のときにしていただければ、こちらから質問するということもなくて済むかと思いますので、スムーズな審議のためにもその辺は気をつけるようにしていただきたいと思います。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　ただいまの御指摘、まことにそのとおりだと思います。

今回のこの件につきましては、１５万人ほどの韓国の航路を使って入ってきていただいている方たちに対しての、ある意味、サービス、もてなしの一環という形ですることのほうが、より効果が上がるだろうと思うし、毀損されることもやはりあるわけですね。どうしても使用料とそういう思いと、動かないときとか、見えないときとか、いろんな問題があるものですから、逆に犯罪を邪気しないためにも、無料という方向性のほうが、さまざまなトラブルというのが起こらないのかなというふうにも考えたところです。

また、出国の際に施設使用料を２００円ずついただいております。これは、出国の施設使用料という形ではございますけれども、それらの島内に入ってこられてからのさまざまなサービスというものに、振り向けていくということも意味しているところがありますので、そういう面において、現在において１５万人、２００円といいますと、それなりの金額になっておりますので、それらを全体を勘案して、あえて無料というふうなことに踏み切ったところでございますが、今おっしゃられるように、議会に対する事前のお話をしとけばよかったなと、ただ単に喜ばれる問題かなというふうな安易な考えが、私どもにあったんだろうというふうに思っております。申しわけございませんでした。

○議長（作元　義文君）　１６番、糸瀬一彦君。

○議員（１６番　糸瀬　一彦君）　関連ですけど、先ほど部長の説明では、どうも修理費がかかるし、思わぬ事故も起こったような感じの説明でしたけど、私は結構なことだと思っていますよ、ただにすることは。これには賛成ですけど、今後の維持管理をどのような考え方か。市長の今の

答弁からいくと、やっぱり今後も維持管理はちゃんとおもてなしの心でやっていかれるわけでしょうから、修理はちゃんとされるわけでしょうけど、その点だけをお尋ねしたいと思います。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　修理をしないというふうな話では全くありませんし、ただし、大きな毀損という問題もやはり起こるやもしれませんし、さまざまなこのような国境の島においていろんな問題が起こることもあります。そのときの状況も考えながらやっていきたいと思っていますが、基本的には、もてなす心でしっかりと対応はしていきたいと思っております。

○議長（作元　義文君）　ほかに。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

お諮りします。ただいま一括議題となっております１０件は、委員会への付託を省略したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。１０件は委員会への付託を省略することに決定しました。

これから１０件について、各案ごとに討論、採決を行います。

まず、議案第２０号、対馬市移動通信用鉄塔施設条例の一部を改正する条例について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認め、採決します。本件は、原案のとおり決定したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。本件は原案のとおり可決されました。

次に、議案第２１号、対馬市職員の旅費に関する条例の一部を改正する条例について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認め、採決します。本件は、原案のとおり決定したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。本件は原案のとおり可決されました。

議案第２２号、対馬市体育施設条例の一部を改正する条例について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認め、採決します。本件は、原案のとおり決定したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。本件は原案のとおり可決されました。

議案第２３号、対馬市へき地保育所条例の一部を改正する条例について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認め、採決します。本件は、原案のとおり決定したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。本件は原案のとおり可決されました。

議案第２４号、対馬林業開発促進資金融資損失補償条例の一部を改正する条例について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認め、採決します。本件は、原案のとおり決定したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。本件は原案のとおり可決されました。

議案第２５号、対馬市公園等設置条例の一部を改正する条例について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認め、採決します。本件は、原案のとおり決定したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。本件は原案のとおり可決されました。

議案第２６号、対馬市都市下水路条例の一部を改正する条例について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認め、採決します。本件は、原案のとおり決定したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。本件は原案のとおり可決されました。

議案第２７号、対馬市都市公園条例の一部を改正する条例について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認め、採決します。本件は、原案のとおり決定したいと思い

ます。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。本件は原案のとおり可決されました。

議案第２８号、対馬市消防団員の定員、任命、給与、服務等に関する条例の一部を改正する条例について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認めます。採決します。本件は、原案のとおり決定したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。本件は原案のとおり可決されました。

議案第４１号、対馬林業開発促進資金貸付条例の一部を改正する条例について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認め、採決します。本件は、原案のとおり決定したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。本件は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第２０．議案第２９号

日程第２１．議案第３０号

日程第２２．議案第３１号

日程第２３．議案第３２号

日程第２４．議案第３３号

日程第２５．議案第３４号

日程第２６．議案第３５号

日程第２７．議案第３６号

日程第２８．議案第３７号

○議長（作元　義文君）　次に、日程第２０、議案第２９号、対馬市子ども夢づくり基金条例から、日程第２８、議案第３７号、対馬市布設工事監督者及び水道技術管理者の資格基準に関する条例までの９件を一括議題とします。

提案理由の説明を求めます。教育部長、豊田充君。

○教育部長（豊田　　充君）　議案第２９号、対馬市子ども夢づくり基金条例について、提案理由

を御説明いたします。

子供たちの文化・スポーツ活動及び体験交流活動事業等につきましては、今までそれぞれの所管の担当部において、補助金等を予算に計上し、その活動への支援を行ってきたところであります。

今後は、子供たちは地域の宝の観点から、さまざまな分野の活動に対する支援を総合的な連携によるバックアップ体制づくりを進めていくこととしております。

子供たちは、対馬の将来を支える宝でもあり、未知なる可能性を秘めております。そこで、対馬の将来を担う青少年の健全な育成を図るため、文化活動、体験活動、国際交流活動及びスポーツ活動のあらゆる分野での活動を可能にし、対馬の子供たちに夢ある未来づくりに寄与するための基金を設立するものでございます。

提出条例案の概要を説明させていただきます。

議案集２３ページをお開きください。第１条の設置では基金の目的、第２条の積立てでは基金として積み立てる額、第３条では基金の管理、第４条では運用益金の処理、第５条の処分では基金の処分、第６条では繰替運用、第７条の運営委員会では、基金の運営に関する基本的事項を審議するための委員の数、任期、そして第８条の委任で、基金の管理に関し、必要な事項は市長が別に定めることとしております。

附則では、本条例の施行日を平成２５年４月１日としております。

なお、基金の積立てにつきましては、平成２５年度予算の早い時期に基金を積み立て、それぞれの事業に充てることとしております。

議員の皆様におかれましては、提案の趣旨を御理解いただき、御賛同を賜りますようお願い申し上げ、提案理由の説明とさせていただきます。

○議長（作元　義文君）　福祉保健部長、多田満國君。

○福祉保健部長（多田　満國君）　ただいま一括議題となりました議案第３０号及び議案第３１号の２議案につきまして、その提案理由と内容について、御説明申し上げます。

議案集の２５ページをお願いいたします。はじめに、議案第３０号、対馬市指定地域密着型サービス事業の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例についてでございますが、平成２３年において、地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律、及び介護サービスの基盤強化のための介護保険法等の一部を改正する法律が制定されました。

これまで介護保険法や厚生労働省令で定められていた介護サービス事業に関する基準等を都道府県や市町村の条例で定め、平成２５年４月１日までにその条例を施行することとされたものであります。

内容につきまして、御説明申し上げます。

条例案は、第１章から第９章までの全２０３条及び、附則で構成をしております。

２６ページをお願いいたします。第１章の第１条から第４条までは、条例の趣旨、定義、指定地域密着型サービス事業者の要件や、事業の一般原則を定めています。

第２章から第９章までは、それぞれサービスの種類についての規定であります。

２８ページをお願いします。第２章の第５条から第４５条までは、定期巡回、随時対応型訪問介護・看護について、その基本方針、人員や運営等に関する基準を定めています。

５２ページをお願いします。第３章の第４６条から第６０条までは、夜間対応型訪問介護についてでございますが、内容につきましては、この第３章以降は、第２章と同様の基準等を網羅しておりますので、割愛をさせていただき、以後サービス事業のみの説明をさせていただきたいと思います。

６０ページをお願いします。第４章の第６１条から第８１条までは、認知証対応型通所介護について、７２ページをお願いします。第５章の第８２条から第１０９条までは、小規模多機能型居宅介護について、８９ページをお願いします。第６章の第１１０条から第１２９条までは、認知症対応型共同生活介護について、１００ページをお願いします。第７章の第１３０条から第１５０条までは、地域密着型特定施設入居者生活介護について、１１３ページをお願いします。第８章の第１５１条から第１９０条までは、地域密着型介護老人福祉施設入居者生活介護について、１４１ページをお願いします。第９章の第１９１条から第２０３条までは、複合型サービスについて、それぞれ提供されるサービスについて規定しています。

本条例は、住み慣れた地域での生活を支えるため、身近な市町村で提供されることが、適切な介護保険のサービスとして制定するものでございます。

附則で、条例の施行日を平成２５年４月１日からといたしております。

続きまして、議案第３１号、対馬市指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準等を定める条例の内容について、御説明申し上げます。

議案集の１５３ページをお願いいたします。介護保険法の改正によって、介護予防の観点から、新設されました予防給付は、介護予防サービスと地域密着型介護予防サービスに分類されます。

地域密着型介護予防サービスは、地域の特性に応じ、多様で柔軟なサービスが、市町村によって提供されるよう新設された地域密着型サービスの予防版でございます。

本条例案は、第１章から第４章までの全９１条、及び附則で構成しております。

第１章の第１条から第４条までは、条例の趣旨、定義、指定地域密着型介護予防サービス事業者の要件や事業の一般原則を定めています。

第２章から第４章までは、それぞれサービスの種類についての規定でございます。

１５５ページをお願いします。第２章の第５条から第４３条までは、介護予防認知症対応型通所介護について規定しています。

１７６ページをお願いします。第３章の第４４条から第７０条までは、介護予防小規模多機能型居宅介護について、１９４ページをお願いします。第４章の第７１条から第９１条までは、介護予防認知症対応型共同生活介護について、それぞれ定めています。

いずれのサービスも利用者の方々が、住み慣れた地域で生活できるよう、介護予防のための効果的な支援の方法を定め、一番身近な市町村がサービスを提供できるよう条例を制定するものでございます。

附則で、条例の施行日を平成２５年４月１日からといたしております。

以上で提案理由の説明を終わります。御審議の上、御決定賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（作元　義文君）　建設部長、堀義喜君。

○建設部長（堀　　義喜君）　ただいま一括議題となりました議案のうち、議案第３２号から第３６号までの５議案につきまして、提案理由とその内容について説明申し上げます。

はじめに、議案第３２号、対馬市市道の構造の技術的基準等を定める条例でございますが、地域主権一括法による道路法の改正により、道路の構造に係る技術基準及び道路標識の寸法が、市の条例に委任されたことに伴い、新たに条例を制定するものでございます。

それでは、条文の説明をさせていただきます。

第１条では、本条の趣旨について、第２条の用語の定義、第３条の道路区分につきましては、道路構造令によることを定めております。

第４条から第５条までは、車線の基準について、第６条から、２２４ページの第３７条までは、副道、路肩、橋、高架などの道路施設の各項目に関する基準を規定しております。

第３８条から、２２５ページの第３９条までは、特例について、第４０条から、２２６ページの第４１条までは、自転車、歩行者の専用道路の基準について、第４２条は、道路標識の寸法について規定をしております。

第４３条の委任では、必要な事項は、市長が定めると規定をしております。

附則といたしまして、公布の日から施行するといたしております。

次に、議案第３３号、対馬市移動等円滑化のために必要な道路の構造に関する基準を定める条例でございます。

議案集の２２７ページをお願いいたします。同じく地域主権一括法による高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律、通称バリアフリー法の一部改正により、移動等の円滑化の

ために必要な道路の構造基準が、市の条例に委任されたことに伴い、新たに条例を制定するものでございます。

条文の説明をさせていただきます。

第１条では、本条例の趣旨について、第２条は、用語の定義について、第３条から２２９ページの第１０条までは、歩道の基準について、第１１条から２３４ページの第１６条までは、立体横断施設の基準について規定をしております。

第１７条から第１８条までは、乗り合い自動車停留所の基準について、第１９条から２３８ページの第２９条までは、自動車駐車場の基準について、第３０条から２３９ページの第３３条までは、案内標識、休憩施設、照明施設等について規定をしております。

第３４条の委任では、必要な事項は、市長が定めると規定をしております。

附則で公布の日から施行すると規定をいたしております。

次に、議案第３４号、対馬市準用河川に係る河川管理施設等の構造の技術的基準を定める条例でございます。

議案集の２４１ページをお願いいたします。これも同じく地域主権一括法による河川法の一部改正により、準用河川の管理上、必要とされる一般的・技術的基準が、市の条例に委任されたことに伴い、新たに条例を制定するものでございます。

それでは、条文の説明をさせていただきます。

第１条では、本条例の趣旨について、第２条は、用語の定義について、第３条から２４４ページの第１５条までは、堤防の基準について、第１６条から２４５ページの第１９条までは、床止めの基準について規定をいたしております。

第２０条から２４６ページの第２６条までは、堰の基準について、第２７条から２４８ページの第３３条までは、水門・樋門の基準について規定をいたしております。

それから、３４ページから２５０ページの第４０条までは、橋の基準について、第４１条から第４３条までは、適用除外、特例について規定をいたしております。

第４４条の委任では、必要な事項は、市長が定めると規定をいたしております。

なお、附則として、公布の日から施行するといたしております。

次に、議案第３５号、対馬市営住宅条例でございます。

議案集の２５３ページをお願いいたします。これも同じく地域主権一括法による公営住宅法の一部改正により、公営住宅の入居収入基準と公営住宅等の整備基準が、市の条例に委任をされております。現行の対馬市営住宅管理条例では、管理に関する規定が主でございますが、これに新たに公営住宅等を建設する際の整備基準を定めるため、対馬市営住宅管理条例の名称を対馬市営住宅条例に改めるものでございます。

また、本条例は、公営住宅法を基準法といたしておりますが、住宅地区改良法に基づく改良住宅も管理いたしておりますので、これに伴う条文の変更箇所が多いことから、全部改正を行うものでございます。

主な改正内容について御説明いたします。

２５４ページの第３条で、市営住宅等建設する際の整備基準を追加いたしております。

２５５ページの第６条で、公営住宅の入居収入基準及び裁量階層の対象範囲を規定いたしております。

２５９ページの第１１条で、改良住宅の入居収入基準及び裁量階層の対象範囲について、規定をいたしております。

２６１ページの第１３条では、同居承認をしてはならない収入基準を規定いたしております。

以上の４項目が主な改正内容となっております。

なお、附則といたしまして、平成２５年４月１日施行といたしております。

詳しくは、別添の一部改正新旧対照表の１５ページを参照方、よろしくお願いいたします。

最後に、議案第３６号、対馬市都市公園に係る移動等円滑化のために必要な特定公園施設の設置に関する条例について、御説明申し上げます。

議案集の２７７ページをお願いいたします。地域主権一括法による高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律、通称バリアフリー法の一部改正により、都市公園に係る移動等の円滑化のために必要な特定公園施設の設置基準が、市の条例に委任されたことに伴い、新たに条例を制定するものでございます。

条文の説明をさせていただきます。

第１条では、本条例の趣旨について、第２条は、用語の定義について、第３条から２８５ページの第１３条までは、各公園施設の設置基準、構造基準を規定しております。

第１４条は、適用除外について、第１５条の委任では、施行について必要な事項は市長が定めると規定をいたしております。

附則として、公布の日から施行するといたしております。

以上、簡単でございますが、議案第３２号から第３６号までの説明を終わります。よろしく御審議の上、御決定賜りますようお願い申し上げます。

○議長（作元　義文君）　水道局長、阿比留誠君。

○水道局長（阿比留　誠君）　一括して議題となりました議題のうち、議案第３７号、対馬市布設工事監督者及び水道技術管理者の資格基準等に関する条例につきまして、提案理由と内容を御説明申し上げます。

議案書の２８７ページをお願いいたします。このたびの条例制定につきましては、地域の自主

性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律、いわゆる第２次地域主権改革一括法による水道法改正により、従来水道法及び同施行令等に規定されていた水道布設工事監督者の配置基準及び資格基準と水道技術管理者の資格基準について、条例で定めることとされたことを受けて、新規条例として制定するところであります。

内容について、御説明いたします。

第１条で本条例の趣旨について、第２条で布設工事監督者を配置する工事について、第３条で布設工事監督者の資格について、２８９ページ、第４条で水道技術管理者の資格について定めております。

附則で条例の施行日を平成２５年４月１日と定めようとするものでございます。

以上、簡単でございますが、説明を終わります。御審議の上、御決定賜りますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　説明が終わりました。９件に対する一括質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認め、質疑を終わります。

ただいま一括議題となっております９件は、配付しております議案付託表のとおり各常任委員会に付託します。

昼食のため暫時休憩します。再開は午後１時から。

午前11時56分休憩

午後０時58分再開

○議長（作元　義文君）　再開します。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第２９．議案第３８号

日程第３０．議案第３９号

日程第３１．議案第４０号

日程第３３．議案第４２号

○議長（作元　義文君）　日程第２９、議案第３８号、辺地に係る公共的施設の総合的な整備計画についてから、日程第３１、議案第４０号、長崎県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少についてまでの３件、及び日程第３３、議案第４２号、漁港区域内公有水面の埋立てについて（伊奈漁港）の４件を一括議題とします。

提案理由の説明を求めます。地域再生推進本部長、平間壽郎君。

○地域再生推進本部長（平間　壽郎君）　ただいま一括議題となりました議案第３８号、辺地に係る公共的施設の総合的な整備計画について、提案理由を御説明申し上げます。

本案は、辺地に係る公共的施設の総合整備のための財政上の特別措置等に関する法律第３条第１項の規定により、議会の議決を求めるものでございます。

今回提案しております２２の辺地のうち、阿連、卯麦、久和、琴、雞知、佐志賀、糸瀬、三根、大山、大調、唐洲、内院、比田勝、箕形の１３辺地が新規計画でございまして、伊奈、厳原、今里、佐護、仁位、仁田、津和、田、豊の９辺地が変更計画でございます。

各辺地の事業内容を御説明いたします。

総合整備計画書をごらんいただきたいと思います。

２９４ページをお願いいたします。まず阿連辺地からの新規計画でございますが、現在、阿連へき地保健福祉館として利用している集会施設を改修する計画でございます。

次に、卯麦辺地でございますが、県道唐崎岬線改良工事に伴い、防火水槽を移転する計画でございます。

次に、久和辺地でございますが、老朽化した簡易水道の改良事業、小学校の統合に伴う児童の交通手段の確保のためのスクールバス導入、久和簡易水道基幹改良事業において行われる消火栓設置工事への負担金に伴う計画でございます。

なお、スクールバス導入につきましては、この久和辺地を含め、４辺地での導入を計画しておりますことから、事業費は同額での計上といたしております。

また、消火栓設置工事負担金においても、この久和辺地を含め、２辺地での整備を計画しておりますことから、本事業は同額での計上としております。

次に、２９７ページの琴辺地でございますが、携帯電話使用不可能地区の解消のための移動通信用鉄塔施設整備に伴う計画でございます。

なお、移動通信用鉄塔施設整備は、この琴辺地を含め３辺地での整備を計画しておりますことから、本事業は、３辺地とも同額での計上となります。

続きまして、雞知辺地でございますが、老朽化により機能が低下している製氷・貯氷施設の新規整備、小型動力ポンプ付積載自動車の経年劣化による更新に伴う計画でございます。

なお、この小型動力ポンプ付積載車の更新につきましては、この雞知辺地を含め、６辺地での更新を計画しておりますことから、事業費は同額での計上といたしております。

続きまして、２９９ページの佐志賀・糸瀬辺地でございますが、先ほどの雞知辺地と同様の小型動力ポンプ付積載自動車の経年劣化による更新に伴う計画でございます。

続きまして、三根辺地でございますが、消防団拠点施設の新規整備と年間を通じて、昼夜を問わず消火・礼式訓練ができます訓練所を整備する計画でございます。

なお、消防団拠点施設の新規整備につきましては、この三根辺地を含め、２辺地での整備を計画しておりますことから、事業費は同額での計上といたしております。

続きまして、３０１ページの大山辺地でございますが、小型動力ポンプ積載車の経年劣化による更新に伴う計画でございます。

なお、この小型動力ポンプ積載車の更新につきましては、この大山辺地を含め、２辺地での更新を計画しておりますことから、事業費は同額での計上といたしております。

続きまして、３０２ページの大調辺地、それと３０３ページの唐洲辺地でございますが、先ほど申し上げました雞知辺地と同様の小型動力ポンプ付積載自動車の経年劣化による更新に伴う計画でございます。

続きまして、３０４ページの内院辺地でございますが、先ほど久和辺地で申し上げました小学校の統合に伴う児童の交通手段の確保のためのスクールバス導入に伴う計画でございます。

続きまして、３０５ページ、比田勝辺地及び３０６ページの箕形辺地でございますが、先ほど申し上げました雞知辺地と同様の小型動力ポンプ付積載自動車の経年劣化による更新に伴う計画でございます。

続きまして、３０７ページの伊奈辺地からの変更計画でございますが、先ほど新規計画で申し上げました琴辺地と同様の携帯電話使用不可能地区の解消のための移動通信用鉄塔施設整備の追加に伴い、事業費を９，９８６万９，０００円追加し、８億５，４８６万９，０００円に、辺地対策事業債予定額を１，１１０万円追加しまして１億９，９８０万円に変更するものでございます。

続きまして、３０８ページの厳原辺地でございますが、先ほど新規計画で申し上げました久和辺地と同様の老朽化した簡易水道改良事業に伴い、消火栓の布設替えのため、事業費を２５０万円追加し、２，３２５万７，０００円に、辺地対策事業債予定額を２５０万円追加し、２，３２０万円に変更するものでございます。

続きまして、３０９ページの今里辺地でございますが、先ほど新規計画で申し上げました久和辺地と同様に、小学校の統合に伴う児童の交通手段の確保のためのスクールバス導入に伴い、事業費を４，６４０万８，０００円追加し、４億４，９７５万８，０００円に、辺地対策事業債予定額を３，１５０万円追加し、６，７８０万円に変更するものでございます。

続きまして、３１０ページの佐護辺地でございますが、先ほどの今里辺地と同様に小学校の統合に伴う児童の交通手段の確保のためのスクールバス導入に伴い、事業費を４，６４０万８，０００円追加し、及び辺地対策事業債予定額を３，１５０万円追加といたしております。

また、先ほど申し上げました伊奈辺地と同様の携帯電話使用不可能地区の解消のための移動通信用鉄塔施設整備の追加に伴い、事業費を９，９８６万９，０００円追加、及び辺地対策事業債予定額を１，１１０万円追加し、事業費合計を１億５，２２１万４，０００円に、辺地対策事業債予

定額の合計を4，８５０万円に変更するものでございます。

続きまして、３１１ページの仁位辺地でございますが、豊玉診療所において、胃カメラを新たに１基購入することで、適正な医療体制の整備を図ることに伴い、事業費３１５万円を追加し、３，５２３万2，０００円に、辺地対策事業債予定額を３１０万円追加し、２，９８０万円に変更するものでございます。

３１３ページの仁田辺地でございますが、仁田診療所において、超音波診断画像装置を更新することで、適正な医療体制の整備を図ることに伴い、事業費を５９８万5，０００円、及び辺地対策事業債予定額を２９０万円追加としております。

また、林道トタテ線開設事業に伴い、事業費を7，６６５万6，０００円追加、及び辺地対策事業債予定額を2，８６０万円追加としております。

さらに、先ほど新規計画で申し上げました大山辺地と同様に、小型動力ポンプ積載車の経年劣化による更新に伴い、事業費を４９６万6，０００円追加し、辺地対策事業債予定額を４９０万円追加し、事業費の合計を9億9，２７９万3，０００円に、辺地対策事業債予定額の合計を2億８，３５０万円に変更するものでございます。

続きまして、３１５ページの津和辺地でございますが、先ほど新規計画で申し上げました三根辺地と同様に、消防団拠点施設の新規整備に伴い、事業費を4，９９４万追加し、５，５５６万2，０００円に、辺地対策事業債予定額を4，９９０万追加し、５，２７０万円に変更するものでございます。

続きまして、３１６ページの田辺地でございますが、林道ナムロ線開設事業に伴い、事業費を１億9，２５８万6，０００円追加し、６億2，８５８万6，０００円に、辺地対策事業予定額を７，７４０万円追加し、2億6，９１０万円に変更するものでございます。

最後に、３１７ページの豊辺地でございますが、韓国展望所・豊砲台跡観光ルート整備事業に伴い、事業費を8，７５１万円追加し、１億4，６５７万9，０００円に、辺地対策事業債予定額を8，７５０万円追加し、１億4，６５０万円に変更するものでございます。

以上で、提案理由の説明を終わります。よろしく御審議の上、御決定いただきますようお願いたします。

○議長（作元　義文君）　建設部長、堀義喜君。

○建設部長（堀　　義喜君）　ただいま一括議題となりました議案第３９号、並びに議案第４２号の２議案につきまして、提案理由とその内容について御説明申し上げます。

議案集の３１９ページをお願いいたします。

まずはじめに、議案第３９号、あらたに生じた土地の確認及び字の区域の変更について（佐保地区）でございますが、本議案は、地方自治法第９条の５第１項の規定により、新たに生じた土

地を確認し、同法第２６０条第１項の規定により、字の区域を変更するものでございます。

本件は、長崎県が整備をいたしております一般県道唐崎岬線道路改良事業に伴い、道路用地として公有水面の埋め立てを行ったもので、この土地が新たに生じた土地であることを確認するとともに、区域を豊玉町佐保字ワキノ隈及びススエに編入しようとするものでございます。

土地の位置につきましては、位置図及び字図を添付いたしておりますが、黒塗りで表示をしている部分の豊玉町佐保字ワキノ隈２―２から、字ススエ３―３及び１０―１に隣接する道路に至る地先で、面積４５２．５１平方メートルの土地でございます。

次に、議案第４２号、漁港区域内公有水面の埋立てについて（伊奈漁港）でございますが、本日配付の別冊議案集の３ページをお願いいたします。

本議案は、市が事業主体で整備を進めております市道仁田志多留線道路改良事業に伴う、公有水面埋立免許出願に係る意見について、異議のない旨、長崎県知事に答申するため、公有水面埋立法第３条第４項の規定により、議会の議決をお願いするものでございます。

埋め立ての必要性につきましては、６ページの埋立必要理由書のとおり、市道仁田志多留線は、沿線地区の生活道路、また地域産業の振興にとって重要な幹線道路でございますが、幅員が狭く離合が困難であることなどの問題を抱えております。

この問題を解消するために、平成１７年度から伊奈から志多留間におきまして、２車線、全幅７メーターの道路改良事業を実施いたしておりますが、志多留地区内におきまして、現道の陸地側の用地買収や代替住宅地の確保が困難であるということから、海側に前倒しをして、道路幅員を確保するものでございます。埋立面積は、１２８．６８平方メートルでございます。

参考に、位置図、平面図を末尾に添付いたしております。

以上、簡単でございますが、議案第３９号、第４２号の２議案についての説明を終わります。よろしく御審議の上、御決定賜りますようお願い申し上げます。

○議長（作元　義文君）　総務部長、桐谷雅宣君。

○総務部長（桐谷　雅宣君）　ただいま一括して議題となりました議案第４０号、長崎県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少について、その提案内容を御説明申し上げます。

議案は、３２５ページでございます。この案件につきましては、本年３月３１日をもって、松浦地区火葬場組合が解散することに伴い、長崎県市町村総合事務組合の共同処理する団体に変更が生じるため、地方自治法第２９０条の規定により、議会の議決をお願いするものでございます。よろしく御審議の上、御決定くださいますようお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　これから４件に対する一括質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認め、質疑を終わります。

お諮りします。ただいま一括議題となっております４件は、委員会への付託を省略したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。４件は委員会への付託を省略することに決定しました。

これから４件に対する一括討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認め、採決します。

議案第３８号、辺地に係る公共的施設の総合的な整備計画について、議案第３９号、あらたに生じた土地の確認及び字の区域の変更について（佐保地区）、議案第４０号、長崎県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少について、議案第４２号、漁港区域内公有水面の埋立てについて（伊奈漁港）の４件は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。４件は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第３４．発議第１号

○議長（作元　義文君）　日程第３４、発議第１号、盗難仏像の早期返還を求める決議を議題とします。

提出者の趣旨説明を求めます。５番、長信義君。

○議員（５番　長　　信義君）　ただいま議題となりました発議第１号について、御説明申し上げます。

発議第１号、平成２５年３月８日、対馬市議会議長作元義文様、提出者、対馬市議会議員長信義。賛成者、対馬市議会議員山本輝昭、賛成者、同、大部初幸。

盗難仏像の早期返還を求める決議について。別紙のとおり、会議規則第１４条第１項の規定により提出します。

それでは、決議（案）を朗読し、説明にかえさせていただきます。

盗難仏像の早期返還を求める決議。

対馬と韓国は、長い歴史の中で常にお互いの文化を享受し、親しい隣国として交流が続けられてきています。しかし、韓国の窃盗団によって不幸な事件が起きることとなりました。

対馬市豊玉町小綱・観音寺の観世音菩薩坐像は、窃盗によって不当に流出した貴重な文化財で、長崎県指定の有形文化財にもなっています。また何世代にもわたり、寺の御本尊様として大切に保管され、祭られてきた地域の宝であり、信仰のよりどころでもあります。卑劣な犯罪行為によ

って奪われたことで、所有者をはじめ地域、対馬市民は、烈しい憤りを感じております。峰町木坂・海神神社の銅造如来立像、厳原町豆酘、多久頭魂神社の大蔵経についても同様であり、一刻も早く対馬所有者のもとに返還すべきであります。

中世、室町時代に朝鮮王朝は西日本の豪族等と交易を行っており、対馬でも朝鮮から仏像などの仏教文物などがたびたび請来されていました。李王朝が成立した１４世紀以降の朝鮮半島における苛烈な仏教排斥という背景を加味すると、観音寺の観世音菩薩坐像もこうした日本の仏教普及にかかわる交流や、仏教工芸品の隆盛による交易などによってもたらされたものではないかと考えられます。

今回、犯罪によって奪われた国指定銅造如来立像、県指定観世音菩薩坐像、大蔵経を文化財不法輸出入等禁止条約等の国際法に基づき、早急に返還されるよう強く求めます。

以上、決議します。平成２５年３月８日、長崎県対馬市議会。

以上のとおりであります。御賛同をよろしくお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　説明に対する質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。（「議長」と呼ぶ者あり）１７番、大浦孝司君。

○議員（１７番　大浦　孝司君）　この決議文の提出先を、これは提出者のほうは、具体的に再度説明をお願いいたします。（発言する者あり）

○議長（作元　義文君）　５番、長信義君。

○議員（５番　長　　信義君）　これは、もう一回、今度は提出先は改めてこれを読み上げるんじゃないんですか。これでもう終わりですか。

○議長（作元　義文君）　これで終わり。

○議員（５番　長　　信義君）　終わり。（発言する者あり）

○議長（作元　義文君）　ただ、提出先は……（「案としてどういう考えかということを」と呼ぶ者あり）考えか。（発言する者あり）

○議員（５番　長　　信義君）　ちょっと休憩を。

○議長（作元　義文君）　暫時休憩します。

午後１時23分休憩

午後１時25分再開

○議長（作元　義文君）　再開します。

質疑なしと認めます。

お諮りします。本件は、委員会への付託を省略することにしたいと思います。御異議ありませ

んか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。本件は、委員会への付託を省略することに決定しました。

これから討論、採決を行います。発議第１号に対する討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認め、採決します。発議第１号、盗難仏像の早期返還を求める決議は、原案のとおり決定することに賛成の方は、起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（作元　義文君）　起立多数です。発議第１号は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第３５．請願第１号

○議長（作元　義文君）　日程第３５、請願第１号、アジアと日本の平和と繁栄を目指す「日韓海底トンネル」の早期建設を求める請願を議題とします。

本請願は、産業建設常任委員会に付託します。

以上です。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

○議長（作元　義文君）　以上で、本日の議事日程は全て終了しました。

１１日は、定刻より本会議を開き、市政一般質問を行います。

本日はこれで散会いたします。お疲れさまでした。

午後１時27分散会

平成25年　第１回　対　馬　市　議　会　定　例　会　会　議　録（第５日）

平成25年３月11日（月曜日）

議事日程（第３号）

平成25年３月11日　午前10時00分開議

日程第１　市政一般質問

本日の会議に付した事件

日程第１　市政一般質問

出席議員（19名）

１番　渕上　　清君	２番　脇本　啓喜君
３番　黒田　昭雄君	４番　小田　昭人君
５番　長　　信義君	６番　山本　輝昭君
７番　松本　暦幸君	９番　齋藤　久光君
11番　小宮　教義君	12番　阿比留光雄君
13番　三山　幸男君	14番　初村　久藏君
16番　糸瀬　一彦君	17番　大浦　孝司君
18番　小川　廣康君	19番　大部　初幸君
20番　兵頭　　栄君	21番　島居　邦嗣君
22番　作元　義文君	

欠席議員（２名）

８番　阿比留梅仁君	10番　堀江　政武君

欠　　員（１名）

事務局出席職員職氏名

局長	神宮　満也君	課長補佐	國分　幸和君
主任	金丸　隆博君		

説明のため出席した者の職氏名

市長	財部　能成君
副市長	髙屋　雅生君
教育長	梅野　正博君
地域再生推進本部長	平間　壽郎君
観光物産推進本部長	本石健一郎君
総務部長	桐谷　雅宣君
政策監	平山　秀樹君
総務課長	根〆　英夫君
市民生活部長	長郷　泰二君
福祉保健部長	多田　満國君
農林水産部長	比田勝尚喜君
建設部長	堀　　義喜君
水道局長	阿比留　誠君
教育部長	豊田　　充君
美津島地域活性化センター部長	八坂　一義君
豊玉地域活性化センター部長	梅野　　泉君
峰地域活性化センター部長	志田　博俊君
上県地域活性化センター部長	川本　治源君
上対馬地域活性化センター部長	島居　清晴君
消防長	竹中　英文君
会計管理者	長久　敏一君
監査委員事務局長	橘　　英次君
農業委員会事務局長	春日亀剛一君

午前10時00分開議

○議長（作元　義文君）　おはようございます。報告します。堀江政武君、阿比留梅仁君より欠席の届け出があっております。また、島居邦嗣君より、遅刻の申し出があっております。

ただいまから議事日程第３号により、本日の会議を開きます。

日程第１．市政一般質問

○議長（作元　義文君）　日程第１、市政一般質問を行います。

本日の登壇者は４人を予定しております。

それでは、届け出順に発言を許します。１８番、小川廣康君。

○議員（１８番　小川　廣康君）　おはようございます。１８番、新生クラブ所属の小川廣康でございます。きょうは3月１１日でございます。多くの犠牲者を出した東日本大震災から丸２年を迎えました。ここに改めて、犠牲者となられました皆様方に追悼の意をあらわしたいと思います。

しかし、いまだまだ約３１万５，０００人の方々が避難生活を強いられております。国民の一人として早急なる復興・復建を願ってやみません。また、今月７日に我が対馬の貴重な財産であります対州馬が、宮城県の仙台市の動物園に７日に出発をいたしまして、きのう無事に現地についたという報告を受けました。この優しい我が対州馬が被災地の方々の心を癒してくれるものと私は信じております。

さて、昨年末の衆議院の解散による総選挙によりまして、自民党の圧勝により再び自公連立政権が発足をいたしました。しかし、このことは自民党が高く評価されたのではなく、今までの政権による国づくりのあり方が、国民に対し厳しい判断によるものと私はそう分析をいたしております。政治につかさどる一人として、常に市民の目線で、そして将来の我がこのふるさとこの対馬の将来を思い描きながら活動していかなければならないということを痛感をいたしました。どうか市長におかれましても、今後さらにこの対馬のために努力をしていただきたいと思います。

さて、今回は２点通告をいたしております。まず第１点目の、組織機構の見直しについてでありますが、この件につきましては昨年の５月に発足をいたしました対馬市組織機構見直し検討委員会において検討がなされ、昨年１１月にその素案が示されました。将来的に職員の減少が見込まれる中で、ある程度理解できるところではありますが、この素案によりますと少なからず市民の皆様に理解を求めなければならない部分も見受けられます。豊玉の中部活性化センター、そして上対馬町に北部活性化センターを設置し、それ以外は出張所として位置付けてあることが素案の中でうかがえます。今後、この２センターの機能をどのように持たせようとするのか、そしてその出張所にはどういう権限を与えようと考えておられるのか、現段階のお考えをお伺いをしたいと思います。

２点目の、農業振興と地域の景観についてでございますが、対馬の耕地面積は直近の数字で９３８ヘクタール、うち水稲作付面積はわずか３０２ヘクタールであり、米の生産量も２１年産米で１，１１０トンと、対馬島民の約半年分しか賄えない状況であります。農業委員会の平成２２年から２３年の調査によりますと、耕作放棄地が１判定、２判定、３判定の合計面積が約７９４ヘクタールにも上ります。このまま放置しますと、農地の持つ多面的機能の維持が困難になるばかりか、有害鳥獣の隠れ場所となり、セイタカアワダチソウの繁茂により自然の体系が損なわれ、環境王国としての景観保持すら危惧されます。この耕作放棄地のうち、１判定の約

７６ヘクタールはすぐにでも耕作可能な農地であります。これらの耕作放棄地を活用し、農業振興を図る必要に私は迫られていると考えますが、市長の考え方をお伺いをしたいと思います。

また、先ほど申しました自公連立政権によりまして１８３回国会が開会されました。自民党の日本を取り戻すという基本の理念に基づき、安倍総理は力強く「今ここにある危機を突破し、みずからの力で未来を切り開いていこう」と所信を表明されました。まさに、我が対馬においても同じことがいえると思います。

自主財源の少ない我が対馬でありますが、いかに地域経済の浮揚と雇用の確保に努め市民所得の向上につなげ、ひいては税収を上げていくのか。また、離島振興法の改正に伴い創設されました離島活性化交付金をどれだけこの対馬に取り込み、どのように活用していくのか、今後職員の企画力と市長の政治手腕に期待をしたいと思います。また、それに伴いまして我々議会も活発な議論の中で、確かな判断と提言をしていかなければならないと考えております。そういうことを踏まえまして、市長の明快なる答弁をお願いをしたいと思います。あとは、内容によりましては再質問をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　おはようございます。１８番議員の御質問にお答えさせていただきます。

２点、通告がございますが、まさにきょうは2時４６分という時間は日本にとって大変な時間、日にちということで、私自身も何度も言いますが、東京におりました関係であれだけの揺れを感じておりましたので、これからも被災地の皆様に寄り添っていけるようなことを、この1，０００キロ以上離れてはおりますが、あの地にきちんとした形で対馬市の方向性というのを出しながら協力をしていきたいというふうな思いでおります。

まず、通告がありました組織機構の見直しに関する部分であります。昨年の５月の末に委員会が立ち上がりまして、確かにおっしゃられるように１１月に素案が提案がなされたところであります。

その素案の内容では、主となる取り組みの一つとして地域活性化センターの統合というものが提案されております。

現在、５カ所ありますこの活性化センターについて統合を行い、議員が先ほどおっしゃられたように北部地域、それから中部地域という形で統合を図っていき、現在統合によって廃止の形になります活性化センターにつきましては、出張所機能とすることが提言であがっております。その新出張所にどのような機能を持たせていくのかということにつきましては、現在の各地域活性化センターにあります住民生活課、この住民生活課で取り扱っています諸証明とか、福祉関係の窓口業務というのは基本的にもうそのまま全てを継続していくというふうな考えで提案なされております。

また、現在の活性化センターにあります地域支援課の業務につきまして、そのうち広報、選挙それから施設管理、窓口業務等を新出張所のほうに引き継ぎ、そして管轄する本庁各部署及び地域活性化センター担当課と連携をして対応することで、市民の皆様への行政サービスの低下を招くことがないよう取り組んでいく予定でございます。

また、今回のこの素案をもとに、今後のスケジュールとしましては、年度が替わりましてから、まず区長会議等がございますけども、その折に素案のまず説明というものを当然ながらやっていきたいというふうに思っております。そして、市民の皆様の御理解をいただきたいというふうにも思いますし、昨年の１２月２１日からことしの１月２１日の間につきましては、この素案に対するパブリックコメントを募集して、さまざまな御意見をいただいております。先ほど申しましたように、年度が替わってからの区長会議、さらに地域審議会など、機会あるごとに御意見をいただいていきたいと思っておりますし、その地域の方から申し出があれば、こちらからどんどん出ていって説明をしていきたいというふうな思いを持っております。

それらのことを踏まえながら、庁内会議というものを５月、６月くらいにはこれを立ち上げて、何度となく委員会等を重ね、２５年度の年内に皆様のほうにまた諮るというふうなことで、組織改正を実現をしていきたというふうな考え方で物事を今組み立てているところであります。

次に、２点目でございます。農業振興と、特に耕作放棄地の問題が御指摘がありました。先ほどの御質問の中でありましたが、現在の耕作放棄地、こちらサイドで調べているまさに７９４ヘクタールというものがそのような形になっております。そして、その中でもすぐにでも再生できるとされた７６ヘクタール、質問の中で１判定とおっしゃられたその面積でございますが、これらにつきましては平成２１年に耕作放棄地解消総合対策事業という５カ年計画を樹立して計画的な解消に努めております。今年度は、１１．２ヘクタールの解消実績というものが見込んでおるところでございます。

この耕作放棄地対策としまして、本市では再生と維持と防護の３つの施策を講じております。まず、再生につきましては、国や県の交付金事業を活用してみずからが解消していただく部分、そして規模拡大農家による農地利用集積事業を行って、牧草やそばそれから大豆等の作付を主として奨励をしておるところであります。また、２つ目の対策としての維持につきましても、新たな耕作放棄地を発生させないという観点から、やはり各種事業を導入、活用をしまして農地利用集積円滑化団体でもあります対馬市農業振興公社のほうにおきまして、それらの農地情報の収集やそれから農地のマッチング等を行うことで、農地の有効利用を推進しているところであります。さらに、３つ目の対策としての防護でございますが、これにつきましてはイノシシ、鹿の有害鳥獣被害を防止するということで、耕作意欲の低下を防ぐ意味においてこの防護ということにもしっかり取り組んでいき、農地保全というものにつなげていきたいというふうな考えを持っており

ます。

いずれ３つの施策につきましては、再生後の活用につきましてＪＡさん、それから県と十分な協議を行って、採草放牧地や今奨励しておりますそば等の作物の作付等を推進していきたいというふうな考え方を持っております。

また、最後の下りで新たな政権下における今後の物事の組み立て方というお話がございました。当然、島としましては自立自存の道というものを最終的には目指していくということが必要だというふうに思っておりますし、そのためには私ども行政もそうですし、市民の皆様方におかれましても一定の覚悟というのもお持ちいただき、一緒にその方向を目指していくということを考えていかなくてはいけないと思っております。

そういう中、離島振興法の方向性を受けまして、離島活性化交付金というものが２５年度から創設をされるようになっております。これらの、活用につきましては現在メニューが国のほうから示されているのが、限定されている部分もあります。私どもの地域には不足している部分もあるなというふうに私は一見して感じておりますので、まさにそのあたりにつきまして自分自身しっかりと取り組んでいく必要があるというふうな思いをしております。決して、それらの交付要綱というものが１０年間そのままというふうには思っておりませんので、自分らの島の自立自存のためにどうあるべきかということもしっかり考えていきたいと思っております。

ただし、今現時点におきまして離島活性化交付金の総額というものが、１０億円しか予算化がまだなされておりません。これらのことにつきましては、国会議員と省庁との間では一桁金額が違うんじゃないかという論議もあっておりました。まさに、私も一桁違うんではないかというふうな思いを持っております。それら予算の増額並びにメニューの拡充といいますか、離島にあったメニューの組み立てというものをしっかりお願いをこれからはしていかなくてはいけないというふうに感じておるところであります。

以上であります。

○議長（作元　義文君）　１８番、小川廣康君。

○議員（１８番　小川　廣康君）　ありがとうございます。それでは、ちょっと１点目の組織機構の見直しについてから整理と確認をしていきたいと思いますが、今市長は計画については今からこの素案をもとに各区長会議、来年度当初にあります区長会議等での意見を反映していくということですが、確認しますがじゃあ今のまだ現在のところまだ計画としては策定されていないということで理解してよろしいでしょうか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　現時点におきましては、素案ということで提言をいただいている段階でして、これらから今から皆さんの御意見を頂戴しながら、明確な計画につくり上げていくという

考え方を持っております。

○議長（作元　義文君）　１８番、小川廣康君。

○議員（１８番　小川　廣康君）　その点はよくわかりました。しかし、なぜ私が今回この件について一般質問で取り上げたかといいますと、市長はこの昨年の６月の定例会の行政報告の中でこう申されております。この計画、これは仮称となっておりますが、対馬市組織計画については、昨年市長が答弁されました５月３１日に第１回を開催をされ、今後区長をはじめとする民間の方々と本市の組織機構のあり方について、市民や関係機関団体の御意見等を頂戴しながら、基本計画の素案づくりを行い、その素案に基づき対馬行財政システム改革推進委員会において検討を加え、今年度中に組織計画を策定することとしておりますという議会での報告がありましたものですから、私はもうとっくにこの今年度中といいますか、もうきょうは3月の１１日ですので、ある程度のこの計画ができているのかなと思って今回こういう質問をいたしました。

実は昨年、私が冒頭質問いたしましたように、１２月の本会議のときにこういうものが私たちの議席に配付をされておりました。私も、それからこの中身をいろいろ読んでみますと、これはこの今年度中に果たして計画ができ上がるのかなと心配をいたしておりましたが、まだまだこれは今からその作業に入るということですが、この表の中で特に気になりますのが、やはり一番市民に密着している窓口業務、この中では現出張所が段階的に廃止をしていきながら、今５つあるんでしょうか、現出張所が。これを段階的に廃止をしていきたいという素案でございます。提言でございますが、そして先ほど言いましたように美津島、峰、上県が出張所としての位置づけをするという計画に素案としてはなっております。この、私が先ほど言いましたように、今後その職員の減少による組織機構というものはおのずとやっぱり取り組まなければいけないというのは、私は理解をいたします。

今後、先ほど言いましたように、地方分権が今後またさらに進んでいくでしょうし、やはり市としての、職員としての能力そしてボリューム的にも果たして今後今のペースで職員数を減らしていって、果たしてできるのかなという少し矛盾点も私は感じております。行政財政改革の中ではやっぱり職員の減少ももちろん取り組まなければいけないんですが、やはり今後、特に先ほど言いましたように交付金制度も変わってきますし、今後はいろんなメニューを市で組み立てていかなければいけないという時代がますます顕著になってくるんじゃなかろうかなと思う。そういう段階でやっぱり機構改革を推し進めながら、そしてやはり本庁機能を十分に機能し、それを市民のために発揮していかなければいけないと思います。

だから、この素案で見受けられます中部地域活性化センターと北部地域活性化センターそのあり方についても私はある程度理解できます。しかし、今後その活性化センターにどういう権限を与えて、その地域の活性化につなげていくのか、やはりこれはやっぱり私は慎重にそして時間を

かけて議論する必要があるんじゃなかろうかなと思っております。私は、ことを急ぐ事柄ではないと、私個人としては考えております。

そういう中で、この素案の中に、このフロー図、今後のスケジュール表が書いてありますが、この素案ができた段階で一応議会に提案をし、議会の意見を踏まえて対馬市行財政システム検討委員会に上げるというシステムなっております。それから、その下に委員会を開催し、本計画に策定というこうフローチャートになっております。だから、私の記憶が定かでないのか、この件について私たち議会にも示されたことはありません。先ほど言いましたように、１２月の定例会のときにこれが議席の上にただ配付をされておりました。やはりこの件については私たちも現議員で残された任期はわずかでございますが、やはり慎重に議論を重ねていく必要があると私は考えておりますので、市長のさきの答弁では今からまた区長会それぞれの意見を、市民の意見を拝聴しながら、計画策定に向けて取り組むということでございますので、それはそれで時期的には遅く、今年度中には間に合わないかもわかりませんけど、私はことを急ぐ必要はないんじゃないかなと思っております。

先ほど言いましたように、市長が６月の定例会の折に今年度中というはっきりとした明言をされておりましたので、私はこの３月いっぱいのうちにこの計画ができているのかなと思って質問をいたしました。

それで、先ほど言いましたように特に残された美津島、峰、上県が将来的に出張所的な機能になるということですが、やはりそこらあたりの権限事務範囲といいますか、そこらあたりも十分に今後検討していただきたいなと思っておりますし、また我々議会もこの件については今後勉強を重ねていきたいと思っております。人口が特に上のほうが、私もこの件を質問する段階で人口の推移を見てみますと、かなり上のほうが人口が減ってきております。これは対馬市のホームページから拾い出した数字ですが、平成１７年の８月からこの２５年の３月を比較してみますと、かなり減ってきておりますし全体で約１４％弱くらいの人口が減っておりますが、上のほうが上対馬が１７．９、約１８％、上県が１９％、そういうふうに峰、豊玉が約１５％くらいの数字、美津島が若干低くて９％、厳原が１４％くらい、かなり地域のバランスといいますか、これが顕著にあらわれているのがこの対馬市の数字からもあらわれています。

ただ単純にこの人口の減ってきたからそこの地域を組織を弱体するというか、弱体って言葉悪いですが、やっぱり減らすという考え方はますますそれに輪をかけていくんじゃなかろうかなと考えておりますので、この件につきましては私は安心いたしました。まだ、計画が策定されていないということでございますので、この件については終わりますが、ただもう１点この組織機構について私が言いたかったのが、これは、今からかなり時間が要すると思います。だから、何年後をめどにという今構想があるのか、その１点ちょっと確認をしておきたいと思います。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　今、小川議員がおっしゃられるように、今年度中にという発言は当然しておりました。素案というものをつくり上げていただいて、皆様方並びに市民の皆様に意見を聞く時間はあるのかなと思っておりましたが、いかんせんその期間というものがとれない状況でありましたので、１年先送りをしているというのが現実であります。この２５年度の早いうちに市民へきちんと話を持っていかなくてはいけないというふうに思っておりますし、今の活性化センターでなくて新出張所になっていく機能をどのような機能を持たせていくのかと実際問題、その地域性というのもあろうと思っております。それらをじっくりとこの上半期に組み立てる必要性を感じております。それらで、年内に計画というものをたたき上げていきたいと思っております。その間、議会においても途中経過を踏まえ報告はさせていただきたいというふうに思っております。

○議長（作元　義文君）　１８番、小川廣康君。

○議員（１８番　小川　廣康君）　わかりました。こういう市長部局のほうの行政サービス、これはちょっとよく考えて、進むという方向性については私は十分理解しておりますが、やはりその中身については私、十分に議論をしていきたいと思っております。

しかし、ただ組織機構の中で特に教育委員会、私は１２月の一般質問でも申し上げました。教育委員会の本庁の所在地についても、この素案の中では一応峰ということになっております。私は、この全体的な計画がやっぱり若干おくれるという、私はおくらせてもいいと思うんですが、ただ教育委員会の組織、本庁の捉え方については、私は１２月の一般質問でも申しましたように、やはり子供の教育に停滞は許されないというやっぱり基本的な考え方から、やはり本庁はやっぱり中央に持ってくるべきではないかという意見を１２月に申し上げました。

だから、私はその教育委員会の本庁のあり方については、この本計画とは別に少し前倒しをしてもいいんじゃないかなと、ただこの計画は果たしてこの１年間で、皆さん市民から理解が得られるのかどうか、私は時間がかかると思います。市長は年内に、２５年内にある程度を見出したいということですが、ですからできるものは先に私は一つ一つ取り組むべきではないかなと思いますが、その点について市長の考え方が伺えれば伺いたいと思います。できるものは先に前倒しできないかどうか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　教育委員会という性格上、今小川議員がおっしゃられるように島の中央部に統括する委員会があったほうがいいというのは、もう実際学校等をたびたび訪問しなくてはいけない先生方といいますか、職員ですね、指導主事さんたちのことも考えると中央が最もよろしかろうというふうには、私自身も感じてはおります。

ただし、それを前倒しでできないかというふうなお話でございますけれども、これらにつきましては、ほかの組織のこともございます。それらと一体として物事を考えていかないと、なかなか物事は進まないのかなというふうな考えもあるところであります。

○議長（作元　義文君）　１８番、小川廣康君。

○議員（１８番　小川　廣康君）　この件だけ時間を費やしてもいけませんけど、これは時間がかかる問題ですので、議会としても今後十分に議論をしていきたいと思います。提案をしていきたいと思いますが、教育委員会の件につきましても私はそのように、これは私の持論ですが、そういうふうに全体的なものと一緒にかみ合わせていく、事情はよく理解できますが、やはり前倒しできるものは前倒しをして、一刻も早くそういう体制を整えていただきたいということをお願いをしておきますし、これをまた教育委員会と市長部局のほうとまたよくすり合せをしていただきたいと思います。

それから、次に、残りました１６分くらいですが、農業振興について市長の考え方をお尋ねをしたいと思いますが、今先ほど耕作放棄地の解消については今後取り組んでいくということです。先ほど私も言いましたように、今すぐにでも耕作可能の１判定、この１判定というのは今言いますようにすぐにでも耕作可能な農地のことをいうわけですが、２判定というのが結局抜根などの少し重機を入れなきゃいけないといいますか、３判定がもうほとんど山林化した土地を３判定というわけですが、私はこの１判定の約７６ヘクタールはやはり今のうちに手を打たなければ、これがまた２判定になっていく、何年かすると２判定になってくるでしょうし、またそうするともういよいよ手の施しようがないんじゃないかなと思って、あえて今回はこの耕作放棄地について質問をしたわけです。

特に今、農協さんのほうも今市のいろんな援助を受けて野菜の生産に力を入れております。これも今、地元のほうでスーパーさんあたりも地元の産品を売るスペースもかなり取っていただきまして、年間かなりの販売高が上がっているようでございます。やはりまだまだ島外からの、その時期の野菜についても島外から対馬に輸入されている野菜が数多くやっぱりまだまだシェアとしては私はあると思うんです。だから、これをいかに今遊休農地を利用してできないのか、そこらあたりはやっぱり特に農林水産部と農協さんと検討されて私は早目に解決していただきたいなと思っております。

そしてもう１点、これも特に今、長崎県のほうでもこの耕作放棄地の活用についてはいろんなメニューを組んで取り組まれております。特に対馬でも、特に今施設栽培はあまり普及していないわけですが、今まではなぜかと言いますとやっぱり対馬は燃油が高くてなかなか加温してまでも野菜生産に取り組めないというのが非常に一番のネックだったと、私はそう理解しているんですね。ですから、今特にこの限られた対馬にある豊富にある資源、俗に言う木質バイオによる加

温による促成の栽培ができないのか、これは私も農協さんのほうにちょっと提案を１回してみたんですが、そういう事業がやはり取り組むべきじゃないのかな今後。

ですから、今まで対馬が施設園芸に取り組めなかったのは、やはり燃油が高い、それは農業だけの問題じゃないですが、今簡易な木質バイオによる加温施設が、そういう設備もできますので、ですからこういうものをやっぱり補助事業として取り組みながら野菜作付の面積拡大、ひいては農業振興に役立てていけないのかどうか、私は大きな研究課題だろうと思いますし、もう一つビニールハウスにつきましても間伐材によるビニールハウス等が、これは補助対象外に今なっていないと思うんですが、だからそういうものの研究をする時期に私はきているんじゃないかなと、対馬にある間伐材を利用し、そしてそれによる間伐材を利用してのビニールハウス、そして木質バイオによる加温設備による促成栽培あたりが対馬で定着していけば、私は県内に類を見ない野菜生産の先駆者として位置づけされるんじゃないかなと思うんですが、なかなかこれが補助対象、今の補助事業の関係でこれが取り入れにくいという点がありますので、私はこの件については今後の研究課題として提案をしておきたいと思いますが、市長の考え方をお聞かせ願えればと思います。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　ただいまの質問にお答えをさせていただきますが、１点目といいますか、遊休農地をどうして減らしていこうか、もしくは遊休化が進まないようにどうしていけばよいのかということですが、私どもの市では農業振興公社を持っております。今おっしゃられる施設園芸にしましても、ある意味先導的な事業という形で公社が担っていくことが必要だというふうにも思っております。

せんだっても、農業振興公社、それから豊玉振興公社の２つの公社の方々と話し合いを持ったところでございますけども、現在の経営状況、並びに今後の方向性ということに話をしたんですが、その中でもやはり今の２点の問題については公社みずからが積極的に取り組んでいく必要があろうと思います。

なお、それらが収益がでれば最もよいことでありますけども、いかんせん先導的な事業という形で物事をやる場合、赤が出る可能性も私はあると思っています。しかし、それは１年、２年赤が出たとしても、それが次の新たな農業のあり方というものにつながっていくならば、最終的にペイできるのではないかというふうなおおらかな気持ちで物事を取り組まないといけないのかなというふうにも、その話し合いの中でも感じたところであります。

２点目の、施設園芸の可能性のお話がありました。その中で、木質バイオマスボイラーを導入することによっての加温の設備というもののお話ですが、林業の振興のためにもそれはいいお話だというふうに、御提案だと思います。先ほど言いましたように、公社等でそのあたりの市民の

方々にそれが勧められる状況かということもやっていかないといけないと思っておりますし、もう１点、施設園芸につきましては堆肥との兼ね合いも当然ございます。これらの堆肥づくりというのもあわせて公社が担っていくということをやっていきながら、市民の皆様といいますか、農業に携わっていらっしゃる方々にそのお手本といいますか、を示すくらいの公社に持っていく必要があろうかというふうに思っております。

○議長（作元　義文君）　１８番、小川廣康君。

○議員（１８番　小川　廣康君）　今、市長の答弁の中で対馬市農業振興公社の件が出ました。私もこの２回続けて振興公社の件に質問しましたので、今回はやめておこうかなと思いましたけど、市長が糸口を見つけてくださいました。ちょっと、私は先ほど言いましたように市長、新たな農業のあり方、そして特に施設園芸、やはり農家が最初に取り組むときにはかなりリスクがあると思います。

ですから、やはりそういうためにこの農業振興公社の位置づけというのが私はあるんじゃないかなと思っております。ですから、今市長も言われました島山のほうでマグロの残渣、アナゴの残渣等による堆肥化が今、私も一週間前くらいに現地に足を運んでちょっと見させていただきましたけど、見た目には非常にいい堆肥のように湯気がぼんぼんぼんぼん出て、成分的には私はまだわかりませんけど、そういうチップとマグロの残渣等を利用した堆肥が今製造されております。やはり今度はこれをどこに使うのか、やはりその出口の部分もやはりある程度見きわめながら堆肥製造をしていかないと、私はいけないんじゃないかなと思っております。

ですから、今市民生活部のほうでも今生ごみの循環システムということで、生ごみのほうも今取り組んでおられます。それと今マグロの残渣、アナゴの残渣等による堆肥化も今進んでおります。それは、非常に私は評価をいたします。しかし、その出口の部分をじゃあつくった堆肥をどこにどうするのか、もちろん島外に搬出するなんてことは考えていないと思います。だから、対馬の農地に還元する、それを露地栽培でやるのか、施設栽培でやるのか、そこらあたりも今度は農林水産部のほうとのやっぱり連携を十分にとっていただきたいし、私は農業振興公社の活用といいましたらおかしいですね、そこでいろんな取り組みをしていただきたい。そのために市の支援もしていいじゃないですか、そういう目的であるならば、ただ単に補助金を出すんじゃなくて、やっぱりそういう試行錯誤していく部分については、私はある程度積極的にそこに補助金をつぎ込むべきだろうと私は考えます。

そういう農業振興公社の件ですが、私もだから前回２回続けて言いました。もうあまりしつこく、くどいようで言いたくなかったんですが、人手が足りないということで来年からまた２名くらい緊急雇用対策かなんかで採用していただくというふうなことをちょっと聞いておりますが、中身を聞いてみますとまた新たな人間を入れなきゃいけない。私は、前振興公社で雇用しておら

れました２名か３名かのオペレーターが、事業の関係でほかの仕事についておりますから、できたらそのオペレーターを呼び戻すことはできないのかなということを投げかけましたら、いやそれはちょっとメニューが違うからだめなんですよ。また新たな人をまた入れなきゃいけないんですよ。また新たな人を入れて、２年か３年してまたメニューが変わったら、またその人がほかのまた解雇になって、また新たに入れてこなきゃいけない。行政というのはこうなんだろうなと、私たち考えるとせっかく３年間か４年間、３年間そこでオペレーターとしての技術を習得した人間が、何でまた再雇用できないのかな、新たな人間じゃなきゃいけないのかな、ちょっとそこが疑問に感じましたので、そこあたりはまた検討を、それ以上できないならもうやむを得ないですが、できたらやっぱりそういうオペレーターを養成した人を呼び戻すくらいの意気込みが私はあってもいいんではないかなと思っております。

そういうことで、さっき遊休農地の議論についてはそばとか、放牧場とかいろいろ市長も言われましたけど、特にそばについては私は前回言いましたように、今回昨年産は不作で多分ことしは島内消費が足るのかなと思っております。農協さんに聞きますと島外からも引き合いがあるけど全然対応できないということです。ですから、私は面積を拡大する分には、面積を拡大もちろんしてもらいたい。しかし、私は昨年１２月に峰の志田部長にお願いしましてデータをいただきましたけど、本当に驚くような数字でございました。これは天候だけの問題じゃないと思います。

ちなみに上県町のほうでは、あまり言いたくなかったんですけど、かなり１０アール当たり、普通は大体１０アール当たり９０キロが標準というふうに言われておりますが、不作で４５キロ、１０アール当たり４５キロ収穫があったみたいです。下のほうは１０アール当たり９キロでした。これは１０アール当たり９キロ、私は桁が間違っているんじゃないかなと思ったら、確認しましたらやっぱり９キロです。大体このそばは１０アール当たり播種量が大体７キロから８キロ、播種をいたします。で、収穫量が９キロです。これはいろんな条件が私は、前も指摘しました。機械装置の問題もあるでしょうし、人的な問題もあるでしょうし、聞くところによりますとそのコンバインを搬送する搬送車がない、行きたくてもいけないという状況ですので、やはり面積を拡大するだけでは私は生産力は上がらないと思いますし、そこらあたりもう一度くどいようですが、見直し検討して農業の振興に携わっていただきますように要望いたしておきます。特に比田勝部長には大変御苦労を願っておりますが、今後ともひとつよろしくお願いいたしまして、私の質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（作元　義文君）　これで、小川廣康君の質問は終わりました。

○議長（作元　義文君）　暫時休憩します。開会を１１時５分から行います。

午前10時51分休憩

午前11時06分再開

○議長（作元　義文君）　再開します。１３番、三山幸男君。

○議員（１３番　三山　幸男君）　皆様、こんにちは。対馬市議会つしま２１の三山幸男でございます。私どもの任期も早いもので、あと２カ月半くらいで市議会議員の改選が行われようといたしております。そこで、今回は私も最後の一般質問になると思いますので、常日ごろ思っていることを市長に対し一般質問させていただきます。

さきに一般質問をされました小川議員のお話の中にもありましたように、３月１１日は２年前東日本大震災が発生をし、大きな被害が発生をいたしました。いまだに仮設住宅なり、いまだまだ行方不明の方が一千数百人いらっしゃるという非常な惨事であり、私どもとしては一日も早い東北地方の復興を願うものであります。

それでは、さきに通告しておりましたとおり、市政一般に対して質問をさせていただきます。

１、対馬市の現状について。①本市は過疎化、高齢化、少子化等で人口の流出に歯どめができない状況をどうお考えかお尋ねをいたします。私は、昨年６月の定例会での一般質問で、対馬の人口が最も多かった昭和３５年の約半分に減ったとお尋ねをいたしました。重複することもあるとは思いますが、しかしながら昨年の６月ごろと現在の日本の状況は大きく変わろうといたしております。

市長の市政方針にもありましたが、昨年１２月の衆議院議員総選挙で自民党が圧勝し、日本の政治情勢は一変しつつあります。日本の経済を再生させるため、大胆な金融緩和対策などで円安・株高が進み、企業の景況感は好転しつつあります。国内に資源の乏しい我が国は、外国からの輸入に頼らざるを得ません。輸入品全てが円安で高くなり、一般の庶民の生活は燃油、ガス、穀物などをはじめとして値上がりで負担増を感じていることと思っております。特に対馬では、円安で恩恵を受ける企業はなく、逆に負の部分である負担だけではないでしょうか。ただでさえ高いと言われるガソリン価格をはじめ、重油、この勢いで円安がさらに進めば、ガソリン価格は１リットル当たり２００円を超えることでしょうし、対馬の基幹産業である漁業に従事しているある漁業者は、重油がリッター当たり１００円を超えると出漁できなくなると嘆いています。もし、このような状況になればさらに対馬の人口の減少が進むのではないでしょうか。

②今後の活性策について。新年度より新しい離島振興法が制定され、離島の振興策が実施されると思われますが、国境離島も内海離島も同じ適用・運用ではあまりにも不公平感があり、本市が取り組んでいる国境離島特別措置法の制定が早く望まれ、また大きな期待がかかると思われます。市長のお考えをお尋ねをいたします。

２、市税の徴収状況と今後の取り組みについて。①平成２３年度の現年分の徴収率は９４．２１％

でしたが、県下２１市町で最下位と聞きますが事実でしょうか。②滞納税解消のためやむを得なくとは思いますが、差し押さえ件数は平成１９年で１７５件でしたが、平成２３年度では９７８件と約５．５倍以上ふえていますが、どのような状況で差し押さえになるのかお伺いをいたします。③善良な納税者に対し、前納で収めた場合、前納奨励金等の復活は今後お考えはないかお尋ねをいたします。

３点目に入会林野の促進についてお尋ねをいたします。現在、事業を進めている地区の進捗状況をお尋ねいたします。今後進めようとする計画のある地区があれば教えていただきたいと思います。通告外ではありますが、入会林野には条例で対馬市入会林活用促進対策協議会条例という条例があります。この条例に沿って現在運用しているのかどうか、説明をお願いをいたします。

以上で、私の大きな質問を終わり、あとは市長の答弁をいただき、一問一答でお願いをいたします。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　三山議員の御質問に答えさせていただきます。

１点目の今の過疎の状況のお話がございました。これにつきまして、本当どのようにやっていけばよいのかということでございますが、私ども行政としましても大変困った問題だと思っております。これから先、５０年後日本の国は今現在の１億２，８００万人が８，０００万人台に落ち込むと言われております。これらの方向になっていけば、国の税収というのも当然落ちてきます。どのような国のつくり込みをしていけばいいのかということを僕らは国民の一人として考えねばならないと思っておりますし、あわせて超高齢化社会、また割合的にも多くの人が亡くなっていく社会、多死社会というものが到来する、これにどう立ち向かっていくのかというのが、大きなこれからの問題だというふうに思っております。

ただし、現時点においてその人口減少を全国の中でも最も影響を受ける離島、過疎これらの地域が、ある意味それを食い止めていく施策展開によって、日本のモデル自治体になる可能性さえも逆にあるのかなというふうに感じております。そういう中、先ほどおっしゃられましたアベノミクスの関係で株高になり、円安に触れることによって専ら輸入に頼っているこの国にとっては手痛い打撃を受けているのが現状だと思いますし、専ら輸出するものが基本的に乏しい私どもの島においては、直接的な打撃を受けるというのは同じ思いであります。

そういう中、特に水産漁業にかかわってある方たちが出漁できないというふうな状況にまで今至っております。せんだっても、漁協組合長会のほうからお話がありました。この燃油高騰の問題をどのように対応していけばよいかということに知恵を出さないといけないということなんでございますが、Ａ重油が約９０円、１００円の状況になっております。皆さんのお話を聞きますと、Ａ重油が６０円台であれば経営として出漁にも出れるし、どうにかやれるだろうと。ただし、

それを超えた場合のことが大変難しいということで、出漁を控えている状況なんだよとお話がありました。

現段階の制度としては、燃油高騰のセーフティーネットの対策が国のほうも講じております。過去７年平均を超える場合の分について漁業者のほうもそして政府、国のほうも共済金を出し合ってそれらで対応していこうというふうな制度があるものの、ずっと高どまりになっている状況では、過去７年の平均がもう既に高い状況にあります。ならば、差額の部分というのがわずかしか出てこないということで、どうしても平均が７０円とか８０円とかになれば、もう既にそれで出漁できないというふうな状況に陥りかねません。新たな施策として、ある一定の金額を超えた場合の差額をどのように補塡するかっていう制度も合わせて考えていかないと難しいのかなというふうにありますが、既存の制度との整合性とか二重補助にならない制度とかいうものを組み立てないといけない状況にあろうかと思います。

そういう中、先ほどおっしゃられた質問の中でもありましたけども、改正離島振興法の中に盛り込まれた離島活性化交付金の組み立ての中にそのあたりを新たに要求、メニュー化をしていくとかいうことも考えねば、私ども単独の自治体でそれを担っていくほどの財政力はありませんし、これだけの漁業者がいらっしゃいます。たしか、２０億とかいう単位での燃油だったと思います。それらのどれだけを担っていけるのかをじっくりといいますか、早急なんでしょうけども、早急に物事を取り組んでいかないと、メニュー化を求めていくことが必要だと思っておりますし、重複しますけども今ある既存の制度との整合性を見つけ出していくということを考えていきたいと思っております。何はともあれ、私どもこの対馬は水産業がやはり基幹産業です。この水産業というものが、今後もずっと持続していただけるような環境づくりということに関しては、心を砕いていかないといけないと思っております。

また、この漁業の問題につきましては、私ども国に対して要求をしております国境離島の特別措置法との兼ね合いが当然あります。多くの漁業者が出漁されることによって、国境警備をある意味担う部分も一面もあります。それらが衰退していきますと、そこさえも国は余分な経費がかかるということをしっかりと伝えていくことが大切かなと思っておりますし、またこの国境離島の特別措置法の中では、新たな起債の創設をお願いをしております。全国中が過疎になっていく中で、過疎債というものの枠というものがそうそう広がっていかないだろうし、過疎自治体がふえていけば割り当てといいますか、配分が少なくなっていくと思われます。そういう中、私どもの島の特徴、特性というものをしっかりと訴えていく中で、今の過疎以上のある意味有利な起債というものを創設してもらうということも、今後も声高に言っていかないといけないと思っています。

また、昨年９月に参議院において出されました国境離島、正式な名称はちょっとあれですが、

保全法の中でもその起債のことには触れていただいておりました。ただし、過疎債と同じくらいの優位性はありませんでしたから、それらをもっと国境離島における意味合いというのをしっかり伝えていく中で、この島の人口というものの流出に向けて、また基幹産業の活性化というものに向かって取り組んでいきたいというふうに考えております。

また、２点目の件でございますが、本市の徴収率というものは県下最下位なのかというふうな確認がございました。残念なことでございますけども、県下で最低の納税率というふうになっております。どうかしてこれらの納税率というのが上がるようにしていかないといけませんし、自主納税というのが自主財源に乏しい本市にとりましては、この財源をしっかりと確保していくことが今後も大切だと思いますし、市民の皆様方にもその大変苦しい状況かとは思いますけども、私どももしっかりとそのいただくお金というものを無駄なく使っていきたいというふうに思っておりますので、どうか納税に関しましてはお願いをしたいというふうに思っております。

また、平成２０年くらいから差し押さえというものをあわせてしっかりと取り組ませていただいております。また、納税に関しましては、延滞金というのもいただくことをしっかりとやらせていただいております。これらにつきましては、やはり納税者との不公平感を出してはいけないという思いで、当然国税徴収法を準用しております地方税法にのっとって、そこはきちんと組み立ててやっているつもりでございます。差し押さえが多いということで、私自身大変じくじたる思いになるときもありますけども、しかしこれにつきましては地方自治の本旨はそこにありますので、どうか市民の皆様に御理解をいただきたいと思っております。それこそ、県下で一番になるような市になれば一番いいなと思っておりますし、御理解いただく以外に方法はないのかなと思っています。

また、前納報奨金のお話がございました。これらについては、過去において確かに前納報奨金というのを報奨制度がございまして出しておりました。やはりこれらにつきましては、今は全国的にもう廃止をしている自治体がほとんどであります。県下については全て廃止をされておられます。全国的にはまだ残っているところもございますけども、先ほどの差し押さえと同じであります。理屈は。やはり税の公平性を保つために、特別徴収等で自動的に給料から天引きされる方々も多くいらっしゃいます。それらの方に関しましては、前納報奨金という制度は全くございません。それらの方とのやはり不公平感というものを出してはいけませんので、公平性を保っていくための制度として、それを改めて合併前に戻すとうことは難しい状況にあろうというふうに思っております。

次に、３点目の入会林の進捗状況でございますが、この入会林に関しましては、もう三山議員もお力をずっと入れていただいている案件でございますので、私が申すまでもありませんけども、現時点において厳原の安神、美津島の加志、箕形、大船越のこの４地区を嘱託員４名体制で着手

を進めておるところであります。安神地区につきましては、県の審査会がもう終了し、申しわけありません、安神は１区と２区に分かれております。１区につきましては審査会が終了して、今県による嘱託登記が行われております。２区については１区と平行して事務を進めておりますけども、確認書の徴集及び整備計画書の作成を今進めておるところであります。また、加志地区については２１年度から着手をして、相関図について最終のチェック作業を行っているという報告があっております。終了次第確認書の作成に取りかかる予定です。また、箕形地区につきましては２３年１１月より着手し、登記名義人、法定相続人の調査、相関図の作成が終了し、今確認書の徴集を行っており、７５％の段階まで取得率がいっておりますので、このまま１００に向かって走りたいと思っております。また、大船越地区でございますが、ここにつきましては２１年度から旧美津島町当時の資料の引き継ぎで事務を進め、振興局の事前審査を受けて確認書の徴集予定でありましたが、法定相続人の相関図を家督相続で作成をしており、大幅な修正が必要であります。また、過去に徴集した確認書にもやはり不備があり、今地元役員さんと協議し再スタートの提案をいたしております。従来の取り組みを踏襲することで進めることとなり、現在相関図が９割程度終了している状況であります。

また、今後の地区等のお話が最後にございましたけども、今取り組んでおりますこの何はともあれ４つの地区をやり遂げていくということを先に考えていきたいというふうに思っております。しかし、対馬全体まだまだやっていない、進んでいない地区がございますので、これらを解消をしていくことが地域の方々からよく上がってくる道路にしましても、いろんな問題に引っかかる問題ですので、これらで事業要望ができないというふうなことがあってはならんという思いは持っておりますので、順次取り組んでいきたいと思っております。

また、最後にありました入会林野活用促進対策協議会の条例の件がございましたけども、この条例につきましては以前の事情を調査しますと、以前の厳原町時代にできておる条例でございまして、入会林を導入を図る時点においてどこの地域から入っていくかということを諮問をするための審議会、協議会条例というふうなことで聞いております。現時点においては、もう既に４地区取り組んでおりますので、現在は全く開いていない状況であります。

○議長（作元　義文君）　１３番、三山幸男君。

○議員（１３番　三山　幸男君）　それでは、再質問をさせていただきます。

まず、３点目のほうからちょっと入りたいと思うんですが、現在安神の第１、第２、加志、箕形、大船越の４地区、５つの事業が取り組まれて、既に安神の第１区については県に申請をされて県で確認作業が行われているという思いでよろしいでしょうか。その次は、加志も２１年から取り組まれて最終段階に入っているということですが、これは箕形については約７５％くらい進んでいるということですが、加志は具体的にはどの程度、最終段階ですので７５％以上進んでい

るという見解でいいんでしょうか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　後で始めました箕形のほうが７５まで確認書の徴集までいっていると、逆に加志のほうは相関図についてのまだ最終のチェック作業の段階でございますので、その後確認書の作成に入るということになりますので、逆に箕形のほうが進んでいるというふうに御理解をいただきたいと思います。

また、冒頭おっしゃられました安神につきましては、１区については県のほうの審査が終わって、県による嘱託登記の段階に入っております。２区につきましては確認書の徴集、整備計画書の作成中という段階です。

○議長（作元　義文君）　１３番、三山幸男君。

○議員（１３番　三山　幸男君）　私、今回一番お尋ねしたいところが県道整備で、やはり箕形加志間の吹崎工区なんです。ここが入会林で登記ができませんと、県としても事業に入れないというようなことで、特に加志、箕形の人には私個人も実際地区に出向いてお願いをし、協力するよという確約はいただいているんですが、何となく私の感じとして思ったように進んでいないような気がしております。特に、地区の名前を言えばできませんが、今確認作業を進めてこれから各個人に確認書を取る段階というようなお話がありました。その辺のパーセントはもう６０は既に超えているんでしょうか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　済みません、加志地区の問題でございましょうか。これについてはまだ相関図の最終チェックをやっている段階でございまして、確認書のまだ作成に取りかかる予定でございますので、まだパーセントというのがいえない状況でございますが、恐らくおっしゃってあるのは全体の着手から完成までを１００としたときのパーセントというふうな意味合いでおっしゃってあるんだろうと思いますけども、それについてはなかなかここまでいけば何％というふうなところまで私も確認はとっておりませんけども、いかんせん相関図ができないとゼロ％だというふうに思っておりますし、相関図ができてから全てが始まってくるのかなというふうな思いでおりますので、あえてパーセントは何％かとおっしゃられたらでき上がって１％になるのかなというふうなことでお許しいただければと思います。

○議長（作元　義文君）　１３番、三山幸男君。

○議員（１３番　三山　幸男君）　そうしますと、予定で加志は２１年度から２５年度で事務作業を終えて２６年度には県に申請をするというような予定になっておりますが、その予定といいましょうか、計画は変わりないということでよろしいでしょうか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　全体的なスケジュールとしてはそういうつもりで動いております。こちらも。あくまでも最後の段階において確認書の徴集ということが、どうしてもまた皆さんの手を取る段階があると思っておりますので、地域の地区の方々も一緒になってそこについては取り組んでいただいて、今困っておりますあの県道ですね、これらが早期に着手できるように私どもも取り組んでいきたいと思っております。

○議長（作元　義文君）　１３番、三山幸男君。

○議員（１３番　三山　幸男君）　次に、今進めている４地区を集中的に行って、次に計画をしているところは今のところはないというような市長の答弁でしたが、私ども議会の中の特別委員会で、国県道路整備促進委員会の中で例えば、小船越から畠ヶ浦、あるいは緒方入り口から大船越にかけての地区も共有地で入会林が必要だというような資料には説明が出ておりますが、このあたりは今の４地区が終わらない限りは着手をされないというような見解でしょうか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　現在やっておりますこの４地区にまずもって私ども全勢力を傾けていきたいというふうに思っております。小船越地区のお話がございましたが、これについては昨年の６月議会でしたか、大浦議員のほうから一般質問がございました。何はともあれ、２０年の２月に小船越地区につきましては集団決定がなされておりますので、当然ながら今の４地区というものが終わりましたら、小船越地区が優先的にといいますか、集団決定をいただいているというすごい大事な部分でございますので、そこから取り組むことにはなろうかとは思っておりますけども、今現在正式な決定ではございませんけども、地区のほうから二、三うちの地区においても入会がまだ整備されていないんだという御相談は上がってはきております。そういう地区が幾つも待っているんだというふうなことは、私自身もしっかりわきまえてはおります。

○議長（作元　義文君）　１３番、三山幸男君。

○議員（１３番　三山　幸男君）　いずれにしても、入会林の促進事業は市のほうに全てを投げかけるんじゃなくて、やはり地権者がいますので地権者の確認といいましょうか、相続人、自分の例えば親あるいは祖父の名義であればそこから何人何十人と相続人が発生しますので、地区の協力がなければやはり幾ら私どもが質問しても、市長が答弁されても難しい面はあるとは思います。そういうことで、この場をかりて現在行われている地区の皆さん方に再度私からも確認書の提出、できるだけ地区の協力をいただいて、なるだけスムーズに行われるようにお願いをさせていただきます。

それと、先ほど条例にのっておりました。これは通告外ですが、入会林野を事業促進するためにはやはり必要な条例ということで市の条例でうたっているはずなんです。これ、旧美津島町時代、私は今里の直接の役員ではありませんでしたが、下部の役員の一人として年に何回か入会林

野の協議会に会長が出席をしたというような記憶がありました。そこで、どういうお話があっていたかはわかりませんが、市のほうとされてもここに１条から７条までうたっております。市長の諮問に応じるために対馬市入会林野活用促進対策協議会を設置すると。協議会は委員の１０人以内をもって組織し、委員は次に上げるもののうちから市長が委嘱するというような、こういうことになっておりますので、現在の対馬市では例えば公共事業、道路用地に限らず共有地はかなりございます。まだ入会林野で手をつけようとしてもなかなか手つかずの地区は恐らく半数以上はあるんじゃないかと思いますので、これの活用について今後市長のお考えを伺いたいと思いますが。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　申しわけございません。私もこの条例について、全く今までひもといたことはないものですから、今ここで即答しかねる部分があるんですけども、この条例の本旨というものをしっかりちょっと研究させていただきたいと思います。それで、現在の対馬の入会林の状況において、入会林の整備状況ですね、整備状況においてこの条例の動かし方をどうすればよいかということの研究をまずさせていただきたいと思います。

○議長（作元　義文君）　１３番、三山幸男君。

○議員（１３番　三山　幸男君）　ちょっと残された時間もあと１４分余りですので、入会林野につきましてはこのくらいにさせていただいて、あと市長できるだけ予定しております年度で事務作業を終えて、県に申請をできるように市のほうも最大限の努力をしてほしいと思います。

　次に、逆になりますけれども、市税の徴収９４．２１％で県下最下位という不名誉な結果が出ておりますが、原因としては何が考えられるか市長どう思われていますか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　さまざまな原因がそこには絡んでいるんだろうなというふうに思っております。当然、経済というものが第一の要因かなと思っておりますけども、また経済といいますと、雇用という問題が今どんどんなくなっていっているという中で、当然ながら納税に至らないというふうなことが第一なんだろうと思っております。それ以外にもあろうかと思っております。

○議長（作元　義文君）　１３番、三山幸男君。

○議員（１３番　三山　幸男君）　私が今回質問したこの徴収率についても、第一に申し述べました対馬の現状を考えるときに、やはり対馬島民の所得水準にあるんじゃないかなと思うんです。漁業なり、農業なり一次産業が元気なころであれば当然市税は黙っていても徴収はできたはずなんですが、ここまで対馬の経済が落ち込みますと、やはりもろもろの品に影響が出てくる。そういう面で、市税の徴収についてもやはり今までどおり一般の納税者が窓口まで持ってきて納めるというような人は限られてくるんじゃないか。そういうことで産業の振興あるいは雇用の場の確

保、所得の向上は最低限必要な品だと思っております。

次に、②の滞納税解消のためにやむを得ずだとは思いますが、差し押さえ件数が平成１９年から平成２３年までの５年間を見たときに約５．５倍以上ふえている。これはどのような状況で発生をするのか、いま一度答弁をお願いします。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　大変難しい御質問でございますが、決してやみくもに差し押さえをやっているわけではございませんし、税法にのっとって物事を進めておるところでありますし、徴税吏員の当然権限というのも付与されております。その徴税吏員が納税者とのお話の中でやはり差し押さえに至らないといけないというふうな状況等を感じた場合、そこに踏み込んでおるというふうに私は理解をしておりますが。

○議長（作元　義文君）　１３番、三山幸男君。

○議員（１３番　三山　幸男君）　差し押さえをされた中で、例えば預貯金とか財産を差し押さえするわけですけれども、もし不動産を差し押さえたときに当然市のほうが競売にかけられる。これ今までの例としてほとんどの品が競売で落ちているんでしょうか、それとも一部は残っているとか、大半が残っているとか、そのあたりはどうなんでしょう。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　その割合については私も押さえはしておりませんけども、申しわけございません。競売を実施して全てのものが競売で落札されるという状況では決してございません。その割合等については市民生活部長のほうから答えさせたいと思います。

○議長（作元　義文君）　市民生活部長、長郷泰二君。

○市民生活部長（長郷　泰二君）　今の御質問の競売による不動産の件なんですけども、これ年によってばらつきがものすごくございます。というのは、安い物件と高い物件がございます。ちなみに２４年の例を例えて言いますけれども、厳原地区で競売をかけたんですけれども、値段が折り合わずにことしは土地については動いていないということです。あとの不動産と動産があるわけですけども、動産につきましてはものの質といいますか、性格といいますか、そういったものによって競売の率が変わっておりまして、一概に何％をしていますよという表現がなかなかできづらいのが現状でございます。

○議長（作元　義文君）　１３番、三山幸男君。

○議員（１３番　三山　幸男君）　なかなか負の部分は言いにくいところもあろうと思いますので、それはできるだけ納税者に納税をしていただいて、そういうことがないように努めていただきたいと思っております。先ほど私、善良な納税者に対して例えば前納で収めた場合、前納奨励金は復活は市長お考えないのかとこう質しました。これは、旧美津島町で平成十四、五年くらいから

行われていて、合併後たしか平成１７年くらいまではあったと思います。例えば市の財政を見てみますときに、例えば１６年の３月に合併したとき、市の起債といいましょうか、６６０億円くらいあったと思いますが、それが歴代の市長並びに職員、議会の努力によって現在は５００億円を切ろうとしている状況ですが、例えば税の不公平感、第１期に前納された場合という人はいっぺんに例えば１０万円の税金を払う人もあるでしょうし、７０万円、あるいは１００万円の保険税、あるいは町県民税、保険税、固定資産税、払う人もいるでしょう。市のほうとしてもメリットがあると思うんですが、そのあたりのお考えはどうでしょうか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　先ほど申しましたように、給料天引き、もしくは年金から天引きされている方々で、そういう形での納税をされている方々については、こういう制度はございません。その方々との公平感というものを保っていくためにはという思いで、今まで１７年から、１６年３月に合併しましたので１７年度からはこの前納報奨金制度というのが全廃をされた経緯がございます。確かに、合併当時と比べますと公債費の残高というものは減りはしておりますけども、これはよく引き合いに出されます類似団体等で見ていくと、まだまだ大幅に多い状況でありますので、決して財政が豊かになったというふうなことは全く私どもも考えていない状況であります。

○議長（作元　義文君）　１３番、三山幸男君。

○議員（１３番　三山　幸男君）　市長の答弁は市長の立場として、私は一般市民の立場として質問をさせていただいておりますので、多少食い違いはあろうかとは思うんですが、ただ前納した場合のみじゃなくて、そういう給料、年金等から自動的に引き落とされる方であってみても、例えば市役所の税務担当者が各地区を徴収に回る、これはもちろん経費が要るわけですが、そこでその例えば滞納になったり、あるいは納期内に支払いができなかった人には延滞金を確かにとっているようですが、そういう経費を少しでも抑えるためにも、そういう制度をすれば人の意識というのは変わるような気が私はするんですが、今一度お尋ねをしてみたいと思いますが。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　ちなみに平成１６年度、まだ前納報奨金の制度が残っておりました最終年度でございますが、この年度で対馬市全体で前納報奨金の金額は当時２，４００万円という金額に上っております。今、この仮に２，４００万円とした場合、これを出す財政的余裕があるかと、それの問題もありますし、今おっしゃられた職員の労の部分を考えると差し引きどうなのかわからんじゃないかというふうなお話だと思っております。基本的には職員が徴収、臨戸でやっていくという制度からは離れていきたいというふうな思いを私どもは思っておりますし、地方自治体としては本来の姿はそこにあるんではないかというふうな、ある意味理想かもしれませんけどもそれを追い求めているというふうに御理解をいただきたいと思います。

○議長（作元　義文君）　１３番、三山幸男君。

○議員（１３番　三山　幸男君）　御理解をしてくださいといってもなかなか私も言い出した以上、理解も難しいんですが、納得をせざるを得ないかなと思っております。

一番先にちょっと戻りたいと思います。やはり、この対馬が元気でなくては何事もできません。そのためにはやはり本年４月から始まる離島振興法、これで対馬に限らず全国の離島が振興法にのっとって、いろんな事業が成り立つわけですが、私先ほども言いましたように、我が対馬みたいな国境離島と、本土に近いような内海離島では同じ制度ではやはり不公平があるんじゃないか。先ほど市長の答弁にもありましたように、国境離島には国境を警備するようなそういう役割も持っておりますし、それがなかったらやはり外国あたりから漁業権あたりの侵害を受ける可能性もあります。そういうことで、対馬を活性化させるためには、対馬市自体の力ももちろんですが、対馬市自体限られた力、財政ではなかなか難しい、そこで対馬市あるいは全国の国境離島が掲げる国境離島の特別立法が制定されることが島の活性化に結びつくと思いますが、いま一度市長のその辺のお考えをお聞かせいただきたいと思います。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　冒頭申し上げましたように、今年は特別措置法制定に向けての勝負の一年になろうかというふうに思っております。そのあたりの状況というのをしっかり捉え、そしてこの対馬の生き方として国境に接しているがゆえに逆の方向から見ますと、国際観光都市対馬という売り出し方もあるではないかというふうな、そういう一面もまた表に出しながら、その特別措置法の組み立てというのに向かって力強い動きをしていきたいというふうに思っておりますし、市民の皆様もそうでございますが、これらの動きの際、お力添えをいただきたいというふうに思っております。

○議員（１３番　三山　幸男君）　議長、もう１回いいですか。

○議長（作元　義文君）　もう１回だけです。

○議員（１３番　三山　幸男君）　どうもありがとうございました。ちょっとここでお時間をいただいて、私事で大変恐縮ですけども、私平成１５年の５月に行われました当時の美津島町町議会議員選挙に初当選させていただいて以来、１０年間議員生活をさせていただきました。次期の５月の市議会議員選挙には私は立候補しないつもりをいたしております。今後、対馬市が財部市長をはじめ、幹部職員の皆さん方と新しい市議会議員に選ばれた方々の力で、今後対馬市がさらに発展するよう心から願いをいたしまして、また市民の皆さん方に長い間お世話になりましたことをこの場をお借りし厚くお礼を申し上げまして、私の一般質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。（拍手）

○議長（作元　義文君）　これで、三山幸男君の一般質問は終わりました。

○議長（作元　義文君）　昼食のため暫時休憩します。午後は１時から開会します。

午前11時59分休憩

午後０時59分再開

○議長（作元　義文君）　再開します。

１番、渕上清君。

○議員（１番　渕上　　清君）　新清会の渕上清でございます。本日、午後２時４６分、ちょうど２年前の東北大震災の発生の日でございます。まさにその時刻を迎えます。犠牲者の皆様の御冥福を祈念申し上げますとともに、その復興の早からんことを切望するものであります。今まさに全国的に行政の手腕が問われているものと存じます。

さきの９月、１２月定例会に続きまして、同じ案件についての質問でございますが、どうぞよろしくお願いいたします。今議会は、今議員任期中、最後の議会でございます。さきの議会で私の質問に対し、質問の趣旨を理解いただいた旨の御答弁をいただきましたので、関係市民納得のできる御対応を期待しておりましたが、その回答たるや全く主権者たる市民を愚弄するものでありました。このことは、地方自治の根幹を揺るがす重大な事案でございますので、議会人として見過ごすことはできません。対馬市が今行っている廃棄物処理の方法が、いかに違法性があり、どんなに重大な問題を含んでいるかについて、今回は内容をより深くより具体的に質問いたしますので、市長の明快な御答弁をお願いいたします。

まずは、１点目です。市長の政治姿勢についてでございます。本議会冒頭の市長による施政方針説明を聞かせていただきました。まさに、市長が言われるように新しい時代の到来が期待できる国境離島振興法の立法が大きな前進を見せておりまして、対馬にとって最も重要な時代の到来であろうと存じます。今こそ対馬島民が心を一つにして、さらに大きな力となって、この絶好の機会を律しなければなりません。市長も重大な決意を持って頑張り抜こうとの意思を表明されました。大いに共鳴するものでございます。

しかし、いささか気になることが一、二点ございました。１つは、市長は張り切りすぎると一人で頑張ろうとする癖がございます。どうぞ、市長が言われる「市民ヂカラ」の結晶でもある議会の力も生かされて、より効果のある結果を獲得すべく全力投球されるよう熱望いたします。ともに頑張りましょう。

もう一つは、さきの市長選で市長は「市民が宝の島づくり」とのスローガンを掲げて、市民が豊かで安心して住める生活環境をつくりますと訴えられて見事当選の栄誉を勝ち取られました。しかし、さきの施政方針説明での市民に向けての文言は、各世代の協働に対する忠誠を呼びかけ

られたのみでございました。そこで、確認なのです。市長の施政の原点は「民政安定」、いわゆる市民が安心して生活できる島づくりであるということには変わりないと存じますが、この１点についてまずは御所見をお伺いいたします。

以下は後ほど、どうぞ。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　１番議員の方から今御質問がありました。重大な決意を持っていることが施政方針の中で感じられた。しかし、唯我独尊的なところがあるから、注意しましょうという言葉、ありがたく承ります。また、ともに頑張りましょうというお話もいただきました。ともに頑張っていきたいと思っております。

施政方針の中で忠誠のみを市民に各世代にお願いをしたのではないかというふうなお話でございますが、決して忠誠のみをお願いをしたつもりはありません。確かに、言葉としてはそこの部分しか見えない部分があろうかと思いますけども、今対馬にとって必要なまず第一歩目ということを考えて、その言葉を選んだところであります。協働ということに対しての皆さんの思いを一つにしていただきたいということで、忠誠という言葉を使ったところであります。当然ながら民政安定といいますか、それぞれの市民の方々の幸福と幸せというものをどのようにしてつくり出していくのかというのが、私ども行政の仕事だと思っております。ただし、お一人お一人全てが多種多様な幸福の形があろうと思っております。それ全てを行政が担っていくというのは不可能かと思いますけども、その方たちの幸福というのが実現できるような形での環境整備といいますか、そこに私どもは市政として取り組んでいかないといけないと思っております。

また、施政方針の中で国境離島特別措置法に関する話をたくさんさせていただいたところですが、法律ができて全てがそれで解決する問題でもございません。新しい法律ができたときにそれを動かしていくのはやはり市民の皆さんの心だろうと思っております。そういう意味において市民の気持ちがそういう方向に向いて島づくりが早くなり、そして最終的には市民の方たちがこの島に生まれ育って、そして生活して幸せだというふうな感覚、感じを持っていただければ、それが私どものもっともの責務だというふうに自分自身は思っております。

以上です。

○議長（作元　義文君）　１番、渕上清君。

○議員（１番　渕上　　清君）　ありがとうございます。私もそのようであろうということは承知しておりましたが、確認の意味で質問をさせていただきました。次に、２点目の質問でございます。さきの９月、１２月議会において、私は一般廃棄物の収集業務に対する既契約は、契約の中の事業系ごみの積算漏れについて質問をいたしました。現在、その収集業者にサービス的に処理を強要しているのではないか、その法的根拠について質問をいたしました。市長の答弁は、

１２月議会においてようやく正常な処理方法について理解をいただいて、適正な対応をされる旨の御回答をいただきました。

私は、途中で質問を打ち切りましてその対応の早からんことを期待しておりました。ところが、ところがです。対馬市からようやく先月中旬にその対応策について回答を受けました。正直あきれてしまいました。その回答は、「平成２５年度から正常な契約を締結します」ということでありました。もっともらしい回答でございますが、中身はこの違法な処理については全く修正をされるような様子ではなく、３年契約の中の平成２５年度分だけを契約を正常化しますという回答でしかありません。市町村の責任で施行しなければならない業務を、何の責任も義務もない一市民に押しつけて、その経費を負担させようというのですから、この対馬市の言葉はきつうございますが傲慢きわまりない姿勢、これは地方自治を根底から否定するものであります。対馬市の執行部に対しまして、私は行政機関の行政のチェック機能である議会の一員として決して見逃すことはできませんと、声を大にして申し上げます。はっきり申します。市長、あなたは大きな過ちを犯しています。

このごみ収集業務についての対馬市の取り扱いには幾つもの間違いがあります。何回言っても理解しようとする耳をお持ちではないようですから、少し耳が痛いでしょうけども、はっきりとこの間違いを正すことといたします。よく聞いてください。まず第１に、対馬市の執行部は法律の規定をどのように解釈されたのでしょうか。全く間違った執行がなされております。市長が９月議会での答弁の中で触れられました法第３条の事業系ごみの処理責任は確かに事業者本人の責任でありますが、法４条によって市町村の責務が規定されていることを無視されてはいけません。市町村の責任としてその処理についての事業者に対する指導監督の責務は課せられています。しかし、対馬市は事業者に対するその広報も指導も全くなされていません。それどころか、事業所の模範的立場にある対馬市役所の事業系ごみですら、一般家庭ごみと一緒に収集させていたのですから、弁解の余地はないものと存じます。

そして、三、四カ月経過しまして、やっとその違法性に気づかれたのでしょうか。市役所は慌てて職員にその運搬をさせました。その後、おかしなことに新たな業務として入札が行われ、その結果、当初から運搬処理の指示を受けていた業者とは別の業者が落札、契約してしまいました。通常このような事業については、当初からの業者との見積もり入札による随意契約によって業務が続行されるのが当たり前だと私は考えます。市民生活部から総務部に担当替えがなされるに際しまして、横の連携はどうなされたのでしょうか。あやふやな回答しかいただけない上、再入札に至る経過や今後の処理方法についての業者説明は全くありません。無頓着の限りであります。加えて、いまだに業務指示をして実施済みの業務経費についての精算がなされていないのですが、いつどのような方法で精算されるかについてお伺いいたします。

さて、廃棄物処理法第４条に示される市町村の責任については、まずは２年間も放置して何の活動もしなかった市内の事業所の指導から始めるべきだと思います。そして、できる限り事業所はその処理を履行されることを目指すべきです。しかし、１００％の事業所が完全履行することは到底無理なことから、その残余の事業系ごみについては、市町村の責任によってしなければならないと法３条はいっているのです。そして、市町村の負担にかかる残余の事業系ごみを減量に努めて、市町村の経費の削減に資することも市町村に課せられた責務なのであります。しかし、対馬市は全くその責務であるはずの業務を果たさずに、あろうことかその経費の増大分を何の責任も義務もない収集業者にその負担を押しつけて収集を強要して、市民を苦しめていることは平成２３年度から、当初から２年も経過した現在も続いているのですが、何を根拠にこのような暴挙がなされるんでしょうか。

しかも、議会において完全に法律に違反していることの指摘をしましても、それを善処しようという意思すら示さない対馬市。対馬市の地方自治に対する姿勢は全く理解できません。見解をお願いします。

その２は、市町村の委託事業は厳正な委託契約書の締結によってその業務は施行されています。契約書及び仕様書に事業系ごみの処理の積算が欠落しているにもかかわらず、対馬市は本契約期間当初から、環境衛生上の観点からでしょうか、その事業系ごみの収集を業者に指示いたしました。

さて、このような指示を出す場合は、当然発注者側は文書による指示書によって双方でその内容を確認し、業務を継続しながら速やかにその契約内容の変更によって処理されるのが行政の基本であるはずですが、口頭による指示だけで２年経過した現在も、正常な契約は締結されようともしないのです。あまりにも対馬市の取り扱いはずさんであると言わざるを得ません。当初から変更契約を行う意思がなかったのでしょうか。もし、最初から支払いの意思がなかったのなら、大変なことに発展しかねないことを市長は御存じですか。一般社会では、支払いの意思がなく当初からだまし続けて相手方に損害を与えることを詐欺というんです。いかがですか。まさかと思います。そんなだますなんて気持ちはさらさらなかったとおっしゃるようでしたら、即刻善処してください。行政による詐欺行為など聞いたこともないような恥ずかしい事態を心配するものです。御見解をお聞かせください。

その３は、このようなずさんな契約内容を知った昨年の８月から、私は同僚の長議員とともに対馬市当局に善処方を申し込みました。あまりにも不勉強の上、その対応は独善的で到底納得できるものではありませんでした。したがって、そのようなことから議会の一般質問によって市長にその改善策を訴えましたが、何の責任もない一市民に経費負担の御迷惑をかけていることすら考えにないのでしょうか。真剣に検討された姿勢は全く見えません。その関係業者に対する説明

も改善しようとする協議等の行動は全く見えてまいりませんが、どうしたことなんですか。まさか、行政だからこのままでよいのだ、ただいたずらに時間を経過させようとしているのですか。対馬市執行部の市民に対する姿勢とその資質を疑わざるを得ません。全く傲慢きわまりない、言語道断と言わざるを得ません。

ところで、２月下旬に行われた平成２５年度の入札説明会の折に、参加業者に平成２３年、２４年の事業系ごみの収集作業についての支払いができない旨、通達を口頭で行って、参加業者からの異論もなく了解されたものとの見解が示されました。私は、去る２月２６日の臨時会の折に、議長室において議会の厚生常任委員長と総務文教常任委員長の立会いをいただきまして、対馬市の２担当部長に口頭による通達ではなく、支払いできない理由を明記した文書を示した上で、同意書を徴するよう申し入れを行いました。その結果についてお知らせください。

最後に、市長個人にお伺いします。あなたは、この事業系ごみの処理業務での議会でのやりとりに心配をされた善良な市民に対して、解決についての落としどころはちゃんと心得ているから御心配なくと、電話されました。あまり行政用語で聞きなれない言葉ですが、その落としどころは３年契約のうちの最後の１年だけを面倒見ましょうということなんですか。もしそうであれば、あまりにも市民を、議会を愚弄しているのではありませんか。どんなに親しい人に対しても、対馬のトップリーダーとしての言葉ではありません。この言葉一つ見ても本件に対する市長の真剣度が透けて見えてまいるようであります。市長に、猛省を促し、特に言動には御注意なされるよう御忠告申し上げます。

いずれにしましても、市民の生活安定に力すべき地方自治をつかさどる行政が、己の責任も果たさずに２年もの間、一市民にその負担を押しつけて、いまだにその対価を精算しようとしない対馬市の対応は一体どうなっているのですかとお伺いしたいんです。廃棄物の処理に関する法律には、このような自治体があってはならないことから、明確に第四条に市町村の責任について条文化されているのです。対馬市は法律より地方自治体の判断を優先するというのですか。市長、当事者の市民は毎月厳しい生活を強いられております。御存じですか。

市長の選挙スローガンである「市民が宝の島づくり」が泣いておりますよ。あなたの座右の銘である「足元に泉あり」、泉が濁りつつありますよ。私は、行政のチェック機関である議会の一員として、しかも今任期中最後の議会であることから、納得できる御回答を頂戴しない限り看過できないことを申し添えます。市長、しっかり対馬市の責任と義務を果たしてください。改めてお願いいたします。補正予算にどのように計上されていない３年間のうちの２年間の事業系ごみの未精算分、どのような取り扱いをなされるか、御回答をいただきます。ぜひ、今議会中にどのようにこれを正常化するかを御回答賜りたいと思います。以下、御回答をいただいて質問させていただきます。よろしく御回答願います。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　一番議員さんの御質問にお答えさせていただきますが、今事業系ごみ一般家庭系のごみが混同しております。これを明確にしていく必要があるというふうなことに職員も気づいて、２４年度からまず手始めに市役所本庁からやっていくというふうなことにした次第です。また随意契約のお話がございましたけども、入札参加の願い等が出ている方に対して発注をかけたというふうに記憶をしております。事業系ごみを２３年、２４年の分をというお話がございます。私ども内部でもずっと職員もこのことについてどのような形が最もよいのかということで研究を重ねたところでございますが、年度当初の事業所数の捕捉というものが過去にさかのぼってやっていくというのも大変難しゅうございます。

それと、そのことが一つのネックとなりまして、私ども本庁並びに各センター、それから学校、保育所、幼稚園、消防署等これら市の関連施設につきましては、当然捕捉は可能でありますので、そこについて現行契約の委託料の積算と同様の考え方で現契約に反映を２５年度において対応していく予定はしておりますが、それ以外の事業所の数の捕捉については大変困難をきわめておりますし、推計の中で物事をやっていくということがなかなか難しい、税金を支出するにあたっての基礎データを明確にしてないといけないというふうなこともあり、先ほど申しました公共施設関連について反映をしていきたいと思っております。また、この２３、２４だけで本来いいのかというふうな私どものほうには思いがあります。民法上の規定にいったときに、１０年さかのぼっていかないといけないんではないかというふうな話もありますが、なかなかそこについて踏み込むこともできないでいると、だから２５年からこれらについて是正をしていきたいというふうな考え方を、２月の２５、２７のときにそれぞれの収集業を営んである方たちにお集まりいただきまして御意見もそこで頂戴したところでございます。

そういう方向性で進ませていただきたいという思いを持っておりますが、決してその方たちを私どももだまそうという気もありませんし、詐欺だというふうなお言葉がありました。このままだまし続けるのかというふうな御発言がありましたけども、決して私どもとしてはそういう思いは持っておりませんけども、そのようにとられるならばまたこれが違法だというふうにおっしゃられて、ずっとおられますけども、私どもの解釈としてはこの廃掃法の３条、４条、特に４条の考え方につきましても、３条は全く分離したものであるというふうな考え方で法解釈させていただいております。

それがまた独善的だと言われるかもしれませんけども、私どもの今の考え方の中ではそこにそういう捉え方をしていると。もし、これが違法だというふうなお考えでやられれば、またそれはそういう形で何らかのしかるべき部分で、法のもとで結論を見出していかないといけないのかなとは思いますけども、決して、何度も言いますが先ほどおっしゃられました詐欺とかいうふうな

ことで、私どもはそういうことをするというふうな考えも毛頭持ち合わせてはおりません。

○議長（作元　義文君）　１番、渕上清君。

○議員（１番　渕上　　清君）　安心しました。そういう気持ちがあるはずがないんですよね。ところで、ちょっと中身に触れさせてもらいますが、近年のごみ収集運搬業務契約は３年契約でなされておりますね。前期、いわゆる平成２２年以前の３年と今期の比較についてお尋ねをします。まずは、その設計金額の代表的な厳原市街の２地区の前期の金額と、設計金額ですよ。今期の設計金額の比較をお知らせ願います。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　それについては、私のほうは持ち合わせがありませんので、市民生活部長に答えさせます。

○議長（作元　義文君）　市民生活部長、長郷泰二君。

○市民生活部長（長郷　泰二君）　ただいま御質問いただきました厳原第２地区の設計金額ということでよろしいでしょうか。当初の話としてさせていただきます。平成２０年度の設計金額は厳原第２地区は４，６９６万３，０００円でございます。２３年度から現契約の設計金額は４，０２８万９，０００円でございます。

以上です。

○議長（作元　義文君）　１番、渕上清君。

○議員（１番　渕上　　清君）　４，０２８万円っておっしゃられました。２地区ですね。市長その今の差は前期と今期の金額といいますか、積算の差額は６６０万円を超しているんですよ。６６０万円。前期のごみ収集の業務内容と今期のごみ収集の内容は全く変わりませんが、６６０万円も減った原因は何なんですか。もし、これが事業系ごみを積算していないことによるマイナスであれば、事業系ごみは積算されていないんですから、積算されていないんですよ。だから、この差がそのまま同じ仕事をしながら、６６０万円のマイナス分が補助金か何かが来るのがマイナスならある程度は我慢できる。しかし、このマイナス分を仕事をさせているんですよ。だから、市民はその対価も入らない、仕事の代金も入らない仕事がおおよそこのくらいも仕事を強要されているんですから、その生活は悲惨なものなんですよ。だから、その辺をお考えいただきたいんですよ。市民は、本当に泣いておりますよ。だから市長、市民が宝の島づくりとおっしゃるようにあれば、もっと市民の立場に立ってそういう御配慮というんですか、契約をしっかりしたものにしてやってください。正常化。この差額は何の差額ですか。何か検討されましたか。

○議長（作元　義文君）　市民生活部長、長郷泰二君。

○市民生活部長（長郷　泰二君）　私のほうからお答えさせていただきます。

御指摘の設計の差額の問題なんですけども、確かに厳原の第２地区と第１地区は２０年度と

２３年度比較するとマイナスになっております。ほかの地区におきましては、一つの例を挙げますけども、８００万円プラスになっている地区もございます。ここがなぜこういうふうに変わったのかということでございますけども、まず２０年度から２２年度の委託料の算定と今回算定しているものにつきまして、まず２０年度中におきましては、基本単価の取り扱い方というのがございます。まず、助手、運転手、じんかい損料とか諸経費率とかいろいろございますけども、まずこれを建設等で使っている率に見直そうということになりました。その結果としまして、先ほど御指摘のあった厳原第２地区は約６６０万円のマイナスになっております。あとは諸経費率と世帯の捕捉の問題です。これは前回といいますか、平成２０年度ですけども、これは上県地区が一番少ない地区ということで１，６００を基準として数値をプラス・マイナス補正を上げております。そういった関係で世帯数、助手の積算の方法、そこら辺で数字が動いていることと御理解いただきたいと思います。

○議長（作元　義文君）　１番、渕上清君。

○議員（１番　渕上　　清君）　説明内容は理解しましたが、そういう説明では理解できないんです。事業系ごみについては積算していないじゃないですか。積算していないものを契約の内容にもないものを業者に指示してさせているんですよ。それを、契約変更をなぜしないんですか。首振っておられますか、何か。どうぞ。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　業者のほうに事業系ごみを取れということでの、そういう指示は出していないという報告を受けております。

○議長（作元　義文君）　１番、渕上清君。

○議員（１番　渕上　　清君）　対馬市からいただいた資料です。事業系ごみに対する取り扱いは、ちょっと済みません、目ん玉入れかえます。老眼鏡を。事業系ごみの回収については一般家庭用ごみ収集の中で出てきている事業系ごみは、外に出ている事業系ごみは一緒に回収することと明記してあるやないですか。ところが契約にはないんですよ。これ、ずっとここに書いてあるんですが、指示してない。指示していないものをどうして業者が自主的に取りますか。もう時間ないですから、簡単に、簡単に。指示しておる。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　今発言されたそのペーパーというのは、申しわけございませんが何に基づいた分でございましょうか。

○議長（作元　義文君）　１番、渕上清君。

○議員（１番　渕上　　清君）　対馬市から頂戴いたしました対馬市のごみ運搬業務委託契約等の比較についての１番目に積算方法と、２番目に入札契約の状況というのがございます。これを

（発言する者あり）いや、さきに申したように、議長室で申し入れをしまして頂戴した資料でございますが、いずれにしても市民は泣いているんですよ。契約にない仕事を押しつけられて、時間がないですから、今会期中に絶対解決をなされるようにお願いします。もう時間がないから、これ以上はこの場では言われませんが、ぜひお願いしたいのは補正予算でしかこれは私の経験上処理できないと思いますので、厚生常任委員会で補正予算の審査でしっかりとこの辺を担当の御意見、市長の意見を聞いてこの会期中に処理いただけなければ、もう我々の議会でこの辺を見過ごしたことになりますので、しっかりと対応をお願いしますし、市長、どうですか、善処しますという言葉はもらえませんか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　善処したいところでございますが、できれば過去１０年さかのぼってしかるべきところできちんとした金額を出していくというのも、皆様方に対しての報いる方法の一つかなとは思っております。

○議長（作元　義文君）　１番、渕上清君。

○議員（１番　渕上　　清君）　それは庁舎内の事情なんですよ。あなたたちがその業務をしっかりしておればその辺の把握はちゃんとできておるんですよ。それを何もしていないじゃないですか。それを理由に一般市民に御迷惑かけていいという仕組みは何もありませんよ。だから、私は声を大にして言っているんですよ。その一般市民に契約のないものをさせておって、我々の調査が１０年にさかのぼって云々くんぬん言うて、一般市民は何の理由にもなりませんよ。自分たちの事情によって市民に迷惑をかけようと、そんな話がどこにありますか。時間がまいりました。続きは先ほど申しましたように、厚生常任委員会のほうでしっかりと審査をお願いしたいと思います。

終わるにあたりまして、一言私自身随分と激しいことを申しました。市民の苦しみは他人事ではないという信念から申し上げました。そのことに免じてお許しをいただきたいと思います。あなたが、市長あなたが、もう１点ですが、高い理想に燃えて日々東京へ長崎へと飛んで回っておられる姿、私は評価します。しかし、その足は対馬にしっかり置いてください。そして、そのあなたの足元での市民生活がどんな環境になっているか、市民が行政のありようによってどんな生活をたどろうとしているのか、その辺をしっかり見きわめながら御活躍をお願いします。最後の場面でございますので、市長が市民と一緒になって、車座になって、和気あいあいと将来の島づくりについて手を取り合って語り合っていただけるような、そんな姿を念じながら、質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　最後の下りで「和気あいあいと」ということでありますが、市民と車座

になってというお話をいただきました。私自身もそういうつもりでいろんな場所に出向いておりますし、全ての市民とそういうことは物理的に不可能だとは思いますけども、言われれば土日夜構わずいかなるところにも飛んでいっているような状況であります。自分自身の体力が続く限りと思っております。東京、長崎ばかりに決して行っているわけでもありませんし、帰ってきてからもそのまま上にも飛ぶこともあります。２４時間対馬市民全体の将来というものを常に、片時もそのことだけを考えてやっているつもりでありますけども、なかなかその気持ちというのが皆さんに上手に伝えることができないというふうなのが、自分の中のジレンマではありますけども、今おっしゃられたことに心がけていきたいと思います。

○議長（作元　義文君）　これで、渕上清君の質問は終わりました。

○議長（作元　義文君）　暫時休憩します。再開を２時１０分から行います。

午後１時53分休憩

午後２時10分再開

○議長（作元　義文君）　再開します。

２番、脇本啓喜君。

○議員（２番　脇本　啓喜君）　こんにちは。２番議員、会派清風会の脇本啓喜です。通告に従い、医療・介護についてと新年度国や県で創設される予算の活用方針についての２点を質問します。

今回の質問は、私のホームページの活動報告欄に詳細を既にアップしています。関心を持たれた方は、医療に関しては「ボリューム１４鹿児島県政務調査報告書」を、漂着ごみに関しては「ボリューム１５漂着ごみ問題関連イベント企画書案」並びに「ボリューム１１福岡～長崎～武雄出張活動報告書」を、フェイスブックを活用した通信販売に関してはボリューム１１の武雄の部分を参照いただき、放送を御視聴くださいませ。

それでは、１番、島内医療・介護サービス体制の整備について、対馬では現在、遅くとも平成２７年上半期までには新統合病院開業に向けて建設を進めていますが、建設の大きな理由の一つとして医療従事者が確保できる規模と機能充実を図ることが上げられています。しかし、本土の黒字経営病院でさえ医療従事者確保は困難な時代を迎えており、ましてや離島の本市は新統合病院を開設してもなお困難な状況は払拭できるわけではありません。

我が清風会は、昨年１月の沖縄県に続き、今回は離島医療問題１項目に絞り、長崎、沖縄同様の離島県鹿児島県でさらに深く調査研究すべく３つの先進事例箇所を訪問し、おのおの以下の訪問目的について御指導、御鞭撻をお願いいたしました。

①鹿児島大学大学院医歯学総合研究科離島へき地医療人材育成センター、訪問目的は離島へき

地医療人材育成確保の先進地の取り組みを実際にお聞きし、対馬市の医療従事者人材育成及び確保を図る。②奄美大島、瀬戸内町へき地診療所。訪問目的、在宅医療充実の一環として、対馬市におけるへき地巡回診療車の導入可能性を現地で調査研究する。③鹿児島市ナカノ在宅医療クリニック、訪問目的、広大な面積と１８１の集落からなる本市においては、新統合病院開院後も在宅医療の充実は重要な課題であり、在宅医療の先進的事業展開で知られる取り組みを現地で学び対馬市の在宅医療充実を図るということです。

（1）島内医療・介護サービス体制整備の現状認識と現在検討中の具体的対応策について、①医師以外にも看護師等医療従事者不足は長年の課題ですが、合併以降対馬市は医師に特化した修学資金制度なっています。現在の制度に看護師等に対する修学支援を復活させるか、酒井豊基金や対馬市こども夢づくり基金で対応することはできないか答弁を求めます。

②ドクターカー導入の進捗状況及び鹿児島県瀬戸内町が保有する巡回診療車のような車両導入についての見解を求めます。写真をごらんください。巡回診療車は奄美大島本島の一部２ブロックと加計呂麻島の集落を４ブロック分けて、月二、三回巡回し、診療や投薬を行っています。巡回診療車は、昭和５５年度に初めて設置され、平成２年度に更新、その後平成１５年度に鹿児島県の特定離島ふるさとおこし推進事業を活用し、現在の車両に更新されています。事業費全体は２，１７１万１，０００円で、８割が交付金措置を受けているため、町費はわずか３８１万８，０００円です。

この巡回診療車には診察、問診はもちろん、採血、それから処方、待合のスペースも確保されています。また、コンパクトな心電図計やエコー機器を携行し、かなり高度な診察環境が整備されています。対馬市では、新統合病院開院後も通院が大変な遠隔地が残されます。また、高齢化や独居老人、高齢者のみの世帯の増加によりニーズが高まってくると思います。約４００万円程度の実質負担でこれだけの医療行為が可能な車両が購入できるのであれば、導入を検討する価値は十分にあると思われます。

③島内における病院（診療所）医療体制の今後の方向性と在宅医療強化について答弁を求めます。平成１８年の診療報酬改定で、厚生労働省は新たに在宅診療支援診療所の制度を設けました。平成２０年の診療報酬改定では、ケアカンファレンスや退院後カンファレンスなどの連携に関する診療報酬が評価されています。また、厚生労働省の平成２４年度在宅医療連携拠点事業所として全国１０５カ所の医療、介護施設が採択されています。この在宅医療連携拠点では、ＩＣＴシステムの有効活用と教育活動により、他職種連携で機能する地域ネットワーク型医療システム（地域包括ケアシステム）の構築を目指すものであり、国の医療制度が在宅医療を従来に増して強化していくことを示すものです。

しかし、第一次対馬市総合計画後期基本計画の６６ページ、６７ページに施策１、医療・救急

医療体制の充実、施策２、保健福祉サービスの充実の中には残念ながら、在宅医療や在宅介護という文言が全く記載されていません。早急に、在宅医療や在宅介護強化に対応する取り組みを対馬市として主要事業に追加する必要があると思われます。

ここで、在宅医療を語る上で不可避とされている、村田久行氏の理論におけるキュアとケアの概念（定義）を末期がん患者の苦しみを例に解説します。パネルをごらんください。苦しみの構造は、その人の①客観的状況、ここではがんの症状と、②もとのように元気になりたいという主観的な思い、願い、価値観（情況）のずれから生じます。この苦しみを取る①と②のずれを少なくする方法は２つの方法があり、それがキュアとケアです。キュアとは、客観的状況を改善、がんを治すことをし、患者の主観的情況を満足させ、患者の苦しみを緩和する方法です。一方、ケアとは客観的状況の修正が困難な場合でも、ここではがんを治すことが難しい場合でも、患者の主観的な情況が①の客観的状況に沿うように変わるのを支援していくことで、①と②のずれを少なくして、苦しみを和らげる方法です。「人事を尽くして天命を待つ」の「人事を尽くす」がキュアであり、「天命を待つ」のを支援する援助がケアともいえます。

さて、ナカノ在宅医療クリニック院長に視察を受け入れを依頼した際に、院長の著書、「在宅医療が日本を変える」を読んでお越しくださると理解が進むと思いますとのお薦めがあり、訪問前に拝読して訪問しました。まず、その帯に衝撃を受けました。「家で死にたいのではない、死ぬまで家で生きたいのである」、５年前１０３歳まで家で介護し、病院に搬送してその日のうちに亡くなった祖父の顔が浮かびました。そうです。死ぬまで家で生きる、そのための環境を整備する必要があるのです。

昨年、上対馬総合センターで開催された、在宅で介護をする家族向けの在宅介護研修会に参加した際、施設従事者の割合が受講者の全体の約８割程度でした。また、一昨年の上対馬病院院内研修会の際、看護師が高吸収オムツの着脱講習等を受けていることが発表されていましたが、在宅で介護をしている家族にも講習を施す必要があると思い、一般向けの講習について訪ねましたら、退院後に実施しているとの回答でした。入院後に退院できずに亡くなられる方も多く、入院前の要支援初期の支援者に対する研修や講習が本来必要であろうと思います。

このように、情報を必要としている方に必要な情報を十分提供できていないのは、現状把握が不十分だからだと思われます。現在、要支援者またはもうすぐ要支援が必要となる人の所在把握が個々の医療・介護機関や行政や社会福祉協議会でばらばらになされており、情報を集積し活用できる、いわゆるプラットホームの役割を果たす機関及びシステムの構築がまずは必要だと思われます。

先日の対馬市少年の主張大会で最優秀に選ばれた、雞知中学校の勝見真生さんが、高齢者や障害者の不自由さについて「まずは知ることから始めよう」と訴えていましたが、そのとおりでま

ずは現状を把握することが重要だと思います。

（2）いづはら病院の跡地利用について。厳原中心市街地活性化のためにも在宅医療支援拠点施設として整備する考えはないか答弁を求めます。平成１９年に厚生労働省が示した公的病院改革ガイドラインにうたわれている公立病院の役割は、地域に必要な医療のうち、採算性等の面から民間医療機関に提供が困難な医療を提供すること、これを踏まえ、限られた財源を有効に活用するために行政と議会は離島へき地医療のあり方を真摯に調査研究し、改革を進めていかなくてはならないと今回の政務調査では改めて感じました。

ところで、医療法人ナカノ会は住みなれた地域で看取れる環境を提供すること目指し、ケアタウンナカノ構想の実現に取り組まれています。具体的には、高齢者向けの医療介護サービスの提供にとどまらずレストランやショッピングモールを包括、運営ではありません。することで、バリアフリーの推進を図る。そこで地域住民が障害者、高齢者や小児と時間と空間を共有すること、また教育・研修センターを設け、講演会や研修会を実施することによりノーマライゼーションの普及を推進する。さらには、文化・芸術産業も包括することで、グリーフケアを提供する葬儀産業とも連携するなど、壮大な構想となっています。

幸い、厳原市街にはこれらのサービスを提供できる社会資本は十分に備わっていると思われます。対馬いづはら病院を在宅医療支援拠点とし、全国の離島に先駆けケアタウン構想の検討を始めてはいかがでしょうか。

国や県の新設交付金等（地域グリーンニューディール基金代替予算、離島活性化交付金）の活用方針について。（1）漂着ごみ問題解決のための予算活用方針について。現在、民間団体と行政が協働で企画中の漂着ごみ問題関連イベントに対する市役所の支援計画、特に予算面について答弁を求めます。

この事業は、島の３つのＮＰＯや観光物産協会等の諸団体のメンバーに企画段階から参画いただいています。また、王貞治氏が会長を務める「ふるさと清掃運動会」にも御参加いただきます。対馬で日韓の大学生と市民が共同で実施する漂着ごみの回収作業と、漂着ごみの地廃地消に向けた処理技術の開発情報提供と、漂着ごみ削減に向けた啓発活動を目的としたシンポジウムの開催、ボランツーリズム展開のきっかけづくりを事業目的として８月２３日から８月２５日までの３日間開催する予定です。この件に関しましては、先日実行主体となる「美しい対馬の海ネットワーク」代表の上野氏に小職が随行し、市長を表敬訪問した際、地域グリーンニューディール基金の代替予算で対応が可能となればとの条件つきで予算措置も検討するとの回答をいただいたので、その後の国や県からの通知等がございましたら、その点について答弁を求めます。

（2）フェイスブックを活用した通信販売について。現在、武雄市を筆頭にフェイスブックを活用し、自治体が中心となった通信販売が大きな話題となっています。これを国境離島の自治体

に絞ったサイトとして立ち上げれば、国境離島をめぐる領土問題がマスコミでも大きく取り上げられている昨今の状況からすれば、大きなビジネスチャンスになると思われます。対馬市がイニシアチブをとって、そのような通信販売の展開を始めるという構想について見解を求めます。

以上、あとは答弁によっては再質問をさせていただきます。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　２番議員の御質問に答えさせていただきたいと思います。

大きく１点目の医療の問題がありました。実は、この医療の問題について、そして新しく方向が出ている在宅医療の問題、これについて対馬地域保健医療対策協議会という協議会がございます。こちらが３月たしか６日の３時半から５時４５分まで会議をしました。医師会、歯科医師会の先生方、３病院の院長先生も入られ、市民の方も入られて、さらに療養病床を解消するための保健施設ですね、そちらの方も入られ、十数名での会議でございましたけども、そのときの議論の多くを割いたのは在宅医療のやはり問題でございます。

そういう中、この在宅医療に関しまして、実際問題、対馬の中でどれだけのニーズがあるんだろうかというふうな話が出たんですけども、現場のお医者様のお話によると、先ほど自宅でというか、家庭で元気に最後まで、確かにみんなそう思っているわけですが、どこかで病気してしまうわけですけども、最後の場面というのを必ずしも家庭を、以前のようには望んでいない、率的にはですね。というのをお医者様は感じるんだと。確かに、元気で最後まで家庭にいたいというのはもう当然なんですけども、一度病気をされてからの話としてはそういうふうにあるんだと。そして、実際往診というのが回数がすこぶる減ったと。物理的に在宅医療といっても、今の開業医の数で在宅医療をこなしていくというのはまず不可能だと。対馬にあります医師会の会員がたしか７名とおっしゃられたと思います。７名でこの皆様の在宅医療というものを担っていくというのは不可能だろうなというふうな論議がありました。

しかし、国の一つの方針として当然出されておるわけですから、それらをどのように進めていけばよいですかという話がそこであったんですけども、国のほうもこの在宅医療に関しましては、地域のほうに丸投げをしている状況があります。いよいよこの２年間くらいの間に、この在宅医療についての方向性というものをきちんと自分らも一緒になって出さないといけないなというのが、その保健医療対策協議会での話で、結論でございました。今まで年に一、二回しか開かれていなかった協議会なんですけども、それをできれば頻繁に開く、もしくは専門部会等をつくってでもやっていかないと在宅医療に対応できないじゃないかというふうなことがそのときの結論でありました。

今お話を聞いておりまして、対馬いづはら病院の跡地利用の段階において、その在宅医療の診療拠点施設に持っていってはどうなのかという御提言でございますけども、そういうことも踏ま

え、この跡地利用の計画というのは当然医療とそして介護といいますか、そういうものをケアミックスするという方向性でありますので、今おっしゃられた在宅医療というのも、それに対応できる医療機関になれるかどうか、それはマンパワーとの問題もございます。それらを、十分に検討をしていかないといけない問題であるというふうに感じております。

冒頭の医師確保といいますか、看護師確保といいますかね、これらの問題について御提案がありました。現在、１９年度より対馬市はこの看護職の奨学資金の対応については廃止をいたしております。保健師の必要数というのが確保できたということもありますけども、この奨学資金制度を継続しても採用先がないというふうなこともありまして、実際問題として私どもの制度をなかなか使われない状況がありました。といいますのは、県のほうに制度がございます。また、病院企業団のほうにも制度がございまして、そちらの充実した制度を利用されているというふうに私どもは解釈をしておりまして、現時点において病院企業団が医師、看護師等の医療従事者への奨学金対応制度というもので、十分に事足りるではないかというふうに思います。

逆に、先日病院企業団の米倉企業長がお見えでございましたけども、看護師さんの年齢バランスというものがすごく大切だというお話もありました。そうなると若い人をもっと入れられる環境というのをつくっていくためには、もっと企業団のほうの対応規定、そのあたりを見直しをする、もしくは若い人たちといいますか、が働きやすい環境というのをつくっていくという、院内保育等の問題、２４時間保育の問題とかそのあたりをきちんと組み立てていきたいという米倉企業長のほうから力強いお言葉をいただいておるところであります。

それと、ドクターカーのお話がございました。このドクターカーの導入に関しましては、確かに経費というのはさまざまな事業を導入することによって容易にできるんではないかというふうには感じておりますけども、実際問題、それは動かし始めてからの問題だろうというふうに思います。現在、対馬市には診療所というのを私どもも対馬市でたくさん抱えております。そちらに、各地域に週１、月２回とかいろんなケースはありますけども（「巡回診療車ですね、それ。ドクターカーじゃなくて」と呼ぶ者あり）申しわけありません。巡回、申しわけございません。その巡回診療車ですね、これについては逆に診療所等を今もずっと経営をやっている状況であります。そして、今当初予算の中でも一般会計からの繰り出しという問題も１億数千万円診療所会計には繰り出しをしているような状況でもあります。この診療所を充実させることによりまして、その周辺にお住まいの皆様が利用をどんどんしていただくということがまずもって先なのかなと。私自身、鹿児島県瀬戸内町ですか、のその診療所の数とかいうものが、ちょっと私が不勉強でわからないものですから、一方的にこちらの今の対馬の状況というものを説明をさせていただいたところであります。

それと、ドクターカーの問題でございます。先ほどはどうも済みません、間違えました。この

ドクターカーにつきましては、本来であれば病院が所有し動かしていくというふうなものでありましょうけども、今現在考えておりますのは消防署待機型のドクターカーを導入をしていこうということで組み立てをしているような状況であります。できれば、新しい病院が開院後にドクターカーが導入ができればというふうな思いを持っております。

次に、２点目のグリーンニューディールのことについてはよろしいですかね。（「この前の回答でよければそれでいいです」と呼ぶ者あり）それと、最後の佐賀県武雄市の樋渡市長が推進しておりますフェイスブックによる、その「Ｆ＆Ｂ良品ＴＡＫＥＯ」ですか、これをある意味国境離島でタッグを組んでやったらいかがかというふうなお話がございました。国境離島というのが、もう御存じのように国境離島の振興保全法ですか、あれでＡ群だ、Ｂ群だとかいろんな区分けをされて難しい状況に陥っておりますので、なかなか国境離島で今タッグを組むことは難しい状況かなとは思います。ただし、フェイスブックはともかくとしまして、インターネット等を使って今さまざまなものを、私どももそうですし、各対馬の中の事業所も取り組んでいただいておるところです。

そのインターネットを通じての販促に関しましては、輸送費補助等もやることを今もずっとやってきておりますし、今の民間事業者の方たちの物事の進め方をどんどんやっていただければいいかなと思っております。ただし、武雄の分についてはＮＨＫの番組で１回放送がございましたですね。あの中でも、あのとき出てあったコメンテーターの大学の教授がおっしゃってありましたけども、さまざまなやはり問題を、この問題は内包しているんだというふうな御指摘もありました。実際問題の運用として大変高い加入金に設定をされておられます。武雄の場合、加入金がですね。通常の楽天とかそちらになればもっと安い金額なのかなとも思います。そういうことで、なかなか国境離島で一つのくくりをつくってやり始めるとなりますと、相当の経費等もかかろうかと思っています。ただし知名度は上がるだろう、確かにそうだろうとは思いますけども、今は一考が必要かなと思います。

○議長（作元　義文君）　休憩しましょうかね。暫時休憩します。

午後２時41分休憩

午後２時47分再開

○議長（作元　義文君）　それでは、再開をいたします。

２番、脇本啓喜君。

○議員（２番　脇本　啓喜君）　それでは、順番はちょっと違いますけど、大きな２番のフェイスブックのほうから先にやっていきたいと思います。先ほど、市長のほうもＮＨＫの番組を見られていろんな問題があるということで勉強をしていただいているんだなということはわかりました

が、これ初期投資が高いということでしたが、２００万円だったと思うんですけど、これは市役所が入るから高いんだということだと思うんですね。市役所がそこに入るだけで、ほかの業者の人たちはわずかな金額で出店できるんですよ。その辺を考えると高い出費ではないというふうに考えています。

それからこれ、何よりも自治体が通信販売をやることがインパクトがあるのであって、このことを市役所や市議会に、私のつたない説明では理解を得られまいと思いまして、直接プレゼンを受けるために武雄市を訪問しました。もうそのために行ってきたと言っても過言ではありません。本当にスティーブ・ジョブズばりのすばらしいプレゼンをされる古賀さんという方がいらっしゃいましたが、このことについてはまた詳しく後でお話させていただきたいと思います。

それから、次になかなか国境離島がといっても定義が決まっていないので、一緒になるのは難しいということですが、できるところから始めればいいと思うんですね。実績を残して始めれば、後からでもついてきますよ。そのくらいの気持ちで、今これをやることで、この古賀さんという方も生え抜きの武雄の市役所の職員ではありませんでした。大手メーカーの営業経験のある中途採用の人であったようです。輸送コストや営業手腕で劣る対馬の産業振興を本土と変わらないコストで公告宣伝できる仕組みに載せることで、歴史や自然の恵みに溢れる対馬を強みに攻勢をかける、そのようなたくましさを育み、発揮していかなきゃいけないと、そのツールがフェイスブックだと思っています。単なるインターネット通信販売ではないということをもう少し説明をさせて、次回には説明させていただきたいと思います。次回はあるのかな。それから、この点についていかがですか、フェイスブックについて。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　フェイスブック、加盟料が２００万円ということであります。確かに私どもが払って、あとそこからツリー状にぶら下がっていくからそこが安くなるからいいんじゃないのというふうな発言ですが、現在楽天でも３万何千円で加入はできるわけですね。出店可能だというふうにも聞いております。じゃあ、仮に７０社という数字を私どもも集めないといけないということにもなろうかと。楽天並みの金額でいくならばですね。それに楽天と比べたときの真に広がりというのがあるのかどうかというふうにも、あれだけの楽天規模になったときの、世界的な広がりですよ、そちらを考えたときは向こうのほうがまだいいんじゃないかというふうなこともよぎります。

武雄の樋渡市長は、フェイスブック学会の何といっても会長をされておられますので、専らフェイスブックの利活用というものに今腐心されている部分がありますが、フェイスブックというのが確かに広がりというのはあろうかと思っておりますし、その自分らの思いがある人たちがどんどんつながっていきますので、その品物を見かけたときに、そういうほしい人たちのほうにど

んどん引っ張り込まれていく、いい意味でつながっていくといいますか、それはフェイスブックの利点なのかなとは確かに思いますが、今しばらくこの進め方というやつですね、それについてＮＨＫの中でもおっしゃってあったように、自治体の取り組みとしてどうなのかという疑問をあのとき投げかけられたと思いますが、そこの進め方を上手にやっていかないといけんのかなというふうな感じもしております。ちなみに対馬市のほうでは対馬市推奨品という形で５２品目でしたか、推奨させていただいて、それらを押しているというふうなことも片ややらせていただいております。

確かにフェイスブックではございませんけども、ありとあらゆるところでそれらの推奨品を表に出していくという動きもさせていただいていることを紹介させていただきます。

○議長（作元　義文君）　２番、脇本啓喜君。

○議員（２番　脇本　啓喜君）　フェイスブックばかりにちょっと時間はとれないんですが、ただこの初期コスト２００万円というのは、これは武雄が中心になってやっているものに入るとすればそれだけかかるということで、私が提言しているのはあくまでも対馬市がイニシアチブをとって、国境離島のサイトをつくってはどうかということを申し上げますので、よろしくお願いいたします。

それから、漂着ごみのことに関しましては、先ほど私が上野代表と一緒に行ったときの回答から変わりないということですので、よろしいかと思います。ぜひ、成功に向けてスタッフ一同頑張ってくれると思います。

それから、医療のほうに戻ります。まず、修学支援金制度についてなんですが、まずほかの基金で補塡するのでは医療関係以外の修学資金の枠との関係で医療従事者向けの支援枠が不安定となり、現在の医師修学支援資金制度に医師以外の、医療従事者も復活させ、積極的に医療従事者を対馬から生み出すという姿勢を見せることが重要だと思います。先ほど、採用先がないということでしたが、これだけ看護師不足と言われているところです。それから県企業団病院、そらから長崎県自体の制度を活用すればいいということですが、まさしくそこの中でやった人たちも取り合いになってくると思うんですが、対馬の出身者に対馬に残りたいという子供たちがたくさんいると思うんです。何度も言うかもしれませんけど、将来何になりたいというより対馬に残りたいという子供たちがいると。それで、女性の場合、特に残念ながら安定した給与が出ている職業というのは現在対馬では限られています。この看護師が不足しているということを解決するのに、対馬市自体で、独自で何かをアクションを起こさなきゃいけないと私は思いますが、その点はいかがでしょうか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　確かに、市独自で先ほどのフェイスブックにしてもそうですが、独自で

物事をやったほうがインパクトはあろうかと思いますが、現在企業団が持っておりますその貸付枠というものも充足していない状況で余って、余っていると言ったらおかしいですけども、未利用な部分がまだあるというふうなこともありますし、かつて１９年から廃止をしております市の制度につきましては、滞っていることも中にはあるわけです。そのあたりのことも十分に考えていかないといけないのかなとは思っております。

○議長（作元　義文君）　２番、脇本啓喜君。

○議員（２番　脇本　啓喜君）　現状は確かにそうだと思うんですが、鹿児島大学の先ほど申しました離島へき地医療人材育成センターでは、地域の医療の重要性を伝えることを目的に、県内の高校生を対象とした出前出張も開催しています。全国的な医師偏在化解消に向けて地域医療に従事する医学生を確保することを目的に、平成１８年には公立医学部に地域枠も設けられています。医学部ですね。島内の中学校、高校でも医療従事者確保に向けて同様の出前出張等を長崎大学とか、それから企業団病院とかそういうところにもお願いするなどして対馬で今困っている人材を確保しようという動きをするもの大事ではないかなというふうに思います。

それから、３番目の先ほど以前のように家で死にたい、最後まで死にたいという人は減ってきているという意見がございましたが、これは迷惑を家族にかけたくないという気持ちからそういうふうになっているということが多いんではないでしょうか。迷惑をかけるんではなくて、人が死ぬということは当たり前のことなんだということを浸透させていくということも大事なことだと思います。在宅医療を推進する上で欠かせないと言われているのが、看取り文化の創造と地域包括ケアシステムの構築だと言われています。

ナカノ在宅医療クリニックは開設以来１３年で３６２名うち末期がん患者１９４名の方を自宅で看取っています。在宅看取り率は約７０％、末期がん患者は約９０％という高い割合で患者を自宅で看取っています。この驚異的な看取りを達成するには大変な苦労があったと察せられます。保険診療上は毎月２回以上の訪問診察をしないと２４時間、３６５日対応する在宅医療の高い診療報酬（在宅時医学総合管理料）が算定できないため、患者と家族にその旨を説明し、最低２週間に１回訪問診療を実施しなければなりません。当初は何の変化もない寝たきりの患者を頻回に訪問することは、医師側も心理的な抵抗があったようです。患者側からも「そこまでは必要ない」の反応であったようです。しかし、中野氏はそれこそキュア志向の病院医療の考えで、ケア志向の在宅医療の考えに至っていなかったと振り返っていらっしゃいます。

仮に、ケア志向の在宅医療に高い診療報酬が支払われても、不要な緊急搬送を減らし、在宅での看取り等に対応すれば、キュア志向の医療の負担を減らすことができ、トータルとしての医療費は削減できるはずです。また、高額なコストを費やす検視も削減できます。看取りは、財源確保の目的ではなく、死ぬまで家で生きることを支援した結果と言えます。患者の望むケア志向の

在宅医療の結果が在宅での静かな看取りにつながり、結果的に医療費を安くするという看取りの文化を創造する必要があると思います。このことについてはどういうふうに感じられますか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　済みません、先ほど質問されている中で、長崎大学の医学部ですか、とか企業団が出張というお話が（「鹿児島大学がしている」と呼ぶ者あり）いやいや長大とか病院企業団が出張すればどうのこうの言われた、ちょっと意味が私、ちょっと理解できんかった。どういうことをされるというイメージで出張という、済みませんが私ちょっと聞き取れなかったんですけども。

○議長（作元　義文君）　２番、脇本啓喜君。

○議員（２番　脇本　啓喜君）　今先ほど市長のほうから看護師等の修学資金制度、まだ余裕がある状況にあると。だから、市役所として単独の準備をしなくてもいいんではないかというお答えでしたけど、私は医療人材を確保するということは今からもうやっていかなきゃいけないことだと思ってます。今、対馬に残るためというのもありますけれども、対馬に残って地域に貢献するために医療用人材として働いてみませんかという呼びかけですよね。いかに、この地域医療が大事か、今対馬の中で困っているかということについての出張事業という意味で申し上げました。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　そういう意味におきましては、上対馬病院が院内の広報紙を出されていますね。そして、実は対馬いづはら病院におきましても、新しく院長先生になられた川上先生が就任される際に、私一つだけお願いしたことがあるんですが、それは病院の情報というのが市民によくわからない部分がいっぱいあるから、上対馬病院のような広報紙といいますか、そういうのを出すようなことを考えられたらいかがですかというお願いをしました。そういうことで今度から始めるというお話もありますが、そういう形ででも市民の皆さんの中に、そういう中にでもそういう方をどんどん出していくということもしていただければいいのかなとは思いますが。

○議長（作元　義文君）　２番、脇本啓喜君。

○議員（２番　脇本　啓喜君）　いろんなやり方はあると思います。ただ、ターゲットを絞ってそこに集中的にやるというのが効果的なやり方だと思います。今私が提案しているのはそういうやり方を提案したというふうに受け取っていただければと思います。

それから、先ほど同じように以前のように家で死にたいという人が減ってきている。対馬ではなかなか在宅医療を普及するのは難しいだろうというような感じの話がありました。確かに、難しいことだと思います。ことしの２月、市長もお越しでしたけども、美津島町文化会館で開催された林弘樹監督の「ふるさとがえり」という映画の上映会に行きました。映画の内容もすばらしかった上に、その後の林監督と視聴者の意見交換会がまたすばらしく、その中でのやりとりを一

つ紹介します。「諦めた人を活動に取り込む方法は」との問いに、林監督は「想像力を働かせるよう仕向けることが大事だ」と答えています。すると、「想像力を働かせるためにはどうすればいいんでしょう」、さらに質問されます。林監督は「先入観を取り除いてあげることです」と答えられました。医療を提供するには入院ベッドが必要だという先入観から解放すること、そのためには在宅医療システムの構築が欠かせないと思います。

東日本大震災が起こった一昨年、ブータン王国夫妻が来日され、ＧＨＰ（国民総幸福量）が話題になりました。幸福とは、昨年夏に対馬市志多留で開かれた島おこし実践塾の発表でも多くのグループが取り上げた「足るを知る」という側面もあると私は思います。また、「島は島なりに治めよ」第１７代対馬当主宗義調（シゲ）の言葉には、２つの意味が込められているのではないかと思います。島の身の丈にあった統治と、島の歴史や風土にあった統治です。現在の対馬島民は本土と同じ画一化されたシステムに沿って本土並みの生活水準を求め続けて、義調（シゲ）公の言わんとした対馬でよりよく生活するためのすべを忘却しているかもしれません。

財部市長が取り組んでいる対馬いづはら病院を民間に委譲し、約６０床程度を備えた医療と介護を提供する施設の構想についても、義調（シゲ）公の遺訓に照らし、再検討してみる必要があるかもしれません。人口が集中している厳原市街地から大きな病院がなくなり、入院ベッド数が減少することへの市民の不安を緩和させるという、市民の意見を反映することも十分理解できます。しかし行政や議会は限られた財源でより市民のためになる医療体制（方針）を創造していくことが求められているのであり、市民の要望が果たして正しい方向にいっているのか、調査研究し否であれば正しい情報をお知らせし納得いただき、正しい方向に導くことが我々代表者の使命だと思います。

以上、もう時間が来ましたので、これで私の質問は終わらせていただきます。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　対馬いづはら病院の跡地利用のお話がございました。３月６日の対馬地域保健医療対策協議会の場におきまして、３病院の院長先生が出席だったという話を先ほどしましたが、その中におきまして対馬いづはら病院の院長先生のほうからペーパーが配られました。この跡地利用について専門家の立場としては、介護施設と有床診療所のケアミックスというものが望ましいと思われるという、これは個人の私見だけれどもということでペーパーが配られたことを報告させてもらっておきます。

○議長（作元　義文君）　以上で、２番、脇本啓喜君の質問が終わりました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

○議長（作元　義文君）　明日はきょうに引き続き市政一般質問を行います。

本日はこれで散会いたします。お疲れさまでした。

午後３時09分散会

平成25年　第１回　対　馬　市　議　会　定　例　会　会　議　録（第６日）

平成25年３月12日（火曜日）

議事日程（第４号）

平成25年３月12日　午前10時00分開議

日程第１　市政一般質問

日程第２　議案第43号　平成２４年度対馬市一般会計補正予算（第７号）

日程第３　議案第44号　平成２４年度対馬市簡易水道事業特別会計補正予算（第３号）

日程第４　議案第45号　平成２４年度対馬市水道事業会計補正予算（第２号）

本日の会議に付した事件

日程第１　市政一般質問

日程第２　議案第43号　平成２４年度対馬市一般会計補正予算（第７号）

日程第３　議案第44号　平成２４年度対馬市簡易水道事業特別会計補正予算（第３号）

日程第４　議案第45号　平成２４年度対馬市水道事業会計補正予算（第２号）

出席議員（19名）

２番　脇本　啓喜君	３番　黒田　昭雄君
４番　小田　昭人君	５番　長　　信義君
６番　山本　輝昭君	７番　松本　暦幸君
９番　齋藤　久光君	10番　堀江　政武君
11番　小宮　教義君	12番　阿比留光雄君
13番　三山　幸男君	14番　初村　久藏君
16番　糸瀬　一彦君	17番　大浦　孝司君
18番　小川　廣康君	19番　大部　初幸君
20番　兵頭　　栄君	21番　島居　邦嗣君
22番　作元　義文君	

欠席議員（２名）

１番　渕上　　清君	８番　阿比留梅仁君

欠　　員（１名）

事務局出席職員職氏名

局長	神宮　満也君	課長補佐	國分　幸和君
主任	金丸　隆博君		

説明のため出席した者の職氏名

市長	財部　能成君
副市長	髙屋　雅生君
教育長	梅野　正博君
地域再生推進本部長	平間　壽郎君
観光物産推進本部長	本石健一郎君
総務部長	桐谷　雅宣君
政策監	平山　秀樹君
総務課長	根〆　英夫君
市民生活部長	長郷　泰二君
福祉保健部長	多田　満國君
農林水産部長	比田勝尚喜君
建設部長	堀　　義喜君
水道局長	阿比留　誠君
教育部長	豊田　　充君
美津島地域活性化センター部長	八坂　一義君
豊玉地域活性化センター部長	梅野　　泉君
峰地域活性化センター部長	志田　博俊君
上県地域活性化センター部長	川本　治源君
上対馬地域活性化センター部長	島居　清晴君
消防長	竹中　英文君
会計管理者	長久　敏一君
監査委員事務局長	橘　　英次君
農業委員会事務局長	春日亀剛一君

午前10時00分開議

○議長（作元　義文君）　おはようございます。報告します。渕上清君、阿比留梅仁君より欠席の届け出があっております。

ただいまから議事日程第４号により、本日の会議を開きます。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第１．市政一般質問

○議長（作元　義文君）　日程第１、市政一般質問を行います。

本日の登壇者は４人を予定しております。

それでは、届け出順に発言を許します。４番、小田昭人君。

○議員（４番　小田　昭人君）　おはようございます。近未来研究会の小田昭人でございます。東日本大震災からきのうで丸２年を迎え、被災地では各地で追悼式典がしめやかにとり行われておりました。改めて犠牲となられた方々に哀悼のまことをささげるとともに、被災されました皆様が一日も早くもとの生活に戻れるよう心から願うものであります。

この２年間、一日も早い復興・復旧という言葉を何百回、いや、何千回かもしれません。耳にしたことでしょう。復興・復旧というのは、目で見て初めて実感できるものではないでしょうか。テレビで震災直後と現在の様子が比較放映されていましたが、復興・復旧どころか、地震発生の午後２時４６分でとまっていた時計がやっと動き出したまま、２年間が過ぎ去ったような気がしてなりません。マラソンに例えるなら、やっとスタートした、いわば、現在進行形の状態で、フィニッシュラインの４２．１９５キロのテープを切るには、あと１０年はかかるものと私は思います。安倍政権のもと、被災地の復興・復旧が加速することを切望し、来年の３月１１日は被災地の希望の光が力強く確かなものになっていることを期待いたします。

さて、私、今回、三本の矢を立てて質問するようにしていましたが、一本の矢が折れた関係上、取り下げましたので、通告に従い、二本の矢で質問をさせていただきます。

１つ目は、元大洋真珠の跡地に建立されております行幸啓記念碑が韓国のオーナーから無償譲渡された場合、移転費用及び跡地整備について、対馬市が負担できないかをお尋ねいたします。

２つ目は、平成２５年度の施政方針にも述べられていましたが、栄えある賞を受賞した若人等に対して支援をしていきたいとのことでありますが、具体的にどのような支援をするつもりなのか、お尋ねします。

１つ目の行幸啓記念碑は、平成２年５月２０日、南高来郡国見町で開催されました第４１回全国植樹祭に天皇皇后両陛下が出席の後、翌日の２１日初めて対馬を御視察され、そのときに竹敷の大洋真珠の核入れ作業も視察されました。４年後の平成６年５月２１日に大洋真珠が行幸啓記念として建立し、現在に至っております。平成１３年１２月に大洋真珠が閉鎖し、そして平成１７年ごろに韓国資本が大洋真珠の跡地を購入し、現在に至っている状況であります。

大洋真珠が閉鎖して韓国資本にわたるまで約３年間の空白期間があったわけでございますが、この地は、昔は軍港、つまり、軍の港であった関係から、大洋真珠は、閉鎖後、隣の海上自衛隊に売買の申し込みを行いまして、海上自衛隊も購入したく、海上自衛隊佐世保総監部にもそのことを報告し、両者とも購入したいということで、防衛庁まで購入の計画を打診しましたが、最終的には防衛庁が購入を断念した経緯もございます。

また、韓国資本にわたった後にも、国防上好ましくないということで、国が買い取るという話も耳にしましたが、そのままの状態であります。そして超党派の国会議員団もこの地を視察されたことは皆様御承知のとおりであります。

移転先には竹敷の部落内を想定していますが、撤去の方法あるいは費用等の金額は私もずぶの素人で全くわかりませんので、その点はあしからず御了承願います。市長、よろしくお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　小田議員の御質問に答える前に、昨日から今朝にかけまして、３・１１に関する報道がずっと流されておりました。昨日２時４６分、ここで議会の場でも黙禱を皆さんと一緒にささげたわけですけども、改めて、あのような報道を見るにつけ、早い復興というものを願ってやみません。

さて、その際も、東京のほうの慰霊祭でございましたか、天皇皇后両陛下が御臨席のもと、しめやかに行われておる情景もテレビで流れておりました。幾たびとなく、天皇皇后が被災地に足を運ばれ、皆さんを励ましをされてるというのが、この被災以降の天皇陛下と国民とのかかわりというふうに感じておるところであります。

また、御質問の今パネルにあります、その行幸啓記念碑につきましては、私自身も何度となく現地で見たことはありますが、設置に至る経緯につきましては、今、小田議員がおっしゃられたとおりでございます。この土地が防衛省が取得することがかなわず、そして民間資本に移り、さらに外国資本に移っていくというふうなことになったわけでございますが、そのことが露見しましたのは、市役所の前で、確か７月２３日だったと思いますが、対馬は韓国の領土であるというふうな行動をされたのを受けて、この行幸啓の問題、そして、そこの所有の問題というのが国会のほうでも論議されたところであります。

その年の秋だったと思いますけども、私自身、国会議員、超党派の国会議員約４０名ぐらいに、国のほうに来てくださいということで、私上京をしたことを今思い出しました。そのときに、ある議員のほうから私は１時間半ずっと責められたわけですが、何で私が責められたのかがよくわからない。国会議員がおっしゃられるに、行幸啓の記念碑がある場所、そして自衛隊の隣接地が外国資本に買収されること、これが地元自治体の首長として、きちんとした行動をとらないとい

けないじゃないかというふうな御指摘がありました。私は敢然として、その意見には反対意見を言いました。なぜならば、国のほうが土地所有というか、売買に関する制度というものを十数年前に事前届出制、一定の面積以上の場合ですね、事前届出制というのを導入をされてたのを、十数年前に事後届出制に変更をされた。その国の制度が間違ってるんじゃないかというふうに反論をさせてもらいました。もう一つは、自衛隊の施設、重大な任務を担っている防衛施設の横が外国資本に買われるとは何事かと、私に問い詰められました。私は、自衛隊の当然基地があることはわかっておりますが、そこにおける任務というのは皆目わかりませんというふうに答えました。あなた方国会議員はそれをわかってるのかと言うと、国会議員何十名かお集まりでしたけども、実際問題、防衛という大切な任務ではあるが、そこが何をしてるかということについては、確かに機密事項だから誰もわからない。そういう無責任は発言はやめてもらえないかというふうなやりとりを当時、憲政記念会館ですね、尾崎咢堂さんの立像がありますが、その場所で、マスコミを含め２００人ぐらいの中で、真ん中に置かれて問い詰められたことを今思い出しました。私の横に平沼先生がお座りでしたけども、平沼先生のほうから、「呼んではみたものの、確かに難しい問題ですね」というふうに、最後、私のほうに声をかけられて、１時間半にわたる場面が終わったというふうなことがありました。その際も行幸啓のお話がございました。私ども天皇家を崇拝する一人の人間としても、その問題について、どのように対処していけばいいかというのは、当時からも考えておりますけども、いかんともしがたい。憲法との兼ね合いの問題もあろうかと思います。自治体という公金、公の税金を扱うという中での公金扱いについてのそことの兼ね合いということについて、私どもにしばらくの間、研究の時間を与えていただきたいというふうにも思うところであります。

○議長（作元　義文君）　４番、小田昭人君。

○議員（４番　小田　昭人君）　今、市長は憲法上という、何か問題がある、政教分離を指してあると思いますが、宗教ではありませんので、憲法上は何ら問題はないと思います。

竹敷部落も、実は韓国資本にわたったころ、区長を中心にこのままではいけないということで、場所まで決めて動き回ったそうでございますけど、やはり、移転費用等の問題がありまして、断念をいたしております。実は、私、日本会議の対馬支部の役員もしておりまして、この日本会議でも、この行幸啓記念碑の移転問題が出ました。韓国資本の土地に、そのままでは両陛下に対して大変申しわけないということが決定をされております。

もう一度、お尋ねいたしたいんですが、撤去費用だけでも負担していただければ、今ここに示しております記念碑そのまま再現ということは不可能でございましょうから、対馬の自然の石を土台として、有志を募り、なるべくお金のかからないようにと思っていますが、再度市長にお尋ねいたします。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　公金支出と、そして今、私どもは市民協働という一つの方向性で物事をやっております。市民の皆様の汗を流す部分において御支援をさせていただくというふうな基本的なスタンスで物事を取り組んでおることも御理解をいただきたいというふうに感じます。

○議長（作元　義文君）　４番、小田昭人君。

○議員（４番　小田　昭人君）　事務所には女性の阿比留さん、女の方がおられます。私たちも実は困っておりますと。海上自衛隊を通じて観光客の方が中に入って散策したり、やはり、この記念碑を前に記念撮影をすると。そしてマナーの悪いドライバーは、そのまま敷地内に入って、そのまま車で帰るということで、韓国資本の方は韓国で畜産業を営んでおられます。社長さんでございます。

市長、国もですね、昨年ですか、李明博大統領が慰安婦の問題で、天皇陛下は韓国に来て謝るべきだという言葉を発して物議をかもしておられます。今は女性の朴槿恵ですか、大統領になっておりますけど。いつまでも、やはり、この韓国資本の地に、この行幸啓記念碑を置いていくということは両陛下に対しても申しわけないという気持ちでございますので、国に県に働きをお願いしたいと思います。

なお、日本会議にも国会議員が会員として多数おられますので、私たちも、この国会議員を通じて、何とか移転を実現したいと思っております。どうか、よろしくお願いいたしたいと思います。

次に、平成２４年１０月３０日、上対馬とんちゃん部隊がご当地グルメＢ－１グランプリでシルバーグランプリ受賞、そして平成２４年度第５１回農林水産祭で見事日本一に輝き、天皇杯を受賞されました対馬真珠養殖漁業協同組合青年部に対しまして、改めましてお祝いを申し上げ、今後さらなる御活躍を期待する次第であります。

さて、天皇杯は農林水産省と日本農林漁業振興会の共催により、昭和３７年度から実施され、平成２４年度が第５１回の農林水産祭ということになります。長崎県では２７年ぶりに水産部門で日本一に輝いたわけであります。ちなみに、この天皇杯は毎年７部門、農産、畜産、園芸、林業、水産などなどで単純計算しますと、５１回掛け７部門で３５７個の天皇杯となるわけでありますが、そのうち長崎県は１１個、１１個のうち３個が対馬で取得しております。市長はこの数をどう思われるでしょうか。お聞きいたします。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　今回の若い人たちの特に活躍ということ、そして二十六、七年前におきましても、やはり、あのときも２０代の方でした。そういう方たちがまさに島を元気づけてもらっているというふうに思いますし、今回受賞された真珠組合の青年部につきましても、また二十

数年前の受賞された漁協青年部の皆様につきましても、これからの生業の一つの方向というものを皆さんでつくり出されたと思っておりますし、市としても支援というものをやっていきたいという考えは持っておるところでございます。

○議長（作元　義文君）　４番、小田昭人君。

○議員（４番　小田　昭人君）　市町村の数も平成の大合併前は３，１００から３，２００程度の数でありましたが、平成２５年１月１日現在で、１，６９９市町村となっています。改めまして、対馬の天皇杯３個は対馬の貴重な財産であります。日本一に輝いた対馬真珠養殖漁業協同組合青年部ではありますが、対馬の真珠業界も平成元年度で組合員数９５、売上高約３８億６，０００万円、平成になってから平成９年度の４６億９００万円が最高の売り上げであります。平成１３年度はアメリカの景気減速、日本の景気低迷に端を発し、平成１３年度から平成１９年度は売上高も激減し、十数億円となっています。さらに、平成２０年度はアメリカの金融危機から世界の同時不況の影響も重なり、売上高も６億８，０００万円まで落ち込んでおります。そして平成２３年度が９億２，２００万円の売上高で、やや持ち直しはしたものの、組合員数は平成元年度の９５組合員数から４６組合員数と半減しています。市長、この売上高、そして組合員数について、何か感想があればお聞きしたいと思います。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　かつて、浅茅湾を中心とし、真珠組合の方々が多くの生産をされ、そして、やはり、この対馬全体に活気というものを与えてもらっていたという記憶もございますし、それに付して、現時点においては世界中の景気低迷という部分もありましょうけども、この真珠というものがなかなか、あのすばらしい輝きというものを世の中に出すことが難しくなっているというふうに感じておるところでございます。

○議長（作元　義文君）　４番、小田昭人君。

○議員（４番　小田　昭人君）　真珠業界も生き残りをかけて懸命に努力されておりますので、どうか物心両面にわたり、御支援を賜りますようお願いをいたします。

次に、とんちゃん部隊の豚はほとんどが外国産と聞いております。１２月の議会定例会で阿比留梅仁議員も若干触れられていましたし、小川議員も昨日、遊休地を利用した農業の振興策について述べられていました。施政方針では、「複数の力の協力のもと」とか、「この島の再生は協働で」、また、「島が一致団結すれば、対馬は」とかの表現があちら、こちらで語られていました。今、対馬はイノシシの島となっていますが、養豚の島にしてはいかがでしょうか。そして地産地消でなく地産外消で全国展開してはいかがでしょうか。市長のお考えをお聞きします。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　今回のとんちゃん部隊の活躍というものを受けまして、今、小田議員が

おっしゃられるような、この島で養豚をして、その肩ロースを使ってというふうな試みといいますか、ことは以前あったとも聞いております。今、外国産の豚を、デンマークでしたかね、産を使ってありますけども、今の味つけに最も合うのがデンマーク産だったとも聞いた記憶もあるんですが、おっしゃられるように、この島内で産したやつを使うことによって、そこでさまざまな経済が回りますので、それは以前の、今、３業者か、４業者かいらっしゃいますが、それらの方にも相談は一度かけてみたいとは思います。ただし、このとんちゃん部隊の人たちがシルバーグランプリをとってからというもの、実は私どもも、とんちゃん部隊にしてもしかりでございますし、真珠組合の青年部の方にしても同じなんですけども、どのような行政として支援をしていけばいいだろうかという話をたびたび持ちかけてはおります。そういう中、特にとんちゃん部隊におかれましては、自分たちは基本的に行政依存というのからの脱却をしたいと。だから、支援というのを、直接的な支援というのは求めるつもりはありません。ただし、対馬に元気を出すための観光客等を受け入れるための環境整備はしていただきたいですねというふうなお願いはされておるところでございまして、今、北部での国際ターミナル整備等々の話し合いも持たれておりますけども、それをとんちゃん部隊の皆さんの考え方というものも十分に反映するような計画にしていきたいということで、今取り組みを活性化センターが中心となって、協議を進めておるようなところでございます。

話は戻りますけども、島内産の豚を利用してということについては、今それを製造されている方たちに協議を持ち込んでいきたいとは思います。

○議長（作元　義文君）　４番、小田昭人君。

○議員（４番　小田　昭人君）　やっぱり、個人では多角経営は無理かと思いますので、公設民営、民営といっても、公社、協業体等あたりで、今後話が進むことを切望いたします。

話は変わりますけど、漁師部落で話を聞いてみますと、昔は漁火が海一面に広がり、まさに海の銀座でありました。ここ数年は漁火も、あちらにぽつり、こちらにぽつりと、そして燃料も高騰し、出漁しない漁師が急増したと聞いております。そして漁師を諦めて漁船を手放す人も数人あると聞いております。対馬市が誕生した平成１６年は、対馬市の人口は約４万人だったと記憶をいたしております。合併後９年が経過しようとしている現在、対馬市の人口は約３万４，０００人ですから、この９年間で６，０００人の減少になったということになります。６，０００人は豊玉町、峰町の人口を合わせた人口でございます。

市長、私は大胆な発想の転換も必要と思います。私は以前から徳島県の上勝町に興味がありまして、テレビ、インターネット等でも紹介されていますが、人口約２，０００人、世帯数８５０世帯、人口の４５％が６５歳以上で、町の総面積は１０９．６８キロ平方メートルでございます。８５％が山林で、もともと木材とミカンの産地として発展したそうであります。ＪＡの

元職員の横石知二さんが考案された葉っぱビジネスで年商２億円。野山などにありますツバキの葉っぱ、ナンテン、柿の葉、梅、桜、桃の花など、高級料亭と契約を結んでおられまして、生産農家の５割が６０歳以上で、多くは女性と聞いております。この７０、８０の女性の方はタブレット端末を片手にパソコンも自由自在で、ネットワークを活用し、リアルタイムにその日の売り上げがわかるシステムを構築し、月の売り上げが１００万円を超え、子や孫にまで葉っぱ御殿が新築されている町であります。対馬でも可能なビジネスだと思いますが、通告はいたしておりませんでしたが、お考えがあれば、市長にお聞きしたいと思います。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　今、徳島県の上勝町の葉っぱビジネスの件のお話がございました。特に高齢者の方々がある意味地域資源というものの売り出し方というのに目覚めて、京都の料亭等で高く葉っぱが、葉っぱと言ったら失礼かもしれませんけども、売れるというふうなこと、そしてＩＴ社会に対応した機器を高齢者の方が駆使するというふうなことで、上勝町につきましては頑張っておられることは新聞報道等でも見させていただいております。私自身は足を踏み込んだことはございませんけども、お話を聞くにつけ、そのようなことがこの対馬においてもできないかというふうな思いはございます。ただし、やはり、そこにはＪＡさんという、元ＪＡさんという大きなものを組み立てていくというコーディネーターが存在をしてるというふうに思いますし、今、私どもが進めております、まだ緒についただけなのかもしれませんが、地域マネージャーという一つの制度というのは、その地域における売り出し方とか、その地域をもっと元気づけていくための手法というのを地域の方々と見つけ出していくということが一つの使命もございます。それらの、昨日そういえば、一般質問の中で、足元に泉ありというふうな、私が日ごろ表現していることを取り上げて一般質問ございましたけども、各地域には、やはり泉がこんこんと湧き出てると思いますし、私は清い水が湧き出てると思っておりますので、どうか、それらを地域の人方、そして行政の地域マネージャー、さらには前回の御質問の中で出てきましたが、集落側の代表としての集落支援員というものの制度を確立する中で、地域の発言の仕方というものをきちんと構築し、上勝町のような元気なお年寄りにあふれた町になっていきたいものだというふうに思うところであります。

○議長（作元　義文君）　４番、小田昭人君。

○議員（４番　小田　昭人君）　対馬には、まだ、野、山、そして樹木にしても、貴重な財源があるものと私は思っております。どうか前向きに、この９０％が山であります対馬のこの資源を生かして、全国ＰＲをしていただきたいと思います。

メインの質問を取り下げましたので、少々時間がございますけど、これで私の一般質問は終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

○議長（作元　義文君）　これで４番、小田昭人君の質問は終わりました。

○議長（作元　義文君）　暫時休憩します。開会を１０時５５分から行います。

午前10時37分休憩

午前10時55分再開

○議長（作元　義文君）　再開します。

次に、１６番、糸瀬一彦君。

○議員（１６番　糸瀬　一彦君）　皆さん、こんにちは。新政クラブの糸瀬一彦でございます。今回最後の一般質問の機会をいただきましたので、許された時間の範囲を私の反省も含め、市長と時間を共有させていただきます。市民の皆様にも大変貴重な時間を費やすことをお許しを願いたいと思います。

私は、平成１３年８月上対馬町議会議員が振り出しであります。足かけ１２年になります。その間を顧みますと、平成の大合併による９０人の議会、平成１７年の２６人の議会、全国でも珍しい百条委員会を立ち上げ、調査中にもかかわらずゼロ円入札、設計額と落札額が同額。大変緊張感がありました。その後、平成２１年５月の２２人の議会、私は当時から市民の代弁者であり、市民の福祉向上のために議会議員の権能を心がけ、是々非々で今日まで徹してまいりました。一番肝心なことだと思っております。このような緊張感をもって市長に尋ねてまいりたいと思います。よろしくお願いします。

通告しております前に、昨年の４月２０日の臨時議会の市長の所信表明であります。１期４年間の反省と２期目の抱負が述べてあります。私も一般質問の都度都度、市長の努力と評価はしてきたつもりであります。もう一度、思い起こしてください。１期４年間を振り返り、施策としてなし遂げられたこと、あるいは必ずしも十分ではなかったこと等を検証し、２期目に向かっての思いを精いっぱい市民に訴えられた。このように書いてあります。１期目の目標は大きく分けて「財政改革」、「透明政治」、「地域力の醸成」という３つの柱が公約でありました。一所懸命運営されましたことは誰もが認めるところでございます。

１点目の財政改革については、よく頑張られたなと。この点については職員の皆さんの御協力、また、あらゆる団体、関係機関の御協力により、高く評価をしたいと思っております。

２点目の透明政治の確立ですが、市民との情報の共有、特に議会との情報の共有は、本人も反省してありますが、必ずしも十分ではなかった。よって、情報連携戦略担当の政策監を配置したと。市民、議会と市役所の情報共有化、迅速化を図ると言ってありますが、効果はいま一の思いをしております。

次に、３つ目の地域醸成については、私も何度も申し上げますが、上対馬町、旧上対馬町以外の他町での活動ぶりはわかりませんが、市長の思いはわかりますが、私と大きく評価が分かれます。すばらしい地域マネージャーもいますが、地区の区長さんをもう少し大事にされたらどうでしょうか。合併して９年が経過しました。私も、そのうち、そのうち活性化をと期待をしてまいりましたが、とりたててよかったと言えるようなことは、何かありましたでしょうか。

もう一点、財部市長の１期４年とこの１年で努力されました評価されることがございます。防人の島新法と言っていました国境離島新法制定ですが、国の離島振興法の改正に向け、いろいろと提案され、十分とは言えないにしても、国境離島の４文字が全国でも普通に使われるようになりました。まさに新法成立が目前に迫ったことは大きく評価されてよいと思います。

今回の質問に際しても、今ここに３年ぐらいの施政方針を持っておりますが、熟読してみましたが、いずれもすばらしく、ことしこそは期待していいんではないか、そのような思いで毎回期待をしております。成果はあらわれにくいことは私も百も承知であります。一次産業の衰退、後継者の不足、若者の流出と数え上げれば切りがありません。対馬のかじ取りを私に任せてください。市民はあなたに任せました。

１年前の所信表明で私が感銘を受けた言葉を再度読み上げてみます。なぜか。今回が私は最後で、ここに立って市長に物を言える機会がありません。

「市民の皆さんと一緒に、一緒の視点に立ち、職員もみずからが痛みや犠牲を恐れず、ともに汗を流し、行政も感動や喜びを共有するため、素直で、謙虚で、一所懸命な真心からの市民対応に常に心がけてまいります。市民と行政とそして議会とが同一方向で連携し合う、協働型の市政へ改革と創造に挑戦し続けます」

と、このように書いてあります。なんとすばらしい心がけかと感銘をしております。

ところで、先日の臨時議会における議員定数削減議会での最後の挨拶、その言葉ですが、我々議会議員も意思表示の方法はいろいろある中、堂々と起立採決をいたしました。結果は、議会は否決でした。にもかかわらず、市民の意向と乖離があるとのことでしたが、どうして議会制民主主義の結果を否定されたのかは、私にしてみれば、議会の議決は民意ではないのでしょうか。初心の心がけと大きな格差を感じましたので、改めて、ここで、私だけだったか、問うてみたいと思います。

昨年の６月の行政報告の中でも、国境離島新法の制定に向けて、一層強力な体制を整え、引き続き議会議員の皆様と一体となって、一層の御支援御協力をお願いしますとあります。常にこのような謙虚な思いがあるのか、改めて市長の真意をお尋ねいたします。

それでは、質問に入りたいと思います。

先日の国県道の特別委員会の報告にもありました県道比田勝港線の拡幅工事について、古里三

叉路より西泊入り口間の約２００メーターの拡幅工事について、通学路であり、商業路でもあり、近年の車両の大型化により危険極まりない区間であります。再三の陳情がなされているはずですが、どのようになっているのかをお知らせください。

また、市政一般について、再選間もない所信表明の中で、内山坂トンネルの湧出する水を活用して、韓国向けか、中国向けに事業展開ができないものか、確か６００万円ほどの予算計上がされたと思っております。その調査の結果と進捗状況について答弁を求めます。

以上、よろしくお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　１６番議員の糸瀬一彦議員の御質問に答えさせていただきます。

まず、通告に従い、一般県道比田勝港線の拡幅工事について、お答えをまずさせていただきたいと思います。

この路線につきましては、市議会においても平成２１年９月に特別委員会が立ち上げられ、早期整備を要する箇所についての調査・研究を行っていただき、一定の整理が完了されております。これを踏まえ、ことしの先月１４日、国県道未整備区間の順次整備について要望が行われております。

また、昨年８月には糸瀬議員も一緒に自民党対馬６支部より一般県道比田勝港線道路改良工事の早期着手についての要望が対馬振興局長のほうになされております。このような要望活動の結果として、国道３８２号線の大地工区、河内工区、樫滝工区、並びに主要地方道厳原豆酘美津島線の安神工区の事業着手に至っております。しかしながら、本市における国県道の整備状況は県下平均、ほかの離島に比べ立ちおくれており、早急に整備を要する箇所が数多く存在してるのが実情でありますので、今後とも市議会と協調しながら未整備区間の解消に向け、鋭意努力をしていきたいというふうに考えております。

また、この一般県道比田勝港線については、平成３年度から平成８年度まで、終点側８７６メーターの道路改良がなされておりますが、その際、用地補償において問題が生じ、起点側３３２メートルについては、やむなく中断されていると聞いております。この路線について、特別委員会で早期に整備する路線として位置づけられている路線でもあり、市といたしましても、保冷車等の大型車両離合のための道路の拡幅、また通学児童等、歩行者の安全確保のための歩道の整備が必要な路線であることは認識をしておりますので、市議会と協調し、早期整備に向けて努力していきたいというふうに考えております。

昨年から予算化していただいております対馬の水の湧出と産業化という部分のこの経過について、説明をまずさせていただきたいと思います。

まず、この水ビジネスの検討につきましては、最初にステップ１として、国内及び韓国の市場

調査を実施し、前提条件の整理として流出量や森林伐採などの影響を検討することとしておりました。その結果により、ステップ２の事業化の検討で、島内の企業や国内企業の誘致、市直営や第三セク、韓国企業の誘致など検討し、ステップ３において、事業費の算出により、プラントの整備や原価計算を行うこととしておりました。

まず最初に、市場調査の発注につきまして入札を実施しましたが、韓国の水事情の情報収集とアンケート調査及び水の流出量の永年性の検討が主な内容での実施であり、コンサルが経験したことのない業務とのことで不落になりました。これは業務内容のうち、韓国での業務があり、経験や取引がないことに起因しているものと考えられます。加えて、水の流出量の永年性につきまして、ボーリングを何本も実施してのデータ解析ではなく、地形や過去のトンネル施工時のボーリング調査の値を参考に経験による判断に委ねられたこともあり、通常のコンサル業務では推しはかることができない業務と判断されました。以上のことから落札されなかったものと考えております。よって、再度業務を遂行していただける業者を調査いたしましたが、先ほど述べましたように、業務の難しさにより引き受ける事業者がありませんでした。このような中、九州の物価等を常に調査し、設計単価にも採用されている財団法人九州経済調査協会に相談しましたところ、引き受けてよい旨の回答をいただきましたので、随意契約により実施しております。これまでに時間を要したため、契約が１１月までおくれ、今も業務の遂行中となっており、３月末までの業務完了としております。議員御質問の経過につきましては、現在２月末の段階では韓国での市場調査がやっと終わり、中間報告として資料の提出があっている状況です。今後、韓国の市場調査内容を精査をし、水の流出量の永続性の報告があった後、ステップ２、ステップ３の事業の可能性や事業費の算出、原価計算を発注したいと考えております。

なお、本案件につきましては、昨年６月定例会の折に総務文教常任委員会で御審議いただき、韓国の市場調査の結果を報告して、次の第２段階へ進むこととしておりましたので、今後開催される総務文教常任委員会に報告する予定としております。

また、市場調査の結果により、次の第２段階の調査に入るとのことであり、当初契約がおくれることにより、次の段階の発注がおくれたため、議案第２号、平成２４年度対馬市一般会計補正予算（第６号）に繰り越し事業として計上させていただいております。

また、本事業の検討については、５つの地域資源循環プロジェクトの森林の循環の中の国際水ビジネス参入部会において検討することとしております。今後、水の市場調査をもとに水ビジネスの事業化の可能性、建設コストの算出、ランニングコストの算出、原価計算などの精査を行い、本格実施の可能性を判断してまいりたいというふうに考えております。いずれにいたしましても、水の原価計算の結果により、事業化の判断ができるため、韓国での市場調査が終わったばかりの現段階で水ビジネスの事業化の可能性は、即断はできないと考えております。

なお、本事業の目指すところは、森林の涵養から生まれる水資源を活用し、事業化により雇用を創出することを目的としており、今後とも検討してまいりたいというふうに考えておりますので、御理解いただきますようよろしくお願いいたします。

御質問の中で、冒頭お話がございました。何回も聞いてる所信表明が期待外れに終わってるのかもしれんというふうな話がありました。私の考えというのが末端、職員までなかなか通じないという部分については、もしかしますと私自身の統治能力が欠如してるのかもしれないという御指摘かなと思いますし、自分自身の能力のなさにいささか落胆を、今、お話を聞いてしたところであります。今後しっかりと、といいましても、自分自身の能力がなければなかなか難しいかなと思いますが、少なくとも自分の考えというのをきちんと伝えていきたいと思っておりますし、今こうして、放送が職員の働いている中にも流れております。どうか、私どもの、私自身の考えというのが職員の隅々まで浸透して市民の皆さんにとって、ほんとで、この対馬で生活してよかったと言っていただけるようなことが実現できるように、職員自身も、私自身もしっかり取り組んでいかなければと、今、先ほどの御質問を聞いて感じたところであります。

自分自身のやっている施政の評価については、後で歴史が証明してくれるものと思っておりますので、自分自身一切何も申しませんけども、自分は今当面ここにあります問題というのを真面目に取り組んでいくということだけしか能力がないのかもしれません。

最後に、２月２６日の私の閉会の挨拶のお話がございました。皆様方があの決断に至るまでは苦渋の決断であったろうというふうなことをきちんと前段で私は申し述べさせていただいたところであります。あくまで、市民の思いと皆様方の思いに乖離があったと、乖離ということには、それは隔たりがあったということは、これは否定ではなくて、事実としての隔たりというふうに御理解をいただきたいと思う次第でございます。

○議長（作元　義文君）　１６番、糸瀬一彦君。

○議員（１６番　糸瀬　一彦君）　比田勝港線について、取り組みは前向きということはわかりますけど、私も去年の８月だったと思います。再三再四、活性化センターを通じて西泊区も陳情を上げたと、こういう経過の中で、一向に先が見えない思いがしておりましたので、私は上対馬町の自民党の支部長も兼ねておりますので、上対馬自民党の要望事項として、先ほど市長が答弁の中で言われたように、地方局にも行き、それから知事にも直訴した経緯がございます。全くそのとき、あなたが言われますように、用地に問題があるというようなことでしたけど、再度ことしも地区から上がってきましたし、去年から私も地元とよく話をし、市長も一番、地域マネージャーの話をしますと対馬でも一番活躍をしておる地域マネージャーがおるんではないかと、私は高く評価をしております。今回組織を上げ、そして地域を上げて、再度お願いをするということでございますから、何とか前向きに進むように再度お願いをしておきます。どうでしょうか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　先ほど申しますように、この対馬の中には、とても立ちおくれた国県道が数多く存在をしております。一昨年の、一昨年だったと思いますが、８月に知事への要望を糸瀬議員もされる中で、舟志・琴間の堂坂線というものについて、手法を変える中での取り組みをという要望をあのときされたというふうに私は記憶をしております。今回、やっと、その堂坂についても一定の方向というのが見えるに至ったというふうに思っておりますし、県も経済対策等の関係もあるんでしょうが、基金等も底をついてる状態でもありますし、県道とはいえ、市も一体となって、どのような整備の手法があるのかとかいうことの提案を含めた要望をこれから要望、協議をしていく必要があるのかなというふうに感じております。

○議長（作元　義文君）　１６番、糸瀬一彦君。

○議員（１６番　糸瀬　一彦君）　私も、以前から言っておりますように、土木も同じフロアにおって、情報を共有するというような行政改革だったと、そのように理解しておる。県も、私がちょっと勘違いでしょうかね、農林だけですか。土木の要件についても、すぐ県と情報を共有するような話ではなかったんでしょうかね。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　県の提案というのは、ワンフロアにつきましては、建設部が県のほうに行き、そして農林関連が市役所の中に入るというふうな提案をされた段階でございました。それについて、私どもも内部でずっと協議を重ね、その提案では、私どもの組織というのが全くもって統治できない状況になるであろうということで、それについてはのめませんということで、県に対し、県の事業課、農林のほうをこちらに受け入れるというふうな逆提案をさせていただいて、今、ワンフロアという形をとっているというふうに御理解いただければと思います。

○議長（作元　義文君）　１６番、糸瀬一彦君。

○議員（１６番　糸瀬　一彦君）　いずれにしましても、私のほうから議会、また地区代表して陳情するということですけど、執行権を持ってあります市長のほうで、何とか県のほうに、危険極まりない箇所でありますので、上対馬町のお願いとしては、あそこを早急に上げてほしいということを、この点についてはお願いをしておきます。

それから、もう一点の水ビジネスについては、私は、これは非常に議員、同僚、全部そうだと思いますけど、このように詳しく説明をしていただければ、私もあえて質問をしなくてよかったんですけど、先ほどから私が言っておりますように、情報の共有化と、こういう意味から、やはり議会にも遅滞なく報告されてあったほうが今後も行政推進には非常に役立つと私は思っております。何もこうして改めて質問事項として上げなくても済むようなこともありますので、今後とも、市長、先ほど話が、能力の話をされましたけど、決して私は能力がないとか、そういうこと

は一言も言っておりません。あなたに期待をして、市民はかじ取りを任せたわけですから。そして、先ほど答弁の中でありました、幹部職員の協力を得てという話がありましたけど、私は再三再四、市長のほうにお願いをしておりますけど、やはり幹部職員と手を携えて、そして市民の安心安全のために努力をしてほしいと、なお、お願いをしておきます。

それから、財団法人との契約により３月ぐらいにはある程度の結果が出るような話がちょっとありましたので、再度そのことにつきまして、また、水ビジネスですか、これについては希望を持って進めてみたいというようなことでしょうか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　私自身の能力のことを言及させていただきましたが、自分自身が改めて能力がないなというふうに思っております。常に期待外れの所信表明というようなことであるならば、私もちょっともっと自分自身をというふうに考えないといけないなと思った次第であります。幹部職員のみならず、全ての職員に自分の考えというのが浸透しないことのもどかしさというのは常日ごろ感じておりますし、そのことが自分の能力のなさゆえんかなというふうな改めてそう感じておるところであります。

水ビジネスにつきましては、私はこれだけの山林を有する対馬でございますので、永続性というのも保たれる、あるものと思っておりますので、可能性というのは高いという思いで取り組みを今させていただいております。

あと、出口ベースの話として、そのあたりの調査が明確に出てこないと、事業というもの、自分らがやるにしても、もしくは、ほかの企業を引っ張り込むにしましても、そこのデータというのをきちんと携えて、よそ様に向かって商談成立をさせていくためにも、そのたまが必要だというふうに思っております。

○議長（作元　義文君）　１６番、糸瀬一彦君。

○議員（１６番　糸瀬　一彦君）　ひとつ、よろしくお願いします。

それから通告外ですけど、市長の許しを得て、二、三点お尋ねをしたいと思いますけど。

上地区の住民の署名運動によりますビートルの寄港について、市長のほうにもお願いがあったかと思っております。また、１２月の議会において、議決をし、上級官庁、県、国にそのような請願を出しておったとは思いますけど、どこら辺まで話が上がっておるか、このことについてお尋ねしたいと思います。

また、先日の所信表明の中だったでしょうか、行政報告だったでしょうか、繁忙期におけるジェットフォイルの比田勝延伸については中止をすると、こういうことでしたけど、この点についても、上地区住民の利便を図る、そういう意味で、多少の赤字は市で出してでも繁忙期だけは通わせましょうと。ジェットフォイルに通ってもらおうと、そういう市長の考えはないのか。

それからＰＭ２．５の測量機器について、上見坂にという話でございましたが、上見坂にあって、きのう、きょうのニュースを見てみますと、熊本県では非常に予期せぬ大気が流れ込んできておるようなニュースもあっておりますが、対馬もきのう、おとといは、黄砂でしょうね。空は真っ黒になっておりましたけど、やっぱり心配があると思いますので、いつ情報が提供できるのか、よろしくお願いしたいと思います。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　請願の件について、どこまで話を進んでるのかといいますか、どこまで話を持っていってるのかという御質問かと思いますが、これについては国交省の海事局のほうに、このような署名が上がってきてるという話は明確に伝えさせていただいております。その中で、ジェットフォイルといいますか、国外線の混乗の進め方とかいうことについても、当然ＣＩＱのほうにも話はしておりますし、さらにジェットフォイルの場合の国の補助制度の創設というもののお願いというのも、あわせて海事局のほうには東京でさせていただいたところであります。また、皆さんの思いというのをきちんとわかっていただくために、直接許可権限はありませんけども、県知事のほうにも、その写しというのは、私自身が手渡しをさせていただいております。また、今回の九郵の問題につきまして、私どもも、いつも、この九郵さんの突然の決断で振り回されておるのが実情であります。皆さんの島内の足、そして島外への足をどのように確保するのかというのは、永遠の課題であろうというふうに思っております。そういう意味において、先ほどの海事局の問題とも絡んではきますけども、ありとあらゆる手法を導入しながらやっていきたいとは思いますが、突然の通知でございましたので、今、次の展開というものまで至っておりません。議会に報告がまだやっとの段階だというふうに御理解いただければと思います。

また、最後に出ましたＰＭ２．５のお話がございました。これについては上見坂のほうに環境省の独立行政法人、環境研究所でしたか、が設置している大気の汚染測定装置があります。そこからの独立行政法人からの数値というのは流れてくるようになっておりまして、今県が一括管理し、ホームページ等で、３月５日からだったと思いますけども、今、発表をさせていただいているところでございます。また、このＰＭ２．５の問題については、上見坂だけに設置されてても、この南北に長い対馬の場合、偏西風の蛇行の仕方によっては、北だけを通る可能性があるというふうに私は感じまして、直接環境省の政務官のほうに連絡をさせていただき、国におけるこのＰＭ２．５の測定機器の設置、設置自体はうちがしてもいいけども、私どもがその測定数値を判断する能力が欠如している。私どもに化学等の博士号を持っている人間もいるわけでもありませんし、それを委託で出すというのも無駄がありますので、できれば、そこの後管理というもの、そしてそれによる判断というものを環境省のほうでやっていただけないかというふうな話を、今持ちかけているところでございます。

○議長（作元　義文君）　１６番、糸瀬一彦君。

○議員（１６番　糸瀬　一彦君）　私も、先ほど質問の中で国境離島の新法制定の話をしましたけど、市長が一所懸命努力をしていただいてることは百も承知でございます。私も委員になっておりますので、何とか、この中で離島の運賃低廉化、そして燃油の値下げですね。これについては、もう本当に島民は、これだけは何とかしてほしいというような思いですので、くどいようですけど、議会と一緒になって、一日も早い成立を見て、市民のために努力をしていただきたいと、このような思いを持っております。くどいようですけど、再度、市長、本当にあなたの努力は、私は高く評価をしておるところです。そして提案型と当時言ってありました国の離島振興法の改正に向けても、随分御足労願ったことは私もよく理解をしておるところでございます。再度、その意気込みを聞かせてください。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　努力はしてるという評価いただいたところですが、努力はしても政治というのは結果が全てでございますので、そこで皆さんの審判を仰いでいくことになろうかというふうに思っております。

○議長（作元　義文君）　１６番、糸瀬一彦君。

○議員（１６番　糸瀬　一彦君）　いろいろ答弁をいただきました。私もきょうが最後でございます。最後に議長のお許しを得て、最後の挨拶をしたいと思います。

この場を借りまして、市民の皆様に、１２年の長きにわたり議会にお世話になりましたことを心からお礼を申し上げたいと思います。なおまた、管理職、幹部職員の皆さん、私は最後に財部市長に支えながら、一日も早い市民の活性化のために御努力をお願い申し上げ、時間は余っておりますけど、私の一般質問を終わりたいと思います。どうもありがとうございました。（拍手）

○議長（作元　義文君）　これで１６番、糸瀬一彦君の質問は終わりました。

○議長（作元　義文君）　昼食のため、休憩します。午後は１時から開催いたします。

午前11時37分休憩

午後０時59分再開

○議長（作元　義文君）　それでは再開します。

次に、１１番、小宮教義君。

○議員（１１番　小宮　教義君）　１１番議員の小宮でございます。市民の声を生かす、市民の市政をモットーに頑張っております１１番議員の小宮教義でございます。私どもの議員の任期も５月まででございます。２カ月ちょっとしかございません。選挙の日程ももう既に決まってお り

ます。５月１２日が告示、そして１９日が投票の予定でございます。私も１２月の議会にも申し上げましたが、私は非常に落選の二文字が目の前にちらついて眠れない。それがますます激しくなっているような状態でございます。次の議会において、こうして、このような場所で、また再度、一般質問ができるように念じております。

昨年の１２月に民主党政権ができました。そして安倍内閣ができたわけでございます。これに対して、経済市場は非常に反応が早い。株高です。円なんかは、きのうは９６円を記録しております。そして株価が１万２，０００円台、これは皆様御案内のとおりに、４年ほど前にリーマンショックがございました。その以前の株価に戻っております。これからは景気がよくなるんではなかろうかと思います。そして、今、政府がとっておりますこの金融政策などの三本の矢、これを打ち込んでおりますけども、できれば、三本どころか、５本でも、１０本でもどんどん打っていただいて、デフレからの脱却を図っていただきたいと思います。先ほど内閣の話をいたしましたけども、以前、どじょう内閣というのがございました。どじょうでございますから、泥の中に潜っておればよかったんでしょうけども、何を考えたか、陸上に上がりまして、解散解散と言いながら上がったわけでございますが、国民の熱射にさらされまして、枯れきっております。多分このままいくのではないかと思いますが。では、この対馬、対馬はどうか。今、新病院の建設がございます。そして、皆さんも御案内のとおりに建築本体工事の落札業者が出ない。金額にして、８億円以上という予定価格との差でございます。公共事業としては、まさに異常であります。果たして、まともにこの建物が建つのかと危惧されるところでございます。

異常といえば、先月の２月ですか、臨時議会がございました。先ほどの一般質問の中で糸瀬議員も述べられておりますが、その言葉を私もちょっと言わせていただきたいと思います。

これは２６日の最終日の市長の閉会の挨拶です。中間からですけれども、

「残念ながら市民と議会に乖離があったことは厳然たる事実として、将来にわたり、語り継がれる結果となりました」

と。糸瀬議員も憤慨しておりましたけども、まさに、これは言葉が過ぎるじゃないかと思います。確かに、この条例、定数条例改正については、有権者総数の２４％を連名で出されております。では、残りの７６％ですか、この人たちはどうなるのか。この人たちも同じような乖離だったのかというふうな話になります。乖離というのは、例えば、昨年の２月には市長選がございました。そして、この市長選というのは、大きいテーマというのは新病院の建設か、または反対かという大きな課題で選挙が行われました。そして市長が有権者総数の約３５％をとられたわけでございます。残りの６５％は反対という形になるわけでございますが、これぞ市民との乖離ではないかというふうに思いますが、いかがでありましょうか。

それと、この先ほどの挨拶の中で、将来にわたり、将来にわたり語り継がれる結果となりまし

たと。これは、議会に対する挑発そのものでございます。もし、語り継がれるとするならば、市長が当選をした、その後の肉づけの補正予算（第１号）、これは全会一致で否決をされました。これぞ市民に語り継がれることではないかと思いますが、いかがでありましょうか。

では、さきに通告しておりました２項目について、市政一般質問をさせていただきます。

まず、第１点の文化財について、これは皆様新聞等やテレビでよくお聞きしてると思いますけれども、昨年の１０月に峰町の木坂の海神神社の国指定の銅像如来立像、そして豊玉町の小綱の観世音菩薩坐像、そして厳原町豆酘の多久頭魂神社の大蔵経、この３つが盗まれたわけでございます。そしてことしになって、１月２９日に韓国で盗難グループが逮捕されました。そして２つの仏像は確保されました。そして現在においては、韓国の大田地方裁判所で裁判が行われております。この大田地方裁判所で民間団体からの返還差し止めが仮決定をしております。こういった状態の中で、今後、この仏像はどのような形で返還をされていくのか。また、これに対して、市はどう対応をするのかという点でございます。

そして２点目は、新対馬病院の建設について、これは３点ございます。

まず第１点は、この建設にかかわる浄化槽からの排水、これについての覚書が作成されておるが、これは本当に正当性があるのかというのがまず１点です。

そして２点目は、今、中対馬、そしていづはら跡の跡地利用検討委員会が立ち上がっております。この委員会の進捗状況はどうかという点でございます。

そして３点目は、厳原跡地に６０床程度のケアミックス型の病院をつくれば、新しい新病院において、経営が苦しくなるのではないかと思うがどうかということです。それとあわせて、いづはらの跡地のケアミックス６０床程度の開設は可能なのかという点でございます。

以上、２項目市長の答弁を求めます。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　１点目の文化財について、盗難についてお尋ねがありましたので答弁したいと思います。

この仏像の盗難事件につきましては、市民の皆様も驚いてあり、そして心を痛めてあると思います。盗難に遭ったのは昨年の１０月でありますけども、その後、ことしになっての１月２９日に韓国の新聞に突然窃盗団といいますか、逮捕が報道されました。私自身も翌日東京に行く予定となっていたことから、すぐに文科省副大臣の谷川副大臣と担当部局である文化庁を訪ね、強く返還をその時点でお願いをしたものです。そのとき、文化庁の担当の国際協力官という役職の方のほうがその日の翌週ですけども、翌週に韓国にわたる。そして、その仏、仏像の真贋のほどを確かめに行きますというふうな話がありました。その結果、本物というふうに判明したというふうな情報を得たところであります。私どもはそのとき文科省のほうに当然ながら返還を求めたわ

けですが、文科省のほうは国際事案になるものですから、外務省ルートでの物事の解決ということに今後はなっていきますというお話でありました。その後、先ほど１１番議員のおっしゃられた大田地裁のほうで仮処分の決定というものがなされたという報道を聞き、窃盗という行為に対して、地裁のほうが仮処分決定をするということ、これにはいささか、私のほうも驚愕しましたし、風土が違うのかなと思いますが、司法という法の番人、まさにこの人たちが法を無視して物事をやっていくというのはいかがなものかというふうな思いに至っております。先ほども申しましたように、外務省ルートに委ねられている状況でありますので、今回の議会において、市議会の皆様方が決議されたことについて、私どもも、その意思というものをきちんと韓国の方々のほうに伝えるようにしていかなくてはという思いでおりますし、対馬市の国際諮問大使であります鄭永鎬先生を通じ、今までテレビに出演していただいた中で、「仏像は対馬に返さなくてはいけない」という発言を１時間番組の中でもしていただき、また、その後、大手新聞にコメントを求められ、先生が原稿用紙１１枚にわたって、先ほど言った趣旨のことを書き連ねたと。そして新聞社に渡したという連絡がこちらに入っている状況であります。

この仏像がどのようにして渡ってきたのかを明確にしないと返さないという、その大田地裁の考え方というのは全く私はのめませんけども、少なくとも１３３０年でしたか、あの仏像がつくられた歴史があり、確かに、その古文書の中には、浮石寺ですか、向こうのお寺さんでつくられたというのはありますが、今の世の中、製作者と所有者が違うのは全てのほとんどのことで起こっております。そして、まして、その１４世紀という時代は、半島においては高麗王朝から李氏朝鮮へ移行する時期でありましたし、高麗王朝というと儒教を国是としてあられました。そして李氏王朝――申しわけございません。仏教を国是とされておられる。そして李氏朝鮮になりまして、儒教を採用されるという中で、その時代、廃仏毀釈的運動が行われたというふうに聞いておりますし、そのような風潮に心を痛めた対馬側が李朝に対しまして、仏像とか、経典とか、そういうものを譲ってくれというふうなことを公文書で言ったというふうなこともきちんと李朝実録の中に残っております。そういう経緯の中で、今回の観音寺の坐像がわたってきたかどうかは解明することは、時代がこれだけ流れますと難しいと思いますけども、十分に自分らの国の時代背景というのも捉えていただいて、仏像が早くに、この対馬に戻ることを願っておりますし、廃仏毀釈の流れの中以降、この対馬においては、その仏像を地区の方たちが長きにわたり御本尊様としてあがめてきた大切な大切なものです。御本尊様、仏像にとっても、まさに最も安住の地と言ったらおかしゅうございますけども、そうなんじゃないかなというふうに私自身は感じております。

次に、大きな２点目でございますが、新病院の排水に絡んだ覚書というのは、正当性はあるのかという御質問でございます。正当性という意味が、覚書として成り立つのかどうかとか、そこ

のは、ちょっとわからない部分がございますけども、少なくとも、この覚書を取り交わした経緯につきましては、確かに合併処理浄化槽の放流水につきましては、以前は水質汚濁防止法に基づいて関係漁協の放流同意というのを取り交わしておりましたけども、皆様御存じのように、合併処理浄化槽の処理能力といいますか、性能が向上したこと、それからし尿に加え、生活雑排水の適正処理というのも行うことから、昭和６３年１０月に厚生省のほうから通達によって、この放流同意書の添付の必要というものは、なくなっております。そういう中、今回の覚書については、西海漁協より新病院の排水による周辺の海の塩分濃度が低下し、真水による被害が懸念されるということが組合理事会において協議され、後々のためにも文書化していただきたい旨の申し出がありましたので、西海漁協組合、それから長崎県病院企業団、そして私どもの対馬市の３者で漁業の主をなす養殖業、つまり囲い漁業のみにつきまして、覚書を締結したところであります。

本来、新病院の排水等により漁業事業等に悪影響を及ぼしたことが科学的に立証されたならば、覚書の有無にかかわらず、補償等を行うことは事業者としての当然の行いだというふうに思っております。今回におきましても、漁協組合員の不安というものを払拭し、将来においても安心して漁業等が営まれるよう人道的見地から締結させていただいたところであります。

次に、中対馬・いづはら病院跡地利用検討委員会の進捗状況という御質問がございました。この委員会につきましては、昨年１２月１９日開催しましたが、その場にも１１番議員さんがお見えでしたので、その内容等については十分熟知されてるとは思いますけども、その日委員１７名の出席をいただきまして、１名欠席でありましたけども、老人保健施設等の入所待機状況とか、対馬市内の病床数のあり方について御意見等をいただき、今後の方向性について協議をしていただいたところであります。次回開催については、今月の２７日開催を予定をしております。

次に、３点目のいづはら病院跡地利用の６０床程度のケアミックス型の病院開設というもの、これは新病院の経営に大きな影響を与えるのではないかという御指摘でございます。また、そのケアミックス型病院の開設の可能性はいかがなのかというふうな御質問でございますが、先ほど言いました第１回の検討委員会においても同様の発言がありましたが、今後において検討協議されるものと思っております。具体的な施設等については、施設整備に伴う介護保険料の増加、また言われるような病床数におきましては、さまざまなデータにより検証し、検討委員会において決定していただければと思っておりますので、可能性については明言できないものと思っております。あくまでも、私どもは建設予定の新病院が対馬の基幹病院であります。いづはら病院跡地に予定している病院については、その基幹病院を補完する病院であるというふうな位置づけでおりますし、新病院と連携して、市民の医療というものを確保していくということを私どもは常に考えていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（作元　義文君）　１１番、小宮教義君。

○議員（１１番　小宮　教義君）　まず、１点ですね、この文化財なんですけれども、説明がございました。ちょっと整理をさせていただきたいと思うんですが、３つ盗まれて、そして、この一つの大蔵経については紛失をしたというふうな話ですが、これの確認と。あと、この海神神社は、これは国指定なんですけども、小綱の分と違うのは国指定ということなんで、いろんな法的なものも違うかと思うんですけれども、この海神神社の仏像は今回の差止めには入ってないんですが、これは返還というのはどういう形でなっていくのか。小綱の件については、仮処分が出てますんで難しいとは思うんですけれども。先ほど紛失したであろう大蔵経の分は今後どういうふうな形になるのでしょうか。まず、それをお尋ねいたします。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　大蔵経については、窃盗団の話によると紛失といいますか、どこかに、言葉どう言っていいかわかりませんが、捨てたというふうなことで聞いておりますけども、私どもも一所懸命探したというふうに職員のほうからは報告がありましたけども、どうしても見つけ出すことができなかったということで、実際問題、どこに、本当で、それが捨てたというのは本当なのかどうかがちょっとはかりかねてるところがございます。今後、大蔵経の方向性については、今地区の方々も協議をなされておられるようでございまして、できれば、しかるべきところに保管をさせていただきたいという思いも、当然こちらありますし、地区の方々の中にも、そのような思いで、今協議を進めていただいているというふうに報告は聞いております。

あとの少なくとも向こうに明らかに渡ったこの仏像２体でございますけども、これについては先ほど申しましたように、外務省ルートで、そこの部分を返還に向かっての組み立てをしていくというふうなすみ分けになっているもんですから、なかなか物事を組み立てていくというのが、私どもも言っているんですが、そこの部分は外務省でと、口を濁されるもんで、国際関係ということもあり、大変早い、戻ってくることを願っておるものの手をこまねいておるのが、これはもう正直なところでございます。

○議長（作元　義文君）　１１番、小宮教義君。

○議員（１１番　小宮　教義君）　じゃあ、この海神神社の仏像というのは、差し押さえはしてないんですから、裁判が終わり次第に速やかに返還されるというふうに考えてもよろしいわけですよね。――と思います。

それで、最近はよくテレビで夜遅くまで野球をやっております。ＷＢＣの野球がですね。この問題は野球まで飛び火したのかなと思います。ここに先週の九州スポーツの記事がございます。大きくこういうふうに載っております。ここに、「被害にあった寺」、「住民の怒りの声」ということで、談話として、ここに、「地域住民の怒りは沸点に達しておる」と、「罰が当たって当

たり前じゃないか」というふうな見出しでございます。そして、今遅くまで見ているＷＢＣ、ここに、「哀れ、ＷＢＣ敗退」ということで、韓国に天罰ということで大々的に九州スポーツが取り上げております。このように、もう既に地域の方は特に怒り狂っておるわけですが、このような怒りを市長としては、どう捉えておられますか、まず一つ。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　特に観世音菩薩坐像を所有されている小綱観音寺の方々と会う機会がありましたけども、当然皆様の思いというのは、自分らの御本尊様だという思いで、早く返してほしいということは、そのときもおっしゃられました。確かに沸点に達するのは十分にわかります。私の立場では国際問題でありますので、なかなか心と表現を別にしないといけない部分もありまして、沸点に達することができないのが、私の今立場かなと思っております。

○議長（作元　義文君）　１１番、小宮教義君。

○議員（１１番　小宮　教義君）　わかりました。先ほど答弁で、議会でこの前議決しましたが、それについても韓国に伝えると、持っていくという話ですが、これは誰がお持ちするんですかね。どういうところに。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　私、持っていくとは決して言っておりませんけども、届け先という表現をさせてもらいましたが、韓国の文化財庁のほうにまずもって、これは届けないといけない。抗議をしないといけない案件だと思ってます。また、在日の大韓民国大使館ですか、こちらにも持っていく必要があるだろうと、届ける必要があるだろうというような２通りからいきたいというふうな考え方を持っております。

○議長（作元　義文君）　１１番、小宮教義君。

○議員（１１番　小宮　教義君）　届けるというよりも、持参をしたほうがかなり説得力があるのかと思いますので、届けるんじゃなくて、持参ということで、ぜひお願いしたいと思います。

それと、今、大田で裁判やってますけれども、この大田の裁判が結審をして、この仏像を返さないと、返さないということになれば、対馬市と、そして、この所有者で日本のように上告をするというふうなことは可能ではなかろうかと思いますが、どうでございますか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　所有者の意思を十分に見極めて行動をとっていきたいと思います。

○議長（作元　義文君）　１１番、小宮教義君。

○議員（１１番　小宮　教義君）　時間がありませんからですね。では、この２番目の新病院建設に関してでございます。この浄化槽の放流については、漁協からの指摘で放流をすると海水塩分濃度が下がるんだというお話で、同意書を、覚書を作成したということですが、あれだけの海に

放流するぐらいで、塩分濃度が下がるはずがないと一般的には思いますが、そういうふうな、ほかの自治体でも何かそういう問題があったんですか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　ほかの自治体で問題があったということは、私のほうには届いてはおりません。

○議長（作元　義文君）　１１番、小宮教義君。

○議員（１１番　小宮　教義君）　これは市長が先ほど答弁したように、昭和６３年に、例えば、こういう覚書とか、同意書は違法であるというふうな通達も出てるんですよ。建設省のほうからですね。その中で２番目ぐらいに、し尿浄化槽の設置者が過度の負担を強いられることのないようにすることと、要するに余分な負担をしないというふうに国の指導も入っておるんですよ。そういう段階において、こういうふうな覚書というのは、違法でないけれども、ほぼ、それに近いような形での覚書だと思いますけどね。極端に言うと、よく言う同意書の類に当たると思いますけど、これはどうなんですか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　先ほど答弁で申し上げましたように、漁協組合員さんの不安払拭するということがまず第一の目的ですし、そして第二は、未来永劫、そこで漁業が営まれるようにというふうな人道的見地から締結をしていただいたというとこですが、今おっしゃられた浅茅湾という一つの若干閉鎖性の高い海域ということも考慮をしておかないといけないのかなというふうにも考えております。

○議長（作元　義文君）　１１番、小宮教義君。

○議員（１１番　小宮　教義君）　じゃあ、２番目に行きたいと思いますが、この跡地利用の検討委員会、私も出席を傍聴させてもらいました。その中で、市長がいづはら病院跡地については、管理者制度を一つ考えておるということでございますが、この管理者になるというのは、この委員会に出席してありました地域振興協会ですか。地域医療振興協会ですか。その方を指すのか、それとも新たな別のもの、例えば、今の長崎県病院企業団を指すのか、その辺はどうなんですか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　第一義的には、地域医療振興協会のほうを物事としては、やっていくのが筋かなというふうに思ってます。

○議長（作元　義文君）　１１番、小宮教義君。

○議員（１１番　小宮　教義君）　地域医療振興協会ですね。これが指定団体になる可能性が高いということですよね。地域医療振興協会がですよ、もし、仮に６０床というのをやることになれば、今は長崎県病院企業団については国の補助が行っておりますけども、この地域医療振興協会

になると、今までの国の補助が入らないんですよ。今でもいづはら病院には４億を超えるお金を出してますけれども、もし、この病院をつくるとすれば、多分ですよ、１億以上の今までの補助金たるに似たものが必要だと思いますけども。そういうことになりますが、どうなんですか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　補助金がなくなるというふうな報告は、私は聞いておりませんけども、少なくとも病院が、私はその１２月１９日の日に申し述べさせていただきましたし、それは傍聴して聞いてあったと思いますけども、病院企業団が自分らの病院だけを守るということが第一義的にやってはいかんのではないかと。地域の住民の命を守るという視点に立ったときに、どのような医療体制を構築していくのかということを考え直しをしないと、公立病院だけでありきはよろしくないというふうな考え方をずっと申し述べさせていただいたところです。

○議長（作元　義文君）　１１番、小宮教義君。

○議員（１１番　小宮　教義君）　医療体制の構築は厚労省がするわけですから、各地方公共団体では一般的にはできないわけですよ。そして、先ほどの、もし、地域医療振興協会がつくるとすれば、補助金は出ません。これは、平成２０年に財政措置の改正要綱というのがございます。この中には、直接負うところというのは、この長崎県病院企業団以外のところの病院については、補助金は出さないよというふうな国の改正要綱がございます。だから、つくったとしても、今、４億ぐらい出しておるんですから、いづはら病院には。幾分かの負担を市がしなければいけないんですよ。大変なお金ですよ。それと、この新病院ができると、新病院ができて、新しいいづはら病院がもしできるとすると、６０床程度の。これは新病院の事業計画書ですけども、平成２７年からの決算が上がってます。そして５年後からは経常損益が黒字ということでございますが、入院施設ですから、ある一定のベット数、そして外来数が医療収入になるわけですよね。そうすると、基本的には、収入というのは一定してきます。そして、この２７年度の医療収入が約４８億です。これは合併した後に病床が５９減ります。そして現在２３年度の決算においては、約５５億、約７億円ぐらいの減になります。ベット数が減りますから。ということは、新しくいづはら病院へ６０床つくれば、約、今の入ってる数で計算すると、約７億から８億の売上があります。その半分がもし影響したとすれば、５年後から経常損益の黒字がずっと赤字になるわけですよ。そういうふうなことになるんで、それはどうなんですか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　大事なことが欠落してるんじゃないかと思います。島内の医療の４割、５０％までいきませんが、４割以上が島外に医療費が流出してるという問題です。そして向こうで入院されてる方がそれだけいるというふうなこと。これらをどのようにして、島内に呼び戻すかということが大きな課題でございます。そして家族に近いところで入院されるということが本

人にとっても幸せなことだと思いますし、それらをつくり込んでいく。今のままではなく、割合を変えていくということをやっていくのが、これからの公立病院の考え方、そして新たな民間病院の考え方にならざるを得ないんじゃないかというふうに皆さんも３月６日の医療対策協議会の中でも、そのような話も出ておりました。

○議長（作元　義文君）　１１番、小宮教義君。

○議員（１１番　小宮　教義君）　これは私が、昨年１２月の議会で市長の答弁なんですが、このように言っております。自分自身が約束したことであれ、ケアミックスというものは、できないときには、約束ができないときにはやめるんだと。この場で明言しますと。そういうことで、ぐだぐだとやっていく予定はない。このぐだぐだというのが非常にぴんとくるわけですが、こういう発言をしておられますが、今、地域医療の素案というものができ上がっております。それによると、基本病床数が前回よりも１１減って、２７７になっております。非常に減っておりますが、これが基本なんですが、そして前回の答弁の中、市長はこうも言ってますよ。県のほうには申し上げてるんだと。基準ベット数の設定いかんにかかわらず、ベットというものはきちんと必要な数だけ手を上げていくんだということですが、いただくようしておるということですが、県の結果としては、その後、何か結果が出たんですか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　３月６日の保健医療対策協議会の中で、医療政策課の方向性として、基準病床２７７とおっしゃられる数字が報告がありました。私は異論を唱えさせてもらいましたが、パブリックコメント等を昨年末からずっととってあるわけですね。これらについて、一切県が何も報告、意見に対する考え方というのを返すことなく、ただ、パブリックコメントだけをとってるという中で物事を決めていくのはいかがなものかと。そして、もう一点言わせていただきますと、そのような基準病床の組み立て方について、厚労省のほうに私は出向いて話をさせていただきました。厚労省の基本的な考え方というのは、これは、随時変更は可能である。そして県の考え方で、その基準病床は変えていかれるというふうなことをはっきりと言いますと（「わかりました」と呼ぶ者あり）いうことでございますので、私は開院までの間、ずっと、この基準病床のことは県に言うつもりですし、この問題をいつまででも、ぐだぐだ、この場でやってても結論は見えてるんじゃないかと思いますが。

○議長（作元　義文君）　１１番、小宮教義君。

○議員（１１番　小宮　教義君）　基準病床数は対馬だけじゃなくて、全国でやる基準なんですよ。（発言する者あり）そして、そういうふうになる。そして、私が知事のほうに公開質問状を出しておりました。そしたら、この前戻ってきたんですが、これには、「基準病床数を超えての病院の開設許可について」ということで出して公開質問しました。そうすると、「病院の開設を許可

することはない」と。「なぜならば、対馬医療圏は過剰であるからすることはない」というふうな公式な知事からの質問状の返答ですよ。だから、基準病床数を超えては、できないんです。それは日本の医療体系にかかわることだからですよ。だから、できないというふうに、許可することはないというふうに知事からの質問状の回答ですよ。どうなんですか、これは。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　そのような公開質問状をとられてることはわかりませんし、そういう報告も聞いてません。ただし、私は、国のほうから聞いてるのは、確かに基準病床というのは医療計画の中で全県下組み立てるのは、それはあります。項目として。ただし、基準病床の決め方というのは、各県に委ねていると。国としてのルールは全く持ち合わせていないというふうな話をいただき、随時の変更は可能なんだというようなことをいただいておりますので、私は開院までの間、その基準病床の見直しに取り組んで行く予定でございます。

○議長（作元　義文君）　１１番、小宮教義君。

○議員（１１番　小宮　教義君）　国はそうでしょう。そして許可をするのは知事がするんですよ。許可は、７条で許可は知事がするんですよ。だから、幾らどうのこうの言っても、この基準病床数を超えては、開設はできないと。知事の公開質問に対する回答ですから。そりゃ気持ちはわかりますけどね。やろうやろうと気持ちはわかるけども、法治国家ですから、法に基づいてやるんですよ。北朝鮮ならいざ知らず、ここは日本国ですからね。できないと回答は来とるんですよ。新たにできないということで、できないんじゃないですか、こういうふうな回答が来ておれば。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　基準病床数の変更は随時可能だという、現時点の基準病床数の中でのそれは話であるというふうに理解しますが。

○議長（作元　義文君）　１１番、小宮教義君。

○議員（１１番　小宮　教義君）　基準病床数の変更についても同じように質問しております。基準病床数の見直しについてということですね。これも知事のほうに質問しております。そうすると、２５年、２９年の５年間の計画の策定してることとしており、その間、基準病床数の変更することはありませんというふうなことですから、担当者に確認しましたが、これは国の基準だから、私どもにどうこうはできないというふうなお話も聞いております。よって、ケアミックスはできないんですよ。北朝鮮じゃないんですから。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　現計画のやつについても、計画期間中でありながら変更計画を今つくってるというふうな実態ですので、その期間中動かせないということは、全くないというふうに厚労省のほうから、私は聞いております。

○議長（作元　義文君）　１１番、小宮教義君。

○議員（１１番　小宮　教義君）　この審議会が３月１９日にあるんですよ。これで先ほどの数字はそこで決定をします。ほぼ決定すると思いますよ。その時点で病院開設はもうできないんです。幾ら頑張ってもできんもんはできないんですよ。だから、冒頭言ったように、市民との約束ができないならば、ぐだぐだとやる必要はないということですよ。以上。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　この件については、病院開院時の問題として捉えておりますので、あなたから、ぐだぐだ言われる必要はないと思ってます。

○議長（作元　義文君）　１１番、小宮教義君。

○議員（１１番　小宮　教義君）　誰が考えてもできないものはできないんです。北朝鮮じゃないんだから。ルールによって、皆さんやっておるんですよ。だから、ケアミックスができないときには、言われるように、私も１２月の一般質問で答えたように、明言したんだから、ぐだぐだとやらずに、きょうは糸瀬議員の質問がありましたけども、能力がないなら、すぐやめる。これが市民のためです。

以上。

○議長（作元　義文君）　これで１１番、小宮教義君の質問は終わりました。

○議長（作元　義文君）　暫時休憩します。開会を２時５分から行います。

午後１時51分休憩

午後２時05分再開

○議長（作元　義文君）　再開します。

１７番、大浦孝司君。

○議員（１７番　大浦　孝司君）　通告に従い、市政一般質問を行います。

厳原都市計画の変更について、お尋ねをいたします。

厳原都市計画区域の設定は昭和４３年度に旧厳原町市街地を中心とし、久田地区から曲小浦地区の縦長な線引き範囲となっております。本来、この計画が設定された場合、都市計画事業、道路、公園、下水道の工事等により、整備が可能で国庫補助の対象となります。当区域の場合、住宅密集地の道路改良事業が見込まれ、現在も継続して事業の実施が行われているところであります。

また、次に、市街地再生開発事業及び都市区画整理事業の実施ができることとなっており、交流センターの建設及び商業施設の融合も都市計画区域における事業の実施のパターンと思われま

す。片や指定を受けた場合、土地建物の制限等も厳しい条件となっております。この厳原区域を美津島町根緒地区から対馬空港、雞知地区の間を拡大する構想が平成２０年度ころから行われ、その検討は現在もなされておりますが、昨年より地元説明会が実施されたとのことですが、この説明会の会場に住民はわずかしか出席しておらず、周知の徹底のないまま、そのことが進められているように思えますが、市はこのことを十分住民の説明が把握できないまま、これを実施するのか否か、市長にお尋ねをしたいと思います。

私は、この４年間の一般質問において、次の２点についてお尋ねをしたいことがございます。この残り財部市政の３年の間に、今後３年の間に、次の２点について取り組まれる意思があるのか、お尋ねをしたいと存じます。

まず１点は、対馬３高校のいずれかに看護科の導入を実施する考えは、その後どう思われているのか。

２つ目に北部対馬の観光の一環として、千俵蒔山へのバスの道路の整備、並びに総合的な観光整備構想に取り組むような考えはないのか。

以上、３点についてお尋ねをいたします。よろしくお願いします。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　１点目の都市計画区域の変更についてでございますが、確か、平成１９年ぐらいから、このお話が動き始めたところでございます。本来、都市計画というのは、先ほど大浦議員がおっしゃられるように、さまざまな補助制度というのは、確かにあります。しかし、基本的にこの都市計画の方向というのは、その土地利用のあり方とか、都市施設の整備、市街地再開発事業など、やはりまちづくりをほんとでどんなにしていくのかという視点に立って、まさに１００年を見通す中で、この都市計画というのがつくり出されておるところでございます。東京都におきましても、９９年間全く未着手の都市計画の予定道路等があるというのもあります。それほど長いスパンで物事を考えていかざるを得ない設定の話でございます。町をどうつくっていくかというときに、無秩序な開発とかいうことが起こりますと、その町というのが体をなさないということにもなりかねませんので、この都市計画区域の決定というのも、それなりに有効な策だというふうに私は感じておりますし、昭和４４年でしたか、確か厳原地域は都市計画の区域決定を受けて、その後、進捗率というのは、それほど高くはないものの、そして市民の皆様に建築物を建てる際、一定の制限等をしていただきながら、まちづくりを取り組んでいってるものであります。見直しにつきまして、民意を当然参考にしたいという思いで、パブリックコメント、それから説明会等、各地区で開催をし、先ほど御指摘がありましたように、参加人数が少なかったために再度開くというふうなこともしましたけども、なかなか御理解が、周知ができないというふうな状況に今あります。現時点においては、この説明資料というものを同封させていただい

て、１，６０４世帯にアンケート調査を実施をしているところであります。今後、このアンケート調査の結果をもとに関係機関と協議しながら検討をしていきたいと考えております。しかし、決して、市独自で手続を強行するというつもりはありません。先ほどから言いますように、そのまちづくりの方向性というのを市民の方たちが自分たち住んでる町は１００年後どうあればいいのかということ、そして、どうしてもそこには痛みがつきものになるもんですから、それらについて了承をいただかなくては物事は進められないというふうに思っておりますので、私ども市が強行するつもりはございません。

次に、２点目の高校の看護科のお話とそれから北部対馬の観光振興のお話がございました。今回の高校の志願者数が新聞等々で出ておりました。対馬高校で普通科で０．７倍、商業科で１．１倍、国際交流コースで０．５倍、豊玉高校で０．５倍、上対馬で０．４倍というふうな倍率になっております。このまま行ったとき、３校が存続できるのかというふうな大変危ぶまれるところでございます。そういう視点に立って、看護科の導入というお話を以前からいただいておるところでありますが、今県の教育委員会として、中高一貫の教育校として上対馬を今進めているところでございまして、推進協議会を設けて研究を行っております。県への要望書は１２月に提出をさせていただいております。２５年度を研究準備期間とし、２６年度から中高一貫の連携型の学校として新たな出発ができるように県と協議を今重ねているところであります。

豊玉高校に関しましては、生徒数の推移を見ながら、キャンパス校への導入を図って努力を重ねていくことを、今後も努力を重ねていくこととなります。

３校の存続というのが、とても、この島にとって重要な課題であると捉えておりますので、存続のための一つの方策として、大浦議員がおっしゃってありますように、看護科の新設というものも一つの方策として理解はできます。ただ、また問題もそれにはあります。なかなか現状では厳しいものがあるのかなと思っております。一つ目は、生徒の確保でございます。確かに人口の多いときは７万人いまして、今約半数に人口は減っております。ところが子供たちの数といいますと、当時と比べると、約６分の１ぐらいになってるんじゃないかというふうに話も聞いております。そういう中、この看護科新設ということが実際可能なのかどうかというふうなことも考え、じっくり考えないといけないと思っております。また、先日の質問の中で、看護師さんの就学貸付金のお話がありましたけども、それらも貸し付け枠に対して、とても少ない状況であると、余っている状況だというふうな報告も聞いております。それらを考えたときに、なかなかハードルが高いのかなとは思います。ただし、今後の医療政策、それから介護の施策の一環として、これらの学校の必要性というのは、十分に理解はできるところであります。また、県教委のほうにも、改めて、このあたりのお話があった旨をきちんと伝えていきたいというふうには考えております。

次に、北部対馬の観光振興の一環として、昨年の６月の議会においても御質問いただいた案件

ですが、現在、あのときの一般質問の御指摘を受けまして、千俵蒔につきましては、確か５カ所だったと思いますが、バスの離合場所を設置をさせていただいたところであります。また、千俵蒔自体の総合的な整備といいますと、地域の方たちが取り組んでおられます千俵蒔山草原再生プロジェクトというのが、ずっと２００７年から立ち上がっておりまして、ことしも、この３月でしたか、地域の方たちで野焼きをされるというふうなことで、一所懸命取り組みをされておられます。また、昨年３月をもって廃止をいたしました風力発電事業も民間企業となりまして、この地で建設が予定もされておりますし、北部地域のランドマークとして、一般市民にも開放されていくのではないかというふうに期待もしております。また、パラグライディングの大会等も、ずっと継続して行いながらやっておりますけども、佐護小中学校の統合に伴い、この施設を本当にどのように使っていくのかということが今地域の中で話が上がっております。これらの方向性というのは、ただ単に学校を利活用するというだけではなくて、佐護地域全体を捉えたときに、どのように、その学校施設の跡地を利用するのかということで話し合いは進められていくものというふうに考えておりますので、それらの市民の方々の思いというものをしっかり捉えて、今後の北部観光振興、地域振興策に練り上げていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（作元　義文君）　１７番、大浦孝司君。

○議員（１７番　大浦　孝司君）　先ほどの回答で、住民説明会をしたが、わずか１０人も満たないような参集状況が、特に雞知地区についてはあったと。そのようなことで、この計画を地域の指定を受けた場合、住民が生活するに不便なことを解消していく事業はよいにしても、反面、この指定を受けた土地の規制等がかなりあります。このことについて、非常に私は懸念をしとるわけですが、説明会の資料をちょっと見ますと、指定を受けた後の制限と従来山林開発をした場合、一般的に１万平方メートル、一町の土地について、以下であれば、許可制度はないと。しかし、この都市計画に入れば、３，０００平米を超えた場合、以内でないと、その許可は出せないというふうな、まず制限が入っております。そして今後、この地域に新たに建物を建設する場合、もしくは増設する場合には、全て事前に振興局の建築主任技師においての審査のもとに建築確認申請書手続を全部行わねばならないと。この手数料は６，０００円から一般的に４万円ぐらいまでのですね、一覧を見た場合、その金額の対象でございました。そして、そこに提出する設計書の作成、図面の作成、これは一級建築士、もしくは二級建築士の手数によって、これを作成せにゃならないということで、ここに経費が発生します。そのようなことが、まず一つあるわけですが、次に「都市の建築の基準法の集団規定」という言葉の中に、建物の建てる面積は敷地に対する７０％を超えてはならないというふうな厳しい制限がございます。そして容積率、いわゆる敷地の面積の２倍を超してはならない。これは２階を想定いたします。７０％の上の建物の体積が土

地の２割を超えては、２００％を超えてはならないというふうな制限がございます。それと、まだほかにもありまして、接道の義務。幹線的な４メーター以上の道路に接する敷地に建物を建てる場合、２メーター引かなきゃならない。道路から。こういう定義がございまして、これを違反した場合には許可を与えないというふうなことに、この説明書ではなっておりますが、一応、そのことの解釈で、市長もしくは担当部長がですね、私、ここがポイントだろうと思うんですが、それで確認は、不足はございますか、ちょっと確認とりたいのですが。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　細かい部分につきましては、建設部長に答えさせたいと思いますけども、今おっしゃられました建蔽率、容積率、それから接道基準とか、いろんな問題がありますし、確かに確認申請を出さなくてはいけません。振興局の建築主事の許可があった後じゃないと家は建ちません。そのような確かに規制というものはございます。先ほど言いましたように、それがあるからこそ、逆に無秩序な宅地開発とかいうものを抑制することができ、自分の住んでる地域の価値を高めていくことが基本的に都市計画区域の指定の目的というふうに、私は理解をしております。

また、建蔽率、容積率等につきましては、そこの地域指定の内容によりまして、建蔽率、容積率等は変わっていくものというふうに理解をしております。住居地域、それから準工地域、さまざまな地域指定がございます。それらの中での規制というものが、何度も言いますが、その地域全体を秩序ある発展につなげていくというふうな高邁な理念を掲げて、都市計画というのはあるというふうに自分自身の理解をしております。

○議長（作元　義文君）　１７番、大浦孝司君。

○議員（１７番　大浦　孝司君）　今回拡大する美津島、雞知地区のこととは別にお尋ねをしたいと思うんですが、昭和４３年度に指定を受けた後に、私はちょうどその事業の対象として、密集住宅の、住宅密集地の道路整備が可能で、特に消防自動車、あるいは救急車の侵入が可能なことをやる。これが一つの事業の特徴でございますが、この件につきまして、現在厳原地区においては、今までの事業量、事業費でも結構ですが、今後の展開の計画は、部長でも結構ですが、ちょっと概要の説明を欲しいんですけども、どのような厳原町の実態は、整備計画はあるのか。この計画に準じまして、それを一つお聞かせください。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　私が知ってる限りをまず答えまして、漏れてる分について、建設部長のほうに答えさせたいと思います。

久田のほうに総合公園というのがございます。これも都市計画の区域で指定をしてできたものでございますし、そこに通ずる浜堀田線という７２０メーターの道路につきましても都市計画事

業でございます。さらに、久田のほうにも若干それに付随する道路がございます。また、役所から出まして、浜のほうから郵便局までのというか、八幡様までの間にかけましても、ある意味、当時の都市計画の方線に基づいて道路改良がなされるということですし、それから今度は以北の谷出橋といいますが、そこまでについても、今度は国道改良になりますけども、国道改良の方線も都市計画の方線に基づいて行っております。それ以外につきましては、八幡様から東のほうに抜けて、浜に抜ける東浜宮前線という線がございますけども、それについては当時の計画のままで、まだ事業という形にもなっておりません。また、郵便局の横の横町線という通常言っておりますけども、この路線についても今計画が上がっただけでという状況であります。それ以外につきましては、都市公園というものがありまして、郵便局の裏の公園、児童公園についても都市計画事業、また高校下の日吉台公園と通称言っておりますけども、それらについても都市計画事業というふうな位置づけでなされております。さまざまな事業というのが都市計画区域での物事の進め方の中にあっております。おっしゃられるように、開発区域面積の分については、一定の面積以上であれば、届け出が必要。それが通常の土地対策要綱よりも大変厳しいものにはありますけども、それが秩序あるまちづくりのために必要だということで、都市計画法では、そのような厳しい基準でなっておるところであります。今まで行ってきました事業の漏れの分につきましては、建設部長のほうから答えさせたいと思います。

○議長（作元　義文君）　建設部長、堀義喜君。

○建設部長（堀　　義喜君）　都市計画施設の概要については、おおむね市長から説明があったとおりでございます。その中で、一部、今、県が実施をいたしております主要地方道、厳原豆酘美津島線の八幡宮前から臨港道路厳原大橋までの改良区間とあわせて、久田区内を実施完了しているわけですが、その土地の久田道、春田屋敷、このルートが都市計画事業としては、まだ未整備の区間が残っております。その他の都市施設公園関係等につきましては、市長のほうから説明があったとおりでございます。

以上でございます。

○議長（作元　義文君）　１７番、大浦孝司君。

○議員（１７番　大浦　孝司君）　まさに、この４３年度指定されて行われた、この厳原都市計画樹立については、私は、この目的に全くぴしゃり合うた地区の対応だと思います。ところが、片や、今回編入しようとする美津島、雞知地区、根緒の一部、このことについての説明要綱の説明資料を読ませてもらいました。そのことに少々、いかがなものかなということがございます。ちょっと読み上げます。「拡大する理由の一部に都市計画区域との不整合を生じている。いわゆる雞知の範囲の開発等が非常に厳原地区の一つの経済的な均衡を含めて、うまくいっておらない」という書き方されてますね。その中で、このように踏み込んでおります。「対馬空港周辺の国道

３８２号沿いでは、外国人観光客や全市民を対象とした大型商業施設の立地が進んでおり、山林を削った宅地造成が数多く見られます。このように郊外に都市機能が拡散することによって、中心市街地の商業活動の衰退や規制市街地の密度の低下に反映しておる」というか、「そういうふうなことが生じておる」というふうな書き方がされておりますが、市長、私、地元の美津島の雛知の人間として、拡大する理由がこのような書き方に一つの大きなポイントを置かれていることは、住民の一人として、少々問題は、問題はですね、今書かれていることが全ての理由であれば、私はこの計画についての進め方に寂しさを思います。この辺を少しですね、私の申し上げたことについて、何かコメントがあれば聞きたいと思いますが。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　その説明資料というのが、私が前もって職員からも以前ももらってないもんですから、大変申しわけないんですが、今発言の中を聞くだけでは何とも申しようがないんです。といいますのは、全体の文書の脈絡の中で物事を判断していきたいと思っておりますので、ここでの返答はお許しいただければと思います。

○議長（作元　義文君）　１７番、大浦孝司君。

○議員（１７番　大浦　孝司君）　読みながら、ちょっと参考に聞いてください。

私が調べた範囲なんですが、まず厳原地区の宅地、あるいは土地の利用状況、あるいは久田地区の利用状況、小浦の利用状況、これらを考えますと、私の解釈では、ほとんど、特に厳原市街地の範囲では、建てる、新たに建てる場所がほとんど少ないと。土地の利用する地区としては限界に達しておるというふうに思っております。参考ですが、厳原地区は平成９年、それと現在、この数字を、一番対比できる現在とその以前の一番対比できる数字を出してくださいということで、戸籍のほうに、住民課のほうに問い合わせたところ、平成３年と平成２５年の数字です。厳原が平成９年には３，９７４世帯あったのが、平成２５年では３，６５２、要は３２２世帯が減少しております。久田については、８７４世帯が９７４、８２世帯増です。片や雛知地区については、これは３０年間の統計の対比ができました。昭和５８年雛知が当時９３５、現在１，６１５、６８０世帯がふえております。ちなみに根緒ですが９８世帯が１２１、２３世帯ふえておる。この数字で見ますとおり、厳原地区においては、もう建物を建てる用地というのは、そんなに余計ない。ないから、その開発が北のほうに向かっていったというふうに私は理解をしまして、この資料には宅地造成も相ならんと、問題であるという書き方をしております。商業施設については、私は、少しは理解ができます。大型店、ディスカウント商品、これは全体のバランスは、対馬は崩れてますよ。今の美津島に限らず。全、対馬市全体。しかし、この宅地が、核家族の中で厳原地区に建てる土地がないから、美津島地区の雛知に、その要素が移っていったというふうに理解してますが、市長、私はそういうふうにして、この書き方は非常に的を外れた書き方しておりま

すね。その辺について、コメントがあれば。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　このペーパーの表現というのがいかがなものかというふうなコメント求められてるわけですけども、そうですね、こういうふうな表現というのは、いかがなもんかというふうにも確かに感じられます。ただし、後段でおっしゃられました宅地開発ができないというふうな理解は、それは間違いでございまして、３，０００平米を超える開発については、都市計画法に基づいた開発基準にのっとって、開発をやっていただかないと、無秩序な開発というのは困りますと。宅地開発を何もとめるものでも全くありません。あわせて申し上げますが、実は、旧美津島時代に、美津島においては、現在の開発というのに憂慮されて、確か、４，０００平米ぐらいだったと思いますけども、開発の規制を町として、土地対策要綱をつくられて取り組んでいらっしゃったというふうに合併前に聞いた覚えがあります。だから、その面積がある意味、基準は都市計画法にのっとるわけですけども、仮にこれを採用すればですね、面積も４，０００が３，０００になるとか、そういうことにはなりますが、やはり、その当時から無秩序な開発というものを憂慮されてたということも十分に考えていただければというふうに思います。

○議長（作元　義文君）　１７番、大浦孝司君。

○議員（１７番　大浦　孝司君）　これを住民の方がわからずに、アンケートの資料も私もいただきました。ちょうど、この資料を提出した次の日か何かにアンケート来ましたよ。十分、このことがわからずに、理解できずに指定をしてしまうということは、私は問題であると思っております。しかし、そうはいえど、集会に来んということも問題であります。部長さんでもいいんですけども、アンケート結果を検討の上に答えを出すというような方向で市長の答弁がございましたが、そういうふうなことで、もう絞り切るということでいいんですか。最終的な市の判断は。検討という言葉も入りましたが。確かにアンケートはきてますよ。それで一番大事な項目にいろいろ丸をつけてありますね。それがどうせ集約された場合に住民の考えというふうなことで市は解釈するのかということを私は確認をとりよるんですが、再度確認をとりたいと思います。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　先ほど申し上げましたように、決して市独自で強行、これをするつもりはございません。ただし、何度も言いますが、都市計画の理念というものをやはり市民の方たちが一度わかっていただくことは、すごく大切なんじゃないかなと思います。その中で皆さんのお考えがそこに至れば、それはそれでいたし方ないんじゃないかと思いますし、行政として強行をするつもりはありません。

○議長（作元　義文君）　１７番、大浦孝司君。

○議員（１７番　大浦　孝司君）　市長と部長さんにお願いを再度したいと思います。私は、例え

ば、町民体育館の会場で、全その対象地区を一気に集めて、もう一遍ですね、そのチャンスを与えてください。そういうふうにお願いしたいと思いますが、そこらで、この質問を終えたいと思いますが、いかがでしょうか。アンケートで済ませるというふうなことのない、今見ましたらね、３名とか、２名とか、そんな集会です。それは、そういうふうなことわからんわけですよね。皆さんが何をやっているのか、この文書を見ても。しかし、それをですよ、全体をもう一回集めることができないかと思うんですが、これは無理なことでしょうか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　住民の皆さんに周知する、今回アンケートをとっております。それでアンケートをとった上で、再度周知する必要があるのかどうかを、どういう方法でやればいいのかを検討をさせていただければと思います。

○議長（作元　義文君）　１７番、大浦孝司君。

○議員（１７番　大浦　孝司君）　今の質問は最後になりますが、実は美津島町の住民の方は苦い経験を持っておられまして、壱岐対馬国定公園の指定、これを自分の土地がそれに入ってることをわかっとる者は誰もおらん。これも昭和４３年度に指定を受けてるわけですが、１種から３種の線引きの中に入った土地については、全て許可申請の手続を取らざるを得ません。それを誰も知らん。これが美津島町の実態ですよ。今まで。浅茅湾という、この景勝地を持っとるがために、一切土地の利用が勝手にできないということをわからずに相当なトラブルが発生しております。今回まさにそういうようなことが類似したようなことでございますから、せっかくやるならば、やはり、ワンチャンスを私は与えてほしい。そのように思っております。それを最後にお願いとして、一応私はこの計画の進め方について住民の一人としてお願いをしたいと思います。

先ほどの市長答弁で、私の過去に行った一般質問の中で、対馬３校の存続存亡もございます。その中に大切な、この島に福祉の仕事がたくさんございます。そして若い人たちが島外にぽんぽん出ていくようなことを何とか地元にとどめたい。とどめるべきであるというふうなことで質問をしたわけですが、先ほどの話では、県の教育委員会にその旨の申し入れをし、平成２４年から２６年度にそういうふうなことを固めて、前に進むような方向で申し入れをしておると。非常に私は――違うんですか。県教育委員会にそのようなことを、答弁はそういうふうに私は聞き及んで書いたんですが、間違えば、また修正お願いします。ちょっとだけ切ります。一回。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　先ほど言いましたのは、県への要望というのは、もう既に進んでおります中高一貫連携校としての方向性というのを要望をさせていただいたというふうに御理解いただければと思っております。しかし、今おっしゃられる部分というのは、これからの対馬のニーズに当然合っておる部分であると思っております。ただし、中高一貫をまず県が選択した背景とい

うものに、今おっしゃってある看護とか、福祉とか、そちらへのまだニーズに気づいてないという部分があろうかと思います。ややもすると、島外の高校に中学校出た後に流れていっている、出ていっている子供たちをどうかして、この対馬の中に引きとめていくことがまず先決ではないかということで、県のほうも中高一貫の方向性というのを選ばれて、今物事が進もうとしております。これは今、上対馬のほうで、それをやっております。０．４とか、０．５とかいう倍率になっております、この上対馬高校と豊玉高校の問題を私ども行政としても見過ごすわけにいきませんので、今おっしゃってあります部分というのを県のほうに今後も伝えてはいきたいと思っております。そうでないと、３校といいますか、高校という形になるのかどうかはともかくとしまして、いずれにしましても、子供たちをここにとどめておくことがとても大切な施策だというように感じておりますので、しっかり頑張っていきたいと思っております。

○議長（作元　義文君）　１７番、大浦孝司君。

○議員（１７番　大浦　孝司君）　対馬の福祉の施設に８００人相当の職員がおり、看護も１００名足らず、そして医療機関も４００人相当の技術者、看護師等がおります。やはり、今の、今と言いますか、この成人式に坂本県議が成人者の方を前に、島外に行くことと、この島に残るというふうなことを手を挙げて答えてくれということで言われましたが、島に残るという方が確かに少なかった。外に出るという方がいっぱいあった。残念がったような感じでございました。しかし、やはり、私は、この学校教育の中に、教育長おられますが、自分だけのことを考える子供の育成ではいけない。親の思いやら、家を存続させる思いが子供になくてはいかんというふうなことを思ったときに、これは、私は、市長、この中学校の段階から、その学校と連動をですね、やはり、結びつけないかんと。それは教育長、あなたには今回の通告はしていませんが、私は、この中学校の中でも一つの結びつきが、この高校への看護科の設定に大いに連動するというふうに思っておりますが、そこらを長崎県下、五島高校が約２０名、大村向陽高校が数は存じておりませんが、その看護科が存在しております。これを私はぜひ、若い女性が島に残れば、必ず男性も残りますから、島がですね、いわゆる少数の少子化というふうなことが改善する一歩じゃないかと思っておりますが、市長、学校との連携を、中学校との連携をとりながら、そのことに接点を持っていただきたい。このように思いますが、市長の考えを一つ。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　中学校との連携ということは十分にわかります。そういう中で、五島に、まず仮におきましても、看護科があります。五島ですね。これについても定員に届かない状況であります。要は今後の島のつくり込み方をどこを目指すのかということと、ある意味連動させた中学校、高校といいますか、高校のつくり込みだというふうにも感じておりますので、今後の島のありようということと、教育機関の存続、子供たちの生きる道とかいうことを含めて、考えて

いきたいというふうに思います。

○議長（作元　義文君）　１７番、大浦孝司君。

○議員（１７番　大浦　孝司君）　２分しか時間がありませんから、２分で申し上げることができんかもしれませんが、千俵蒔の道路の開発なんですが、これはただ単に私が申し上げてることではなく、上地区の観光ルートの設定の中で、現在ですね、国内、外国の観光客のバスのルートは、例えば、比田勝港により上陸した場合、三宇田浜の地区に経由して、韓国展望台、スーパータケスエのショッピング、あるいは、それから、もみじがあれば、もみじのガイドへシーズン中は行くと。その他、幾つかございますけども、大きなボリュームがないというわけですよ。上地区に。一時、とどまる時間帯が非常に少ないと。もう少し、そこらを検討いただきたいという中で、これは私の一つの勝手なあれなんですが、井口浜から千俵蒔に登った場合、約３キロぐらいのですね、２，９００メーターぐらいの延長になろうかと思いますが、この８合目ぐらいまでバスが上がって、大型バスが、それで駐車が１０台ぐらいできるスペースをつくることで、あの箇所のやはり価値ががらりと変わるだろうというふうなことでございます。先ほど市長は改良ということや道路を扱うということは離合というふうなことだけで終わりましたが、その点は私は踏み込むことがないのかなと思ったんですが、そういうことでしょうか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　今、お話を聞いておりまして、バスの方々の思いというのもあるんかなとは思いますが、先ほど申しましたように、佐護地域の方々が今さまざまな地域づくりの方向性を出そうとしております。当然、佐護の方たち、学校のみならず、千俵蒔という一つの資源でございますので、これは。そこについても考えはしていただけると思っております。それらの話し合いの結果というのを十分に反映させていければと考えます。

○議長（作元　義文君）　１７番、大浦孝司君。

○議員（１７番　大浦　孝司君）　ちょっと私も聞いてほしいんですが、町村時代の観光開発に取り組んだことなんですが、豊玉の「神話の里づくり」、これが平成４年から６年、７億ぐらいの事業費を投じて、烏帽子岳の観光道路新設、それから和多都美の里をつくっております。これは非常に対馬を代表する私は展望所と思っております。この企画はすばらしいと思っております。いつも。そしてもう一つは上対馬の韓国展望所、これは約２億を投じて、平成７年から８年、これは上対馬町が誇るヒトツバタゴの上から見る、ベストのやはり展望所。私は対馬６町が統合した中で、対馬市がやるならば、千俵蒔の対応がひとつできないかというふうな新たに一つの課題をですね、投げかけたいと思っておりましたので、ひとつ前向きに検討していただきたい。

以上で終わります。

○議長（作元　義文君）　これで大浦孝司君の質問は終わりました。

○議長（作元　義文君）　予定の市政一般質問は全て終わります。

暫時休憩します。再開を３時１０分から。１５分にしましょうか。３時１５分。

午後２時58分休憩

午後３時14分再開

○議長（作元　義文君）　再開します。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第２．議案第４３号

日程第３．議案第４４号

日程第４．議案第４５号

○議長（作元　義文君）　日程第２、議案第４３号、平成２４年度対馬市一般会計補正予算（第７号）から日程第４、議案第４５号、平成２４年度対馬市水道事業会計補正予算（第２号）までの３件を一括議題とします。

提案理由の説明を求めます。総務部長、桐谷雅宣君。

○総務部長（桐谷　雅宣君）　ただいま一括して議題となりました議案第４３号について御説明いたします。

議案は、本日お届けいたしました追加での議案でございます。よろしくお願いいたします。

平成２４年度対馬市一般会計補正予算（第７号）についてでございます。

提案理由とその内容を御説明をいたします。

今回の補正は、去る２月２６日に成立いたしました緊急経済対策を柱とする国の平成２４年度補正予算（第１号）による事業が主なものでございまして、本予算に計上いたします事業件数は３０件でございます。

予算書の１ページをお願いいたします。

平成２４年度対馬市一般会計補正予算（第７号）は、次に定めるところによることを規定をし、第１条、第１項歳入歳出予算の補正は歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ１３億６，３４０万円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ３４４億６，９００万円とするものでございます。

第２項歳入歳出予算の補正の款項の区分、及び当該区分ごとの金額、並びに補正後の歳入歳出予算の金額は２ページから４ページにかけて記載いたします第１表、歳入歳出予算の補正によるとするものでございます。

第２条、繰越明許費の補正は繰越明許費の追加及び変更を６ページからの第２表、繰越明許費

補正によるものとし、１６事業の追加及び１２事業の変更をいたしております。

第３条、債務負担行為の補正についてでございますが、債務負担行為の変更を８ページからの第３表、債務負担行為補正によることを定め、債務負担行為の期間を平成３９年度までに変更いたしております。

第４条、地方債の補正は地方債の追加及び変更を８ページからの第４表、地方債補正によることを定め、一般補助施設整備等事業債１，５３０万円、緊急防災減災事業債６，９６０万円の追加、及び一般単独事業債の限度額を１億９，０４０万円、並びに過疎対策事業債の限度額を８，３７０万円、それぞれ変更増としまして、合わせまして、６３億６，８４０万円とするものでございます。

次に、歳入歳出補正予算の内容について、主なものを御説明いたします。

まず、歳入でございますが、１４ページをお願いいたします。

１０款地方交付税についてでございますが、普通交付税８，２６８万３，０００円を追加いたしております。

１４款国庫支出金でございますが、今回の緊急経済対策の追加である地方負担が大規模となることを予想されるために、地方の資金調達に配慮することで円滑な実施ができるよう地域の元気臨時交付金１億１，３６０万円、並びに漁港整備事業補助金１億９，２００万円、社会資本整備総合交付金１億９，９４０万円など、合わせまして、６億１，９４７万７，０００円追加してございます。

１６ページをお願いいたします。

１５款県支出金についてでございますが、漁場漁港整備事業などの水産業費補助金２億６，４１４万６，０００円を含めまして、３億１９３万円追加いたしております。

２１款市債は漁港並びに市道の整備、消防防災施設の整備、教育施設の耐震化、体育施設の改修などを含めまして、緊急経済対策事業に充てる事業費として３億５，９００万円を追加いたしております。

続きまして、歳出についてでございますが、予算書の１８ページをお願いいたします。

２款総務費についてでございますが、集落活性化に必要な対馬の全校区並びに佐須奈、佐護、伊奈地区をモデル生活圏とした集落人口の推計、分析、検討のための調査委託、及びあがたの里における地産地消、及び観光インフォメーション機能強化事業といたしまして、１，１６７万１，０００円を増額いたしております。

４款衛生費についてでございますが、雞知地区簡易水道整備、仁田地区統合簡易水道整備、及び久和簡易水道生活基盤近代化事業等の繰出金として、６，３６０万円追加をいたしております。

６款農林水産業費、２項林業費についてでございますが、林道の橋梁及びトンネルの点検、診断調査、並びに、林道南室線開設事業に６，４４１万円の追加。

２０ページをお願いいたします。

３項水産業費についてでございますが、魚礁設置、藻場礁設置、活魚・鮮魚輸送コスト助成及び漁港整備事業に５億８，８９０万２，０００円の追加でございます。

７款商工費についてでございますが、本市を訪れる国内外観光客の利便性の向上を図るため公衆無線ＬＡＮ、いわゆるＷｉ－Ｆｉということでございますが、の通信環境を整備するシステム構築業務委託料といたしまして、４，３００万円追加をいたしております。

８款土木費、２項道路橋りょう費についてでございますが、市の管理するトンネルの点検、改修計画策定の委託、及び市道の改良事業に２億８，６０１万円の追加。

２２ページをお願いします。

４項港湾費は、県工事負担金に２，０７５万円、５項都市計画費は街路県工事負担金に１００万円を追加をいたしております。

９款消防費でございますが、耐震性貯水槽２基の設置に２，２５０万円追加をいたしております。

１０款教育費、２項小学校費についてでございますが、鶏鳴小学校並びに久田小学校の太陽光発電施設整備事業に４，５３７万２，０００円の追加、３項中学校費では、雞知中学校校舎耐震補強事業に１億２，１０１万円。

２４ページをお願いいたします。

６項保健体育費についてでございますが、シャインドームみねの屋根の改修事業に９，５１７万５，０００円、それぞれ追加をいたしております。

予算につきましては、以上のとおりでございますけれども、参考資料をあわせてお届けをいたしておりますので、御参照方よろしくお願いいたします。

以上で提案理由の説明を終わります。よろしく御審議の上、御決定賜りますようよろしくお願いします。

○議長（作元　義文君）　水道局長、阿比留誠君。

○水道局長（阿比留　誠君）　一括議題となりました議題のうち議案第４４号、議案第４５号の２件は水道局所管の議案でございますので、続けて御説明いたします。

まず、議案第４４号、平成２４年度対馬市簡易水道事業特別会計補正予算（第３号）について、御説明いたします。

今回の追加補正予算につきましては、国の１号補正、２月２６日成立のいわゆる大型補正に伴い施設整備事業の早期完成を図ろうとするものであります。

１ページをお願いいたします。

平成２４年度対馬市簡易水道事業特別会計補正予算（第３号）は、次に定めるところによるこ

とを規定し、歳入歳出予算の補正は、第１条、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ２億７４０万円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ１１億1，４５４万8，０００円と定めるものであります。

第２項で歳入歳出予算の補正の款項の区分、及び当該区分ごとの金額、並びに補正後の金額は２ページ及び３ページの第１表、歳入歳出予算補正によるとするものでございます。

第２条、地方債の起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は４ページの第２表、地方債によるとするものでございます。

第３条、地方自治法第２１３条第１項の規定により、翌年度に繰り越して使用することができる経費は５ページの第３表、繰越明許費によるとするものでございます。

それでは補正の内容につきまして、歳入から御説明いたします。

８ページ、９ページをお願いします。

３款国庫支出金、１項国庫補助金１億２５万円は、簡易水道事業補助金の追加であります。

６款繰入金、１項他会計繰入金５，３６０万円は主に建設費分の追加であります。

２項簡易水道繰入金３４５万円は、簡易水道基金繰入金でございます。

９款１項市債５，０１０万円は、簡易水道事業債の追加でございます。

続きまして、歳出について御説明いたします。

１０ページ、１１ページをお願いします。

１款簡易水道費、２項１目水道建設費２億７４０万円の増額補正は、国の１号補正に伴う雞知地区簡易水道整備工事、及び仁田地区統合簡易水道整備工事の追加が主なものであります。

以上が議案第４４号の概要であります。

続きまして、議案第４５号、平成２４年度対馬市水道事業会計補正予算（第２号）について、御説明いたします。

今回の追加補正予算は議案第４４号同様、国の１号補正に伴い、施設整備事業の早期完成を図ろうとするものであります。

１ページをお願いします。

第１条、平成２４年度対馬市水道事業会計補正予算（第２号）は、次のとおり定めるものであります。

第２条、平成２４年度対馬市水道事業会計予算第４条、本文括弧書き、資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額１億６，０１９万４，０００円は、当年度分消費税資本的収支調整額１，１４９万8，０００円、過年度分損益勘定留保資金１億1，６２２万8，０００円、当年度分損益勘定留保資金3，２４６万8，０００円で補塡するものとするに改め、資本的収入及び資本の予定額を第１款資本的収入額１億５，８０５万７，０００円に、第１款資本的支出額を３億

１，８２５万１，０００円に補正するものであります。

第３条、予算第５条中、起債の限度額２，５００万円を３，５００万円に改めるものであります。

それでは補正の内容につきまして、収入から御説明いたします。

４ページ、５ページをお願いします。

収入でございますが、１款資本的収入、１項１目企業債１，０００万円は久和簡易水道基幹改良事業債であります。２項国庫補助金、１目簡易水道国庫補助金２，０００万円は、久和簡易水道基幹改良事業補助金であります。３項負担金、１目他会計負担金１，０００万円は、一般会計建設改良負担金であります。

次に、支出でございますが、１款資本的支出、１項建設改良費、３目簡易水道整備工事費４，０００万円は、久和簡易水道基幹改良事業の追加によるものであります。

以上で、議案第４４号、議案第４５号の概要について説明させていただきました。よろしく御審議の上、御決定いただきますようお願いします。

○議長（作元　義文君）　説明が終わりましたので、質疑を行います。議案第４３号に対する質疑はありませんか。２番、脇本啓喜君。

○議員（２番　脇本　啓喜君）　参考資料の１ページなんですけども、これは協働隊員が主にかかわる事業だと思います。１２月の議会のときに、私も協働隊員のことについて、予算について質問をしました。そのときにちょっと誤解を生じるような質問の仕方をしたようですので、それとあわせて話させていただきます。

１２月の質問の際に私が申し上げたのは、もともとの目的は何だったんでしょうか。もともとの目的と違う形で進んでいるということであれば、きちっとした説明が必要じゃないのか。もともとの目的が達成されないということがわかった時点で、そういうことは議会のほうに報告があるべきじゃないかと。これは一所懸命やっている協働隊員に対する批判ではなくて、協働隊員が働きやすい環境をもっとつくってあげなきゃいけないんじゃないかということと、募集する際に、もう少し市役所のほうで、こういう目的で最終目標はこういう形になるんだという計画をしっかりとしたものをある程度つくって募集しないと、せっかく優秀な方に来ていただいても成果がなかなか上がらない。その人たちが働きにくい環境で働かせることになるということを質問したつもりでしたが、私の質問の仕方が悪かったのか、なかなか理解していただけなかったようです。

そこで、今回もこのような予算がついてる、予算の提案があってるようですので、内容について、委員会のほうで詳しく審議をしていただきまして、目的は何なのか、最終目標はどういうふうなところに置いてるのか、それについては達成可能なのか、その辺をしっかり審議していただきたいと思いますし、これは一審議じゃなくて、委員会に付託されるものですが、この時点で、なるだけ委員会に所属してない議員にもわかるような、もう少し詳しい資料をつけていただけれ

ばありがたいと思います。これは要望です。質問というよりも。よろしくお願いします。

○議長（作元　義文君）　１８番、小川廣康君。

○議員（１８番　小川　廣康君）　これは所管外ですので、２点ちょっとお尋ねを、中身についてお尋ねをしておきたいと思いますが、予算書は、この１９ページになろうかと思いますが、今回の緊急経済対策による、特にこの林業振興費の中の木材加工品輸送コスト助成事業補助金の追加ですが、これは追加ですから、事業の中身については、逆に木材加工品といいますか、加工品を島外に搬出する場合の一部助成、３分の２助成でしたかね。これ中身はわかるんですが、特に今回の追加に関係がちょっとあるんですが、話によりますと、同じ林産物といいますか、例の２年前の東日本大震災による東電のああいう痛ましい原子力発電所の事故により、東北地方の木材といいますか、特に燃料用としての薪。今、暖炉とか、いろいろ使われているようですが、そこの東北地方の薪が今使えないというようなことで、今、対馬もかなり引き合いが出てるようでございます。俗に言う、昔、薪といいますか、昔で言う、私はタバギといいますか、これが今かなり島外に搬出をされております。私は、林産のそういう、振興のために、私は非常にいいなと、特に低炭素化にも役立ちますし、それはいいのかな。市長も前回の選挙の公約の中に、木材を利用した、ペレット状にした公共施設の薪のそういうストーブなんかの利用ということを言われてましたけど、やはり、これは特に部長のほうにお願いしておきたいんですが、これは補助事業ですから、基本的には協業体になろうかと思いますが、やはり、そういう業者が、今ほとんどの雑木林はチップとして利用されておりますが、やはり、今のこの時代にニーズに合った、そういうまた新しい産業といいますか、昔に戻った産業が今ちょくちょく話によるとふえてきております。ただ、話によりますと、引き合いはあるんだけど、なかなか海上運賃が非常にネックになって、引き合いがあるんだけど、なかなか、そこの向こうの業者との競合に勝てないということでございますので、やはり、そこあたりは今後の検討課題として、私は木材の間伐あたりの加工品だけじゃなくて、やはり林産物といいますか、林業の活性化のためにも、一つの研究課題として調査をしていただきたいなと思っております。そうすることによって、やはり雑木林が有効利用といいますか、ちょっと付加価値をかけて高く取り引きされれば、チップよりもいいのかなと、そういう話を聞きましたので、ひとつ、これは研究材料としてお願いをしておきたいと思います。

それから学校教育費、中学校費について、もう一度お尋ねしたいと思いますが、これは説明資料によりますと、耐震化、雞知中学校のほうの耐震化事業ですが、とうとう耐震をかけるかなと、ちょっと、私もちょっと複雑な気持ちでおりますが、一つ、その中学校費に関連をしまして、今回の冒頭の予算の第６号でしたか、それに関連して雞知中学校の改修の問題をちょっと訴えました。４月にずれ込むことは非常に私も残念でなりませんけど。特に教育長、私は、二、三年前からお願いをしております。特に雞知中学校の今、プレハブ倉庫といいますか、あそこは平成元年に、

私は記憶があるんですが、平成元年のときに仮教室としてプレハブ倉庫、教室が建られております。それを今、物置として、倉庫として使っておりますが、非常に老朽化して、いつ飛んでもおかしくないような状態ですが、お願いしましたところ、市長部局のほうでは振興計画に上げてるということですが、やはり、早急なる対応をしてもらわないと、私は二、三日前の大風のときも非常に心配で翌日行ってみましたけど、何もなかったからよかったものの、もし、日中子供たちが校庭で運動してるときに、飛んだりしたときには、大きな事故につながりかねないと思ってますので、振興計画に上げているからということですが、いつになるかわからない振興計画ですので、早急に対応していただきたいと、これは市長部局のほうにも、財政のほうにも、ひとつ、現場を見て確認をして、教育委員会のほうとすり合わせていただきたいと思います。その、薪のことについて、何か、市長、部長なり、コメントありましたらお願いします。

○議長（作元　義文君）　農林水産部長、比田勝尚喜君。

○農林水産部長（比田勝尚喜君）　今回の補正計上させていただいておりますのは、緊急経済対策の一環としての部分でございますので、これが２品目ということで、今回は製材加工品関係と水産の鮮魚関係、この２品目にさせていただいているところでございます。

小川議員からの指摘にございますように、素材とか、間伐材につきましては、今の現状では、ながさき森林環境税のほうで、立米２，０００円の助成があっているところでございますけども、今、先ほども話がありましたように、東北等への薪ストーブ用への出荷ということでございます。これも、私も峰の鹿ノ浦の港湾を先週ちょっと見たときに、５０センチぐらいの雑木がかなり切られて置いてありました。これも船に積むだけにされてありましたので、ここら辺がそのような輸出をされてるんじゃないかなと思っておりましたけれども、また、これにつきましては、今後の検討材料とさせていただきたいというふうに思います。

○議長（作元　義文君）　いいですか。ほかに。１６番、糸瀬一彦君。

○議員（１６番　糸瀬　一彦君）　２１ページ、堀部長にお尋ねしたいと思います。赤島線の道路の進捗状況等、今後どれぐらいかかるか、説明をお願いします。

○議長（作元　義文君）　建設部長、堀義喜君。

○建設部長（堀　　義喜君）　赤島線の進捗状況について御説明を申し上げます。

一応、赤島線につきましては、２６年度の完成を目指して現在進めております。現段階の事業の進捗率といたしましては、７７％ぐらいの状況になっております。

○議長（作元　義文君）　いいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）

ほかに。３番、黒田昭雄君。

○議員（３番　黒田　昭雄君）　済みません。まだまだ勉強不足で、ちょっとわからない部分があるんですが、あえて、ちょっとお伺いしたいと思うんですが、先月末に参議院で補正が可決をさ

れまして、国が言っている１５カ月予算ということで、今補正予算１３億6，０００万円ということで、もう残り何日しかない中の１３億6，０００万円ということは、過ぎまして、繰り越しをして、いわゆる１５カ月予算ということでの位置づけの予算なのでしょうか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　今、３番議員のおっしゃられるように、全額を繰り越して、これを執行していくという予定をしております。国のほうは１５カ月予算とおっしゃってあるんですが、なかなか１５カ月にどうしてもならんのです。２月の末に決議、国会がなりまして、実際は１３カ月何日予算ということになるもんですから、私ども大変苦慮しておりますけども、２５年度内で事業がきちん終わる形じゃないと、事故繰り越しになると、また厄介な問題を生じてきますので、そういう意味で精査をさせていただいて、今回上げさせていただきました。基本的に私自身の気持ちとしましては、例年と比較したときに、当初予算とまたこの補正を足し込みますと、１４．４カ月予算ぐらいになるのかなというふうなことで御理解をいただければと思います。

○議長（作元　義文君）　３番、黒田昭雄君。

○議員（３番　黒田　昭雄君）　ありがとうございました。今回見たところ、かなり各業種の全業種の所得の向上を図っているような補正であります。来年度予算もしっかりとっておりますので、全業種が、今の燃油高とか、いろいろある中で、全業種がスムーズに所得の向上に向かえるような行政をしていただきたいと思います。

以上でございます。

○議長（作元　義文君）　ほかに。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。

次に、議案第４４号及び４５号に対する質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

ただいま一括議題となっております３件は配付しております議案付託表のとおり、各常任委員会に付託します。

以上で、本日の議事は全て終了しました。

市長。どうぞ。

○市長（財部　能成君）　先ほどは補正を計上させていただき、まことにありがとうございます。また、慎重なる審議をお願いしたいと思っております。国の決定がおくれたもんですから、どうしても、こういう形で追加で議案にさせていただくということになった次第でございまして、御理解をいただきたいと思います。

先ほど一般質問の中で小宮教義議員が公開質問状の件をおっしゃられました。先ほど県のほうにどういう質問状だったんだろう。そして、どういう回答をされたんですかということで、今、資料が私の手元に届いております。小宮教義議員の質問というのは、この公開質問状の中の、そこのお手元にあるでしょうけども、２項目にわたっての、それぞれの「ただし書き」というところは一切申されぬままに質問を続けられた。そこで全ての回答が終わってると市民の皆さんは思う形の質問だったような気がします。ここの１項目、２項目に、ちょっと読み上げさせていただきますが、「ただし、特殊な事情がある場合は、基準病床数を超えて病院を開設することが可能な条項が別紙のとおり、医療法に規定されておりますので、御参照ください」という項目がまず１点目の質問に対して回答がなされております。

また、２点目の基準病床数の見直しについてもただし書きがございます。「医療計画は医療法により、国の方針及び医療計画作成指針に基づき策定することとなっており、医療環境の急激な変化などで、国の新たな方針・指針が示されるようなことがあれば、基準病床数も見直す場合があると考えています」というふうな文言までもここにきちんと入っておりますけども、このことには一切触れないまま、一般質問をされたということを、きちんと私はこの場で伝えていきたいと思っております。

○議長（作元　義文君）　はい、１点許しましょう。１１番、小宮教義君。

○議員（１１番　小宮　教義君）　言われるように、まず、この許可については、「ただし書き」ということで、「特別な事情がある場合には、基準病床数を超えての病院を開設することが可能だ」と。しかし、「別紙のとおり、医療法に規定されておりますので、御参照をください」ということですね。これを別紙のところを見ていただいていると思いますが、この改正ができるというのは、医療法３０条の４で抜粋されております。「都道府県は１３項の規定により、当該都道府県の医療計画が公示された後に急激な人口の増加が見込まれること、その他の政令で定める事情があるときはできる」ということです。そして、政令の事情というのが医療法施行令第５条の３にあります。これは急激な人口の増加とか、特定の病気が発生する異常が、異常に多くなるとか、そういうもんでございますので、先ほどの説明から省いたものでございます。

以上。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　大切なところがまた外されていると思っております。今の別紙の一番最後のところに、医療法施行規則がございます。医療法施行令の第５条の３の２項のところに、法第３０条の４第７項に規定する政令で定めるところによりという一つの、この政令が委ねているのが、この医療法の施行規則でございますが、この中で、１行目に、「山間地、離島等の交通条件に恵まれない地域において、病院の病床または診療所の療養病床の確保が必要になること」と

いうことで、恐らく、これはまさに改正離島振興法の条文を受けて、このようなことがあろうかと思いますけども、ここの部分を外す中で物事を一般質問を５０分間なされたのはいかがなものかと私は感じます。

○議長（作元　義文君）　１１番、小宮教義君。

○議員（１１番　小宮　教義君）　先ほどの医療法施行令の「山間部、離島の交通の恵まれない地域」とありますが、これは離島振興法のもの、新しい振興法のものではなくて、以前から、この医療法施行規則３０条の３２第１項にはうたってあるんです。そして山間などの「交通の恵まれない地域においては」ということですけども、これは特殊な事情、これでいう、令５条の３第１項第３号に規定してる事情の中ということでございますから、問題はないと思います。

○議長（作元　義文君）　どちらもその条文を読んで、よく理解をしてください。（発言する者あり）いやいや、一般質問の中のやりとりの追加ということで。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

○議長（作元　義文君）　以上で、本日の議事は全て終了いたしました。本日はこれで散会いたします。お疲れさまでした。

午後３時52分散会

平成25年　第1回　対　馬　市　議　会　定　例　会　会　議　録（第20日）

平成25年３月26日（火曜日）

議事日程（第５号）

平成25年３月26日　午前10時00分開議

日程第１　議案第９号　平成２５年度対馬市一般会計予算

日程第２　議案第２号　平成２４年度対馬市一般会計補正予算（第６号）

歳入は、所管委員会にかかる歳入

歳出は、１款・議会費、２款・総務費

９款・消防費、１０款・教育費

１２款・公債費

議案第16号　平成２５年度対馬市旅客定期航路事業特別会計予算

議案第29号　対馬市子ども夢づくり基金条例

議案第43号　平成２４年度対馬市一般会計補正予算（第７号）

歳入は、所管委員会にかかる歳入

歳出は、２款・総務費、９款・消防費

１０款・教育費

日程第３　議案第２号　平成２４年度対馬市一般会計補正予算（第６号）

歳入は、所管委員会にかかる歳入

歳出は、３款・民生費、４款・衛生費

議案第10号　平成２５年度対馬市診療所特別会計予算

議案第11号　平成２５年度対馬市国民健康保険特別会計予算

議案第12号　平成２５年度対馬市後期高齢者医療特別会計予算

議案第13号　平成２５年度対馬市介護保険特別会計予算

議案第14号　平成２５年度対馬市介護保険地域支援事業特別会計予算

議案第15号　平成２５年度対馬市特別養護老人ホーム特別会計予算

議案第30号　対馬市指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例

議案第31号　対馬市指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準等

を定める条例

日程第４　議案第２号　平成２４年度対馬市一般会計補正予算（第６号）
歳入は、所管委員会にかかる歳入
歳出は、６款・農林水産業費、７款・商工費、
８款・土木費

議案第17号　平成２５年度対馬市簡易水道事業特別会計予算

議案第18号　平成２５年度対馬市集落排水処理施設特別会計予算

議案第19号　平成２５年度対馬市水道事業会計予算

議案第32号　対馬市市道の構造の技術的基準等を定める条例

議案第33号　対馬市移動等円滑化のために必要な道路の構造に関する基準を定める条例

議案第34号　対馬市準用河川に係る河川管理施設等の構造の技術的基準を定める条例

議案第35号　対馬市営住宅条例

議案第36号　対馬市都市公園に係る移動等円滑化のために必要な特定公園施設の設置に関する条例

議案第37号　対馬市布設工事監督者及び水道技術管理者の資格基準等に関する条例

議案第43号　平成２４年度対馬市一般会計補正予算（第７号）
歳入は、所管委員会にかかる歳入
歳出は、４款・衛生費、６款・農林水産業費
７款・商工費、８款・土木費

議案第44号　平成２４年度対馬市簡易水道事業特別会計補正予算（第３号）

議案第45号　平成２４年度対馬市水道事業会計補正予算（第２号）

日程第５　請願第１号　アジアと日本の平和と繁栄を目指す「日韓海底トンネル」の早期建設を求める請願

日程第６　発委第１号　対馬市議会議員の議員報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例

追加日程第１　発議第２号　「日韓海底トンネル」の早期建設を求める意見書

本日の会議に付した事件

日程第１　議案第９号　平成２５年度対馬市一般会計予算

日程第２　議案第２号　平成２４年度対馬市一般会計補正予算（第６号）
歳入は、所管委員会にかかる歳入
歳出は、１款・議会費、２款・総務費
９款・消防費、１０款・教育費
１２款・公債費

議案第16号　平成２５年度対馬市旅客定期航路事業特別会計予算

議案第29号　対馬市子ども夢づくり基金条例

議案第43号　平成２４年度対馬市一般会計補正予算（第７号）
歳入は、所管委員会にかかる歳入
歳出は、２款・総務費、９款・消防費
１０款・教育費

日程第３　議案第２号　平成２４年度対馬市一般会計補正予算（第６号）
歳入は、所管委員会にかかる歳入
歳出は、３款・民生費、４款・衛生費

議案第10号　平成２５年度対馬市診療所特別会計予算

議案第11号　平成２５年度対馬市国民健康保険特別会計予算

議案第12号　平成２５年度対馬市後期高齢者医療特別会計予算

議案第13号　平成２５年度対馬市介護保険特別会計予算

議案第14号　平成２５年度対馬市介護保険地域支援事業特別会計予算

議案第15号　平成２５年度対馬市特別養護老人ホーム特別会計予算

議案第30号　対馬市指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例

議案第31号　対馬市指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準等を定める条例

日程第４　議案第２号　平成２４年度対馬市一般会計補正予算（第６号）
歳入は、所管委員会にかかる歳入
歳出は、６款・農林水産業費、７款・商工費、
８款・土木費

議案第17号　平成２５年度対馬市簡易水道事業特別会計予算

議案第18号　平成２５年度対馬市集落排水処理施設特別会計予算
議案第19号　平成２５年度対馬市水道事業会計予算
議案第32号　対馬市市道の構造の技術的基準等を定める条例
議案第33号　対馬市移動等円滑化のために必要な道路の構造に関する基準を定める条例
議案第34号　対馬市準用河川に係る河川管理施設等の構造の技術的基準を定める条例
議案第35号　対馬市営住宅条例
議案第36号　対馬市都市公園に係る移動等円滑化のために必要な特定公園施設の設置に関する条例
議案第37号　対馬市布設工事監督者及び水道技術管理者の資格基準等に関する条例
議案第43号　平成２４年度対馬市一般会計補正予算（第７号）
歳入は、所管委員会にかかる歳入
歳出は、４款・衛生費、６款・農林水産業費
７款・商工費、８款・土木費
議案第44号　平成２４年度対馬市簡易水道事業特別会計補正予算（第３号）
議案第45号　平成２４年度対馬市水道事業会計補正予算（第２号）
日程第５　請願第１号　アジアと日本の平和と繁栄を目指す「日韓海底トンネル」の早期建設を求める請願
日程第６　発委第１号　対馬市議会議員の議員報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例
追加日程第１　発議第２号　「日韓海底トンネル」の早期建設を求める意見書

出席議員（20名）

１番　渕上　　清君	２番　脇本　啓喜君
３番　黒田　昭雄君	４番　小田　昭人君
５番　長　　信義君	６番　山本　輝昭君
７番　松本　暦幸君	９番　齋藤　久光君
10番　堀江　政武君	11番　小宮　教義君
12番　阿比留光雄君	13番　三山　幸男君

14番　初村　久藏君	16番　糸瀬　一彦君
17番　大浦　孝司君	18番　小川　廣康君
19番　大部　初幸君	20番　兵頭　　栄君
21番　島居　邦嗣君	22番　作元　義文君

欠席議員（１名）

８番　阿比留梅仁君

欠　　員（１名）

事務局出席職員職氏名

局長	神宮　満也君	課長補佐	國分　幸和君
主任	金丸　隆博君		

説明のため出席した者の職氏名

市長	財部　能成君
副市長	髙屋　雅生君
教育長	梅野　正博君
地域再生推進本部長	平間　壽郎君
観光物産推進本部長	本石健一郎君
総務部長	桐谷　雅宣君
政策監	平山　秀樹君
総務課長	根〆　英夫君
市民生活部長	長郷　泰二君
福祉保健部長	多田　満國君
農林水産部長	比田勝尚喜君
建設部長	堀　　義喜君
水道局長	阿比留　誠君
教育部長	豊田　　充君
美津島地域活性化センター部長	八坂　一義君
豊玉地域活性化センター部長	梅野　　泉君
峰地域活性化センター部長	志田　博俊君

上県地域活性化センター部長 …… 川本　治源君
上対馬地域活性化センター部長 …… 島居　清晴君
消防長 …… 竹中　英文君
会計管理者 …… 長久　敏一君
監査委員事務局長 …… 橘　　英次君
農業委員会事務局長 …… 春日亀剛一君

午前10時00分開議

○議長（作元　義文君）　おはようございます。報告します。阿比留梅仁君より欠席の届け出があっております。

これから議事日程第５号により、本日の会議を開きます。

日程第１．議案第９号

○議長（作元　義文君）　日程第１、議案第９号、平成２５年度対馬市一般会計予算を議題とします。

本件は、予算審査特別委員会に付託しておりましたので、委員会の審査報告を求めます。

予算審査特別委員会委員長、小田昭人君。

○議員（４番　小田　昭人君）　おはようございます。ただいまから平成２５年度対馬市一般会計予算審査特別委員会の審査報告をいたします。

平成２５年第１回対馬市議会定例会において、会議規則第３７条の規定により本委員会に付託されました議案第９号、平成２５年度対馬市一般会計予算についての審査結果を、同規則第１１０条の規定により次のとおり報告いたします。

当委員会は、平成２５年３月１３日から１５日及び１８日の４日間にわたり、対馬市議場において市長部局より担当部長等関係職員の出席を求め、細部にわたり説明を受け審査を行いました。

なお、当委員会は最終日において市長の出席を求め、総括質疑を行い、対馬市の方向性について議論が交わされました。

以下、審査の概要について報告します。

平成２５年度の一般会計歳入歳出予算の総額は３２７億９，０００万円で、前年度と比較しますと、前年度の当初予算が骨格予算で編成されていたため１４．５％の伸びで、金額にしますと４１億５，１００万円の増額となっています。

審査の過程でさまざまな意見がありましたが、その主なものとして、順不同ではありますが、一般廃棄物収集業務については、特に事業系ごみを的確に把握し、混載も含め効率的な事業展開

に努めること。小・中学校及び保育所等の統廃合が計画されている施設については、年次計画を把握し、的確に予算に反映させること。ＥＭ普及推進事業については、費用対効果及び実施箇所を的確に把握し、事業の遂行に当たること。５つの循環システム事業については、特に期限が定められる事業は終期を明確にすること。指定管理委託業務については、金額の多少に関わらず、適正な指定管理者を選定すること。島おこし協働隊事業については、費用対効果を見きわめ、期限が定められる事業は終期を明確にすること。議会において、特別委員会が設置される際には、委員会活動が十分に行われるよう調査旅費を予算に反映させること。新病院の電子カルテ等については、他の医療機関との連携を図り、ネットワークの構築を推進すること。国の緊急経済対策等により建設事業が増大することに鑑み、適正な職員配置に努め、安易に繰越事業を行わないこと。厳原町の統合幼稚園建設については、民間保育所への影響も考慮し、連絡調整を図ることなどの意見がありました。

以上、４日間審査した結果、議案第９号、平成２５年度対馬市一般会計予算は原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

市長部局におかれましては、本委員会での指摘事項、意見、要望等を十分に考慮され、市民の福祉向上のため速やかに予算執行に当たられますよう強く要望いたします。

以上で、予算審査特別委員会の審査報告といたします。

○議長（作元　義文君）　報告が終わりました。

これから報告に対する質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認め、討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認め、起立によって採決します。本件に対する委員長の報告は可決であります。議案第９号は委員長報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（作元　義文君）　起立多数です。議案第９号は委員長報告のとおり可決されました。

お諮りします。予算審査特別委員会は本日をもって終結したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。予算審査特別委員会は本日をもって終結することに決定しました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第２．議案第２号・議案第１６号・議案第２９号・議案第４３号

日程第３．議案第２号・議案第１０号～議案第１５号・議案第３０号・議案第３１号

日程第４．議案第２号・議案第１７号～議案第１９号・議案第３２号～議案第３７号・議案第４３号～議案第４５号

○議長（作元　義文君）　日程第２、議案第２号、平成２４年度対馬市一般会計補正予算（第６号）から日程第４、議案第４５号、平成２４年度対馬市水道事業会計補正予算（第２号）までの２３件を一括議題とします。

議案第２号及び議案第４３号の２件は各常任委員会に分割付託、議案第１６号及び議案第２９号の２件は総務文教常任委員会、議案第１０号から議案第１５号までの６件、議案第３０号及び議案第３１号の８件は厚生常任委員会、議案第１７号から議案第１９号までの３件、議案第３２号から議案第３７号までの６件、議案第４４号及び議案第４５号の１１件は産業建設常任委員会に付託しておりましたので、各常任委員会の審査報告を求めます。

総務文教常任委員会委員長、長信義君。

○議員（５番　長　　信義君）　総務文教常任委員会の審査報告をいたします。

平成２５年第１回対馬市議会定例会において、会議規則第３７条の規定により、本委員会に付託されました、議案第２号、平成２４年度対馬市一般会計補正予算（第６号）、歳入は所管委員会に係る歳入、歳出は１款議会費、２款総務費、９款消防費、１０款教育費、１２款公債費、議案第４３号、平成２４年度対馬市一般会計補正予算（第７号）、歳入は所管委員会に係る歳入、歳出は２款総務費、９款消防費、１０款教育費、議案第１６号、平成２５年度対馬市旅客定期航路事業特別会計予算、議案第２９号、対馬市子ども夢づくり基金条例の４議案について、その審査の経過と結果を同規則第１１０条の規定により報告いたします。

当委員会は、３月１９日、豊玉地域活性化センター３階第１会議室において、全委員出席のもと、担当部長及び課長等の出席を求め、慎重に審査をいたしました。

議案第２号、平成２４年度対馬市一般会計補正予算（第６号）のうち、本委員会に係る主な歳入について、１款市税、１項市民税、１目個人市民税については、平成２２年度の税制改正により本年度の調定額が昨年度に比べ３％伸びたため、普通徴収所得割及び特別徴収所得割を追加するものであります。また、１項２目法人市民税１，２２６万９，０００円の減額補正は、優良企業の法人税割が大幅に落ち込んだことによるものであります。２項１目固定資産税９，０７４万２，０００円の減額補正は、土地、家屋、償却資産が当初見込みより落ち込んだことによるものであります。

１５款県支出金２項県補助金１目総務費県補助金２，８１４万８，０００円の減額は、対馬交通株式会社に対する離島バス車両購入費補助金として、県補助金を対馬市が受け事業者へ支出する予定でありましたが、県が直接事業者に補助することになったための減額であります。

３節統計調査費補助金の補正は、当初予算額より１，８５１万１，０００円の減額内示及び入札結果による執行残７，５６５万９，０００円と合わせて９，４１７万円の減額であります。国土調査事業は高度な技術力が要求されるとともに、土地所有者の高齢化や島外流出などが原因で一筆地調査の境界立ち会いも困難を極めることが考えられます。また、地籍調査終了後の課税の見直しや土地取引における状況など終了後の成果が求められます。しかしながら、今回の大きな減額補正は、国土調査事業に対し市長の姿勢を危惧するものであります。

歳出の主なものにつきましては、２款総務費１項総務管理費５目財産管理費１５節工事請負費１００万円の減額は、旧水崎診療所看護師住宅解体工事の執行残、７目企画費１３節委託料のうち、ＣＡＴＶ設定業務委託料２１８万４，０００円は、加入者の増によるものであり、１９節負担金補助及び交付金４，５６８万円の減額は、交通対策費として予約制乗合タクシー委託料６路線を追加する予定でありましたが、変更に伴い対馬市地域公共交通活性化協議会負担金１，７７５万３，０００円の減及び歳入でも触れましたが、対馬交通株式会社に対するバス購入事業補助金が、当初県より補助を受け市の補助金を足して補助することになっておりましたが、県が直接事業者に補助することになったため、市補助金２，７９２万７，０００円を減額するものであります。

８目市民協働推進費、１９節負担金、補助及び交付金３２４万６，０００円のうち、新規ビジネス応援事業補助金の減額は、当初３件の事業を見込んでいましたが１件のみの事業採択であったため、２件分の補助金２００万円の減額であります。

９款消防費１項消防費３目消防施設費の減額は、１３節委託料で消防分遣所庁舎設計委託料、消防団拠点施設の設計監理、地質調査委託料など９４０万円、１５節工事請負費は耐震性貯水槽設置工事、消防団拠点施設建設工事、消防施設等解体撤去工事の事業費確定による減額８００万円、１８節備品購入費は小型動力ポンプ付積載車購入費の確定による４５０万円の減額であります。

１２款公債費１項公債費１目元金及び２目利子は、平成２５年４月１９日の西日本シティ銀行対馬支店の閉店に伴う償還金元金の追加及び利子の減額であります。

議案第４３号、平成２４年度対馬市一般会計補正予算（第７号）は、平成２５年１月１１日に閣議決定された日本経済再生に向けた緊急経済対策として、国の大型補正予算に対応するものであり、平成２５年度当初予算で計上予定であったものを平成２４年度の補正予算に計上し、事業の早期着工を行おうとするものであります。

主な歳入については、１４款国庫支出金２項国庫補助金１目総務費国庫補助金１億５，７３９万７，０００円のうち、離島活性化補助金は輸送コスト助成事業等として３，２１２万６，０００円、対馬北部地域活性化のため、総務省の補助金を受け、志多留、佐護、佐須奈をモデルとして、大学と地域の「域学連携」の拠点整備や佐護小・中学校閉校後の利活用に係る調査研究などを行う

ため、過疎集落等自立再生緊急対策事業補助金１，１６７万１，０００円であります。

７目教育費国庫補助金２節小学校費補助金２，２９１万２，０００円は、鶏鳴小学校、久田小学校の太陽光発電施設設置工事、３節中学校費補助金４，２５３万２，０００円は、雞知中学校耐震補強工事であります。

歳出の主なものは、２款総務費１項総務管理費７目企画費１，１６７万１，０００円の補正は、歳入でも申し上げましたが、志多留、佐護、佐須奈地区において、過疎集落等自立再生緊急対策事業を実施するもので、志多留地区においては、大学と地域の域学連携の場として古民家の再生や運営体制の検討を行うものであり、佐護地区では、佐護小・中学校閉校後の利活用や運営体制の検討を行い、佐須奈地区においては、「あがたの里（そば道場）」の物販や観光インフォメーションの機能強化やサービスの改善に向けて、一部改修を行うものであります。

９款消防費３目消防施設費１５節工事請負費２，１００万円の追加は、豊玉町和板地区、厳原町南室地区の耐震性貯水槽設置工事であります。

１０款教育費２項小学校費１５節工事請負費４，０８８万５，０００円の補正は、鶏鳴小学校、久田小学校の太陽光発電施設設置工事、３項中学校費１５節工事請負費１億１，８０８万３，０００円は、雞知中学校の校舎耐震補強工事、６項保健体育費１５節工事請負費９，３１１万７，０００円の補正は、シャインドームみねの改修工事費であります。

議案第１６号、平成２５年度対馬市旅客定期航路事業特別会計予算は、歳入歳出それぞれ３，８２３万３，０００円で、前年度比１．６％の減となっております。

歳入については、１款事業収入は１項１目旅客運賃及び２目貨物運賃で２４４万１，０００円、２款国庫支出金２，１８３万円の内訳は、赤字航路事業補助金として１，６８４万円と離島航路構造改革補助金４９９万円、３款県補助金６５８万６，０００円は、赤字航路事業に対する県補助金であります。

４款繰入金は一般会計からの繰入金として７２７万５，０００円、５款財産収入は基金利子として１，０００円、６款繰越金は前年度繰越金１０万円となっております。

歳出については、１款総務費１項総務管理費１目一般管理費は、職員及び船員の人件費及び離島航路構造改革調査委託料が主なものであります。現在運航している渡海船が建造後２６年を経過し老朽化しているため、平成２５年度において新船の建造を検討しようとするものでありますが、本委員会は、航路改善計画の策定に当たっては一般会計からの繰り入れも毎年多額であり、経費削減のためにも陸路での交通手段の確保との比較、病院建設予定地への船舶の着岸の可否など協議会で十分検討されるよう指摘しておきます。

２款施設費１目施設管理費１，０４４万９，０００円は、旅客船の運航に必要な燃料費、修繕料などの経費であります。

議案第２９号、対馬市子ども夢づくり基金条例については、子どもたちの文化、スポーツ活動及び体験交流活動事業等については今までそれぞれの所管の担当部において補助金等を予算計上し活動支援が行われておりましたが、今後は、「子どもたちは地域の宝」の観点からさまざまな分野の活動に対する支援を総合的な連携によるバックアップ体制づくりを進めていくこととし、対馬の将来を担う青少年の健全な育成を図るため、文化活動、体験活動、国際交流活動及びスポーツ活動などのあらゆる分野での活動を可能にし、対馬の子どもたちの夢のある未来づくりに寄与するため、対馬市子ども夢づくり基金を設置するものであります。

以上、本委員会に付託されました議案第２号、議案第４３号、議案第１６号及び議案第２９号の４議案につきましては、慎重に審査し、採決の結果、いずれも賛成多数により原案のとおり可決すべきものと決定しました。

以上で、総務文教常任委員会の審査報告といたします。

○議長（作元　義文君）　次に、厚生常任委員会委員長、山本輝昭君。

○議員（６番　山本　輝昭君）　おはようございます。厚生常任委員会の審査報告を行います。

平成２５年第１回対馬市議会定例会において、会議規則第３７条の規定により本委員会に付託されました案件は、議案第２号、平成２４年度対馬市一般会計補正予算（第６号）のうち、歳入は所管委員会に係る歳入、歳出は３款民生費及び４款衛生費、議案第１０号、平成２５年度対馬市診療所特別会計予算から議案第１５号、平成２５年度対馬市特別養護老人ホーム特別会計予算までの所管委員会に係る特別会計予算並びに議案第３０号、対馬市指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例、議案第３１号、対馬市指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準等を定める条例についての９議案であります。その審査の経過と結果を同規則第１１０条の規定により報告いたします。

当委員会は３月１９日に豊玉地域活性化センター３階小会議室において、阿比留梅仁委員は欠席でありましたが、市長部局より、担当部長並びに担当課長の出席を求め、慎重に審査をいたしました。

まず、議案第２号、平成２４年度対馬市一般会計補正予算（第６号）のうち、本委員会に係る歳入の主なものは、１４款国庫支出金１項１目民生費国庫負担金の自立支援費負担金等で７１５万９，０００円、保育所運営費負担金で１，０４２万４，０００円をそれぞれ追加、生活保護費負担金は２，６７３万５，０００円の減であります。

１５款県支出金１項２目民生費県負担金は自立支援費負担金、保育所運営費負担金等７５３万８，０００円の追加、２項２目民生費県補助金では障害者自立支援対策臨時特例交付金等で１，２６３万６，０００円の減、３目衛生費県補助金は疾病予防対策事業費等補助金等で８１８万

４，０００円、漂流漂着ごみ撤去事業補助金で１２０万６，０００円それぞれ減、２１款市債１項３目衛生債は、新病院建設工事が平成２５年度着手予定となったことにより新病院建設事業債５億７，３００万円をはじめ、最終処分場適正閉鎖事業債等、事業費の確定により５億８，６３０万円の減であります。

次に、歳出の主なものは、３款民生費１項１目社会福祉総務費は、１９節負担金、補助及び交付金で、通所サービス利用促進事業補助金１，４９０万円の減、２０節扶助費は障害者医療費等１，３９７万６，０００円の追加、２３節償還金、利子及び割引料は、障害者自立支援給付費、障害者医療費精算返還金として２，２１６万４，０００円の追加で、４目国民健康保険費は、２８節繰出金で一般会計から８，３９１万６，０００円の繰出金の追加です。５目老人福祉費は、１９節負担金、補助及び交付金で、後期高齢者医療広域連合負担金で２，３２４万４，０００円の減、２項２目児童福祉施設費は、保育所運営費負担金等１，４７１万９，０００円の追加であります。

４款衛生費１項１目保健衛生総務費では、県病院企業団負担金で、新病院建設事業が平成２５年度着手となること等により５億９，３３８万８，０００円の減で、診療所特別会計には６１２万６，０００円が繰出金として追加され、２目予防費は健康増進事業委託料、子宮頸がん等ワクチン接種事業委託料等の実績見込みにより３，６６０万５，０００円の減、４目環境衛生費は、合併処理浄化槽設置事業補助金において４０１万９，０００円の追加、２項２目塵芥処理費は、燃料費、医薬材料費等需用費で３，５２１万５，０００円、委託料においては、クリーンセンター運転維持管理、再商品化委託料等で２，２０５万円、工事請負費では今年度完了となります久田最終処分場適正閉鎖対策工事費の精算により６６３万５，０００円がそれぞれ減額されております。

次に、議案第１０号、平成２５年度対馬市診療所特別会計予算は、予算総額を歳入歳出それぞれ４億２８９万５，０００円と定めるもので、前年度比６４１万５，０００円の減であります。

歳入の主なものは、１款診療収入１項１目国民健康保険診療報酬収入から５目その他の診療報酬収入まで、前年度より１９３万６，０００円減の２億４，８３６万３，０００円。

３款県支出金１項１目県補助金につきましては、長崎県へき地医療対策費補助金として前年度より２５２万６，０００円減の１，３１４万４，０００円。

４款繰入金１項１目一般会計からの繰入金につきましては、前年度より４１０万９，０００円減の１億２，１４０万６，０００円。

６款諸収入１項１目雑入につきましては、特養わたづみの診療委託料、予防接種委託料、特定健康診断委託料等として１，６９８万２，０００円であります。

歳出の主なものは、１款総務費１項１目一般管理費では、職員９名分の給与関係費７，１２３万円、看護師等嘱託職員１０名分の報酬２，８７９万２，０００円、直営診療所５名の嘱託医師謝礼

として１億１０４万６，０００円、企業団病院からの医師、看護師等の派遣委託料１，６７４万５，０００円並びに公設民営診療所の運営補助金１，４２４万円等、あわせて前年度より３２７万４，０００円減の２億９，３１８万６，０００円であります。

２款医業費１項１目医業用機械器具費は、豊玉、仁田診療所の医療機器リース料等２７０万９，０００円、２目医業用消耗器材費は、各診療所医薬消耗材料費で１，４００万円、３目医業用衛生材料費は、各診療所の医薬材料費で前年度実績見込みにより４５２万円減の９，３００万円であります。

次に、議案第１１号、平成２５年度対馬市国民健康保険特別会計予算は、予算総額を歳入歳出それぞれ５９億９，５１４万９，０００円と定めるもので、前年度比１億５，６０４万５，０００円の増であります。

歳入の主なものは、１款国民健康保険税で前年度より２億９，５１７万８，０００円減の１１億９，１８２万１，０００円、３款国庫支出金は１６億６，０２９万７，０００円、５款前期高齢者交付金は１億７，９４２万９，０００円増の９億６，４１４万８，０００円、６款県支出金は３億５，２１４万１，０００円、８款共同事業交付金は１億２，８０１万９，０００円増の９億３，８１１万８，０００円で、国・県が示す基準に基づき算定した額が計上されております。

１０款繰入金では、前年度より３億１４２万２，０００円増の６億５，２０６万６，０００円で、このうち法定外に税収補填分として２億７，９９９万６，０００円が繰入れされています。

歳出の主なものは、１款総務費は被保険者証の一斉更新時に係る郵送料及び医療適正化特別対策事業としてのレセプト点検、医療通知書並びに国民健康保険税の賦課徴収に係る経費で、前年度より２３４万６，０００円増の４，６４２万９，０００円であります。

２款保険給付費では、１項療養諸費で一般被保険者、退職被保険者療養給付費等で６，７６４万３，０００円増の３３億６，３１５万円、２項高額療養費で４，０５９万９，０００円増の５億２２９万９，０００円。４項出産育児諸費は出産育児一時金は８０件で３，３６０万円、５項葬祭諸費は１００件で２００万円をそれぞれ見込み計上されております。

３款後期高齢者支援金等は、６億８，７６２万２，０００円及び６款介護納付金３億６，１３５万７，０００円、７款共同事業拠出金８億３，３５２万８，０００円はそれぞれ国・県が示す基準に基づいた割合で計上されております。

８款保健事業費は、特定健康診査等事業費として特定健康診査、特定保健指導に要する経費として前年度より８２４万３，０００円減の４，７７６万４，０００円であります。

なお、国民健康保険財政調整基金については、全て取り崩されております。今後の国民健康保険財政の健全な運営を図るためにも、積み立てを行うよう検討願います。

次に、議案第１２号、平成２５年度対馬市後期高齢者医療特別会計予算は、予算総額を歳入歳

出それぞれ３億４，１０２万４，０００円と定めるもので、前年度比２８１万円の減であります。

歳入の主なものは、１款後期高齢者医療保険料は、広域連合からの通知額に基づき算定し、２２９万５，０００円減の１億８，４４８万９，０００円であります。

５款繰入金は、一般会計より１４０万３，０００円減の１億５，４７４万３，０００円繰り入れが行われております。

歳出の主なものは、１款総務費は職員２名分の人件費１，４０５万６，０００円。広域連合事務費負担金等１，３１２万８，０００円等で、前年度より４２３万１，０００円減の３，２９４万９，０００円であります。

２款後期高齢者医療広域連合納付金は、低所得者層の増加により保険基盤安定負担金で１億２，１６９万６，０００円、保険料納付金で１億８，５０６万５，０００円であります。

次に、議案第１３号、平成２５年度対馬市介護保険特別会計予算は、予算総額を歳入歳出それぞれ３５億９，１２３万９，０００円と定めるもので、前年度比１億４，２６７万３，０００円の増であります。

歳入の主なものは、１款保険料では第５期介護保険事業計画に基づき、１，８９９万３，０００円増の５億３，３７３万９，０００円であります。３款国庫支出金は９億７，０２６万５，０００円、４款支払基金交付金は９億９，０７６万６，０００円、５款県支出金は５億２，４４２万２，０００円。

７款繰入金では一般会計より職員給与費等５億４，６５５万９，０００円、県からの財政安定化基金支出金の皆減により、介護給付費準備基金から２，５３６万円がそれぞれ繰り入れされております。

歳出の主なものは、１款総務費１項１目一般管理費は、職員１名減による人件費７名分５，９１９万９，０００円をはじめ、介護保険制度運営に係る経費で８９６万８，０００円減の６，７０８万９，０００円であります。３項介護認定審査会費は、１目介護認定審査会費で認定申請に伴う事前審査及び意見書作成経費等として２，５６４万９，０００円。２目認定調査等費では認定調査員委託料１，３３８万２，０００円であります。

２款保険給付費１項介護サービス等諸費は、給付費負担金として１億２，７９３万５，０００円増の２７億８，８９１万円。２項介護予防サービス等諸費は給付費負担金として１，３２６万円増の３億４，５８３万６，０００円であります。

８款地域支援事業費、１項１目介護予防等事業費では、保険給付費見込み額の０．８％、２，７０８万６，０００円。２項１目包括的支援等事業費では、保険給付費見込み額の２％、６，７７１万４，０００円がそれぞれ介護保険地域支援事業特別会計へ繰出金として計上されております。

次に、議案第１４号、平成２５年度対馬市介護保険地域支援事業特別会計予算は、予算総額を歳入歳出それぞれ１億３，６７０万７，０００円と定めるもので、前年度比１，５２３万４，０００円の増であります。

歳入の主なものは、１款繰入金は第５期介護保険事業計画に基づき介護保険特別会計から介護保険給付費見込額の２．８％、９，４８０万円が繰り入れされ、３款諸収入は介護予防支援事業収入として３，５６４万７，０００円であります。

歳出の主なものは、１款地域支援事業費１項１目地域支援事業運営管理等諸費は、地域包括支援センター運営に係る経費で、職員７名分に係る人件費６，００２万２，０００円、嘱託職員３名分８５６万９，０００円及び社会福祉協議会からの派遣職員４名分の人件費に係る負担金１，９１３万１，０００円等、支援センターの運営に係る経費で、前年度より６１０万３，０００円増の９，６１８万円であります。２項介護予防事業費は、介護予防一次予防事業として介護予防教室、講演会、健康相談等の開催経費及び二次予防事業として通所型介護予防事業実施に伴い、前年度比３１０万円増の８６７万７，０００円であります。３項２目任意事業費においては、平成２４年１０月から新規事業として実施しております要介護４及び５の在宅で生活されている方に、月５，０００円を上限としたおむつ購入費用の助成金として４５９万円が計上されております。２項介護予防支援費は、要支援者に係るケアプラン作成件数の増により介護予防支援委託料２，６２６万６，０００円であります。

次に、議案第１５号、平成２５年度対馬市特別養護老人ホーム特別会計予算は、予算総額を歳入歳出それぞれ２億６，６１０万円と定めるもので、前年度比２１９万５，０００円の減であります。

歳入の主なものは、３款繰入金１項１目一般会計繰入金で、前年度より１７５万３，０００円増の８，４５１万８，０００円で、５款諸収入１項１目介護給付費収入は、基準単価の変更により前年度より３６２万３，０００円減の１億５，４２６万４，０００円、２項１目自己負担金収入は、前年度より３４万４，０００円減の２，６１４万３，０００円であります。

歳出の主なものは、１款民生費１項１目施設管理費は、特別養護老人ホーム日吉の里の施設管理費で、職員１３名分の人件費１億１，５０３万３，０００円、嘱託職員１８名分の報酬４，７４２万９，０００円、燃料・賄材料費等需用費では３，１５６万５，０００円、嘱託医、宿直の業務委託料として委託料９３２万２，０００円であります。２款公債費については、元金及び利子で５，０３０万８，０００円の償還で、平成２５年度末の未償還残高は２億５，９５３万２，０００円であります。

次に、議案第３０号、対馬市指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例については、これまで介護保険法や厚生労働省令のもとで事業を展開してまい

りましたが、平成２４年４月に地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律及び介護サービスの基盤強化のための介護保険法等の一部を改正する法律が施行され、この法律の制定により介護サービス事業に関する基準等を都道府県や市町村の条例で定め、遅くとも本年４月１日までに施行しなければならないこととされております。

本条例は、要介護１から５の認定を受けている方が受けることができるサービスについての規定で、第１章では、条例の趣旨、定義、事業者の要件等を定めており、第２章から第９章までは、それぞれのサービスの種類について規定しております。このサービスの種類の中で、現に本市で整備されている事業所は、第４章の認知症対応型通所介護では、認知症高齢者を対象とした通所介護、いわゆるデイサービスについての規定で、市内に３カ所整備されております。第５章の小規模多機能型居宅介護では、家庭的な環境のもとで通いを中心に、必要に応じ訪問や泊まりを組み合わせて利用することができるサービスの規定で、市内には１カ所のみの整備です。

第６章の認知症対応型共同生活介護では、認知症高齢者が共同生活する住居、いわゆるグループホームで利用するサービスについての規定です。本市においては、現在６カ所整備されており、利用ニーズも高いことから、５月には新たな施設が整備され、７カ所となる予定です。なお、第２章の定期巡回・随時対応型訪問介護看護、第３章の夜間対応型訪問介護、第７章の地域密着型特定施設入居者生活介護、第８章の地域密着型介護老人福祉施設入居者生活介護及び第９章の複合型サービスについては、本市においてはそのサービスを提供する施設はなく、今後においても施設整備は難しいとのことであります。

次に、議案第３１号、対馬市指定地域密着型介護予防サービス事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準等を定める条例については、議案第３０号と同じく法律の改正によるもので、本条例では、基本的に要支援１、２に認定されているお年寄りが同様のサービスを受けることができるよう、第２章では、介護予防認知症対応型通所介護、第３章では、介護予防小規模多機能型居宅介護、第４章では、介護予防認知症対応型共同生活介護におけるサービスの内容について規定するものです。なお、第４章の共同生活介護（グループホーム）については、要支援２のみの利用とされております。

以上、本委員会に付託されました議案第２号及び議案第１０号から議案第１５号並びに議案第３０号、議案第３１号の９議案につきましては、慎重に審査を行った結果、いずれも賛成多数により原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

以上で、厚生常任委員会の審査報告といたします。

○議長（作元　義文君）　暫時休憩します。再開を１１時１０分から。

午前10時55分休憩

午前11時09分再開

○議長（作元　義文君）　再開します。

次に、産業建設常任委員会委員長、大部初幸君。

○議員（１９番　大部　初幸君）　ただいまより産業建設常任委員会審査報告をいたします。

平成２５年第１回対馬市議会定例会において、会議規則第３７条の規定により、本委員会に付託されました案件は、議案第２号、平成２４年度対馬市一般会計補正予算（第６号）、歳入は、所管委員会に係る歳入、歳出は６款農林水産業費、７款商工費、８款土木費、議案第１７号、平成２５年度対馬市簡易水道事業特別会計予算、議案第１８号、平成２５年度対馬市集落排水処理施設特別会計予算、議案第１９号、平成２５年度対馬市水道事業会計予算、議案第３２号、対馬市市道の構造の技術的基準等を定める条例、議案第３３号、対馬市移動等円滑化のために必要な道路の構造に関する基準を定める条例、議案第３４号、対馬市準用河川に係る河川管理施設等の構造の技術的基準を定める条例、議案第３５号、対馬市営住宅条例、議案第３６号、対馬市都市公園に係る移動等円滑化のために必要な特定公園施設の設置に関する条例、議案第３７号、対馬市布設工事監督者及び水道技術管理者の資格基準等に関する条例、議案第４３号、平成２４年度対馬市一般会計補正予算（第７号）、歳入は所管委員会に係る歳入、歳出は、４款衛生費、６款農林水産業費、７款商工費、８款土木費、議案第４４号、平成２４年度対馬市簡易水道事業特別会計補正（第３号）、議案第４５号、平成２４年度対馬市水道事業会計補正予算（第２号）の１３議案であります。

その審査の経過と結果を、同規則第１１０条の規定により、次のとおり報告をいたします。

当委員会は、平成２５年３月１９日に豊玉地域活性化センター３階第２会議室において、全委員出席のもと担当部長及び課長等の出席を求め、慎重に審査いたしました。

審査の中で質疑、意見があった主なものについて報告をいたします。

まず、議案第２号、平成２４年度対馬市一般会計補正予算（第６号）では、６款農林水産業費で構造改善加速化支援事業におけるアスパラハウス設置補助について、イノシシ捕獲、鹿駆除の補助金追加についてなど質疑がありました。また、水産物販売促進事業補助金については、各漁協がネット販売に取り組んでいるが、漁協単位ではなく、行政がリードして対馬の魚を対馬ブランドとして一体的に販売するための営業の取り組み、販売方法など体制づくりが必要ではないか。海洋保護区関係調査研究委託については、議会、漁民、市民にもタイムリーな情報をその都度提供してもらいたいなどの意見がありました。

８款土木費では、まちづくり事業費の公有財産購入費１億４００万円の減額、補償・補塡及び賠償金３億２，３５０万円の減額理由について質疑がありましたが、これは横町線街路事業にお

いて、市民の意向を反映するため、現在ワークショップにより事業内容が検討されており、その検討結果が来年度に持ち越しとなったため減額するもので、今後はワークショップの結果を踏まえ、事業を進めていきたいということであります。また、まちづくり事業費の工事請負費の追加については、平成２６年４月開園予定の厳原、久田統合幼稚園建設工事費の追加であります。今回の補正により新年度予算での対応と比べ、早く工事に着手できるということでありました。

次に、議案第１７号、平成２５年度対馬市簡易水道事業特別会計予算では、雞知地区簡易水道整備工事の内容について質疑があり、小浦から雞知地区までの配管を行うことで、雞知地区の渇水期の水源確保、また新病院への水の安定供給を図るものであること。また、国の２４年度追加補正もあわせ、平成２５年度に完了予定ということでありました。

次に、議案第４３号、平成２４年度対馬市一般会計補正予算（第７号）では、６款農林水産業費で木材加工品輸送コスト助成事業補助金の追加に関連して、円安が進んでいる現在を絶好の機会と捉え、韓国との木材取引について、販路拡大、設備投資など、生産者の利益につながる仕組みを早急に検討してほしい。また、木材輸出については、生産者の利益を考えたとき、厳原港だけではなく、峰、舟志の港の整備が最も重要であり、早期にその計画を示してほしいなどの意見がありました。

議案第３２号、対馬市市道の構造の技術的基準等を定める条例から議案第３７号、対馬市布設工事監督者及び水道技術管理者の資格基準等に関する条例までの６件は、新規条例及び全部改正条例でありますが、その主な内容は、地域主権改革一括法による各関係法の改正により、従来各法令で定めていた各基準等について、それぞれの地方自治体の条例で定めることとされたことを受けて、今回、各条例に規定するものであります。

以上、本委員会に付託されました議案第２号、議案第１７号から議案第１９号、議案第３２号、議案第３７号、議案第４３号から議案第４５号の１３議案につきましては、慎重に審査をし、採決の結果、いずれも賛成多数により原案のとおり可決すべきものと決定をいたしました。

以上で、産業建設常任委員会の審査報告といたします。

○議長（作元　義文君）　各常任委員会の審査報告が終わりました。

これから報告に対する質疑を行います。

まず、総務文教常任委員会の報告に対する質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。

次に、厚生常任委員会の報告に対する質疑はありませんか。２番、脇本啓喜君。

○議員（２番　脇本　啓喜君）　まず、１０ページなんですが、厚生常任委員会委員長に質問いたします。

１０ページに、いわゆるグループホームのことが出ていますが、対馬市にも現在６カ所整備されていて、ことし５月に新たな施設が整備されると。７カ所になる予定となっておりますが、先般、長崎市のほうで死亡火災事故等が起こっておりますが、このことについて、地元のほうで、市役所のほうとかで調査に入ったかどうかとかいう、そういうことについては質疑はなかったのか、お聞きいたします。

それから、９ページ、下から４行目、小規模多機能型居宅介護という言葉が出てきて、通いを中心に必要に応じ訪問、泊まりを組み合わせて利用することができるサービス指定というふうに出ていますが、これ昨年の３月に福祉保健部のほうにお願いしてた、要介護度によって通院、それから買い物支援等に必要な交通の種類、対馬市のほうで取り組んでるコミュニティバスだけでは不十分ではないのかということを１年前から話をしてて、計画書をつくるということでしたが、けさ配っていただいたこの地域福祉計画には載ってないようなんですが、特にその２５ページに、買い物や通院など外出が不便ということについて、アンケートに、旧久原校区は６６．７％、西部中学校校区は５６．３％、これほどの方が買い物、通院が不便だということをおっしゃっています。４９ページに、自分に合った支援を受けながら暮らせる地域づくりという基本目標も出てますが、一番最初に言いました、この１年前に各民間の福祉施設の持っているストレッチャーつきの車等も調べて、それを利用することができないかとか、そういう計画を立ててほしいということを伝えてましたが、そのことについては何も質疑がなかったのか、お聞きいたします。

○議長（作元　義文君）　厚生常任委員長、山本輝昭君。

○議員（６番　山本　輝昭君）　２番委員の質問にお答えいたします。

まず、１点目の長崎の火災等における市としての施設の立ち入りとか、そういったことについては、これは話しておりません。と言いますのは、今回の条例の制定につきましては、この４月１日からの制定です。現在のところ県にその権限はございます。その権限が今回この４月から指導監督の権限が市にこの条例で変更させるということです。これで理解よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）

２点目についてですが、要介護のその通院等に対する助成あるいはその方向性について、これについては、実はきょう、この福祉計画につきましても、けさもらったんです、私も。それで、今回のこの条例の制定の中におきましては、踏み込んだ議論はあっておりません。基本的な話が集中したのは、この条例を制定することによって市が指定とか管理、行政的に立ち入りができるのかどうか、それについては、はっきりと介護保険法のほうでうたわれておって、今後は市の管理監督ができるということで、ただ、その分については意見は集中しましたが、２点目については、今回の条例の制定においては何ら議論はあっておりません。

以上です。

○議長（作元　義文君）　２番、脇本啓喜君。

○議員（２番　脇本　啓喜君）　理解できました。ありがとうございます。

ただ、この計画書が出てくるのに、厚生のほうにできてからしか報告がなかったということは残念だなというふうに思いますし、今検討中の、議会が議決をしなければ計画が策定できないというその条項につきましても、この点を踏まえて、また来期なられる方々、議員におかれましては、慎重にどういうことを先に議会の議決を要するのかという項目について検討をしていただきたいと思います。

以上です。

○議長（作元　義文君）　ほかに。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。

次に、産業建設常任委員会に対する質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。

以上で、質疑を終わります。

これから２３件について、討論、採決を行います。

まず、議案第２号、議案第４３号は、平成２４年度対馬市一般会計補正予算（第６号）（第７号）で、各常任委員会に分割付託しておりました２件は、関連議案であります。２件について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認め、採決します。２件に対する各常任委員長の報告はいずれも可決であります。議案第２号、平成２４年度対馬市一般会計補正予算（第６号）、議案第４３号、平成２４年度対馬市一般会計補正予算（第７号）の２件は、委員長報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（作元　義文君）　起立多数です。２件は委員長報告のとおり可決されました。

次に、議案第４４号及び議案第４５号の２件は、平成２４年度の水道局関係補正予算であります。２件について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認め、採決します。２件に対する委員長の審査報告はいずれも可決であります。議案第４４号、平成２４年度対馬市簡易水道事業特別会計補正（第３号）、議案第４５号、平成２４年度対馬市水道事業会計補正予算（第２号）の２件は委員長報告のとお

り決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。２件は委員長報告のとおり可決されました。

次に、議案第１０号から議案第１９号までの１０件は、平成２５年度の特別会計等予算であります。議案第１０号から議案第１５号までの６件について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認め、採決します。６件に対する委員長の審査報告はいずれも可決であります。

お諮りします。議案第１０号、平成２５年度対馬市診療所特別会計予算、議案第１１号、平成２５年度対馬市国民健康保険特別会計予算、議案第１２号、平成２５年度対馬市後期高齢者医療特別会計予算、議案第１３号、平成２５年度対馬市介護保険特別会計予算、議案第１４号、平成２５年度対馬市介護保険地域支援事業特別会計予算、議案第１５号、平成２５年度対馬市特別養護老人ホーム特別会計予算の６件は、委員長報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（作元　義文君）　起立多数です。６件は委員長報告のとおり可決されました。

次に、議案第１６号、平成２５年度対馬市旅客定期航路事業特別会計予算について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認め、採決します。本件に対する委員長の審査報告は可決であります。委員長報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（作元　義文君）　起立多数です。本件は委員長報告のとおり可決されました。

次に、議案第１７号から議案第１９号までの３件について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認め、これから採決します。議案第１７号、平成２５年度対馬市簡易水道事業特別会計予算、議案第１８号、平成２５年度対馬市集落排水処理施設特別会計予算、議案第１９号、平成２５年度対馬市水道事業会計予算の３件に対する委員長の審査報告は可決であります。

お諮りします。３件は委員長報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（作元　義文君）　起立多数です。３件は委員長報告のとおり可決されました。

次に、議案第２９号から議案第３７号までの９件は、条例の制定であります。９件について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認め、採決します。９件に対する委員長の報告はいずれも可決であります。

お諮りします。議案第２９号、対馬市子ども夢づくり基金条例、議案第３０号、対馬市指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例、議案第３１号、対馬市指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準等を定める条例、議案第３２号、対馬市市道の構造の技術的基準等を定める条例、議案第３３号、対馬市移動等円滑化のために必要な道路の構造に関する基準を定める条例、議案第３４号、対馬市準用河川に係る河川管理施設等の構造の技術的基準を定める条例、議案第３５号、対馬市営住宅条例、議案第３６号、対馬市都市公園に係る移動等円滑化のために必要な特定公園施設の設置に関する条例、議案第３７号、対馬市布設工事監督者及び水道技術管理者の資格基準等に関する条例の９件は、委員長報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（作元　義文君）　起立多数です。９件は委員長報告のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第５．請願第１号

○議長（作元　義文君）　日程第５、請願第１号、アジアと日本の平和と繁栄を目指す「日韓海底トンネル」の早期建設を求める請願を議題とします。

本件は、産業建設常任委員会に付託しておりましたので、委員会の審査報告を求めます。産業建設常任委員会委員長、大部初幸君。

○議員（１９番　大部　初幸君）　産業建設常任委員会審査報告をいたします。

平成２５年第１回対馬市議会定例会において、会議規則第３７条の規定により、本委員会に付託されました請願第１号、アジアと日本の平和と繁栄を目指す「日韓海底トンネル」の早期建設を求める請願について、その審査の経過と結果を、同規則第１１０条の規定により報告をいたします。

当委員会は、平成２５年３月１９日に豊玉地域活性化センター３階第２会議室において全委員出席のもと、本案について慎重に審査をいたしました。

本請願は、「日韓海底トンネル」で日本とアジア大陸を結び、東アジアの共同体化による平和及び経済発展を目指し、日本においては、建設により長期的な雇用と資材需要による経済効果、

またトンネル沿線の地域経済の活性化を図るため、「日韓海底トンネル」建設の早期実現について、国に対して働きかけてほしい旨の請願であります。

日韓海底トンネル構想では、対馬を中断することが組み込まれており、実現すれば建設による経済効果また新たな人流・物流が生み出されることも予想され、対馬の多面的な発展に寄与するものと思われます。

以上のとおり、本請願の趣旨は十分に理解できるものであり、採決の結果、賛成多数により採択すべきものと決定をいたしました。

以上で、産業建設常任委員会の審査報告といたします。

○議長（作元　義文君）　報告が終わりました。

これから報告に対する質疑を行います。質疑はありませんか。９番、齋藤久光君。

○議員（９番　齋藤　久光君）　ただいま委員長から報告いただきましたが、文面の中で対馬を中断するっていう文言で報告されましたが、中継ではないでしょうか。訂正されたほうがいいんじゃないかと思います。

○議長（作元　義文君）　委員長の今の報告の中で、読み間違えか、「中継」を「中断」と呼んだということです。（「あっ、済みません」と呼ぶ者あり）産業建設常任委員長、大部初幸君。

○議員（１９番　大部　初幸君）　「中継」です。

○議長（作元　義文君）　日韓海底トンネル構想では、対馬を中継するということでございます。

ほかに質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認め、採決します。本件に対する委員長の報告は採択であります。委員長報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（作元　義文君）　起立多数です。本件は委員長報告のとおり採択されました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第６．発委第１号

○議長（作元　義文君）　日程第６、発委第１号、対馬市議会議員の議員報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例を議題とします。

提案者の趣旨説明を求めます。議会運営委員会委員長、初村久藏君。

○議員（１４番　初村　久藏君）　ただいま議題となりました発委第１号、対馬市議会議員の議員

報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について提案理由を御説明申し上げます。

本条例の一部改正は、別表で定める車賃の１キロメートル当たりの支給単価を「６０円」から「４０円」に引き下げるとともに、日当の甲地・乙地の支給区分を廃止し、一律に乙地の支給額に引き下げるもので、対馬市職員の旅費に関する条例の改正条例に準じて改正するものであります。

それでは、発委案を読み上げます。

発委第１号、平成２５年３月２６日、対馬市議会議長作元義文様、議会運営委員会委員長初村久藏。

対馬市議会議員の議員報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について、上記の議案を別紙のとおり地方自治法第１０９条第６項及び会議規則第１４条第２項の規定により提出します。

対馬市議会議員の議員報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例、対馬市議会議員の議員報酬及び費用弁償に関する条例（平成１６年対馬市条例第４１号）の一部を次のように改正する。

別表の改正部分については、配付の新旧対照表を御参照ください。

附則、この条例は、平成２５年４月１日から施行する。

以上、提案理由の説明を申し上げました。御賛同を賜りますようよろしくお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認め、質疑を終わります。

お諮りします。本件は、委員会への付託を省略したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。本件は委員会への付託を省略することに決定しました。

これから討論、採決を行います。発委第１号、対馬市議会議員の議員報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認め、採決します。発委第１号は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。本件は原案のとおり可決されました。

しばらく休憩します。

午前11時42分休憩

午前11時44分再開

○議長（作元　義文君）　再開します。

お諮りします。ただいま大部初幸君ほかから発議第２号、「日韓海底トンネル」の早期建設を求める意見書が提出されました。これを日程に追加し、追加日程第１として議題にしたいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。発議第２号を日程に追加し、追加日程第１として議題とすることに決定しました。

―――――――――――・―――・―――――――――――

追加日程第１．発議第２号

○議長（作元　義文君）　追加日程第１、発議第２号、「日韓海底トンネル」の早期建設を求める意見書を議題とします。

提出者の趣旨説明を求めます。１９番、大部初幸君。

○議員（１９番　大部　初幸君）　ただいま議題となりました発議第２号について御説明を申し上げます。

発議第２号、平成２５年３月２６日、対馬市議会議長作元義文様、提出者、対馬市議会議員、大部初幸、賛成者、対馬市議会議員、長信義、同、山本輝昭。

「日韓海底トンネル」の早期建設を求める意見書について、別紙のとおり会議規則第１４条第１項の規定により提出をします。

それでは、意見書案を朗読をし、説明にかえさせていただきます。

「日韓海底トンネル」の早期建設を求める意見書、対馬には、初代の対馬藩主宗義智が朝鮮出兵で悪化した日韓関係を必死の努力によって回復をし、両国の平和のかけ橋となったという歴史がある。ドーバー海峡をつなぐ英仏海底トンネルは、ナポレオンの提案以来、１９１年もの歳月をかけて国家間の確執を乗り越え、島国イギリスとヨーロッパ大陸を結び、欧州共同体（ＥＵ）実現の象徴となった。同様に、日韓海底トンネルは、島国日本とアジア大陸を結び、東アジアの一体化と平和を求める歴史的な試みである。日韓海底トンネルは、古くから世界平和実現を志向する多くの著名人により唱えられてきた歴史があり、近年は、恒例のように、韓国の大統領が交代のたびに日韓トンネルを建設しようという演説がなされ、日本の総理大臣もこれを受けるように賛同の発言をしている。

また、政府は、３・１１東日本大震災を教訓として、地震国である日本の国土強靱化のために

一極集中の構造から多極分散型の国土形成を目指し、太平洋新国土軸、日本海国土軸等の開発に動き始めた。その中にはアジア地域との連携促進による産業強化もうたわれている。日韓トンネル建設を含めた国土総合開発は、長期的な雇用と資材需要による関連地域への莫大な経済効果をもたらし、日本全体の景気の牽引車となることが見込まれる。

また、トンネルが完成をし、人の流れと物の流れが拡大すれば、日本、韓国から中国へ広がる経済圏が強化され、東アジア全体の経済発展へと貢献していくことは間違いない。

加えて、新たな日韓の大動脈となる日韓トンネルの沿線地域においては、観光、産業のほか、新しいビジネスの発展も考えられ、地域経済の活性化が図られることは言うまでもない。

よって、国会及び政府におかれては、アジアと日本の平和と繁栄を目指す「日韓海底トンネル」の建設を早期に実現するよう強く要望する。

以上、地方自治法第９９条の規定により、意見書を提出する。平成２５年３月２６日、長崎県対馬市議会、提出先、衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、外務大臣、国土交通大臣、経済産業大臣、防衛大臣、内閣官房長官様。

以上のとおりであります。御賛同方、よろしくお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。

お諮りします。発議第２号は委員会への付託を省略したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。本件は委員会への付託を省略することに決定しました。

これから討論、採決を行います。発議第２号について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認め、採決します。本件は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。本件は原案のとおり可決されました。

お諮りします。本会議における議決の結果、条項、字句、数字、その他において、整理を要するものがあろうかと思慮されます。その整理権を議長に一任願います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、整理権は議長に委任することに決定

しました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

○議長（作元　義文君）　以上で、本日の議事日程は全て終了しました。市長より挨拶の申し出があっておりますので、これを受けます。市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　閉会に当たりまして、一言御挨拶申し上げます。

本定例会におきましては、３月７日から２０日間の長きにわたりまして慎重に御審議いただき、御提案申し上げました全ての案件につきまして御決定賜りまして、厚く御礼申し上げます。

本定例会にて議決していただきました案件につきましては、適正な事務処理に努めまして、速やかに対処してまいりたいと存じます。

また、本定例会における議員皆様からの貴重な御意見につきましては、市政に反映させるべく一生懸命取り組んでまいる所存でございます。今後とも議員皆様の御指導、御協力をよろしくお願い申し上げます。

さて、次に御報告を３件申し上げます。

まず１件目は、今定例会の行政報告で御説明しておりました宮中献穀についてでございます。

３月１０日に豆酘の各区長をはじめ、関係機関の皆様、市議会の御協力により宮中献穀対馬市奉賛会を設立いたしました。今後は市民の皆様からも奉賛金の御協力をいただき、名誉ある事業をぜひとも成功させたいと考えております。まずは御田植え祭を６月９日にとり行う予定としております。

次に、島おこし協働隊について御報告いたします。

島おこし協働隊は、総務省の財政支援を受けながら地域力の強化を図るため、平成２３年４月から設置いたしました。現在５名の若者が地域活性化の課題解決に取り組んでいるところです。その取り組みを強化するため、４月より新たな分野の専門知識、経験を有する隊員を３名増員をする予定です。

まず１人目ですが、有害鳥獣の効果的な駆除方法を調査研究し、農林業被害軽減を図る有害鳥獣ビジネスコーディネーターとして谷川ももこさん。２人目は、対馬南部の対馬ヤマネコをはじめとする地域資源の活用と保全を図る生物多様性保全担当として伊藤麻子さん。３人目は、伝統的な暮らしの知恵や技術を次世代に継承しながら地域資源として有効活用し、地域の活性化を図る民間伝承保全担当として細貝瑞季さんを委嘱いたします。

新たな隊員の活動に対しましては、議員皆様をはじめ、市民の皆様に何かとお世話になると思いますが、御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

３件目は、渡来仏、大蔵経盗難事件に関する件でございます。

議会におかれましては、今定例会において早期返還に向けての決議をいただき、ありがとうご

ざいました。しかし、またしても韓国の地方議会であります議政府市議会で３月２０日に臨時議会が開催され、対馬の返還要求決議案を採択するという暴挙に及んでおります。盗難事件を発端として、韓国でのこのような動きに関しましては、今後とも国・県と連携して対処してまいりたいと考えておりますので、議員皆様におかれましては、今後とも変わらぬ御支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、対馬市も合併後はや９カ年を過ぎ、１０年目を迎えております。議員皆様の任期も残すところ２カ月余りとなり、市議会議員の選挙日程も、過日選挙管理委員会におきまして決定されております。今任期を最後に勇退される皆様におかれましては、対馬市の土台づくりの激動のときに、議会人として参画され、御尽力いただきましてまことにありがとうございました。

今後におかれましても、健康に十分留意され、いつまでもお元気に過ごされ、今まで同様、対馬市の発展のため、御指導、御鞭撻賜りますようお願いを申し上げます。

また、再び市議会へ臨まれる皆様におかれましては、見事勝ち抜かれ、再び対馬市のためにお力添えを賜りますようお願いを申し上げます。

ところで、私ごとでございますけども、先ほど申しました、対馬市が合併して丸９年が過ぎました。この私が受け持った５年間、財政再建というものに皆さんの協力をいただき、一定のめどがつけるとこまでやっと来ました。

また、先日上京した際に、国境離島特別措置法に関連することを相談をさせていただきました。恐らくこの通常国会において、まず無人離島の法がつくられると思います。さらに臨時国会において、有人国境離島の問題が法制化されるんではないかというふうなお話を聞きました。皆さんとともにこの５年間一緒に取り組んできたことが、すぐそこに来ているんだというふうに感じた次第であります。

また、厳原南部の道路の問題、舟志―琴間の堂坂の問題、さらに県道とはいえ、佐須坂トンネルの問題、多くの市民の方々が長年にわたり切望されておられました道路事業に一定の道筋をつけることができたというふうに今感じております。

さらには、昨年１２月、不落になりました病院、直接私自身が経営をやっているのではありませんけども、この病院問題につきましても、先日、県のほうから連絡がありました。２つの交付金で今後１２億５，０００万円を充足させていこうという考え方で進んでおりますが、そのうちの、まず１つについては、７億余の交付金がまずついたというふうな連絡をいただきました。昨年末１２月２７日、年が迫ったときに厚生労働省にかけ合いに行ってよかったなというふうに思っておりますし、あと東北震災関連の７億３，０００万というものをどうかして交付金に認めてもらうということをすれば、十分に１２億５，０００万を超える交付金を獲得することができるんではないかというふうに思っております。何かと市民の皆様方に心配をかけておりますこの病

院の不落問題でございますが、一定のめどが立ったということを報告をさせていただきたいと思っております。

最後になりますが、議員皆様の御健勝とますますの御活躍を祈念を申し上げまして、閉会の挨拶といたします。ありがとうございました。

○議長（作元　義文君）　閉会に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

平成２５年の第１回定例会は、議案全般にわたり熱心に御審議をいただきまして、ここに滞りなく閉会の運びとなりました。議員各位はもとより、市長以下、市幹部の方々の協力に対して心からお礼を申し上げます。

また、本定例会は、２５年度の本市の予算全般の審査でありましたので、審議の中で出ました貴重な御意見や指摘事項等につきましては、今後の行政運営に生かされることを期待をいたしておきます。

また、この３月で退職をされる職員の皆さん、長い間、市行政に貢献をいただきまして、心から感謝を申し上げます。どうか今後ともよろしく御協力のほどをお願いを申し上げておきます。

また、我々の任期も５月いっぱいでございます。任期満了まで市議会議員としてしっかり頑張ってまいりたいというふうに思っております。

終わりに、皆様方の御健勝と御多幸を祈念し、閉会の挨拶といたします。

会議を閉じます。

平成２５年第１回対馬市議会定例会を閉会します。お疲れさまでした。

午後０時02分閉会

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

議　　長　作元　義文

署名議員　兵頭　　栄

署名議員　渕上　　清